

在京初雁会 (創立昭和28年)
会 長 田 中 隆

1998年 (平成10年)
夏号 第65号



一月例会

交詢社ビル1F
ピルゼン ☎3571-2236
—タベの会—
学士会館 ☎3292-5931
東方会館 ☎3987-0211

在京初雁会

矢部敬一郎 (企画・総務)
〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
岡田 良平 (広報)
〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
自宅 ☎03-3977-1815
事務局
菅沼 伸之 (財務・事務局長)
〒177-0044 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-

世情のことだけでなく連日うだるような暑さですが

皆様にはお変わりなくお越しのことと思っております。

私 五月十日の母校同窓会総会に出席いたしました。

明年の百周年に向っての準備が順調に進んでおり、

体育館改築工事も始まり、今頃は図書館・同窓会館

と解体されていることと思っております。

今年の十月廿五日には前年祭として川越で秋期散策会

が開催されます。皆様ぜひご出席下さい。

本号では矢部義一前会長の追悼文を佐々木先生から

いただいた掲載いたしました。ご拝読下さい。

在京初雁会 会長 田中



目次

会長挨拶	1
矢部義一氏を偲んで	2
かすみ初雁会と矢部さん	3
97世界ハム・ソーセージ オリンピック報告	3
平成9年度決算	7
平成9年度事業報告	8
平成10年度予算	9
平成10年度事業計画	10
会員名簿	11

矢部義一氏を偲んで

佐々木 忠氏(中32)

在京初雁会の会長として後輩を指導された矢部さんが去る四月逝去されたことは、前号にて既に報告されているのでご承知のところでしょう。九十才で長寿を全うされました。

矢部さんはお若い頃よりご健康で病氣知らずとはよく口にしておられたが、ある時、夕べの会で「八十五才だが週三回は霞ヶ関ゴルフへ通っている」と楽しげに話され、殆んど夕べの会には毎回ご出席しておられ、その温厚篤実なお人柄は私どもをして敬仰せしめ、豊富な人生経験談は常に傾聴せしめるものでした。故宮本蔚さんと同道で、当時社長をしておられたゼネラル海運にお訪ねしたことがあったが、丁寧に処遇して頂き、高ぶらないお、らかさぶりが強く印象に残りました。

在京初雁会に三十年位前に私が入会した時の会長は、山岳人としても高名な児玉政介氏で秋田県知事、厚生次官を歴任され、次の会長坂田圭司氏と同じ、古武土的な風格をもち、威あれど猛からずといった方でした。その次の会長の矢部さんは海事功勞により勲四等旭日章受賞(昭53)、米国ロス



ビルゼンにて

アンゼルス市長から名誉市民の称号を受けた栄光に輝く方でしたが、謙遜家でしたので知るものは少いでしょう。

生い立ちと川中通学のことは折にふれて話されました。明治40年当時の福原村今福の農家に出生され、川中は大正九年卒業、五年後東京商科大学(現一ツ橋大)の専門部に入學し昭和三年卒業され、直ちに旧三井物産(株)入社(船舶部)。後に独立した三井船舶(株)に移籍されニューヨーク駐在員(昭和26、28)帰国して営業部長(昭和29)、取締役(昭和31)監査役(昭和36)を歴任され海運一筋を歩まれた。

昭和三十四年にゼネラル物産(旧三井物産石油部)がゼネラル海運タンカー会社を創設するに当り代表取締役常務として参画され、専務を経て社長にご就任(昭和40)、二十一年間社長として、石油海事協会、内航タンカー組合及び国際組織海上油濁防止協会等の主要役職として海事功勞者として活

躍、多大の貢献をされ、昭和55年に二十一年間勤められた社長をご退職され、老後をゴルフに、また小唄などの芸事に悠々自適、ご高齢までお達者でした。ゼネラル海運社長在任中に在京初雁会にて活動され、創立二十周年の記念事業実施に当って私もご懇篤な指導と協力を頂きました。

「鐘つき堂」合冊第一号に掲載してある創立二十周年祝賀会の記念写真に矢部さんも加っております。

ゴルフ歴はお長く、社團法人霞ヶ関カンツリー倶楽部の常任理事、評議員会議長として平成五年まで実に四分の一世紀に亘り倶楽部の運営につくされたことは倶楽部会員諸氏の敬意と感謝するところでありましよう。

若き日に勉学にいそしみ、社会人として海事一筋に精励され、その貢献は榮譽として輝く矢部さんを偲び、後輩の一人として恥じないよう励みたく切に願ひつ、矢部さんの永遠の憩いに安かれと祈るものです。

なおご令室順さまは八十六才でご元気で目下おひとり住いですが、ご長男は大協石油を定年退職され板橋区におられ、ご息女お二人もご健在で、矢部さんは恵まれたご家族に囲まれてお倅せな晩年を過ぎられたとおうかがいし、併せてこのことも会員諸氏にお伝えいたします。

かすみ初雁会と矢部さん

東松山市民病院副院長 大澤崇氏（高7）

昭和40年9月19日に矢部義一さん、水村善太郎さん、遠山四郎さん等が発起人となって藤野忠次郎さんを会長として霞ヶ関CCの会員で川中、川高の卒業生をもって第1回親睦ゴルフが開催されました。当時の全会員は16名でしたが第1回に参加したのはその内10名と記録されています。その後、年に2回程度の親睦コンペを開催してきましたが、藤野さんをはじめ故人となられる方々が残念ながら次第に多くなり、平成4年2月23日、第25回かすみ初雁会をもって最終回となりました。その時の会員数は矢部さんを筆頭に全部で6名となっていました。大変お忙しい中でも矢部さんは霞ヶ関CCの役員を永年精力的に引き受けられ、また「かすみ初雁会」に於いてもその中心的役割を果たしてこられました。

ゴルフが終わって、お風呂に入り、その後クラブハウスでビールを傾けながらのゴルフ談議は楽しく和気藹々として、特に藤野会長さんの世界的規模の的確な経済談議は矢部さんをはじめ全員が時間が経つのも忘れ傾聴していたことなど、今となっては非常に懐かしく、又そのような機会が今や

無くなってしまったのが真に残念でなりません。

矢部さんは霞ヶ関CCに昭和24年に入会され、当時「かすみ初雁会」ではハンデキヤップは14で、何時も飄々としたゴルフをされ他人には絶対迷惑をかけず、常に紳士的で後輩の面倒もよく見ていただき指導して下さいました。其の良き先輩がこの度、故人となられ残念でなりません。御冥福をお祈りいたします。

最後に発足時の「かすみ初雁会」のリストを掲載します。

（敬称略）

故 安 齊 直	故 藤 野 忠次郎(中17回卒)	故 小 谷 野 義 一(中23回卒)	故 比 留 間 清治郎(中31回卒)	故 西 川 慎 八(中36回卒)	故 遠 山 四 郎(中23回卒)	故 小 杉 太 郎(中20回卒)	故 矢 部 義 一(中23回卒)	故 小 谷 野 章 次(中24回卒)	故 山 田 繁 夫(中33回卒)	故 吉 崎 寅之助(中21回卒)	故 鈴 木 庸 夫(中25回卒)	砂 田 太 三(中23回卒)	伊 藤 慎 二(高7回卒)	岡 田 利 介(中31回卒)	大 澤 崇(高7回卒)
---------	------------------	--------------------	--------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	--------------------	------------------	------------------	------------------	----------------	---------------	----------------	-------------

「'97世界ハム・ソーセージ

オリンピック報告」

（埼玉種畜牧場専務 笹崎能輝（高18）

在京初雁会・夕べの会より（98・3・24）

在京初雁会の絆

日頃、雑務で多忙を極めている自分にとって、在京初雁会夕べの会は楽しい集まりの一つである。同窓という縁だけで、幅広く各界で活躍されている諸先輩から、ザックバランなお話が伺える。分野の異なる方々の経験豊かな話題は、小さな業界でかろうじて踏んばっている自分にとって、励まされ、啓発されることが実に多い。ありがたいことである。

……と、今まで脳天気に参加することだけをキメこんでいた自分に、岡田大先輩から突然の指令（というより命令）が下ったのである。「今度の夕べの会で話をしてくれないか。ほら、世界のハム・ソーセージ・オリンピックで金メダルをもらったこととかサ、いろいろあるだろう?」。やさしい問いかけの言葉の中にも、大先輩からという見えないプレッシャーがのしかかる。

……というわけで、思いがけなく夕べの会でお話をするハメになった。支離滅裂はもとより覚悟の上。自分の勉強のためにと

思い直して、お話させていただいた。

サイボクハムの由来

さて、現在自分は俣崎玉種畜牧場の専務という立場で仕事をさせていただいている。昭和21(1946)年の創立で、私の父が戦後まもなく創業した牧場である。種豚の育種改良の研究を柱に50余年。「新鮮・美味・安心」のお肉づくりに今を営々と研鑽を重ねている。

昭和46(1971)年に入社して以来、複雑多岐に及ぶ食肉の流通革命・直販と本物の加工品(ハム・ソーセージ・デリカ)づくりに取り組んだ。おかげさまで、現今では近隣の方々より「サイボクハム」という名称で親しまれるようになった。「サイボク」とは、埼玉の「埼」と、牧場の「牧」を重ねて合わせて作ったブランド名である。

オランダとハム・ソーセージ

ハム・ソーセージというと、ドイツがとに有名である。事実、生産量、消費量ともに世界のトップレベルである。サイボクハムもドイツでハム・ソーセージの多くを学んできた。ところが、世界に開かれたハム・ソーセージの競技会となると、オランダで開かれるスラバクト(SLABAKTO)が知られている。

オランダでなぜ? と思われる方も多い

ことであろう。ところが歴史的に見ていくと、その意味がよくわかってくる。オランダは古くから世界中との幅広い交易交流の特異な歴史をもっている。遠い極東の日本とも400年近い交易があったことでもその一端をうかがい知ることができよう。しかも、その歴史のルーツは、肉食と関連の深いスパイスの交易に起因しているのである。

オランダ人は、14世紀に、北海で大量に獲れる魚のニシン(Haring・ハリーング)の塩蔵法を発明する。長期保存ができる食料(ニシンの樽詰め)を船に積みこんで、持ち前の良港と造船技術を駆使して東の海に出帆したのである。世に言う「大航海時代」の幕開けである。

航海術の進歩と、船による大量輸送によって、スパイスは広くゆきわたるようになる。その恩恵を受けて、ハム・ソーセージは年間を通じて次第に庶民の口に入る食品となった。主食としての肉の地位が向上し、その基盤が確立されたのである。もちろん、それに伴って、新しい食肉加工品が次々と開発されたことは言うまでもない。

懐の広い国・オランダ

オランダ人は、世界に開かれた背景をフルに活用することを忘れなかった。主食である自国の食肉産業のレベルアップに加え、各国との一層の交流研鑽の場づくりを目的

に「スラバクト」という食肉の祭典を開催したのである。3年に一度、カトリック大司教の住まいしていた古都・ユトレヒト市で開かれ、97年10月で29回目を迎えた。第二次世界大戦をはさんで、実に90余年の長い歴史と伝統を持つ、権威のある催しとなっている。通称ハム・ソーセージ・オリンピックと呼ばれる所以である。

スラバクト(SLABAKTO)とは、オランダ語の3つの単語を組み合わせてできた言葉である。

SLA=Slager ……………お肉屋さん
VAK=Yakbekwamheid ……プロ・職人
TO=Tentoonstelling ……競技会・展示会
直訳すると「食肉職人競技会」である。3年に一回、この競技会をめざして、世界中からお肉の職人たちが参集し、ウデを競い合う。今回は18カ国より4000点の出品があった。開催されるたびに隆盛を極め、プロ憧れの国際コンテストになっている。

ヨーロッパの味、日本の味

さて、このようにビッグな国際コンテストに初挑戦となったきっかけはドイツであった。1995年の春、ドイツで出会ったマイスター(職人)に、突然エントリをすすめられたことに端を発している。彼の手配よろしきを得て、1997年の2月に、オランダから出品案内の書類がドサツと送られてきた。開催要綱に眼は通したものの、

いざ出品となると脳裏には様々な迷いが次々と浮かんでくる。

①国際コンテストへの出品は、すべて初めてづくしであったこと。

②審査の基準が開催要綱だけでは皆目わからずじまいであること。

③すべてヨーロッパの職人・プロの舌で食味審査が行われること。

④製品は日本から運ぶため、時間差のハンディー・品質管理をどう克服すればよいのかということ。



国際セレモニーで審査委員長から祝福とチャンピオン杯を受ける

その他、諸々、書類だけではわからないことが沢山でてくる。我々の論議は尽きることなく続き、心中は大いに揺れ動いたの

である。私達は確かにヨーロッパからハム・ソーセージの多くを学んできた。しかし、それに幾多の工夫、改善を加えて、日本の消費者の口に合う製品を創り出してきた。よしんば、ヨーロッパの嗜好に合わせた味つけで出品しても、それなりの価値と意味はあるであろう。ところが、日本の消費者の評価をもとに、懸命に努力を重ねてきた意味合いはうすれてしまう。日本の味を主体に出品するのが本筋ではないのか？ 悩み、苦しみながら、ついに次のような方針で臨むことで意を決した。

薄氷を踏む思いの決断

いま我々があるのは、日本の消費者の支えのおかげである。世界中を廻ってみて、日本の食文化は世界に誇れるものではないのか。そうであるならば、やはり今つくっている製品を中心に出品することにして、ヨーロッパの審査員を過剰に意識して、"出品のための特別製品"をつくることは、どうしても我々の意に沿うことではない。

原料肉も、牧場の仲間が長期間汗水流して育て上げた豚肉である。品質も堂々と世界に誇れるものではないのか。むしろ、原料肉こそ、今回の最高の武器になるはずだ。長い長い、悶々とした話し合いの末、決断が下されたのである。正に、"薄氷を踏む思い"での出立であった。

初めて見る厳しい審査

97年10月18日の夕刻、スラバクトが開かれる、オランダはユトレヒト市の土を踏んだ。いよいよ我々の製品に評価の下される時がきた。

翌19日は、スラバクト事務局の好意で、特別に審査風景を見せてもらえることになった。審査会場は「ユトレヒト食肉学校」である。審査でこたえ返す各部屋を案内されながら、次のような説明を受けた。

「審査員は、ヨーロッパ各国から選出された食肉の職人と食肉学校の先生方の百余人です（ヤツパリ）。それに加えて、今回より初めて、食味の官能検査をパスした消費者代表も参加しています（ヘー）。食肉のプロ3人と消費者代表1人の4人一組でテーブルごとにわかれて審査します。すべての製品を一品づつ、見て、触って、嗅いで、食べてチェックしてゆきます。細かく記載された審査票の項目ごとに、全員で協議の上、減点法で採点。最後に代表者が全責任者としての立場でサインをして終了です（ウーナルホド）。審査票の原本は、すべての出品者に返され、今後の参考の供されるようになっていきます（サスガ！）。

審査中の各部屋の実に賑やかなこと。次々に運びこまれてくる製品を、1つ1つ手に取っては採点論議の真最中であった。口をはさむ余地のない、万人が納得する、

厳しく、責任ある、フェアな審査である。歴史と伝統の重みを感じるひとこまであった。

ちなみに、私共サイボクハムは、初出品ではあったが、出品した13点すべてが入賞し、「金メダル」と表彰を受ける栄誉となった。さらに、その結果、日本で初めてインターナショナル・セレモニーに正式招待を受けた。その席上、ソーセージ部門で「チャンピオン杯」をいただき、二重の喜びとなった。

プロに学ぶ「元気の素」

あらためて、スラバクト参加をふり返ってみると、感無量のものがある。今回の受賞は、日本の生産者・製造者・消費者のレベルが、世界の舞台で、はからずも評価されたことを意味している。さらに、日頃は「カゲ役」に徹し、縁の下の力持ちを演じている生産と製造の現場の努力に光が当たったことである。何よりもこの二点が一番うれしいことであった。

一方、ヨーロッパのプロ職人の自信と誇りには学ぶことが多い。会場内で数多く公開された品々からは、ヨーロッパの食肉の歴史の深さが随所にうかがわれる。まだまだ我々の知らない食の世界の広がりがあるのだ。その知恵と工夫の結晶を前にすると、思わず身を正し、謙虚な気持ちにならざるを得ない。

さらに、食肉のプロ職人として、良いものをキチンと評価していく心の幅と眼力。プロ仲間同志の結束力。相互研鑽へのあくなき向上心。そして、それらを培い、育てるために連綿として続けられている努力には、頭の下がる思いであった。

ともすると、日々の仕事にかまけて、目先だけに振り廻されがちな我々。生産する価値と創造する喜び、チャレンジ精神の大切さ、等々。一言でいうならば、「食の文化」をつくらうというプロの意気込みをあらためて教えられた。

「文化」というのは、何も権威づけたり、ことさらワクにはめて定義づけたりするものではない。人々がそれに触れ、食し、感じることによって「元気になれる」「モノやコト、空間をさして言うものだと思う」。

不景気という低気圧のたちこめている現今、足元・原点からの光明を見出し、いく姿勢が現状打破の基本となる。「食」という仕事を通じて、そんな文化の灯をともし続けていくことが我々の使命であるとしみじみ感じる今日この頃である。

良縁との出会い

努力をしても、必ずしも願いが成就するとは限らない。しかし、努力をしなければ決してそれは叶えられることはない。それを取り結んでくれるのは、ひとえに人々との「良縁」であろう。考えてみると、在京

初雁会にもそのような良縁を求めて参加をさせていただいている一人である。世界へのチャレンジを心よく与え、惜しめない努力と応援をしてくださった日本を始め、ドイツ、オランダの多勢の方々に感謝の気持ちを捧げつつ、拙い報告にかえたいと思う。 Danke & Dank U!

最後に、夕べの会に発表の機会を与えて下さった諸先輩との良縁に、重ねて感謝しつつ……。

(ささぎき・よしてる 高校18回卒)

編集後記

暑中お見舞い申し上げます。

事務局担当の菅沼さんが病氣入院のため代役をつとめていますが、年会費等の事務が遅れてしまいご迷惑をかけましたが、振込み用紙を同封しましたので宜しくお願い致します。菅沼さんも18日には仮退院と一日元気になられていますので、一安心です。佐々木さん、大澤さんには矢部さんの追悼文をおよせいただき誠に有難うございました。坂田さん、浅海さん、矢部さんと創立当時からの方々が亡くなられ誠に残念であり、淋しいかぎりです。毎年会員数が減っていますので新会員増強に是非ともご協力下さい。

笹崎さんの「ハム・ソーセージ」はとても良いお話でした。その上試食までさせて頂き有難うございました。

(岡田)

在京初雁会平成9年度決算書

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

1. 一般会計

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	99,679	99,679	
年会費	190,000	170,000	68名分
預金利子	2,800	947	
雑収入	10,000	5,000	夕べの会欠席者会費分
計	302,479	275,626	
支出の部			
会報印刷	130,000	139,000	第63号、第64号
新企画	20,000	0	
夕べの会	40,000	29,400	
月例会	6,000	△ 6,474	
慶弔費	20,000	25,000	故 坂田圭司氏、浅野誠一氏、橋本次郎氏、内田幸男氏
会議費	8,000	0	
通信費	50,000	38,500	
事務費	6,000	1,813	
振替手数料	4,500	3,990	
雑費	10,000	9,947	
計	294,500	241,176	
残額(繰越)	7,979	34,450	

2. 特別会計(基金)

定期預金 25万円(利息は通常会計の収入として計上)

平成10年4月8日

財務担当 菅沼 伸之

在京初雁会平成9年度事業報告

1 会員の動向

- イ 会費納入者 68名(中学32名、高校36名)
- ロ 物故会員 坂田 圭司(中17) 橋本 次郎(中35)
浅海 倭夫(中21) 内田 幸男(中43)
矢部 義一(中23)
- ハ 新入会員 西村 通洋(高2) 栗原 三男(中45)
- ニ 休会会員 野上 完一(中30) 星野 猛(中41)
内田 静馬(中22) 金子 紀孝(中33)

2 行事

- ◆ 鐘つき堂 第63号(平成9年6月)
第64号(平成10年2月)
- ◆ 月例会 5回
- ◆ タベの会 4回
- ◆ その他 2回(本校同窓会、秋季散策会)

*月別行事

- 4月 8日(火)総会・月例会(ピルゼン)4名参加
- 5月11日(日)母校同窓会(川越高校)12名参加
- 6月24日(火)タベの会(学士会館)14名参加
- 7月 8日(火)月例会(ピルゼン)5名参加
- 9月26日(金)タベの会(東方会館)23名参加・
“モンゴルの旅”菅沼・岡田両氏(高2)
- 10月19日(日)秋季散策会(毛呂山・新しき村)14名参加
- 11月26日(水)タベの会(東方会館)24名参加
長島恒雄氏(高3)
「手にとるようにビッグバンがわかる」
- 12月 8日(月)月例会(ピルゼン)6名参加
- 1月 8日(水)月例会(ピルゼン)6名参加
- 2月 9日(月)月例会(ピルゼン)7名参加
- 3月24日(火)タベの会(東方会館)24名参加
「ハム・ソーセージのオリンピックに
参加して」 笹崎能輝氏(高18)

平成10年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

在京初雁会平成10年度予算

(平成10年4月1日～平成11年3月31日)

1. 一般会計

項 目	実 績			10年度予算案
	7年度	8年度	9年度	
収入の部				
繰越金	91,929	113,240	99,679	34,450
年会費	197,500	180,000	170,000	170,000
預金利子	3,617	2,841	947	1,000
雑収入	18,000	20,000	5,000	5,000
計	311,046	316,081	275,626	210,450
支出の部				
会報印刷	105,000	136,000	139,000	100,000
新企画		30,000	0	0
夕べの会	△6,418	△13,070	29,400	20,000
月例会	△1,337	△5,062	△6,474	2,000
慶弔費	20,000	10,000	25,000	15,000
会議費	8,710	0	0	5,000
通信費	54,210	41,980	38,500	35,000
事務費	5,094	3,560	1,813	4,000
振替手数料	4,140	4,020	3,990	4,000
雑費	8,407	8,974	9,947	10,000
計	197,806	216,402	241,176	195,000
残額(繰越)	113,240	99,679	34,450	15,450

平成10年4月8日

財務担当 菅沼伸之

在京初雁会平成10年度事業計画

1 事業概要

- イ 「会員相互の親睦をはかり、活動を通じて母校の発展に寄与する」という目的を達成するため、引続き月例会、夕べの会を中心により多くの会員の参加を得られるように努力する。
- ロ 会員の高齢化がすすんでいる。新入会員の増強に努力すると共に役員の若返りを検討する。

2 行事

- イ 鐘つき堂 年2回発行
- ロ 月例会 4回
- ハ 夕べの会 3回
- ニ その他 2回（母校の同窓会、散策会）

3 月別計画

- 10年4月 8日（水）総会・月例会（ピルゼン）
 - 5月10日（日）母校同窓会（川越高校）
 - 6月23日（火）夕べの会（東方会館）
 - 7月 8日（水）月例会（ピルゼン）
 - 9月 8日（火）月例会（ピルゼン）
 - 10月25日（日）散策会（川越散策・川島遠山記念館他）
 - 11月24日（火）夕べの会（池袋・東方会館）
 - 11年1月 8日（金）月例会（ピルゼン）
 - 3月23日（火）夕べの会（東方会館）
- 平成10年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

次回の月例会は9月8日（火）12時より 是非お出掛け下さい
ひとまには銀座で乾杯！ 銀座・ピルゼン（交詢社ビル1F）

在 京 初 雁 会 会 員 名 簿

1998.7.15

卒業年・回数	氏 名	住 所	電 話
大14・中23回	砂田 太三	〒180-0021 武蔵野市桜堤1-9-9桜堤ケアハウス105	
大15・中24回	安齋 恒男	〒125-0041 葛飾区東金町1-31-11	03-3607-2374
大15・中24回	船津鴻之助	〒336-0003 浦和市元町1-17-4	0488-86-6138
昭3・中26回	橋本 国治	〒158-0083 世田谷区奥沢8-24-7	03-3701-6961
昭5・中28回	落合 義作	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美1-15-3	044-966-2326
昭6・中29回	松下 雄一	〒184-0014 小金井市貫井町2-15-22	0423-81-7543
(会 友)	武田 葛	〒251-0032 藤沢市片瀬2-5-5	0466-22-9394
昭9・中32回	佐々木忠一	〒177-0041 練馬区石神井町3-14-5	03-3995-4350
昭9・中32回	山本 道	〒145-0064 大田区上池台2-16-7	03-3729-1558
昭12・中35回	岩泉 惟人	〒226-0003 横浜市緑区鴨居4-23-12	045-932-1303
昭12・中35回	細島 博文	〒247-0056 鎌倉市大船1820-31	0467-44-0980
昭12・中35回	増島 隆二	〒181-0015 三鷹市大沢5-2-9 33466-7810	0422-32-4379
昭12・中35回	山崎 豊弘	〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町10-15	045-583-1352
昭13・中36回	荻野 文夫	〒179-0074 練馬区春日町5-27-12	03-3970-0565
昭13・中36回	堀口 武夫	〒173-0011 板橋区双葉町40-4	03-3961-7966
昭14・中37回	中野 護央	〒162-0043 新宿区早稲田鶴巻町556	03-3203-0839
昭14・中37回	松本 博一	〒350-0045 川越市南通町12-1	0492-22-2309
昭15・中38回	阿部 親興	〒154-0001 世田谷区池尻3-11-31-519	03-3419-4371
昭16・中39回	間々田重信	〒299-1131 君津市下湯江1258-2	0439-52-7953
昭17・中40回	高篠平太郎	〒156-0043 世田谷区松原5-20-14	03-3322-5422
昭17・中40回	平野 寿作	〒114-0024 北区西ヶ原2-28-8	03-3910-5019
昭19・中42回	平岡 寿夫	〒180-0002 武蔵野市吉祥寺東町2-44-12	0422-22-4727
昭20・中43回	岡村 了一	〒350-0054 川越市三久保町11	0492-22-2401
昭20・中43回	島田 嘉夫	〒182-0004 調布市入間町2-29-47	03-3309-2481
昭22・中45回	岡村 和夫	〒156-0055 世田谷区船橋6-13-20	03-3302-8794
昭22・中45回	栗原 三男	〒175-0093 板橋区赤塚新町3-16-21	03-3930-6749
昭22・中45回	田中 隆	〒272-0812 市川市若宮1-14-9	0473-34-8163
昭25・高2回	荒井 利治	〒167-0022 杉並区下井草5-19-22	03-3395-3266
昭25・高2回	内田 紀成	〒363-0027 桶川市川田谷2589	048-787-4340
昭25・高2回	岡田 良平	〒175-0094 板橋区成増2-33-14	03-3977-1815
昭25・高2回	岡部 延夫	〒214-0022 川崎市多摩区堰1-22-1-619	044-811-8674
昭25・高2回	柴崎 育久	〒158-0097 世田谷区用賀2-5-14	03-3700-3895
昭25・中48回	清水 順一	〒350-0233 坂戸市南町20-11	0492-81-0050
昭25・高2回	菅沼 伸之	〒177-0044 練馬区上石神井2-36-6	03-3929-2224

卒業年・回数	氏 名	住 所	電 話
昭25・高2回	橋本日出松	〒351-0023 朝霞市溝沼7-4-65	048-461-3218
昭25・高2回	早川 岩男	〒350-1122 川越市脇田町8-7	0492-24-8976
昭25・高2回	日出間哲郎	〒356-0004 上福岡市上福岡2-6-15	0492-66-6810
昭25・高2回	西村 通洋	〒223-0062 横浜市港北区日吉本町3-27-4	045-562-0473
昭25・高2回	矢部敬一郎	〒363-0027 桶川市川田谷4640-3	048-787-5033
昭25・高2回	吉田 裕美	〒357-0215 飯能市坂石938	0429-78-0135
昭26・高3回	糟谷 熊	〒359-1145 所沢市大字山口2888-1	0429-23-3128
昭26・高3回	小熊忠三郎	〒226-0015 横浜市緑区三保町2179-2-346	045-932-8138
昭26・高3回	長島 恒雄	〒134-0087 江戸川区清新町1-3-3-810	03-3878-1539
昭27・高4回	駒井 正明	〒173-0036 板橋区向原2-26-1	03-3956-2894
昭27・高4回	松井 顕敏	〒350-1333 狭山市上奥富46-11	0429-52-0168
昭29・高6回	菅間 昭	〒241-0005 横浜市旭区白根4-15-20	045-951-7689
昭28・高7回	鈴木 勇	〒350-1126 川越市旭町1-9-2	0492-41-0504
昭28・高7回	土屋 實雄	〒357-0044 飯能市川寺718	0429-73-4391
昭28・高7回	西田 守	〒350-1124 川越市新宿町5-10-1	0492-42-0397
昭31・高10回	高島 敬忠	〒175-0092 板橋区赤塚1-25-17	03-3939-0376
昭35・高14回	大河原義重	〒176-0012 練馬区豊玉北2-13-10	03-3994-5453
昭36・高15回	鈴木 洋雄	〒355-0072 東松山市石橋1669-10	0493-24-1571
昭37・高16回	日下 英元	〒350-1136 川越市下新河岸35-3	0492-42-5883
昭38・高17回	関口 栄一	〒355-0065 東松山市岩殿96	0493-35-0014
昭38・高17回	西 信之	〒201-0003 狛江市和泉本町1-26-4	03-488-1120
昭41・高18回	新井 宏明	〒104-0061 中央区銀座6-7-12銀座誠和法律事務所	03-3572-2421
昭41・高18回	笹崎 能輝	〒350-1221 日高市下大谷沢546	0429-89-2234
昭44・高21回	大館 廣	〒359-1112 所沢市泉町1860-3	0429-22-9634
昭44・高21回	川合 善明	〒350-0857 川越市大字松郷1094	0492-25-1090
昭44・高21回	内藤 豊	〒341-0021 三郷市さつき平2-3-1-704	0489-51-8885
昭44・高21回	横溝 高至	〒352-0003 新座市北野3-8-24	048-476-3993
昭47・高24回	塩野 元美	〒356-0053 入間郡大井町大井703	
昭48・高25回	石川 正樹	〒160-0022 新宿区新宿1-9-1ネオックス新宿8F	03-3358-1596
休 会	内田 静馬	〒363-0027 桶川市川田谷2589	
休 会	金子 紀孝	〒355-0054 東松山市旗立台12-6	
休 会	星野 猛	〒350-0056 川越市松江町1-20-3	
休 会	野上 完一	〒114-0014 北区田端5-13-11	

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。

昨年の干支は戌寅であり、新年のご挨拶で先の方はほやつと見えるけど足元は真暗な年であると申上げました。このことは波乱を乗り越えたと後半は明りが見えるということですが経済不況、毒殺事件等暗いことばかりでした。しかし景気は底をついて、これからは上向きになるはずと勝手に思い今年を迎えることに致しました。ところで今年は己卯（つちのとう）歳、己は土の弟、足を地につける、卯は兎、脱兎の如く機敏な活動を期待するという年であります。川高は創立百周年を迎える年でもあり、その面からも良い年であるよう期待しております。皆様もご健康で活躍される年であるようお祈り申し上げます。

会長 田中 隆



次回のタベの会は

3月26日（金）午後6時

池袋駅西口 東方会館



在京初雁会（創立昭和28年）
会長 田中 隆

1999年（平成11年）
新春号 第66号



一月例会

交詢社ビル1F
ピルゼン ☎3571-2236

一タベの会

学士会館 ☎3292-5931
東方会館 ☎3987-0211
（池袋駅西口・芸術劇場向い）

在京初雁会

矢部敬一郎（企画・総務）
〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
岡田 良平（広報）
〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1815
会社 ☎03-3977-1811
事務局
菅沼 伸之（財務・事務局長）
〒177-0044 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

目次

会長挨拶	1
アルゼンチンへの旅	田中 隆 2
エビータその後	内田 紀成 4
今後の景気について	日下 英元 5
会員近況	6
編集後記ほか	8

アルゼンチンへの旅

田中 隆 (中45回)

平成八年秋、京都で開催された国際外科学会
で財務を担当、この頃からご存知のようにバプ
ルの崩解が始まり、募金が思うように集まらず
苦労を重ねやつのことで開催することになっ
た。とは言っても国際学会であるので会長招宴
だけは盛大に……という事で舞妓さんを総上
げ、各国のスタッフを招待することにした。招
宴では偶然同席したゲストが次回開催国アルゼ
ンチンのスタッフ夫妻であり、ついつい話がは
ずみ二年後には必ず出席すると約束してしまっ
た。学会が終わってからアルゼンチンのことに
ついてしらべてみた。今迄の知識ではブエノスア
イレスとタンゴ位であったが南米の果で日本か
ら空路で三十数時間かかること、日本の真裏
にある大国であり時差は丁度十二時間、夏冬が
逆、ホークランド戦争で英国と戦ったこと、一
昔前の日露戦争の折には優秀な巡洋艦日進、春
日を譲ってくれそのこともあって日本海海戦で
大勝をおさめたとのこと、丁度一九九八年は日
本との修交百周年の行事が各地で開催されてお
り新聞、ラジオでもこのことが報道され改めて
認識を深めることになり、この偶然にもびっく
りした。最も友好的な国は一番近い台湾（最近
は国ではない？）と最も遠いアルゼンチンであ
るとまで言はれており、二〇〇二年に開催され
ることになったサッカーワールドカップも一番
先に日本支持を表明した国であることを知り私

共夫婦にとつての最後の南米旅行を計画するこ
とになった。実は六年前もこの学会でブラジル、
ペルーに行っており従って今回は南極へ行く基
地ウシュアイアまで南下することにした。

一、ブエノスアイレスでの学会発表

国際外科学会隔年に開催され今回は第三十
一回、外科といっても耳鼻科、脳外科、産婦人
科、整形外科などを含めた総合外科学会であり、
国際的な外科系学会として最も権威のある会



学会が終了して

各国は支部（部会）を持ち自国だけの学会も開
催しており、オリンピックほどではないが総会
を開催するためには何年も前から運動を始めな
なくてはならない程であり、各国の役員ともなれ
ば毎日出席を要請され、またこのことが逆に愉
しみでもある。始めにお話したようにアルゼン
チン行を約束したところ一年後に突然招待状が
送られてきた。内容は旅費、宿泊費を持つから
是非ということで早速承諾の返事を出したところ
それからが大変、専門領域を知らせろ、シン

ポジウム、パネル等に参加せよ等々、注文が次
から次へと送られてきて気楽な気持ちで行くつも
りが英文抄録やらビデオの吹込みやらで夏休み
を犠牲にすることになってしまった。講演の内
容については省略するが私のライフワークであ
る食道癌手術と噴門けいれん症の手術成績を発
表、その他教室員の新しい仕事である食道手術
をビデオで供覧した。最後の日の食道癌シンポ
ジウムでの挨拶には「今から一〇〇年前、一八
九八年日本の船が初めてこのブエノスアイレス
港に寄港、それから一世紀、この記念すべき百
周年にこの地に来ることが出来感激している。
一生忘れません。ムシヤスグラシヤス」と片言
のスペイン語で話したところ講演内容は別とし
て私の発表が一番拍手と握手が多く、そのこと
だけでも日ア親善に役立ったことと自負してい
る。

二、アルゼンチンタンゴ

日本の真下ということで四季は全く逆、十一
月は春真盛りであり、街角にある紫色のハカラ
ンダは満開、南米のパリとも言はれているだけ
あって道路（七月五日通りは世界一幅の広い道
路で片側五車線、一四四米もある）町並は整然
としており、ブエノスアイレスの意味は良い空
気、その名の示す通り澄みきった空と町並がマ
ッチしたすばらしい街である。海のように広い
ラプラタ川には港があり、南米一の貿易港であ
った由、そこに寄港した船員達と港にたむろす
る女性との踊がタンゴダンスの発祥であり、踊
そのものは男女の絡み合いをダンス化したもの
でタンゴリズムと相俟って最もセクシアルな踊
の原点であるとのこと。港に近いモンセラート、

ボカ地区には多くのタンゴバー、観光用のタンゴレストランがあり、学会でも一夜アルゼンチンナイトと称して招待（五十ドル）してくれ、それに刺激され最後の夜には眠いのを我慢して（開始が十時、終了が一時頃まで）最も有名なカサブランカなるタンゴバーまで行ってきた。カサブランカはモロッコの街の名前だけでなく白い家という意味であるのでどこにあつてもよく、この店も間口は狭い真白な仕舞屋風で小さくカサブランカと書いてあるだけの建物でありむしろこの街にマッチしている。ショーの初めにはラ・クンパルシータ、写真は最も有名なカ



ハカランダの花が満開

ルロスとアリシアのカップルで日本にも何回か来ているとのこと、アクロバットさながらの見事なステップで観客を混えてのエキサイト、本場でなければ味わえないショーであり眠気も忘れ去ってしまった程であり、日本に来たらもう一度……

こんな素晴らしいショーが赤ワインを飲み放題でわずか四十ドル、これまたびっくりである。

三、ペロン大統領夫人エビータ

市内観光で気がついたがどこへ行ってもエビータの話が出てくる。今回の旅行の直前、皆から言はれてエビータについての予備知識として先に話題になったマドンナ主演の映画ビデオを購入（一九九六年アカデミー主題歌受賞のミュージカル映画）、街の様子、大統領府（市民はピンクハウスと言っている）とその広場の様子は知っていたが、この国の人達にとってはエビータは聖母であり、現在の民主主義もエビータとその主人ペロン大統領のおかげである由、従って観光案内嬢もスペイン語と英語を使って



カルロスとアリシア

エピソードまで話してくれる。日本でも有名になった話でエビータ役をマドンナが演ずるということでこの国では大反対、とうとう大統領府はロケとして使わせなかった由、観光では彼女の演説したバルコニー、郊外のウイークエンドハウス（別荘）、お墓まで案内され改めて彼女の偉大さを知ることになった。映画はエビータの一生をミュージカルでまとめたもので、私生児として育った後、歌手と結婚、ブエノスアイレスに行き女優になり離婚、その後ペロン大佐と再婚、政治活動を始め大統領夫人となった人



大統領府ピンクハウス
2階のバルコニーでエビータが演説

物であり、一九五二年三十三才で癌で亡くなり現在でも聖母エビータとして崇められている。アルゼンチンのお墓は彫刻をほどこされた石造りの納骨堂が一家族の墓であり世界一の芸術的な墓である由、エビータの墓も市内のレコレータ墓地にあり花束が今でも絶えない由、写真は残念だがお墓であるので一枚も撮って来なかった。

アルゼンチンは自国ではアルゼンチーナと云いラテン語で銀という意味である。銀を求めた探検時代、国土の中央を流れる大河を上り、その地方をラプラタ（スペイン語の銀）と呼んでいた。そんなこともあってこの地方が発展、一八一六年スペインから独立した際今迄使っていたラプラタなるスペイン名を變更ラテン名のアルゼンチーナなる国名をつけたとのこと。ブエノスアイレスは良い空気、国名も首都もその名の通り、それだけでなく夜遅く街を歩いても近頃の東京より安全であり、その上我々日本人にはホテル、レストラン、学会の受付でも友好的でありスペイン語での会話以外は外国に居る気がしない位の街であった。唯一つだけ違うのは南米特有の大雑把さであり時間はルーズ、学会の始まりは三十分おくれで平気、プログラムは誤植だらけ、教室のY講師の発表は二ヶ所になっていた。また同じくM君の演題の演者名にロシア人の名前がついていた。発表がおくれ文句を云いに行ったらアスタマニアーナ、明日またということらしい。むしろ日本人がせかせかしすぎるのかもしれない。

以下次号（パタゴニア・南極基地カラファテ）

エビータ・その後

内田紀成（高2）

田中会長のアルゼンチン視察のお話を伺い写真を見せ、自分も一緒に行つたような気になりとても懐かしく感じた。私の駐在していた十数年前と変わらないうのは、アルゼンチンタンゴ発祥の地と言われているカミニートという場所、カラフルな壁をもつ建物が並んでいるのと、広い公園の並木が一斉に華美な花を咲かせている事であった。変わったのは軍政権から民政になって明るい雰囲気を取りもどしたような表情が感じられたことだった。

エビータ没後ペロン大統領は軍のクーデターによりスペインに亡命したのだったが途中メキシコで風邪を引いて入院している時、どこまわりの踊り子イサベラと知り合いイサベラが献身的な介護をしたのが縁で彼女はペロン氏の第三夫人になったという。

当時からずつと軍政権が続き私が赴任した時はラヌーセ大統領の時代であった。その頃軍の要人がしばしば暗殺され、原っぱに投げ捨てられた記事が生々しい写真と共に一流の新聞のトップに掲載された。ペロン党の仕業だとうわさされたが、どういうわけか証拠に残らない犯罪だった。

やがて総選挙の時期が来た。ラヌーセ大統領は三選目に当たっていたがあまり気乗りしてない様子だった。ペロン党では元歯科医師のカンボラ氏が立ち僅少の過半数で当選した。カンボラ大統領はいち早くペロン氏に国籍をもどしアルゼンチン

に迎え入れ手順が終わると総辞職した。その後すぐ総選挙が繰り返されたがその時ペロン氏は暗れて堂々と立候補し、この時も僅少の過半数の差で当選し、オールドペロン大統領の復帰と相成った。

大統領政庁「カサロサダー」広場で盛大なペロン大統領就任式が行われた時、全国から集まったペロン党の隊列に向かってバルコニーに立った大統領の顔は疲労困憊の様子で気の毒に思えた。

ペロン党の右派と左派が副大統領の地位を争った。大統領は中道の施政方針を立て副大統領にイサベラを起用した。「副大統領をイサベラとよんではいけない。本名のアルテネスペロンとよぶうに」と達しがあった。

ペロン政権はなれないせいもあったと思うが我々国策に沿って働いている外国人に冷たく国民の歡心を引きナショナリズムに固まっていたそのしわ寄せを受けることになった。牛肉の輸出をより振興させる為に、国民にもっと魚を食べさせなければならぬので、魚の輸出を当分禁止するという法案が通過したのだ。ブエノスアイレスから南六百軒位の海岸にあるマルデルプラタ市は丁度暖流と寒流のぶつかり合う石巻市に似ていてアルゼンチン最大の漁港である。当時沿岸で獲れた鯛を女工を使って大きさをそろえて並べ急速冷凍して日本へ輸出する仕事をしていたが、慢性的なインフレのせいで仕事に馴れた女工さんがぶいとかめて他の加工場へスカウトされるという悩みを抱えていた。女工さん達の足元を見ると伝染したパンデミックを平気ではいていた。そこでほんの思いつきだったのが日本の丈夫なパンティストッキングを送ってもらい女工さんに手渡した所が大喜びでやつと女工さんが定着して作業をするようになったという矢先のことだった。マルデル

プラタの漁業組合、加工組合はこぞつて決起し政府に大がかりなデモを挙げた。朝令暮改というのだろうか、やがて廃案になり輸出は数日ストップしたのみで鯛の輸出はかろうじて続けることが出来た。

ペロン政権が一年ももつたらうか大統領は風邪をこじらせて急逝した。若手ペロン党員は皆肩を落して悲しんだ。コングレessoとよばれる議事堂に九二日遺体が安置され、テレビは生々しく放映しつづけた。花環が議事堂を三まわり以上飾られた。明治時代新潟県から移民した人々の子孫は農業が花造りをしていた。「花が売れたでしょう。」ときいて見たら「とんでもない。ペロン党がやって来て寄付を強要され元なしだよ。」とのことだった。

憲法に従って、元どきまわりの踊り子は大統領になつてしまった。マルテネスペロン大統領はエビータがした福祉政策になつた。元床屋さんだった厚生大臣は常到大統領のそばにべったりくっついてテレビに映つていた。

外国産木材の輸入を国内産に切り替える為アンデス山脈から主都に向けて建設中の道路は中断したままであった。インフレのいきおいは二桁となつた。

軍による無血クーデターが起り、あわれマルテネスペロン大統領はあつさりとお閉されてしまった。

三年間駐在期間中これだけの事が起つた。この先は後で聞いた話によるとということになるが、軍政復活、フォークランド戦争敗退で軍の信用失墜・穏健派のペロン政権が誕生現在迄続いているとの事である。

精力的なペロン大統領に好感を抱いている。

今後の景気について

(12・1・タベの会より)

日下英元 (高16)

デフレ経済政策に成功した事例と平成経済の比較
元禄バブルは元禄八年から宝永六年まで十三年続いた。貨幣改鑄で通貨供給量は約二倍になり米価は約五倍に達した。この後、新井白石は正徳の治で通貨量を減少させ、米価は四分の一程度になりデフレスパイラルに入った。その後八代將軍吉宗の享保の改革終了まで三六年間デフレ経済は続く。デフレ経済政策は功を奏し、幕府は二六〇余年続いた。この政策の中心が米の有価証券化であり、背景に太宰春台・石田梅岩がいた。結果は米価を約三割上昇させ経済が安定した。後に山片蟠桃がデフレ経済理論をまとめた。

昭和・平成バブルは昭和六十年から平成三年まで七年、通貨量は二・一倍になり、地価も約五倍に及んだ。バブルが弾け現在七年余経過した。地価は三分の一程度に下落。デフレ景気は一五五程は続き、根本的な政策を採らない限り窮地を迎えるだろう。この知恵は江戸時代の文献に盛り込まれていることを忘れてはならない。

国家財政を全く使わない金融システムの安定化

現在の金融問題は平成三年の国土法改正に始まる。必要以上に地価が下落し担保力が減少すると融資は止まり、資金が無ければ売却不能になった。本年八月の経済企画庁「国民経済計算」で株式・土地資産残高はピーク時(一九八九年)から約八五〇兆円のマイナスと発表した。これが不良債権

を発生させた。資産減少が埋まるまで倒産件数は増大しマネーサプライを減らす。倒産規模は拡大し、失業者は増加する。地価や株価を適正に戻すことが必要である。

金融システム安定には地価の安定である。物価は在庫量が重要で、在庫一掃が先決である。相続税も物納が増加し不動産等の公売物件も増加の一途にある。不良債権は増加する。解決方法が不動産買取機構である。競売対象の不動産整理と相続税等の物納物件の公売の整理のムダとして不動産買取機構を造る。有価証券を発行し不動産在庫を減少させる。国家財政は不要である。

不動産の在庫調整と価額の適正化をはかる不動産買取機構の創設

制度は国が運営する。裁判所で債権額を確定し、この機構が調査算定した価額で和議等により不動産証券等と引換えで不動産を取得する。不動産証券は政府が与信して国債同等に格付けし、証券市場で取引する。機構は取得不動産を運用し収益を上げ、その収益で機構を運営する。余剰金は証券所有者に配当する。利子補給も考えたい。不動産の価格により不動産を売却し、その資金で不動産証券を買取償却する。不動産証券は常に値上がり期待される。

暫定的機構で機能終了により解散する。問題の不動産は首都圏・大阪・名古屋他政令指定都市の中心市街地である。区域も限定する。中心地の地価安定は全国に及ぶ。適正価格は現在の路線価額の約二割程度上回った金額だろう。資産価値を適正化し不良債権を圧縮しなければ金融機関の解消はできない。不動産買取機構は公的ブリッジ・バンクの機能を発揮する前提条件である。

土地のより有効利用をはかる

地価の安定。国土法改正で地価抑制は成功した。この調整で全ての物価調整の知恵を得る。しかし、土地の有効活用は常に図る必要がある。首都圏や大阪等の環状線の高架下は商店等に使用しているが、上空に無限の広がりがある。建ぺい率や容積率の見直等で高度利用を考えるべきだ。

その他の諸策

① 需要の減少に伴うデフレ不況の悪循環を回避する政策

平成七年・八年と特別減税は各二兆円行われた。平成十年の四兆円減税も実質二兆円だ。平成九年四月施行の消費税率と健康保険料率改定で約九兆円の負担増になる。大幅減税が必要だ。

現在の減税が将来の増税に繋がらないことを明確にしムードを変える必要がある。市町村や道府県の合併等地方行政区画の統廃合・議員定数の削減・省庁の統合と公務員の削減・公社公団等の民営化を図り株式を国内外の市場で売却する等考えられる。

「年金制度は崩壊しない。老後の生活は安心」というイメージを出す。第一は、国債発行残高が平成十年五月末二六二兆円をはじめ地方公共団体等不良債権等の総額は六百兆円である。これに郵便預金・郵便簡易保険・年金等がつき込まれ予定利回りが取れない。日銀が肩代わる等無利息資金に代え、日常の国内経済圏から除外する策を採る。第二は高齢化少子化が与える影響を厚生省は年金問題とし国民に投げかける。これは歳入と配分の問題で、将来の金利動向や所得配分などの総合問題として検討すべき課題だ。政府内の調整課題である。

この約三年間で大手ゼネコンを筆頭に日本企業の三分の一は倒産する。ゼネコンの倒産は日雇夫等の失業で社会問題となる。近い将来、大幅な国債の増発が必要だ。現在の償還期限は十年と短かい。合衆国は三十年、イギリスも五十年国債を発行した。期間は充分な国力回復を考える。

② 需要を喚起するための政策

新機軸の導入が必要である。日用消耗品以外に需要が無い。耐久品は買替である。合衆国の繁栄の基礎にNASAの宇宙開発や海軍の深海開発等がある。これによる特許数は膨大で世界のトップである。日本も海洋開発等国家プロジェクトを設け、次世代のエネルギーや技術革新等の新たな機軸を出し繁栄の基礎としたい。共同開発と普及育成は産業界・大学等学会・官公庁一体の開発テーマを設け、テーマ毎に協力体制をとる。各プロジェクトは会計面をガラス張りにし、研究の成果物は全国に普及するよう指導育成に努力する。

当面のリーディング産業は個人住宅である。従来は自動車等リーディング産業があった。リーディング産業は広い分野の産業に影響を与える必要があり、現在は住宅産業である。住宅取得の軽減税制・不動産取得税や登録免許税等の大幅軽減が必要である。調整区域の利用も促進したい。

③ 民心の動揺を静め社会不和を無くすための政策

自由資本主義国家の指導者は哲学を習得しなければならぬ。公務員や教育者等指導者は精神修養を積み哲学を習得する。このことがデフレ経済下では特に強調される。必要な講演会の開催には補助金を与える等積極的な助成も必要である。資料館の建設や精神修養の道場等の整備も必要である。伝統的な文化やスポーツの普及もしたい。一

般市民は祭りの復活である。また、俳句・短歌・音楽・芸能・スポーツ等文化活動、これまで以上に全国各地に全ての世代に該当するように普及させる。それには各種団体への助成や指導員の養成等を図る必要もある。

山木育

「夢の代に学ぶ
日本再建策」

山片蟠桃

YAMAGATA HANTO

不況脱出
リーダー
刷新!

日下英元氏の著書

会員近況 (順不同・敬称略)

(12・1夕べの会出欠ハガキより)

荒井 利治 (高2)

皆様によろしく。

駒井 正明 (高4)

当日都合悪く欠席させて頂きましたが、来年もよろしく願ひ申し上げます。

鈴木 勇 (高7)

昨年 (H9・2) 博報堂を定年退社、引き続き (株)TBSブリタニカ (ニューズウィーク日本版・フィガロ日本版の発行元) に顧問として勤務しております。

今年は地元の川越にてソフトボールに熱中、練習・試合ともピシッと皆勤、気分は高校球児だっ

たほぼ半世紀前に戻っております。

細島 博文 (中35)

何時も御連絡頂きまして有難うございます。お蔭様で何とか元氣にして居ります。残念ながら当日は勤務の都合で欠席致します。御盛會をお祈り申し上げます。

山崎 豊弘 (中35)

御案内有難う御座います。小生御蔭様で元氣であります。当日既に先約の会合あり、残念ながら失禮致します。御盛會を祈上します。

橋本 国治 (中26)

体調不良のため。

平岡 寿夫 (中42)

残念乍ら、先約がありますので欠席させて頂きます。御盛會を祈ります。

菅間 昭 (高6)

ご案内ありがとうございます。申し訳ありませんが、今回もほかに予定がありますので、出席できません。皆様宜しくお伝え下さい。

安齋 恒男 (中24)

去る10月満90才をクリアいたしました。高齢と共に足腰の痛みあり、誠に残念ですが欠席いたします。ご盛會を祈念申しあげます。

間々田 重信 (中39)

無病息災にて君津の田舎に暮らしています。在京初雁会夕べの会にご案内頂戴しましたが、何分にも夜分と遠距離のため、今回も欠席します。諸兄によりしくご願下さい。

武田 葛 (中29)

名簿をあらためて拝見し、感慨深いものがあり

ます。井口正夫氏に添われ、そのご紹介で入会しました。現在、ご健在の先輩の方たちは、古い川中の語り部でもあられます。とくに、関東大震災(大正十二年)と川中のことは、体験者としてぜひ語り聞かせていただき、記録に残していただきたいと存じます。

船津 鴻之助 (中24)

あと三ヶ月で満九十才、腰痛のため歩行やや支障あるも元氣です。この頃は、度々「小江戸川越」のテレビ放送がありますので、嬉しく思っています。

長島 恒雄 (高3)

当日先約あり、残念ながら出席できません。会社勤務、執筆、講演となかなか遊ぶ暇がありません。十二月には、昨年の「ビッグバン」の続編ともいえる「金融危機」を同じかんき出版から上梓する予定です。

松井 顕敏 (高4)

残念ですが、勤務先の夕食会を先約してしまいましたので。

川合 善明 (高21)

ご無沙汰しております。不景気を反映して、会社や個人の破産申立ての依頼が多い一年間でした。来年は景氣がよくなるといいですね。

菅沼 伸之 (高2)

ご盛會を祈ります。

増島 隆二 (中35)

折角の楽しい有意義な会の企画、予定が出来ていて出席出来ず残念。御盛會を祈ります。

代々木八幡に別な生活の據点が出来ましたので

三鷹の家を留守にする事、しばしばです。

松下 雄一 (中29)

腰痛で整形外科への通院を日課にしています。不快な報道にうんざりするテレビ、新聞の状況。来年は払拭し、明るい氣分を味わえるよう願っています。

高篠 平太郎 (中40)

毎々お世話様に相成り恐縮に存じます。相憎く、火曜日は出講日と重なり、残念乍ら欠席させていただきます。有意義な卓話のご様子で本当に残念です。本年ももう了りか。祈御盛會。

山本 道 (中32)

間もなく八十二才になりますが、お蔭様で体調は良好。水墨画や雑用に日々追われています。

岡部 延夫 (高2)

悠々自宅というわけにもいかず、今のところ週三回は会社へ出ています。これといった健康法はありませんが、おかげさまで元氣に過ごしています。

栗原 三男 (中45)

相変わらず仕事をしています(笑)ニチロン。十二月一日を楽しみにしております。

吉田 裕美 (高2)

当日は飯能市消防団特別点検が行われます。このあとで地域に帰りまして行事がありますので。

佐々木忠一 (中32)

リタイアして自由時間に恵まれ、今更ながら、八十才台になって定年退職の境遇が実感できました。三月の中国旅行は気ままな退職記念でしたが、七月の英国旅行はある国際会議参加のため、二十

二ヶ国二百余の方々との交友があり、新しく多くの知人が与えられ再会への望みを得て感謝しています。

会社御多忙のところ御世話様に相成り有難く御礼申しあげます。当夜家内の都合つければ同道仕ります。

阿部 親興(中38)

毎回、早目にご案内を頂きながら、体調不安定の為、気候、天候等勘案しながら出入を決めさせて頂く関係上、ご返事が遅れ申し訳ありません。ご有恕下さい。

内田 紀成(高2)

二十五年前ブエノスアイレスに三年間駐在していた事があり、その時と現在との比較に興味をもつて是非田中氏の講演を拝聴したいと思ひます。

柴崎 育久(高2)

来年十月の「川高百周年記念俳句大会」実行のためいろいろ準備中です。毎月第一日曜日午後一時から川越福祉センターで「川高くすの木句会」を行っています。(現在20名登録) 正月のみ一月五日(火)午後一時の開催です。気軽に参加下さい。

橋本 日出松(高2)

体調が安定してきましたので、最近はあるべく外に出るようにしています。川高同窓会の秋の散策や広島での日本ウィリアム・フォークナー学会に参加したり、先祖の供養のため高野山と京都の智積院などにお参りしてきました。

日出間 哲郎(高2)

おかげ様で本年十月やっとフリーになることが出来ました。残務整理に追われながらも旅への心

やまず暇をみては自然の中に飛びこんでいます。これからは皆様方のご指導を受けて第二の人生を。

矢部 敬一郎(高2)

故郷に帰って六年になりました。まだ完全に仕事から抜けられずいます。然し、趣味は窓口を抜け、休日には忙しい毎日です。「菊づくり」から「バラづくり」に移り楽しんでいます。この道の先輩がいまさら是非ご教示いたさきたい。新人(高瀬進一さん)をつれて参ります。

高島 敬忠(高10)

前略 何時も御世話様になります。岡田、矢部先輩の御尽力には本当に頭の下がる思いです。御自愛の上、益々の御活躍祈念申します。会員の勧誘にも努力したいと存じます。

岩泉 惟人(中35)

何時も大変お世話に預り有難うございます。

荻野 文夫(中36)

いつもご連絡いただき、心から感謝申し上げます。今回あいにく先約の他の会合と重なりますので欠席の事お許し下さい。

つい最近、押入を整理して出てきた、十年ぐら以前旅行先で買った本を読み返しています。雑誌アトランテック89年5月号(日本封じ込めの論文掲載分)本はYENI、トレディングブレエセス、そしてザ カミング ウォー ウイズ ジャ

パンの3冊です。形勢逆転した今、当時を思い、なんとも複雑な気持ちです。それにしましても、この一年のアジア経済危機のすさまじさ、インターネットで欧米各国の新聞、通信社のニュースを追いながら、毎日が身の毛がよだつ思いでした。

ガンバレ日本、負けるアジア! そして六十余年前、川越中学の諸先生からお教え頂いた、国を愛することの大切さと、民族の誇りをいつも忘れずに、今日もパソコンに向かっています。

西 信之(高17)

いつもお世話様です。東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ第53回奇術試演大会(11月15日、永田町・星陵会館にて)今年も行ってきました。大竹一浩氏(高13回)の「お金持ちになりたい」、秋季散策会パーティー会場でお馴染みの名演目でした。

計報

落合義作氏(中28)

昨年一〇月一九日に御逝去されました。長い間在京初雁会の発展のためにご指導ご尽力を頂きましたことに厚く御礼申し上げますと共に謹んでご冥福をお祈り致します。

次回タベの会は

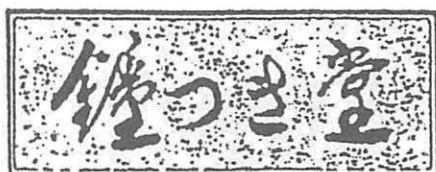
「川高百周年記念俳句大会」の実行委員であります柴崎育久氏(高2)に俳句のお話をしていただけ手ほどきなどとして頂く予定です。是非とも多数の皆さんのご参加をお待ちしています。

編集後記

事務局の菅沼さんが自宅療養中ですので暫くの間岡田が代わりを務めます。

今後とも田中会長を中心に充実した会の運営を心がけていきますので宜しくご協力の程お願い致します。

(岡田)



在京初雁会 (創立昭和28年)

会 長 田 中 隆

1999年 (平成11年)
夏号 第67号



一月例会

交詢社ビル1F

ピルゼン ☎3571-2236

一タベの会

学士会館 ☎3292-5931

東方会館 ☎3987-0211

(池袋駅西口・芸術劇場向い)

在京初雁会

企画・総務

矢部敬一郎

〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

広報・事務局

岡田 良平

〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1815

会社 ☎03-3977-1811

暑中御見舞申上げます

皆様 今年 は 母校の創立百周年

を迎えます。十一月十三日(土)には

同窓会の祝賀会が新装なつた

体育館アリーナで開催されます

お揃でご出席下さい。

会長 田中



目次

会長挨拶 1

アルゼンチンへの旅(続) 田中 隆 2

俳句と人生 柴崎 育久 4

会員近況 5

百周年記念ほか 8

次回のタベの会は

月例会は

9月28日(火) 午後6時

池袋駅西口 東方会館

10月8日(金) 午後12時

銀座・ピルゼン

アルゼンチンへの旅(続)

田中 隆(中45)

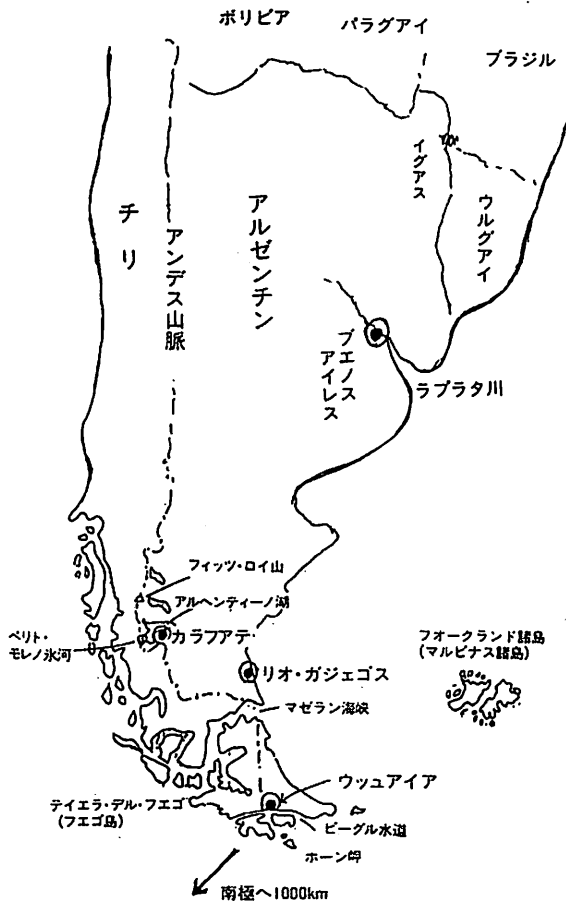
四、バタゴニア、ベルトモレノ氷河へ

前夜、ブエノスアイレス最後の夜、カサブランカでのタンゴショーを堪能、ホテルに着いたのが午前二時、早朝のフライトが五時五十分、わずかに数時間の睡眠で起床、空港に向った。幸に国内線の空港は街はづれの公園内にあり十五分位で行けるので助かった。行ってみるとゲートは二箇所だけ、フライトナンバー、出発時刻の案内も無く放送はスペイン語のみ、結局一時間おくれで出発した。リオガジェゴスへは三時間のフライトであり、この時間に睡眠不足を解消した。空港には現地のガイド(運転手)が待っておりベントンのミニバスに乗って三時間半の旅である。街を出ると目前に広がるものは地平線までの平原であり、時々羊の群と出合う位である。唯ビックリしたことは遙かかなたに扁平の低い丘のように見える物体が現れ、実は蜃気楼であり、車が進むと消えてしまい、また別の蜃気楼が出てくる。見渡すかぎりの平原と真青な空、綿雲、何枚かパノラマ撮影に熱中した。目的地のカラファテの町に近づくとき雪を頂いたアンデス山脈の山々が見えてくる。アルゼンチンの下半部を占める大平原をバタゴニアと言い、日本の二倍の広さであり緯度で言うところと東北からサハリンまでに相当する。従って北部と南部では気候、温度が異なり今回訪れた南バタゴニアはアンデスから吹降される強い風のため平地の植物は地面にへばりついている。一昔前まで

は放牧のみで無毛の地であった由、しかし現在は石油を掘出しパイプラインで運んでいるためこの国の経済は潤ってきたとのこと。そもそもバタゴニアという名前は一五二〇年有名な探検家マゼランがこの地を旅した時毛革をつけた原住民の足を見てバタ(足)ゴン(大きい)と名付けたことによるとのこと、カラファテは氷河で作られた広大なアルゼンチン湖畔にある小さな町であり、有名なベルトモレノ氷河への観光基地である。小さな空港はあるが天候とくに風により欠航することが多く日程に制限のある旅行者はどうしても車で行くことになるのとこと、また湖と言ってもこの町の湖畔から対岸が見えないところがあり、バードウォッチングと、湖畔の散策だけの観光地である。

翌朝氷河に向って出発、約八十km、一時間半

の行程、湖沿いに走ること一時間、湖面には氷河から押出された氷岩がいくつも出現、その氷岩の美しいこと、映画、テレビで見える氷岩は大きな氷の塊であるが、この地で見える氷岩は縦縞の割目のため白と青が入り混り何とも言えない景色である。氷河とは日本アルプスの雪渓を大きくした位のものと思っていたところ展望台に着いて見下してみてもその規模の大きいことにまたまたびっくり、数千年、数万年前にアンデス山脈の渓谷に出来た氷河が次第に下方に押出され、その下端が湖に到達、五十mから百mの氷柱となつてせり出した絶壁である。時々氷塊が轟音と共に湖面に落下、この世のものとは思えない神秘的な景色である。観光船に乗って見上げる氷河もすばらしいが対岸の丘から眺める氷河も見事であり二泊してこの地を訪れるだけ



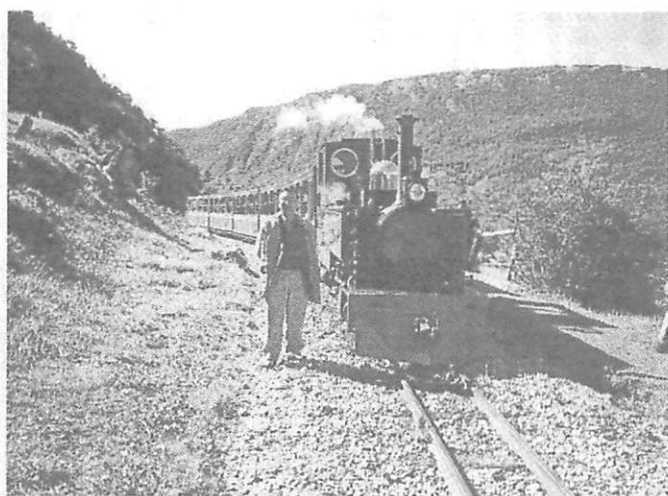
の価値がある。何枚も写真を撮って見たが実物と写真の差は私の技術以上のことであり目と心に残った風景を時々想い出している。

五 南極行の基地ウシユアイア

二週間にわたる今回の旅、最後の目的地はウシユアイアである。余裕さえあればここから南極まで行きたいところだが同窓会、医師会の仕事が残っているため残念である。カラファテから同じ道を三時間半、リオガシエゴスから三十分、有名なマゼラン海峡を渡ってフェゴ島（火の島）の最南端ウシユアイアに到着、考えてみるとブエノスアイレスからこの地まで何と三〇六三km、細長いアンデス山脈もこの地まで続いており大西洋に潜り込んでいる。観光は翌日（早朝雪が降っており心配したが日本で云う春雪に相当すぐ溶けてしまった）午前中は「世界の果て号」という観光用の蒸気機関車に乗ってフェゴ国立公園へ、この列車は一九一〇年ウシユアイアに送り込まれた囚人により建設されたもので、観光用として国立公園までを残したもので途中一時停車しながらブナの木（ニレ）についたキノコ（インディオのパンとも言い食用にしていた）強風のため横に伸びたブナ、野鳥カウケンなどを観察、最後にウシユアイアの最南端まで車で行き記念撮影、なんとアラスカからここまで車で来ることが出来、その距離は一七八八km、ここから南極まではわずか一〇〇kmであるとのこと。

午後からは遊覧船でビーグル水道の島巡り、ウミウ、シーライオン（象アザラシ）の生息している島々を廻ってくる観光であり、所謂ハーレムを作っているアザラシを間近に見ることが出来た。ハーレムと云えばまずうらやましいと

誰でも思ってしまう。しかしこの島には雄同士との戦に敗れて一人ぼっちで崖縁で寝ているアザラシの姿も見られこれもハーレムであることを知った。予定ではペンギンも見に行くつもりであったが残念なことに半日のクルーズでは無理とのこと、今回の旅では防寒具、望遠鏡がこれ程まで役立つとは思っていなかった。



世界の果て号

あとがき

アルゼンチンは治安が良い国である。気をつけるに越したことはないがブエノスアイレスは東京と同じ位安全な街、夜おそくなっても深夜まで明るい若い女性も歩いている。

黒人が全くと云ってよい位見かけない。スベ

イン系、イタリア系の白人が主で日本人を含めた東洋系も少ない。

われ等日本人に対しては友好的、親切、学会でとつてくれた無名の小さなホテルのフロント、学会の受付嬢もお互に下手な英語を使っている。説明してくれる。但し街では英語は全く通じない。

食事は安くてうまい（食べられる）何故かというと余り香辛料を使わない。従って醤油さえ持って行けば大丈夫、なお小羊の炭火焼（アサード）は鉈のような包丁で叩き切ってくれる骨付肉であるが味は抜群である。日本でもチリ、アルゼンチンのワインが安くてうまいと評判であるが現地でのステーク（女の子の靴底のような）とティントと呼ばれる赤ワインは口あたりもよくおすすめである。但しステークは三分の一で充分である。

通貨、お金はペソとドルが固定相場制、ドルが一ペソ、日本から持って行ったドルをペソに変える必要がない。むしろ日本でドルを買う時一ドル十ドルの細いドルを沢山用意して行けばよい。どこでもドルとペソを混ぜて支払っても受取ってくれる。但し物価は文明国だけあってチリ、ボリビア等と比較すると高いとのこと、それでも日本と較べれば安い。

初めに書いたようにアルゼンチンは最も遠い友好国、何年か経って、もう少し早く行くことが出来ればもう一度行ってみたい国である。今回の旅行記を書くにあたり、予め参考にさせていただいた高橋政祺先生（私の六年先輩、杏林大学名誉教授）の著書「タンゴダンスのアルゼンチン」扶桑社を引用させていただいたことを付加え終りといたします。

俳句と人生

(3月26日夕べの会より)

柴崎 育久(高2)

人生とは出会いであり、めぐり合はせもご縁だと思ふ。古稀も間近になると、今更ながら多くの師や先輩の恩恵を思い起し、しみじみ有難く思う。中でも私の生涯の趣味に影響を与えてくれた恩師がいた。川中時代の佐藤徳四郎先生である。

敗戦の色濃い昭和二十年七月、校庭の武徳殿で防空壕掘りをしている最中に、兵隊服を着て田舎教師然とした「徳さん」が現れた。当時二年生であった我々は上福岡の陸軍火工廠へ勤労動員され、四週に一度一クラスづつ登校(といっても作業が多かったが)していた折のことだった。まさか果鴨学園教諭から都立豊島中学を経て転任して来た「都会派」の国漢の先生だとは、風采からしてお見受け出来なかった。

さて、戦後早々孔孟の教えでもあるまいと高を括っていたところ、のっけから現代中国小説(?)を白文で示されて、これが今後の漢文の授業だといわれたのには、先ず度肝を抜かれた。敗戦で自信を喪失した先生方の中で一人気を吐き、二の矢三の矢を打って来た。当時、日本再生の目標は文化国家だといわれていた。先生は孤軍奮闘で文化革命を始めたのだった。リュックを背負って焼跡の神田神保町へ行かされた。源氏物語「桐壺の巻」の三十冊程の買い出しで、早速源氏の読書会が校内で開かれた。又、これからは本物の英語と知識が大事だと、市内から

神父さんと呼んで来て旧約聖書の読書会が始まった。授業中脱線した映画や写真の講釈から発展して映画班ができ、東宝の砧のスタジオ見学などにも行った。また先生は戦後間もないこの秋武甲山の一泊登山を企画実行した。翌二十一年の夏には北アルプスの表銀座(燕岳から槍ヶ岳)の縦走を計画し、三十名程の団体登山を実施した。往路は大系線有明駅から徒歩で中房温泉へ入り、復路は上高地から徳本峠を経て松本電鉄の島々駅まで、全日程の米を背負ひ、全行程を徒歩で踏破した強行軍であった。まことに思春期の頃の影響は大きいもので、読書、映画、写真と登山は、私のその後の趣味となってしまう。そして本題の俳句である。

大槍のてっぺん霽るる夕立かな 徳四郎

槍沢の雪溶けやらずほととぎす 育久

右二句はその登山吟行句である。二十年秋のある放課後のこと、突然徳さんから小使室へ集合の声がかかった。六、七人集ったところで、これから句会を始めるといのである。

ぶっつけ本番で生徒はあわてたが、疊に正座させられ退路は断られた。後年判ったことだが、徳さんは戦前から吉田冬葉主宰の俳誌「頼祭」の中堅にあり、果鴨学園時代の昭和十五年頃には生徒百名を超える「果鴨頼祭俳句会」を結成指導していた実績があった。四十三才の男盛りの徳さんが、初雁城趾に「川中俳句会」の旗上げをしたのだ。私にとつてはこれが俳句との最初の遭遇であった。我々より一年下の高校三回生は、徳さんが学年担任であったために、国漢の授業に俳句づくりが必須課目の如く強制されたりしい。この学年は、徳さんの後遺症が強く残って、今でも三十名程が三ヶ月に一度は集つ

て句会をやっているようだ。彼等の集まりがベイスにあつて川高百周年の俳句大会開催への運びとなったことは、慶賀にたえない。毎月第一土曜日の午後母校で開催の「川高くすの木句会」発足の起源もここにある。

閑話休題。徳さん率いる川中俳句会が世に出るのには、そんなに時間がかからなかった。俳誌「頼祭」の二十二年八月号を開くと会報として「川越頼祭支部と川越中学校俳句会合同主催大会を五月十八日名利喜多院にて開催、(中略)来会六十八名」とある。川中生徒の出席は二十名足らずであつたらうか?

驚飛んで若葉がくれの五輪塔 誠三

の句が吉田冬葉主宰の特選句に入り、徳さんがしてやったりと満面を崩したことだった。これは当時五年生の現飯能市長小山誠三氏の句だ。誌上から関係者の句を拾うと、

下闇や老の拝みし御草鞋 冬葉

空壕をうづむ常盤木落葉かな 徳四郎

芍薬や厨子の中なる蓮華経 良夫

石段のすれ落つ石のとかけかな 恒夫

僧正も見し若葉かな傘の内 恭一

古寺や鳥さへづりて人もなし 育久

良夫とあるのは早大へ進まれた四十五回生の小島良夫氏で、俳人としてその後頼祭で活躍。恒夫とあるのは現国会議員の矢島恒夫で我々が同期生。在学中は徳さんを授けた幹事役。恭一とあるのは、朝日新聞の記者になった武藤恭一氏(高一回生)ではなからうか? いずれにせよ自分の作品が小さな活字に組まれたことは大きな刺激となった。

さて、私の大学生時代の頃のことである。私の実家(和光市白子)の近くに水原秋桜子主宰

の俳誌「馬酔木」同人の及川貞が住んでいて、母の紹介でこの元海軍提督夫人から俳句の個人指導を受けたことがあった。この地に疎開したまま住みついて、水清き里（自句集に述）白子の自然に海軍士官の一人息子を失った傷心を癒やしておられたその頃の及川貞句……。

泣くわれにどこまで行くや秋の蝶

けふも温しとなじみそめつつ隣りびと

田草取近くし見ればなげかるる

毎月十句程作っては自宅へ参上して指導を受けた。ところが半年も経ってからだろうか「貴方は文芸のセンス無し、生涯俳句などに寄り道をしない方が身の為だ」と引導を渡されてしまった。私の性格の一端をすばりだ。

滝の上に水現れて落ちにけり 後藤夜半

人間の運命とは不思議なもので、二十九年会社（就職してすぐ大阪勤務となったが、その事務所で月一回の職場句会があり、高浜虚子門下の西の雄・後藤夜半が指導に見えていた。新入社員への勧誘もあって句会の末席をけがすことになった。奈良や京都の名所旧蹟巡りがまた楽しく、貞女の忠告を無視して十七文字の世界を楽しみ出した。当時の発刊された俳誌「諷詠」の一、二句欄に掲載されているが、未熟な句で恥しい。貞女の忠告より徳山の後遺症の方が強かったのだろう。

さて関西には二度程勤務した。自宅近くの医師夫妻が俳人で、「春燈俳句会」の同人であったが、これがまた縁で、愚妻ともども句界に身を沈めることになるのである。

てんと虫一兵われの死なざりし 安住敦

久保田万太郎が戦後直ちに興した俳誌「春燈」の後継者安住敦が、芦屋で開かれる春燈阪神句

会に来駕され指導に当られた。愚妻共々春燈誌へ投句を始めたのは四十五年の冬からである。六十一年俳人協会会員へ推され、三代目主宰の成瀬桜桃子になってから平成六年に春燈賞を受賞、八年に春燈同人となった。

余生をのんびり句作りを楽しめるということは、川中時代の佐藤徳四郎先生の感化の賜物と有難く、肝に銘じて居る次第である。それにしても、数々の俳師や句仲間のご縁にあらためて感謝申し上げたい。（高二回生・俳号甲武信）

会員近況（順不同・敬称略）

佐々木忠一（中32）

去る五月の母校の同窓会総会の講演をされた椎橋さん（毎日新聞論説委員）が毎日初雁会について語られましたので、夕べの会にお誘い合せてのご来会を歓迎しますと夕べの会の第一回例会のご案内をさしあげました。盛会を期待しております。

椎橋 勝信（高15）

前略 6月30日の11年度第一回「在京初雁会夕べの会」に出席させていただきました。ご案内は頂戴してありませんが、佐々木忠一先生からご連絡いただきました。初出席です。よろしくお願い致します。

▽高15回卒、S43年毎日新聞社入社、政治部を経て現在論説委員、S19年川越生まれ、狭山育ち54歳

▽毎日新聞の先輩でもあられる、37回卒の松本博一氏が本社に來られた折に当方の部屋をお訪ね

いただきました。モスクワ特派員時代の話をうかがいました。

岡部 延夫（高2）

五月下旬に、同期会で川越高校へ行って来ました。新装の図書館、講堂の立派さにびっくり。くすの木は健在です。時の鐘や土蔵造りのお店は昔のままですが、本川越の駅から学校までの通学路はかなり変貌していました。

駒井 正明（高4）

本年度も富士汽船（株）常勤監査役を続ける事になりました。

橋本日出松（高2）

残念ながら体調不安定で不本意な日々を送っています。気分ばらしに先日、木曾路を訪れました。先祖が一八四五年に通った記録が残っています。

荻野 文夫（中36）

お連絡いただき深謝しあげます。去る五月十九日夜七時から日本テレビで、川越中学三十六回卒業、もと日本航空パイロット故木本栄司君について放送がありました。同君は、戦後日航のほとんどの国際線、一番機の機長を務めたばかりでなく、昭和天皇、皇太子（現天皇）の米國御訪問の機長を、見事に務められました。木本君がなくなつて、十年……今、その努力の生涯に、感動を新たに、同君との思い出に涙しました。

田中 隆（中45）

六月五日母校の歌碑除幕式に出席いたしました。写真を取教撮つてきましたので、当日ご報告致します。

日出間哲郎（高2）

退職してはや八ヶ月。旅から旅の生活の中で

色々な人達と交流を深めつつあります。趣味悠々とはいかぬが毎日多忙の日々を送っております。頭をからっぽにして元氣になんとか……会員の皆様健康を祈りつつ、岡田事務局長ありがとう。

川合 善明 (高21)

景氣を反映して倒産がらみの事件が多く、結構忙しい毎日です。早川さんのマジックを楽しみに出席させていただきます。

増島 隆二 (中35)

事が起った時の用意にとの娘二人のすすめで夫婦で代々木公園前の住居で生活する事が多くなり時折ブルーベリーの世話などで三鷹の家に参ります。年令のせい色々ありますが目下無事です。

柴崎 育久 (高2)

流行のガーデニングのものまねで西洋百合など咲かせています。土いじり程度で疲れるのはいよいよ諦めでしょうか。

矢部敬一郎 (高2)

平成十一年五月で辞任退職。念願かなって自由な身になりました。早速ヨーロッパ旅行(十二日間)に行き自由人の楽しさを味わっています。これからは、土に親しむこと、パソコンで楽しみ、周囲の方々にもお役にたつようにしたいと思っています。

山本 道 (中32)

残念ですが都合により欠席致します。お陰様で目下の所、体調は良好、水墨画の作成に追われています。

菅沼 伸之 (高2)

最近はずちついております。盛会をお祈りいた

します。

高橋平太郎 (中40)

古希を越えて割合に元氣なのも川中時代毎朝駅まで3kmを走ったお蔭かと思つて居りましたが、やっぱり腰痛になつてしまい、このところ不自由しています。一〇〇周年同窓会名簿作成案が採用されなかったのもガッカリの一言と思つています。一〇〇周年までには元氣になりたいと思つております。ご盛會を祈ります。

松下 雄一 (中29)

体力の衰えを感じながらも、何とか消光しております。会にもしばらくご無沙汰ですが、母校創立百周年同窓会祝賀会には出席したいものと念じております。

間々田重信 (中39)

毎度、お案内を頂戴し乍ら欠席ばかりで申し訳ありません。中学から商船学校へ進学、卒業して、三井船舶(現商船三井)に入社、世界一周、南米、オーストラリア、東南アジア航路に乗船、キャプテンを務めたあと君津製鐵所製品の輸送業務を65才迄勤務し現在地居住。

砂田 太三 (中22)

特に親交のあった矢部義一君は既に亡く、商船学校時代の級友達も殆どが居なくなり、一人取り残された様な状況にて誠に淋しい限りです。最近夜間外出も控えて居りますので残念乍ら「夕べの会」も欠席させて頂きます。

細島 博文 (中35)

何時も御案内状を頂き有難うございます。最近体力の減退を感じるようになりましたが、未だ非常勤ではありますが四社に関係しており、住居

が鎌倉ですので諸々の会合に出席する事が大変困難になりました。御盛會を御祈り致します。

西田 守 (高7)

第十四回「岩魚骨酒の会」を六月十二・十三日に終らせ「日本海から太平洋へ」の準備に入ります。今回は霧ヶ峰より松原湖まで歩きます。秋にはいよいよ埼玉県入です。毎回30名前後の人達が参加。楽しい会です。ご希望の方はご連絡下さい。

阿部 親興 (中38)

ご案内有難うございました。残念ながら体調に自信が持てませんので欠席とさせて頂きます。ご盛會をお祈り致します。

安齋 恒男 (中24)

高齢となり足腰の弱りから歩行難で困っています。健康を保つため一日一五〇歩程度近くの公園内を歩いています。残念ですが欠席、ご盛會を祈ります。

平野 寿作 (中40)

至つて元氣です。毎日暮を打ったりカラオケを楽しんだり、旅行にいったり、けっこう退屈せず余生を楽しんでいます。夜に弱いので欠席させていただきます。

石川 正樹 (高25)

今年は川高一〇〇周年ということで霞ヶ関CCで記念のゴルフコンペがあるそうで、楽しみにしています。

土屋 實雄 (高7)

いつも欠席で申し訳ありません。新宿の小さな広告代理店に勤めて、なにかと氣忙しくやっております。もともと、忙しいのは「口」と「氣」ばかりで、体の方は、あまり動いていませんが。

平岡 寿夫 (中42)

盛会を祈ります。残念乍ら欠席致します。

岩泉 惟人 (中35)

何時も大変お世話に預り有難うございます。

山崎 豊弘 (中35)

「夕べの会」の御案内、有難う御座います。お陰様で元気に過しております。今回は生憎く海外旅行と重なり残念ながら欠席します。御盛会を祈ります。皆様宜しく。(年会費、追って送金します)

岡村 了一 (中43)

先約会合のため。

橋本 国治 (中26)

体調不良(心筋梗塞)のため医師より遠方外出をとめられてテレビばかり見てすごしています。

西村 通洋 (高2)

先日同期会の母校訪問は大盛会で何よりでした。幹事さんご苦勞様でした。いつもご高配を賜わり感謝しております。母校がすっかり立派になつてビックリしました。ところで今回の初雁会は所用あり残念ながら欠席します。悪しからずご了承下さい。皆様よろしく。

岡村 和夫 (中45)

当日京都へ行っていきますので失礼します。三月末でNHK解説委員をやめ、今は政治評論家です。時々、NHKの解説番組に出演したり、講演であちこち歩いています。

船津鴻之助 (中24)

九十一才になりました。NHKテレビで度々川越の街が出ますので楽しみにしております。船津

家の跡とりが市の博物館長をしていますので、父船津雨塘の作品も処を得て喜んでいます。

長島 恒雄 (高3)

「晴外雨内」を目標に、年金生活者、監査役、評論家の三足の草鞋を履いているのですが、なかなか不善をなす閑がありません。生憎所用あり出席できません。

高島 敬忠 (高10)

先約があり失礼いたします。諸先輩によりしくお伝え下さい。

笹崎 能輝 (高18)

当日は都合がつきそうにありません。皆様によりしくお伝え下さい。今年9月と来年2月に、ドイツで開かれるハム・ソーセージと食品の国際コンテストに、アジア代表の審査員として招かれることになりました。

吉田 穂美 (高2)

竹早学園後援会総会の為。

内田 紀成 (高2)

三年前夕べの会で荻野文夫氏のイソップ童話のお話を伺い、それを参考にして武蔵野ペン九七号に「脚色したラークンパルシート物語」という題で投稿しました。

松井 顕敏 (高4)

「還暦」記念に始めた「バカ囃子」の太鼓たたきを週一回練習しています。案譜らしいものもなく、ひたすら暗記とカラダの感に頼っています。大黒様の面で舞っていたらおヒネりを頂きました。妙な気がしました。

菅間 昭 (高6)

申し訳ありませんが、欠席させていただきます。平成10年4月から外務省と関係の深いフォーリン・プレスセンターという組織で外国の若いジャーナリストを招いて日本を正しく理解してもらう仕事に携わっています。

西 信之 (高17)

いつもお世話になります。

松本 博一 (中37)

ご案内有り難うございました。先約の会合があり欠席させていただきます。このところ国分寺市光公民館の連続講演会(外国を知る講座Ⅱ未来に挑戦するEU)に講師として出ています。

堀口 武夫 (中36)

年相応に生きて夕べの会を見送る。
自然の動きにあわせて生きる
螢見えた那須に面影なし。

最近各地に初雁会が発足し、現在16の初雁会がそれぞれの地域で活動をしています。

在京初雁会

志木初雁会

飯能初雁会

和光初雁会

嵐山初雁会

鶴ヶ島初雁会

新座初雁会

東松山初雁会

日高初雁会

川島・桶川初雁会

入間初雁会

坂戸初雁会

近畿初雁会

朝霞初雁会

坂戸初雁会

所沢初雁会

川越高校創立百周年

明治32年に埼玉県第三中学校として川越城址に設立され、平成11年に創立百周年をむかえる。約2万9千名の有為な人材が本校で学び果だつてきました。百周年の主な行事は次の通りです。

記念式典・祝賀会

10月23日(土)

新体育館アリーナ

同窓会祝賀会

11月13日(土)

新体育館アリーナ

記念音楽祭

9月18日(土)

川越市民会館ホール

記念美術・書道展

10月5～11日

ペペホール・アトラス

記念講演会

10月14日(木)

新体育館アリーナ

記念親善ゴルフ大会

10月25日(月)

霞ヶ関カンツリー倶楽部記

10月30日(土)

本校図書館セミナー室

記念図書館(旧図書館の一・四倍)

コンピュータシステムを備えたセミナールーム(同窓会室)、同窓会事務局等が併設されている。

校歌碑 『未来の手』と題されています。

母校正門

「高き譽を初雁の城址の月と輝かせ」から城址の月と城壁づみをイメージした門柱。

記念誌「くすの木」の刊行

B5判・文章七百頁、写真四八頁箱入り

頒価 一万円(送料込み)

同窓会会員名簿(18号) 頒価 四千五百円

学校新聞縮刷版

昭和25年の創刊号から現在に至るまでの「川越高校新聞」の縮刷版です。頒価 三千五百円

記念品の作成

校歌・応援歌のCD、テレホンカード、Tシャツ等。

国際交流の推進

姉妹校はオーストラリア・クイーンズランド州にある St. Augustine's Collegeに決定。

●お申し込み・お問合わせは

百周年記念事業実行委員会事務局 伊藤 豊 宛

TEL 0492(22) 0224

校歌碑の除幕式に出席して

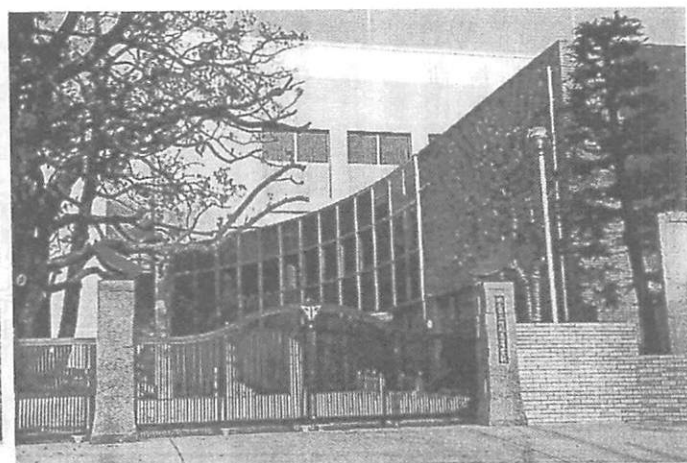
会長 田中 隆

六月五日、母校正門を入った右側に建立された校歌碑の除幕式に代表で出席した。除幕式は百周年記念事業の最初の行事でありコーラス部の生徒が参加され校歌斉唱のうち除幕が行なわれた。なお歌碑の設計・設置は環境美術家である関根伸夫氏(高校十三回)が、歌詞のは揮毫は吉沢義和氏(高校八回)によるもので除幕式にあたりお二人の挨拶があった。

なお新しく出来上った校門の設計も関根氏によるもので、門柱に刻まれた校名は土屋義彦埼玉県知事が書かれたものです。



校歌碑除幕式



新正門

在京初雁会平成11年度事業計画

1 事業概要

- イ 「会員相互の親睦をはかり、活動を通じて母校の発展に寄与する」という目的を達成するため、引続き月例会、夕べの会を中心により多くの会員の参加を得られるように努力する。
- ロ 会員の高齢化と各地に初雁会が出来、在京という名では通用しなくなり本校百周年を機に東京在住の会員増強に努力すると共に役員の若返りを検討する。

2 行事

- イ 鐘つき堂 年2回発行（7月・1月）
- ロ 月例会 4回
- ハ 夕べの会 3回
- ニ その他 2回（母校の同窓会、百周年祝賀会など）

3 月別計画

- 11年4月 8日（水）総会・月例会（ピルゼン）
- 5月 9日（日）母校同窓会（川越高校）
- 6月30日（水）夕べの会（東方会館）
- 9月28日（木）夕べの会（東方会館）
- 10月 8日（金）月例会（ピルゼン）
- 11月13日（土）創立百周年同窓会祝賀会
- 12月 8日（水）月例会（ピルゼン）
- 12年1月 8日（土）月例会（ピルゼン）
- 3月23日（木）夕べの会（東方会館）

11年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

次回の月例会は10月8日（金）12時より 是非お出掛け下さい
たまには銀座で卓一杯！ 銀座・ピルゼン（交詢社ビル1F）

在京初雁会平成10年度事業報告

1 会員の動向

- イ 会費納入者 56名（中学22名、高校34名）
- ロ 物故会員 落合 義作（中28）
- ハ 新入会員 佐々木 新（高2）高瀬 進一（高34）

2 行事

- ◆ 鐘つき堂 第65号（平成10年7月）
第66号（平成11年1月）
- ◆ 月例会 5回
- ◆ タベの会 3回
- ◆ その他 2回（本校同窓会、秋季散策会）

*月別行事

- 4月 8日（水）総会・月例会（ピルゼン）4名参加
- 5月10日（日）母校同窓会（川越高校）12名参加
- 6月23日（火）タベの会（東方会館）19名参加
『ミャンマー旅行記』
西田 守（高7）
- 7月 8日（火）月例会（ピルゼン）3名参加
- 9月 8日（金）月例会（ピルゼン）3名参加・
- 10月19日（日）秋季散策会（川越博物館・川島遠山記念館）
16名参加
- 12月 1日（水）タベの会（東方会館）22名参加
『アルゼンチンの旅』田中 隆（中45）
『今後の日本の景気について』日下英元（高16）
- 12月 8日（月）月例会（ピルゼン）4名参加
- 1月 8日（水）月例会（ピルゼン）4名参加
- 3月26日（金）タベの会（東方会館）22名参加
『俳句と人生』柴崎 育久（高2）

平成11年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

在京初雁会平成 1 1 年度予算

(平成 1 0 年 4 月 1 日～平成 1 1 年 3 月 3 1 日)

項 目	実 績			1 1 年度予算案
	8 年度	9 年度	10 年度	
収入の部				
繰越金	113,240	99,679	34,450	1 8, 3 6 5
年会費	180,000	170,000	140,000	1 4 0, 0 0 0
預金利子	2,841	947	522	5 0 0
雑収入	20,000	5,000	10,000	5, 0 0 0
計	316,081	275,626	184,972	1 6 3, 8 6 5
支出の部				
会報・印刷	136,000	139,000	75,000	7 5, 0 0 0
新企画	30,000	0	0	0
夕べの会	△13,070	29,400	24,667	1 5, 0 0 0
月例会	△ 5,062	△ 6,474	△ 3,825	0
慶弔費	10,000	25,000	15,000	1 0, 0 0 0
通信費	41,980	38,500	33,970	3 5, 0 0 0
事務費	3,560	1,813	0	2, 0 0 0
振替手数料	4,020	3,990	2,520	2, 5 2 0
雑費	8,974	9,947	9,275	1 0, 0 0 0
その他	0	0	10,000	0
計	216,402	241,176	166,607	1 4 9, 5 2 0
残高(繰越)	99,679	34,450	18,365	1 4, 3 4 5

2. 特別会計(基金)

普通預金 21万円

平成 1 1 年 4 月 8 日

財務担当 岡田 良平

在京初雁会平成11年度事業計画

1 事業概要

- イ 「会員相互の親睦をはかり、活動を通じて母校の発展に寄与する」という目的を達成するため、引続き月例会、夕べの会を中心により多くの会員の参加を得られるように努力する。
- ロ 会員の高齢化と各地に初雁会が出来、在京という名では通用しなくなり本校百周年を機に東京在住の会員増強に努力すると共に役員の若返りを検討する。

2 行事

- イ 鐘つき堂 年2回発行（7月・1月）
- ロ 月例会 4回
- ハ 夕べの会 3回
- ニ その他 2回（母校の同窓会、百周年祝賀会など）

3 月別計画

- 11年4月 8日（水）総会・月例会（ピルゼン）
- 5月 9日（日）母校同窓会（川越高校）
- 6月30日（水）夕べの会（東方会館）
- 9月28日（木）夕べの会（東方会館）
- 10月 8日（金）月例会（ピルゼン）
- 11月13日（土）創立百周年同窓会祝賀会
- 12月 8日（水）月例会（ピルゼン）
- 12年1月 8日（土）月例会（ピルゼン）
- 3月23日（木）夕べの会（東方会館）

11年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

次回の月例会は10月8日（金）12時より 是非お出掛け下さい
たまには銀座で乾杯！ 銀座・ピルゼン（交詢社ビル1F）

龍

謹賀新年

新春を迎えまして
皆様の健康と多幸を
お祈り申し上げます

平成十二庚辰元旦

左京初雁



在京初雁会（創立昭和28年）
会長 田中 隆

2000年（平成12年）
新春号 第68号

一月例会

交詢社ビル1F
ピルゼン ☎3571-2236

一タベの会

学士会館 ☎3292-5931
東方会館 ☎3987-0211
（池袋駅西口・芸術劇場向い）

在京初雁会

企画・総務
矢部敬一郎
〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

広報・事務局
岡田 良平
〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1815
会社 ☎03-3977-1811

目次

会長挨拶	1
われ癌の告知を受く	田中 隆 2
祭り囃子の魅力	松井 顕敏 4
各地初雁会誕生に思うこと	矢部敬一郎 6

ピルゼンの会

1月11日（火）12時より 会費2千円
次回のタベの会は

3月23日（木）午後6時（予定）
池袋駅西口 東方会館

新年のご挨拶にかえて

会長 田中 隆

あけましておめでとうございます。

昨年の干支は己卯であり新年のご挨拶で「足等地につけて脱兔の如く飛躍する年」であると申しました。我が母校は創立百周年を迎え記念行事も盛会裡に終り、これを機に一段と飛躍した年でもありました。

ただ一つ残念なるかな政界、財界の方は口ばかりで飛躍したとは言えないのが心残りです。

ところで今年は庚辰（かのえたつ）であり庚は五行説の金星の兄、辰は龍ドラゴンであり金龍としておめでたい年である由、龍については龍宮、竜騎兵、龍神などのめめたい語句がありますが唯一つ良くない言葉として龍頭蛇尾なる諺があり、「始めは盛大、終りに衰える」ということで事を始める時「龍頭蛇尾にならぬように」との戒めの言葉として使われておりました。中日は昨年は辰年でもないのに先行逃切りでリーグ優勝はしましたが、日本シリーズでは王ちゃんのホークスに出鼻をつかれて蛇尾に終わってしまいました。そう言えば阪神も寅年に優勝出来なかったようで干支と優勝は関係ないようです。昨年の干支は兎でした。ジャビット人形の巨人は今年こそが優勝のチャンス。長嶋監督の最後を飾ってくれればと思っております。在京初雁会の皆様、とくに巨人ファンの皆様、本年もよろしく。——巨人狂の戯言——

われ癌の告知を受く

田中 隆

3月18日佐藤助教授より電話があり、15日の生検で腺癌細胞が出てしまったとのこと。村山講師が内視鏡を行ってくれ、胃角部小弯に扁平な隆起性病変があり前回（前年12月末）の所見より境界も判つきりしており自分なりに疑いをもっていたところクラスVとのこと。その場で覚悟を決めることになった。

実は、定年前までは毎年行っている健診センターでの定期検診は真面目に受けていたが定年と同時に私学共済保険ではなくなり自費検診ということ以後老人検診と上部消化管の内視鏡を受けることにした。

その理由は、父が75才で残胃癌（47才時胃潰瘍で胃切除を受けている）と診断され、手術所見では胃全摘脾合併切除を行う程の進行癌であり、1年半後77歳の喜寿を祝った後、肝転移で死亡している。従って、DNAが一緒で遺伝するとすれば、胃癌になる危険因子は持っているわけで検診で行っている胃透視造影よりも内視鏡でフォローすることにした。

平成9年年末には、慢性胃炎の所見のみであったが食道にルゴール不染帯が見つかったがこれは炎症所見のみで所謂軽度逆流性食道炎と考え、これもフォローすることとした。

平成10年12月21日、1年後の再検では胃角部に軽い凹凸のある所見があり、この部分の生検を受けた。病理所見では炎症所見と再生上皮の

みられるクラスⅡとの診断であり治療をつづけ2〜3ヶ月後に再検を受けるよう指示された。以上のようなわけで2ヶ月後の3月15日、村山講師に内視鏡を依頼、検査中私も写っている所見を見ながら形態が変わっていることに気づき、5ヶ所の生検を受けその結果を自分なりに心配していた。

以上の経過から、今迄相談に乗っていたいたた佐藤助教授、村山講師と相談、病変が平坦隆起型早期癌である事から内視鏡粘膜切除も適応の一つではあるが、胃角小弯であることから上部への浸潤も考えなくてはということになり、急遽5日後の3月20日、病変の上方を精検、その結果幽門側胃切除を受けることを納得、自分なりにその術式を選択した。

癌外科医は、昔から自分の専門領域の癌になると言われているが、そのことが本当なら食道が胃の癌ということとむしろ食道癌でなくて良かったという事になる。私なりに考えてみると食道癌、胃癌の手術は数百、いや千を越える症例の執刀または指導をしており、指導した第一、第二の弟子である佐藤、村山両君ならば、縮小手術も考慮した根治手術を行ってくれと思うている。

3月末から4月にかけては東京都医師会、（代議員会、理事交代）医学部行事（卒業式、入学式等）、同窓会（評議員会・総会）を控えており、その合間をぬって手術をお願いすることになり、術前準備としての食道胃透視は大塚（善）助手に注腸透視については、奇しくも私の古希の誕生日（4月3日）、田中Jrがアルバ



奥様に送られ巨人の闘魂の鉢巻をしめて手術室へ

イトを交代して行ってくれた。考えてみると、私が消火器外科医を選択した事の始まりは予科3年の時、父親の胃潰瘍手術を千葉大学第一外科綿貫助教授（後に教授）が臨床講義を行うことになり私も出席することになり手術を見学した。このことがあって、将来外科医になることを決心、また、父の残胃癌の手術には坂部教授と私（当時、助教授）とで行った事、しかも親不孝なことに切除胃の術後検診をおこたり、その結果発見した時は、脾浸潤まで進行した胃癌であり、こんな事もあって定年後に上部消化管の内視鏡を受けることにしたわけである。以上のことからむしろ早く見付けた事になり幸運と考えている。最後に手術後は皆に迷惑をかけないよう模範的な患者になろうと考えている。手術には田中Jrも鈎引で参加していただければインホームドコンセントも不要である。

平成11年4月12日 手術前日これを記す。

以上が癌の告知を受け手術を受けるまでの私の記録である。以下追記として癌治療の現況についてお話しする。

手術は4月13日術者佐藤助教授、第一助手村山講師、第二助手私の息子田中Jrで行ってくれた特別の配慮で術中ビデオ撮影までしてくれてあとで見せていただいた。

自分の母校で癌手術を受けることになったので入院当初から医学部関係、教室関係、東京都医師会関係の知ることになり、有難いことに毎日のようにお見舞いをいただいた。このような事は予想された事であり、従って在京初雁会、学会関係の皆さんや息子以外の親戚にも入院を知らせず事を運んでいた。たまたま岡田良平氏が毎月私の診療を受けており休診しているのので院長秘書のM嬢に聞いたようであとで本会の方々にお知らせすることになってしまい講演までお引受けした次第です。

癌の診断・治療は日進月歩であり現在縮小手術、開腹、開胸しない内視鏡手術へと変ってきた。また早期癌であれば適切な治療を行えば殆ど再発もなく治癒する病気である。

現在リンパ腺の転移の有無を術中に判るような装置が開発され臨床への応用が始まっており、また内視鏡下に癌組織をえぐり取る器械まで開発されており我々の教室でも乳癌の内視鏡手術に應用するところでありまだまだ進歩するはずである。

なお現在遺伝子の研究も盛んに行われているが将来は癌の解明と共に診断、治療だけでなく免学的進歩があれば癌も消滅すると思う。

息子田中和彦助手の手記抜粋

手術をされた日から1ヶ月が経過した。臨床的にはごくありふれた早期癌の1症例にすぎない。しかしこれは偶然ではなく、本人が自身の家族歴、年齢等から予想されるリスクに対する対策を立て、そこで得られた情報を基に適切な行動をしたことによって早期癌での発見が可能となり、それが望みうる最大限の良い結果をもたらしたということなのだろう。

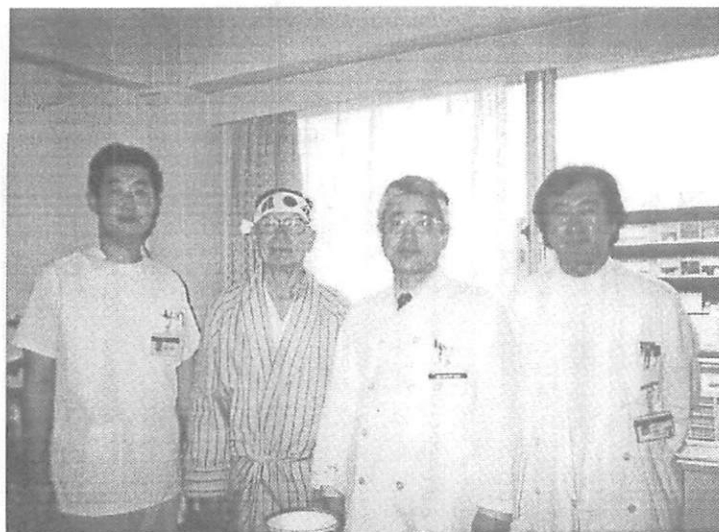
この1ヶ月間、精神的な点ではどうだったかといわれると、それなりの知識もある私ですら思いの外こたえたというのが正直な感想である。ましてや本人、いやそれ以上に日常の診療において進行癌の治療を受けられている患者さんやその家族にとつては口では言い表せないほどのストレスがあるのだろう。このことは理屈では知っていても体験してみないと絶対に分からないことなのかもしれない。だが術前のたばこに関してはやはり私も一言言うべきであった。十分に理解されていることでも必ず実行されるとは限らないからである。

今回のことで我が身を振り返ってみると、遺伝的素因で見る限り私のリスクは父より高いようである。父方の祖父を残胃癌、Hodgkin's lymphomaで、母方の祖父を食道癌で亡くしており、こんどは父が胃癌である。今年で私も40才、そろそろ危ない年頃になってきているので父に習い、早期発見のための努力は怠らないようにしようと思う。灯台元暗し、医者の不養生と言われぬように…

闘魂（恩師と共に）

執刀医 佐藤助教授の手記抜粋

4月13日8時に6Fの病室に顔を出すと、これから手術を受けようとする田中教授は白地に黒字で闘魂と書かれたはちまきをしていた。何に向かっても前向きで、難問に真摯な態度で対処し、努力しようとする熱意とちよつとユーモアを持った教授の心を垣間見た様な気がする。同9時23分より手術を開始した。皮下脂肪は思



退院前日 主治医と執刀医佐藤助教授と

ったほどでもないが、体内脂肪は多かった。しかし体内脂肪が多い症例でも、手術してわかることだが、非常にもろく剥離するとすぐ出血し血腫を作ってしまう人と、脂肪は多いが比較的しっかりと脂肪組織をもっている人がいる。田中教授は後者であった。胃を検索したが触診では、はつきりとした腫瘤は触知できなかった。大網から遊離を開始し、型のごとく右胃大網動脈、右胃動脈系を処理して左胃動脈を根部で結紮切離した。村山君がいつになく丁寧な手術操作をしてきているのがわかった。手術を記録するために、術中のビデオを撮影したが、後で教授が見て、「ちつとも進歩してないなあー、おまえは！」と言われそうで不安であった。あまり腫脹が目立ったリンパ節は見られなかった。手術中、加藤克彦先生、山形基夫君など、みな心配して見にきてくれた。右胃動脈はやや太かったが、左胃動脈は意外に細かった。幽門側約4分の3を切除すべく、大彎に鉗子をかけILS100で切離した。切除標本を佐藤史井君に開いてもらい、すぐにそのまま病理にもつていき、根本教授に断端をゲフリールで見てもらうよう指示した。標本を肉眼でみても癌の範囲は判然としなかった。10分程まったであろうか、断端はマイナスの結果をもらった。再建はビルロートI法で吻合し、手術が終了したのは12時35分、手術時間3時間12分、出血量は395+22（吸引）mlだった。闘魂と書かれたはちまきを頭に巻いた、まだ麻酔から醒めず手術台に寝ている教授に、「先生、無事終わりましたよ」と、こころでつぶやいた。

祭り囃子の魅力

松井顕敏（高4）

川越祭りでおなじみの山車。あの狭い舞台上で最低6人（うち1人は踊り手）によって演じられる囃子。またの名をバカ囃子。山車どうしが鉢合わせしたときの「ひっかわせ」の賑やかさ。見物人を虜にする力強さ。その反対に、秋の日の収穫のすんだたんぼの上をとぎれとぎれに聞こえてくる笛の音と、軽いタッチの小太鼓の音。旧入間郡奥富村に生まれ育った私にとっては、お囃子の音は郷愁そのものといえる。その郷愁のなかに戻ってみようかと考えたのが、私が還暦を迎えた平成5年のこと。それまでは、仕事に興味とか、趣味のない世代などと無趣味の言い訳をしてきた。とは言っても多芸のひとをみると羨ましく思った。新聞記者から大学教師に転進した前歴を考えると、趣味は「読書に音楽鑑賞」とでも答えていけば無難なのかも知れない。しかしどうも納得がいかない。

平成5年初頭、私は意を決して、埼玉県狭山市民俗芸能祭囃子連合会西方囃子保存会に入会した。会員数15、会員の職業は主として会社員。小学生一人と若い女性一人を除くと平均年齢は50歳を超す。毎週土曜日の晩、約2時間、部落の集会所に集まって練習。

私は「太鼓3年笛8年」といわれる小太鼓の手ほどきを20年選手から受けることになった。

囃子のメンバーの構成は、笛、大太鼓、小太



鼓(2)、鉦(かね)それに踊り手が最小で、笛が指揮者の役割。小太鼓は上撥(うわばち)と下撥とに別れ、いわば二重奏。後者が基本を打つ。簡単な木製の枠(台)の上におさまった小太鼓の後ろに敷かれた座布団の上に座る。笛の合図で打込(ぼっこみ)と呼ばれるイントロで始まり、櫓がえしと呼ばれるエンディングまで約十数分間、屋台、仁羽(にんば)、シャ切り、昇天・鎌倉、四丁目、岡崎落とし、など聞き慣れない名前の曲が23。

練習は先ず練習場の畳敷きの部屋の中央に置かれた自転車(の古タイヤを囲んで、先輩の隣りに正座して、撥でタイヤを叩くことから始まる。祭り囃子の定義とか、太鼓の皮の材料とかいう学校の授業みたいなものは一切無しで、只ひたすら先輩の真似をして、「テテスク テンスク スッテンテン」という意味不明の文句を口

ずさむ。

始めてから気が付いたのは、この意味不明の文句が「歌詞」に相当し、艶歌の歌詞のような意味は無い。太平洋戦争前、集会所で遊んでいると、近所のオジサンたちの囃子の練習を見ると、事があった。今でも思い出すのは、このオジサンたちが口ずさんでいた歌詞のこと。ちよっと卑猥な「チャンチキ婿さんキ・・・でっかい、隣の婿さんなおでっかい・・・」というものだった。こんな風にでもしなければ「呪文」はなかなか覚えられない。

私は、その昔、英語の単語を覚えた時のように、メモ用紙に書き付けた文句を、歩きながら暗記した。自宅のトイレの壁にさげたカレンダーの余白にこれを書き込んだ。現在でも気が付くと歩きながらこれを頭の中で繰り返している。

保存会に入会して二か月目の4月、地域の戦没者慰霊祭が私の舞台デビュー。桜の花の下に舞台を張って、太鼓を叩いて参詣の遺族を迎え、そして送る。舞台の下を通っている人達の顔を見る余裕が全く無かった。太鼓を間違えなく叩く事に夢中だった。大切な撥の強弱や速度などには考えも及ばない。舞台から人が「見える」ようになったのは三年近くも経っていたろうか。同時に自分や相棒の間違ひにも気が付くようになった。

保存会は市内のいろいろな行事に参加する。気温が氷点下になる大晦日の深夜、初詣でのお客様を村の鎮守さまに迎える一年の初行事、6月の東京奥多摩の御岳神社での奉納太鼓、8月の

入間川の七夕祭り、地区の夏祭り、秋の農業祭などがそれ。

御岳神社での私の出番は大黒さまの面をつけての簡単な踊り。大黒さまの仕事は普通、みかん、餅、お茶の包みを参詣人にまくことが多い。御岳神社では逆に大黒さまの私がおひねりを頂いた。意外な体験だった。

大黒さまも呆れることもあった。御岳神社でのお茶の袋を参詣人に手渡ししていて、ふと気が付くと、中年の女性が何回と無く手を出して、お茶の袋を数個ためていた。寛大な大黒さまも複雑な気持ちになった。大黒さまの私が神様の気分にはさせられた事もある。高齢者の施設を慰問したときのこと。大広間で笛・太鼓にあわせて打ち出の小槌をふり、踊りながら観覧者のなかへ入っていくと握手を求められることが多いが、その日は一人の女性が大黒さまの私に両手を合わせて拝んでいた。

狭山市内の七つある保存会の共通の悩みは後継者があまりいないこと。私たちの「神田囃子徳丸流」も例外ではない。明治三年には山車まで建造した最盛期、戦時中の中断、昭和51年の復活、と続いてはいるがこれから先のことは「神様」の私にもわからない。

秩父夜祭りなどの勇壮さはないが、西方囃子は神田の座敷囃子と称されたように「静かで難しく上品な」囃子で、これをいつまでも保存しておきたいと考えて毎土曜日に撥を打ち続けている。

(終わり)

各地初雁会誕生に思うこと

矢部敬一郎（高2）

平成11年11月13日に開催された母校百周年同窓会祝賀会に参加して、会場にあふれた同窓生と共に喜びを分かちあえた感慨は、いつまでも忘れることは出来ません。改めてこの日のためにご尽力された方々に感謝申し上げます。

百周年を記念して各地に初雁会が誕生し、17年になったという。当会が昭和28年創立されて以来47年に亘り、活発な活動を通じて同窓生の交流の場として果たした役割は高く評価されている。新設初雁会にとつては先輩初雁会として事業運営面でも激励の言葉を申し上げたい。

偶々私は母校への通学路（自転車通学）に当たった桶川―川越を毎日通った友人達で「川島・桶川初雁会」を平成9年11月に設立し、設立時27名、現在は70名の会員で当会の事業を見習って事業活動が続けている。新設の各初雁会が同じレベルでの活動をしているとは言えない。

このような経緯でみると、小規模の区域での初雁会とは違って、当会の課題を見ると、会員の増加が難しい、行事への参加にも問題がある。

即ち定款では卒業生であれば誰でもよく会員の範囲が広い。沢山の卒業生がいるにもかかわらず新規参加が得られない。ピルゼンの例会についてみれば発足時は現役の方々が論議に花を咲かせた時代から、激しい競争の中で現役の人

は昼間の例会に出られる余裕がない。従って参加者は高齢者に絞られているのが現状である。例会の位置付けは変質していることを念頭に置いて対処する必要がある。

最後にお願したいことは是非近隣、或いは職場の後輩の中で新規参加者を紹介していただきたい。従来でも多くはこういう形で参加していただいた。

新規参加者が増えることによって交流の場も拡がり、当会の活力、魅力増にも直結する。加えて幹事の若返りに道を拓くことにもなるので、是非ともご支援を賜りたいと思う。



▶ 昨年12月8日のピルゼンの会

創立百周年同窓会祝賀会が昨年11月13日に千余名の同窓生を集め、新装なった体育館アリ

1ナで盛大に行なわれました。

百周年記念曲の演奏のあと会長、来賓の挨拶と続き岡村元同

窓会長の記念講演で式典が終り、中庭・食堂・剣道場と三か

所に分かれて佐々木忠一大先輩の乾杯の音頭で賑やかに懇親会

が開催されました。我が在京初雁会からも各期にわたり20数名

の参加がありました。



川越高校100周年

編集後記

Y2K問題ものともせず、今年も大晦日の夜から恒例になっている徹夜での伊勢参りに行ってきました。例年より参拝者が1、2割少ないようでしたが帰りの新幹線の車窓から右手に初日の出、左手にくっきりと霊峰富士山を眺めながら2千年の正月を迎えました。皆様もそれぞれに良い新年を迎えた事と存じます。

68号の表紙の「鐘撞き堂」と6頁のカットは昭和48年4月刊号の内田静馬画伯作のものを使用させていただきました。おたかぼつぼは1月17日の火祭りである米沢の笹野観音の民芸品です。2年前凍るような寒さの中火渡りの行に参加したことがあります。今年も宜しく願います。

（岡田）





これからの在京初雁会

毎年五月の母の日には母校に於て同窓会総会が行なわれます。今年は五月十四日、新装なった記念図書館会議室（同窓会館）で開催されました。その折配布された同窓会報および資料によりますと初雁会は在京・近畿のほかにも県下各地に結成され現在十七部会となりいずれも初雁会なる名称

をつけられ、初雁会即ち支部同窓会であると定着されたようです。このような状況下では当然本会のあり方も再考する時期にきているのではないかと思います。その一つがピルゼンに於ける例会についてであります。皆さんの率直なご意見お寄せ下さい。

会長 田中 隆

在京初雁会（創立昭和28年）
会長 田中 隆

2000年 夏号 （平成12年）
第69号

一月例会

交詢社ビル1F

ピルゼン ☎3571-2236

一タベの会

学士会館 ☎3292-5931

東方会館 ☎3987-0211

（池袋駅西口・芸術劇場向い）

在京初雁会

企画・総務
矢部敬一郎

〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

広報・事務局
岡田 良平

〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1815

会社 ☎03-3977-1811

目次

会長挨拶 1

オイ、世の中はどうなっている 椎橋 勝信 2

大学・短大冬景色 松井 顕敏 4

会員消息 6

トルコに旅して 矢部敬一郎 7

同窓会

秋の散策会

10月22日（日）午前10時
西武球場前駅・6000円

狭山湖・多摩湖周辺

オイ世の中はどうなっている

椎橋勝信（高15）

警察や自衛隊の一連の不祥事で、気になるのは「事件」の処理にあたって、幹部が組織ぐるみで隠そうとした体質だ。

記者会見で警察や自衛隊の幹部が頭を下げる姿をテレビで何度見たことか。「県民のための警察」「国民を守る自衛隊」どころか、公僕が納税者をだまして、保身を、それも組織を守るというより幹部の保身を図ろうとした。

最も気になるのは、隠し通せると思っていたことだ。バレなければおそらく幹部たちは出世していただろう。バレたがために、出世どころか退職金までフイにしたケースもある。

いつの時代でも似たようなことはあった。しかし、こう連続すると、悪しき「文化」が官の世界に根づいてしまったと思わざるを得ない。それも国家に対する信頼を失わせる文化だ。

神奈川県警幹部は、一線の警官の不祥事が発覚してもなお記者会見でウソをつこうとした。記者から質問詰めにあつて立往生した場面をテレビで見た。マスコミさえ抑えれば、世間にウソをつき通せると考えていたのである。マスコミもなめられたものである。

となると、なめられたマスコミの側も考えな

ければならないことがあるのではないか。そんなことを自問自答している。

私は1968年に新聞社に入社して、最初支局に配属された。いわゆる「サツ回り」を4年間務めた。支局勤務の後は東京本社ですつと政治記者をしている。「サツ回り」が「政治家、役人回り」に変わった。

支局時代も、政治部一線時代も、仕事の中心は夜討ち・朝駆けだった。それが新聞記者の基本だと教えられた。上に立つ立場になっても一線の記者にそれを奨励した。

夜討ち・朝駆けは、取材対象と一対一のサシになって、独自取材するために行う。何も自宅を襲わなくともいいのだが、サシになれるのは自宅ではないことが多い。

独自の情報を得ることは、新聞記者の生甲斐のようなところがある。そのためにエネルギーを燃焼しているようなところがある。

が、それだけではない。読者が求める情報を、読者に代わって得るため、というのは決して建前ではない。何百万もの読者にお読みいただいていることは、心の支えであるし、緊張感を持たせてくれる。

ただ、夜討ち・朝駆けほど取材相手にとつては迷惑なことではない。一家団欒に踏み込んだり、寝込みを襲うのだから、プライバシー無視もいいところだ。

中には、新聞記者から夜討ち・朝駆けを受けて、初めて世間に認められる政治家になった、一人前の警察官になったと思ってくれる取材対象もいたが、それはまだだ。

世界的にみても日本独特の習慣で、古い体質だと批判を受けることもある。

われわれだって、そう思うことがある。早く仕事を終えて帰りたい。たまには家族と食事をしたい。デートだってある。

70年代に入ったころからだと思う。マスコミ側の要請もあつて、政党や官庁、企業などの広報体制が整備されたのと軌を一にして、独自取材が減っていったように思う。共同発表や共同記者会見が中心になったのである。「共同記者会見ですべてお話するから、大臣のご自宅に行かれるのはやめて下さい」という役所の広報課長がいた。

私が担当した政治家に福田赳夫氏がいる。72年の自民党総裁選で展開された「角福戦争」直後から、95年7月に亡くなるまでずっと取材した。いわゆる福田番記者だった。

自宅は東京・野沢にあった。吉田茂は大磯、佐藤栄作は淡島、田中角栄は目白というように、野沢は福田の代名詞だった。

その福田邸は、標準的なサラリーマンの家と比べれば立派だが、決して豪邸といえるようなものではなかった。大蔵省の課長時代に建てた

と聞いてなるほどと思った。その後、建て増してし広くはなっているが、目白御殿とはだいぶ違つて質素な家だった。

野鳥は庭先によく来ていたが、大磯の吉田邸のように景観がいいわけでもなかった。首相時代、来客用の駐車場がなくて、近所の空地を借りていた。

サシになるため、朝6時前に江戸川区の自宅を出て、7時には野沢にいた。一度もイヤな顔をされたことはなかった。

私の顔を見るなり切り出す言葉はいつも「オイ世の中はどうなっている」だった。今でもその声と表情を覚えている。

福田氏は聞き上手だった。相手を、一生懸命話さなくてはいけないような気分にした。得意技だった。

ついでに、福田氏の得意に新語づくりがある。

「昭和元祿」「狂乱物価」「明治38歳」「人の命は地球より重い」など枚挙にいとまない。

私が直接聞いたのは「バード・イン・ザ・カーゴ」だった。最初何のことかと思つたが「カーゴ」とは日本語の籠のこと。つまり「籠の鳥」だ。「角福戦争」に負けて田中内閣の行管庁長官を務めていた時の自分を評したものだ。これはあまりはやらなかった。

当初「世の中はどうなっている」の意味を、他の派閥や野党の動き、国会の状況を知りたい

のだと解釈して、前夜、担当の同僚記者から話を聞いたたりして、私の分析を披露した。こんな話から、自民党や福田派の対応を探った。

野沢への車の中では眠たかったが、けさの話題は何にしようか、と配られたばかりの各紙を新聞受けから抜き取つて車の中で熟読した。

ところが、しばらくして福田氏が私から聞きたいのは、派閥や政治の話ではないことに気づいた。それは派閥所属の国会議員らから十分得られる。私から最も本当に聞きたかったのは、文字通り世間の空気だった。

選挙区の後援会の人とはよく話すがいわば身内である。耳障りな話は余り聞けない。政治家には努力しないと世間の空気が入つてこない。新聞記者から夜討ち・朝駆けを受けることは、それを仕入れる唯一といつてもいい機会だったのだ。

「首相になつて、国民が私をどう見ているのかしばらく不安だった」としんみりと話したことがあつた。この時「世の中はどうなっている」の質問の意味がよく分かつた。

夜討ち・朝駆けで、われわれは、福田氏から政治の情報を取る。福田氏はわれわれから世間つまり国民、世論、民意の動向を知る。そんなギブ・アンド・テイクの関係が成立した。

新聞記者は世間の空気を吹き込むことによつて、間接的に政治家の行動に影響を与えること

ができる。福田氏に永田町の動きについて「世間からみれば」と激しく批判したことがあつた。福田氏は「ホウ、ホウ」と耳を傾けていた。

世間の風は共同記者会見ではなかなか仕入れられない。それにしよつちゅう顔を合わせていれば、ウソはつけないのが人情である。記者の後ろには何百万の読者がいるからだ。

警察や防衛庁は広報体制が進んでいる。それは記者側の要請でもあつた。プラス面を否定しないが、共同記者会見を広報の中心に据えることのマイナス面も考えなくてはいけない。

社会の空気、世論、民意を知るパイプを自ら閉ざしてしまつたのではないか。その上、報道機関さえ押さえておけばと、ウソもつけると思うようになってしまつた。

組織にいと、世間から離れてその世界だけに視野が狭まりがちだ。それが組織の独善につながる。情報社会は情報が管理される社会でもある。

政界、中央官庁、金融、警察、自衛隊と相次いでいる不祥事。地下鉄脱線やトンネル崩落、放射能事故による安全神話の崩壊。共通しているのは、組織が社会的存在であることの認識が欠如したり薄弱であることだ。有権者、納税者、消費者、利用者の存在を忘れている。

信頼や権威はこれを認識するところから築かれる。

大学・短大冬景色

松井顯敏（高4）

冬きたりなば……春を待つ多くの人がこう思い、また季節は正直に移り変わる。しかし、最近ではこのように物事が進まない場合がままある。その一つに、大学・短大関係者を悩ませている入学者数の確実な減少傾向がある。つまり、日本の人口が減り続ける限り、平成11年5月1日現在、622ある国・公・私立大学、585の短期大学にとって、一部を除き、春は期待できない。

私が昭和61年にM新聞を繰上げ定年退職し、T女子短期大学に「入学」した当時は、入学試験は志願者をふり落とすためにあったが、丸14年後の今日、入学試験さえ実施できない学校も出てきている。天気予報でお馴染みの西高東低とは逆に西低東高というのが、特に短大志願者の数に現れている現象である。言い換えれば、入学者の定員割れが関西地方の学校から始まり関東地方に及んでいる。

平成4年度、大学・短大志願者数の合計は121万人のピークに達したが同11年度には93万人に減り、22年度には70万人と見込まれている。4年度入試では65%の合格率であったものが11年度には80%と、不合格者が殆どいない状況になってきた。受験生にとれば競争の緩和にともない、志望校に入りやすくなり、すべりどめのための併願校に願書をだす必要もなくなる。親にとっても経済的負担は軽くてすむ。

大学・短大からすればこれは決して望ましい状態ではない。平成4年度の大学平均出願数は5・5から10年度の5・0、短大平均出願数は3・2から2・2と減少している。受験料収入の減少は学校にとって痛い。

数字の羅列で恐縮だが、大学・短大とも定員を超過させて入学させてきたのが現実。大学はここ数年間薬1・15であったが11年度入試では1・12。短大は11年度入試で0・96で定員割れ。

こうなってくると殿様を気取っていた大学も恥も外聞もかなぐりすてて学生募集に全力を上げる。その影響をモロに被るのが

短大。これまで短大志願者は高卒女子が大部分を占めていたが女子の高学歴志向や社会の要請などによって年々志願者が減り、8年度以降、大学への進学率、志願率が短大のそれを上回るようになった。短大の使命は終わったとさえいわれる。

18才人口の減少は突然の出来事ではない。かなり以前からわかっていたことだが、最近の短大受験生数の激減は学校経営者にとってもあまりにも急だった。ホテルのロビー並の豪華な学生ホールのある洒落た校舎をたてたり、授業内容を変えたりしてきた。

国際と授業に名が付けば学生が集まった時代はとうに終わった。比較文化、国際交流、異文化理解、情報、福祉、人間……と、政・経・法・商・文・理などで始まる学部名に馴染んできた世代には理解できにくい学科名がうまれた。いまのところ女子学生に人気があるのは心理学（カウンセリング）。これも短命でないという保障はない。

教科名ばかりか学校の名前自体を変えたところもある。地元川越では国際商科大学が東京国際大学と名前を変えた。真冬時代でもなにかやっていたら体が暖くなる

だろうと学校もいろいろ考える。このところ専門学校の人気が高まっているが、これは資格がとれる、という点にある。資格といえは教員免許が思いうかぶが、これだけでは売り物にならない。大学は教養を身に着けるところ、というオジサン世代にはごく当たり前の考え方も受験生には受けない。

短大の専門学校化という正統派の嘆きをよそに、秘書士、ビジネス実務士などという、明らかに米国産とわかる資格を短大でとれるようになっていく。さらに、国際化時代を反映して、海外校と提携して入学者を集めている。ホームステイをしながら提携校で約一カ月英語の勉強をしてくればだいたい2単位取れる。この程度の期間、アメリカやイギリスの英語学校にいったから英語ができるようになることはまず無い。しかし姉妹校を海外に持つ、というのも客寄せ効果につながる。

立派な設備、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアなどの大学との提携、目立つ名前の科目などだけでは最近の高校生は大学・短大に来てくれない。いまでは大学教師が高校を尋ねて、校長やら進学担

当教師にあつて自分の学校に生徒をまわして欲しい、と頼んで歩く。大学もこれまで入学者の殆どいかなかった高校まで自分の方から、いわゆる指定校といういわば得意先をつくりそこへ教師を挨拶回りに出す。

昔、大名、今、足軽、とでも言おうか、大学教授が得意先回りをしなければならぬいご時世になった。中学、高校を併設している大学や短大も安心していられない。有名校志向で、併設高校を卒業しても、自分の母校が有名校でなければよそへ入学してしまう。その併設高校へ他大学の「足軽」がお願いに参上する。例えば悪いが、他人のポケットへ手をつ突っ込むような有様になる。

高校の進学担当の教師や生徒の父兄を招いて学校を見せたり、模範授業をしてみせたりと、大学・短大側もありとあらゆる手をうってはいる。短大を大学に改組したりもしている。しかし大学に組織変えたからといって成功するとは限らない。苦しい所である。

考えなければいけないのは、いわゆる全入時代になると、学生の質が低下してくる

ことである。特に英語の学力低下が指摘されてきたが、このところ学力全体の低下が著しい。ウッソー、カッワイイ、という極めて少数の単語を使って、しかも携帯電話での会話を楽しんでいる世代は英語どころか日本語での自己表現もままならない。

茶髪、超ミニスカート、厚底靴、顔黒（がんぐろ）、山姥（やまんば）と流行が目まぐるしく移り変わり、英語の単語を暗記するよりも風俗店でバイトして小使いを稼ぐような学生も入学する。ある都心の短大では、経営者名で保護者に注意を促した。入学者数を維持しようとするれば質の低下につながるが、経営上の観点からすると、痛し痒しというところ。

もう一つの心配は、学生が本当に大学へ勉強したくて入ってくるのだろうか、ということ。さいわい、真面目に物事を考え、勉強する学生が多数するわけだから、その学生をきちんと教育していくよりほか無いのかも知れない。真冬の屋外では体を動かしていないと凍えてしまう。大学・短大冬景色のなかで、ふと立ち止まってこんなことをかんがえている。

#

だが、中学校長だったTは自分の席がわからず、帰りの時は自分の靴が判別できなかった。八十四歳なので今回を以て同窓会を最後にする予定であったが、勲五等受賞のMが八十八歳まで集まろうと提案し全員賛成した。初雁健児の意気昂しである。

山本 道(中32)

お陰様で体調は目下の所良好。相変わらず水墨画など嗜んでおります。

菅間 昭(高6)

財団法人フォーリン・プレスセンターという組織で外国の若い記者たちを招いて日本の事情について学んでもらう仕事をしています。

高島 敬忠(高10)

お陰様で6月1日より小児科・内科・アレルギー科を標榜いたします診療所を成増に開設することが出来ました。地元の岡田先輩には大変お世話になりました。同窓の絆の有難さを痛感いたしました。

土屋 實雄(高7)

本年三月末日をもってサラリーマン生活に終止符を打ちました。一九六〇年四月以来満四十年の会社勤めでした。現在少し体調を崩し、酒を禁じられているので静養に努めています。

平野 寿作(中40)

今月こそはと思っておりましたが、折悪しく戦友会とぶつかり出席出来ません。田中先生と

出席を約束していましたが悪しからずお伝え下さい。

岡村 和夫(中45)

元氣です。時々NHKのテレビ・ラジオで解説番組を担当し、講演旅行にも出かけています。

内田 紀成(高2)

去る四月二十九日父静馬(元会員)が老衰の爲他界しました。皆様に大変お世話になりました支えられて九十四歳の長寿を全うしましたこと厚く御礼申し上げます。今回は欠席させていただきます。益々のご健勝を念じております。

松井 顯敏(高4)

仕事上、高校を訪問しますが、川中、川高の卒業生とお互いがわかった時の安堵感、母校はありがたいものと思います。

松下 雄一(中29)

毎年みどりの日に川越で行っていた同窓会(白寿会)も終に閉会となりました。在京初雁会も一層有難く思うのですが、夜分の外出が心もとないので、残念ながら欠席します。当日の盛会を祈っています。

笹崎 能輝(高18)

ドイツ農業協会主催の2000年国際ハム・ソーセージ品質競技会において、サイボクハムは金メダル21個、銀メダル10個、銅メダル7個、合計38個のメダルを受賞しました。

田 葛(中29)

在京初雁会に先輩井口正夫氏に伴われて初めて伺ってから、はや三十数年になります。会では旧知の船津鴻之助氏・久保真達氏に出会い、川越で近所だった岩泉迪人氏や多くの方々に出会い、ご好誼にあずかりました。後には同学年の松下雄一氏に出会い第二十九回の同窓会白寿会に紹介される幸いも得ました。在京初雁会の御恩莫大です。感謝。

橋本日出松(高2)

先日、さつま芋の苗を百本植えたら晴天が続き、枯れるのでは、と心配しました。ようやく雨が降ってホッとしています。またフォークナー事典編集を手伝っています。

トルコに旅して

矢部敬一郎(高2)

5月24日から9日間「トルコ周遊の旅」(ツアー)に参加した。短かい期間ではあったが、世界遺産の数々に接し、感激の多い旅であった。

そこで、感じたことを、取纏めたものである。トルコは、東西文明のかけ橋の役割を演じたと云われるだけに、東西の文明の各時代の歴史を記す遺産が随所に残されていた。日頃現実の課題に追われて生活していた者にとっては、学ぶことの多い旅であった。

先づ最初に感じたのは、トルコ人の勤勉さと日本人びいきであることを1週間のバスに同乗した案内役のガイドから学んだ。トルコの国の財政、国防、徴兵制度、教育など具体的に説明してくれた。私自身、GDPについて話す機会は少ないのに、トルコのガイドからGDP(第55位)に止まらず、日本(世界第1位)米国(第2位)など数値をあげて説明してくれた。トルコはこの5年間に急速に成長し、農業国(従前60%、現在40%)から工業国(従前40%、現在60%)に転換した。

関連するがトルコ人の親日的な対応は、明治以降と云われ、私達に接した人々(街頭での通行人、お巡りさん、博物館見学の小学生)まで笑顔でハローを連発してくれた。聞くところによれば、これは日露戦争時(オスマントルコが列強に押され、苦しんでいた頃)からで、建国の父とあがめられた大統領の「日本に学べ」のモットーで近代化が進められたと云う背景があった。

この旅で、世界歴史遺産を沢山見ることができた。特にイスタンブールには見る所が多く、2日間では足りない程であった。「トプカル宮殿(トルコ帝国盛期に建てた皇居)」、「アヤソフィア大聖堂(ギリシャ正教の本山)」、「ブルーモスク(イスラム教寺院)」は皇帝の政治、宗教の重み、それぞれの時代背景を思わせるものであった。

この外、前記した大統領を葬う「アタチュルク



Balkanlardan, Amerika'ya ve Avusturalya'ya kadar yayın yapan Kanal D'de staj yapmak için çok sayıda yabancı genç başvuruyor. Kanalin son konluğu ise Japon Shingo Yabe.

トルコの新聞より

廟(アンカラ)、「トロイの遺跡」「ベルガマ(ベルガモン)」「エフェソス都市遺跡(セルチュク)なども見学した。

遺跡の中には、戦禍によって、他国に持ちだされたものも多く、ガイドの説明にも口惜しいトルコ人の心情が窺えた。

約3千軒米をバスで周遊してきたが、日本との違いを強く感じたのは、自然環境のすばらしさである、地平線の彼方まで広がる農地、緑のオリブ畑、広い農地で働く農婦が眼についた。(男子は機械仕事で見受けなかった。)

住宅地帯、別荘地帯(イズミール)などで、建築途中で工事がストップしている風景を多く見た。こちらでも、バブルの現象があったかどうか。車窓からゴルフ場一つ見られなかったのは、日本と違う風景の一つかも知れない。

各地を回って、食堂に入って感じたのは物価の安さ(例えば、電車120円、タクシー初乗り160円、コーヒー、ジュース100円)だった。

一つだけ、ツアーの私達にとって戸惑ったのは交換レートが異常なことであった。(例えばコーヒー50万リラ、水100万リラ、大きな買物は何千万リラ、何億リラとなる)。日本円に換算するには、下4桁を取って残りを2倍する方法だった。しかし来年にはデノミが実施されるときいた。是非実現を期待したい。

最後に、島国日本と周囲を他国(トルコは7か国)と接する国では、環境もその対応も異なることを知った。島国日本は平和でのんびり暮せることに感謝しなければならない。特に宗教、文化の面で日常の関心と吸収しようとする努力に欠けたことへの反省を忘れないようにしたい。

ついでに記すと、私の次男がお世話になってるトルコ若手経営者(地元有力テレビ)を現地でお招き(日本食)したところ、大変喜ばれた。結局当方もオフィスに招かれ、スタッフに大歓迎を受け、「記念写真」まで撮っていただいた。(後日送られてきた新聞には「日本人が視察に」と写真入りで掲載されていたことを知ってびっくりした。)

ピルゼンの会

7月10日(月)12時より 会費2千円

(編集・岡田)



恭賀新世紀

良き同窓との出合に感謝

平成十三辛巳歳初春

在京初雁会
会長 田中 隆



新世紀あけましておめでとうございます。

毎年新年のご挨拶で干支のことを故事つけてその年の世相を占い、大凡のところは当たってきました。昨年は庚辰歳であり金竜の年、政治経済も明るい兆が見えてくると予言しましたが一言竜頭蛇尾にならぬようにとつけ加えました。後から考えるとオリンピックの金メダルとジャイアンツの日本一だけであとはすべて心配した蛇尾なる附言の方が当たったようです。(アンチ巨人の人は蛇尾そのものです)

今年(西暦では二十一世紀という全く新しい年の始まりですが干支の方は辛巳(かのとみ)歳であり、辛は金星の弟、経済はまあまあ、巳は蛇、蛇は弁財天とも結びつく智者者であると云われており、別の諺からすれば亀である男性の年ではなく、蛇である女性の年であり政財界を含めてすべて女性の活躍する年であるようです。

皆さんも奥様の助言に従い、健康に気をつけて頑張りましょう。



在京初雁会 (創立昭和28年)
会長 田中 隆

2001年 (平成13年)

新春号 第70号

一月例会

交詢社ビル1F

ビルゼン ☎3571-2236

一タベの会

学士会館 ☎3292-5931

東方会館 ☎3987-0211
(池袋駅西口・芸術劇場向い)

在京初雁会

企画・総務
矢部敬一郎

〒363-0027 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

広報・事務局
岡田 良平

〒175-0094 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1815
会社 ☎03-3977-1811

明治以降にみる『会津と長州』

(12月5日の夕べの会講演要旨より)

井口富夫氏(中45)

明治維新成つてから既に百三十年余になりますが、その発端となった戊辰戦争で、朝敵とされた会津の人々にとって、征討軍として数々の暴挙を行った長州に対する恨みは、消えることなく語り伝えられています。

平成十年には、その百三十周年を記念して各地で種々のイベントが催されましたが、そのうちの一つ秋田県角館町で、戦争にかかわった八市の市長が集い夫々のスピーチが行われました。(産経新聞八月二十九日)その紹介記事には「萩の市長が『戊辰は風化を始めている。若い人たちが日本の将来を必死に考えた明治維新を、もう少し学ぶべきだ』と語ったのに対し、会津若松の市長は『藩はむつ(青森県)に流され、遺体は放置され、そういう明治新政府のやり方が心に残る』と述べ、なお残るおん念を訴えた」と書かれています。

過去二度にわたる萩からの和解申し入れ

にも応じていません。

僅か数ヶ月前にあったもう一つの例を紹介しておきます。

NHKの「スタジオパーク」という昼の番組に、俳優の西田敏行がゲストとして招かれ、軽妙な座談が進んでいた時のことです。話題が数年前に放映された大河ドラマ「翔ぶが如く」の西郷隆盛役のことに触れ、出演を決める前に彼は郷里の友人に相談し「薩摩の西郷ならいいだろう」という諒解を得てからにしたと、淡々として、また何気なしに語ったのです。因みに彼は郡山高校の出身で、正しく旧会津藩領になるのです。

何故にこれ程の思いが、会津の側に今もなお残っているのでしょうか。

戊辰戦争の歴史を少し繙いてみることにします。幕末ペリーの来航から尊王攘夷の熱が高まり、討幕の機運が熟してくると、十五代將軍の座についたばかりの徳川慶喜は、突如意表をついて大政の奉還に踏みきました。

慶応三年十月十四日のことです。

だがそうあっさりと政權を返されたのではなく、行政能力など持たない朝廷も困ることになるし、徳川に代わって時代の主役に立つとうとする西国の雄、薩長兩藩にとっては、武力による討幕の口実はなくなり、振り上

げた拳の下ろしようがありません。急遽陰謀家岩倉具視を中心とする過激派の公卿と兩藩首脳が集り、密かに対策の謀議が練られ、奉還が上奏されたその日と、前日の十三日に遡って、兩藩々主宛に討幕の密勅が下されたことにしたのです。

何故このような畏れ多い暴挙が、いとも簡単にできたのか。それはこの前年の暮に、京都守護職の松平容保に深い信頼を寄せられていた孝明帝が急逝され(その死因については当時より疑問とされ、近年になって鉾物中毒の症状と見られる臨終記録が発見されています)十六才で即位された明治帝の外祖父中山忠能公が宮廷内の一切を取り仕切る立場にありました。その中山公を抱きこめば何でもできたわけで、三条実愛・中御門経之が相謀り、中山公が名前だけ加わって三名連署の勅命が発せられました。花押もなければ、天皇の直筆でもない密勅ならぬ偽勅そのものといえるものでした。

勅命をうけた薩長兩藩は軍備を急ぐ一方、その旨を天下に誇示するための錦の御旗も考案されることになりました。

偽勅の原文を書き、錦旗の図柄を考案した主役は、京における奇矯の老学者玉松操ですが、作成の過程では薩長が役割を分担することになりました。即ち薩の大久保一

蔵（のち利通）が祇園一力の妾に帯地を調達させ、それを長州の品川弥二郎が萩まで持ち帰って、菊水の旗に仕立てあげたといわれています。（司馬遼太郎著「加茂の水」）

やがて明治元年一月三日薩長土肥が主体の討幕軍と、大阪城を発した幕府軍が京で激突する鳥羽伏見の戦が始まり、戊辰戦争の序曲となります。戦力では圧倒的優位にあった幕府軍が、敵軍の中に錦旗が翻ると忽ち動揺が拡がり、友藩の寝返りもあって総崩れとなります。そしてこのあと將軍慶喜は、味方將兵を置き去りにして江戸へ逃げ帰る有名な敵前逃亡を行います。咄嗟の機転で容保と定敬の兄弟藩主を人質として連れて帰ります。この時既に会津の悲劇が始まっていたとみるべきでしょうか。

以後慶喜は徹底恭順の姿勢を貫き、のち許されて静岡に移り多くの趣味を生かした隠遁の生活を送りますが、容保はその前將軍慶喜から不要の人質として邪魔もののように「遠く府外へ立ち退くべし」と追われ、傷心の足をひきずるようにして会津へ向かいます。

会津藩としても最初から徹底抗戦の姿勢をとったわけではありません。京都守護職時代のことは考明帝の厚い信頼をうけていたわけですから謝罪の必要など全く無いとして、鳥羽伏見で開戦の糸口となった発砲

の件について、言い分はあるにしても、謝罪嘆願は繰り返し続けられましたが一顧だにされませんでした。

討幕軍は会津に朝敵の名を冠し、錦旗を揚げ華やかな軍楽を奏でながら進軍を続けられます。通過する諸藩には帰順を呼びかけ、応じなければ武力討伐と脅し、応じれば次なる隣藩へ先鋒として攻め込むことを命ずるので、この時代どの藩でも農業が生活の主体になっていましたから、藩内が戦場となつて荒らされることは、何としても避けたかった筈です。

列藩同盟を結び、会津藩の謝罪嘆願を周旋する立場をとりつつ和平の道を探りましたが、矢張り徒労に終わります。

そして八月二十三日会津総攻撃が開始され、先陣を争う政府連合軍は若松城下に乱入し、この時家老西郷頼母一族二十一人の自刃という有名な悲劇が生れるのです。母が幼い我が子の胸を次々と刺してから自らも果て、姉と妹が夫々辞世の歌を詠み互に刺し違えるという惨劇は、政府軍の中に如何に暴虐な行爲があつたかを物語るものではないでしょうか。

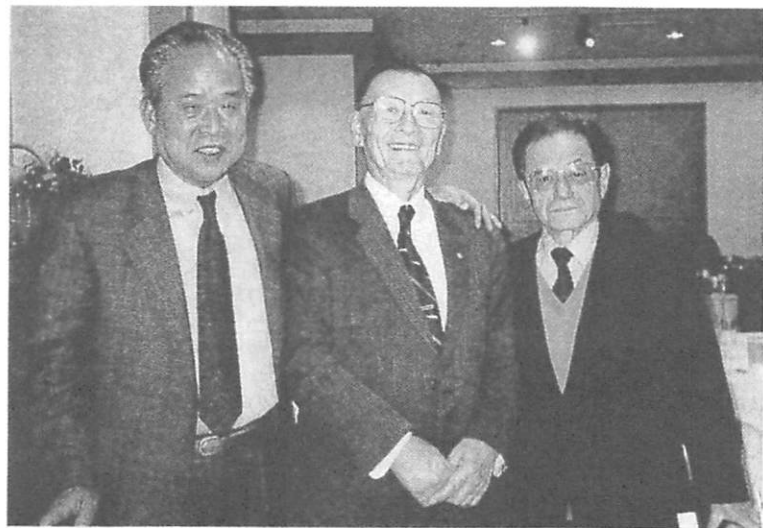
籠城一ヶ月遂に会津軍は力盡きて降伏開城を申し出ます。

敗者に対する処分として、家老三名の切

腹と領地没収は止むを得ないとしても、会津藩に対してはもう一つの余りにも残酷な布令が出されました。それは「戦死者一切に対して何等の処置をも為すべからず、若し之を敢て為すものあらば嚴罰す」という驚くべき非人道的なものでした。

城下の各地で激戦が行われたわけですから、無惨な戦死者の遺体は家族や知人の眼

筆者と同期生の左より栗原氏・田中会長



の前で、腐敗がすすんでいくことになりました。棒切れをもって、近づく鳥類や犬猫を追いはらい「せめて埋葬だけでも」と、泣きながら嘆願しても「賊軍の死者に墓など要らん」と冷く突きはなされる——遺族の悲嘆は如何ばかりだったでしょうか。思うだけで胸が痛みます。

もう一つの少年の悲劇「白虎隊」十九名の墓が祀られている飯盛山に「吉田伊惣次篤志の碑」が片隅に侘びしく建てられています。戦いが終わったある日、一目で会津藩の少年とわかる無惨な四人の遺体が転がっているのを見た伊惣次が、哀れに思い棺を作って近くの寺に葬ってやりました。ところがそのことが後日になって政府軍の知るところとなり、獄舎につながれ厳しい取調べをうけることになったのです。「余りにも哀れに思いましたので私の一存でやりました」という申し開きが認められ釈放されることになりましたが、その条件として「遺体を掘り起してもと通りに捨て置け」という惨いものでした。

一方、旧会津藩士の中から相応の者二十名が選ばれ、政府内の民政局取締として戦後処理をすすめますが、その人達が埋葬許可を求める嘆願を粘り強く続け、やっと翌年の二月十四日即ち戦いが終って五ヶ月も経ってから漸く許可がおりたのです。さき

の白虎隊四名の遺体も仲間と同じ飯盛山に葬られ、他の戦死者の遺体は市内阿弥陀寺に一二八一体、その他を合計すると三〇一四体にもなりました。腐敗がすすみ手足もバラバラに損傷していたので、必ずしも正確な数字ではないかもしれませんが。漸く土に還れたといっても、阿弥陀寺では大きな穴を掘って棺も菰もなく遺体を次々に積み重ねていき、最後に土を小高く盛っただけのものといわれており、現在では石垣で周囲をかこった小高い塚が築かれ、慰霊塔が建てられています。最後に会津藩にとってもう一つの残酷物語をご紹介しておきます。

偽勅によって朝敵とされましたが、最後の処分は嫡男慶三郎への相続が認められ、本州最北端の斗南（青森県下北半島）三万石へ移封されることになりました。新しい御世になったご慈悲と歓喜した藩士とその家族一万七千人が移り住みましたが、骨も凍る酷寒と火山灰が主の瘦地で収穫するものは何もなく援助米も忽ち喰べつくしてしまいました。木の芽も草も青いものは何でも喰べしてしまうので、最初は好意的だった地元の人々も、やがて会津のゲダカ（毛虫の意）と呼んで蔑むようになります。栄養失調になった身体で生命を永らえるためには、他国へ移り住むしかありません。次々に離散していき、現在まで住み続けている子孫

は、十年程前に行われた調査で一人だけだったという談話が流されています。移封とは名ばかりで態のいい流刑だったといえるでしょう。

「戊辰は風化した。水に流して和解しよう」というのは勝者の理論でしかありません。最後に、その勝者の権力と奢りの例をご紹介しておきます。

薩長土を中心とした明治新政府は、いち早く欧米の近代文明をとり入れ、次第に権力の座を確立していききました。明治四年には五十名からなる岩倉使節団が、まるで権力を誇示するかのようになり、一年六ヶ月もの長い海外視察旅行にでかけていきます。留守中の征韓論など予期していたかのように一蹴し、下野した不平分子も次々に消え去り、明治十年西南戦争で西郷が死んだ年に木戸孝允が病歿、翌年大久保利通が凶刃に斃れると時の権力者は徐々に確定していききました。

その頃長州奇兵隊出身の陸軍大輔（次官）山県有朋が馬の遠乗りを楽しみながら目白の高台にやってくると、眼下に広がる景色がすっかり氣にいらって一万八千坪を買いために、自ら指揮して立派な庭園をつくりあげたのです。大正になってから関西の藤田財閥に売却され、現在の椿山荘になりましたが年令はその時四十才で一介の武将として

は驚くべき財力といわねばなりません。そのことに反し、当時の政府の中では、東北一帯に対し「白河以北一山百文」という言葉が平然と使われるようになりました。文とは江戸時代の貨幣単位で明治になると、文無しに代表されるように無価値を総称する言葉です。戊辰戦で自分達が刈取ってしまった立場にありながら、これはまた何と無神経な憎むべき蔑称でしょうか。

その山県は、同じ長州の伊藤博文とは同郷出身の二才違いですが、彼のような艶聞もなく、また三井財閥と深くかかわり「三井の番頭さん」という不名誉な渾名さえつけられた井上馨のような醜聞もありません。しかし一言で評するなら大変な権力好きと云えました。長身瘦躯の古武士のような風格で、なお「枢密院議長従一位大勲位功一級公爵」という長い肩書きをもって軍は勿論政界官界に君臨したのです。夫々に多くの人脈を抱えていましたから正しく派閥の原点といえるでしょうが、晩年には元老という当時特有の要職について、天皇を輔佐し首相の推薦や他の重要政務を行ったといわれていますから、或いは派閥を超えた存在とも考えられるかもしれません。

ただ、個人が如何に強大な権力を握っても、そんなことは歴史上いくらでもあることで、それはそれだけのことです。問題は

その権力が次々と確実に次のものに受け継がれていくところにあるのではないでしょう。か。事実、山県の築いた権力構図は同じ長州の桂太郎に流れ、やがて寺内正毅に受け継がれ、そして最終的にはあの強大な軍閥が育つていったのです。

しかし、幸いなことに、その怪物は敗戦という未曾有の国難によってあとかたもなく消滅し、新しい時代がやってきました。喜んでいい筈ですが、その新しい良き時代は長く続きませんでした。又しても新しい権力が次々と生れ、情報化の時代となると出身地こそ無関係となりましたが、反面複雑で顔の見えにくい特質を持つようになります。そしてその権力がより強く、夫々にとって有利に働く別の権力を追い求めて離合集散をくり返し、醜い争いを続けるようになったのです。

かくして政治不在は延々と続き、この二十世紀初頭こそ、日本にとって最大の危機を迎えることになりはしないかと思うのですが如何でしょうか。

〈註〉詳しくはMBC 21社発行拙著「会津と長州と」

夕べの会・東方会館

3月29日6時より

会員近況（順不同・敬称略）

（12月5日の夕べの会の返事より）

阿部親興（中38）

御案内有難うございました。真に申し訳ない次第ですが、体調不良の為欠席致します。

糟谷 熊（高3）

前回は欠席致しまして申し訳ありません。今回も12月5日・12月8日台湾行きがロータリークラブでありまして、申込をしております。次回には行きますので今回は欠席致します。

岡部恒雄（高15）

十月に都庁の災害対策部に異動しました。前回は、郷土川越と江戸との係わりについて拙い話の機会を作っていたきありがとうございます。

國田正矩（高15）

お誘いありがとうございました。非常に申し訳ありませんが五日は医師会の用事が入っており、今回は欠席させていただきます。小生、金沢大学医学部を卒業後、東京慈恵会医大にて眼科を専攻し、10年前より練馬の関町にて小医院を開いております。現在は先輩の関根憲治先生のお世話になりながら練馬区医師会の理事を務めております。次回是非にと思っています。

菅沼伸之（高2）

病状は大分落ちついて本人は出席したい気持ちはある様ですが夜という事、寒さと一寸心配なので欠席致します。御盛会をお祈りいたします。

増島隆二(中35)

何時も御世話様になり深謝、御返事が遅れて申し訳ありません。十月中入院、只今静養中十二月七日の検査を控え、残念乍ら今回は欠席させて頂きます。

西田 守(高7)

最後まで調整していましたが時間がとれません。役員に関する打合わせをつづけておこなわねばなりません。「日本海より太平洋へ」10月に九十九里の白子町に到達しました。第三回菅原先輩も参加ともに安曇野を歩かれました。

船津鴻之助(中24)

九十一才九ヶ月。家の中を歩くのが精一杯。テレビ野球、相撲が唯一のたのしみです。

高島 敬忠(高10)

御盛会を祈念申し上げます。開業以来六ヶ月順調に経過しております。お近くの岡田良平事務局長には大変御世話になっており、同窓の絆の有難さを実感しております。

安齋 恒男(中24)

歩行困難のため欠席します。

橋本国治(中26)

体調不良につき欠席させて頂きます。

柴崎育久(高2)

残念ながら先約があり欠席です。思いもかけず二十一世紀を迎えられるという幸運は、人生二十年(戦前)人生五十年(戦後)で育ったものにとって感慨ひと潮ですね！

山崎豊弘(中35)

御案内有難う御座います。当日元勤務していた

会社のOB仲間の忘年懇親ゴルフコンペが湘南のゴルフ場で開催されますので残念ながら欠席します。先日所沢初雁会主催の散策会に参加し、秋の一日を楽しく過しました。御盛会を祈上します。

細島博文(中35)

何時も大変お世話になりました。この度のお知らせも有難うございます。二ヶ月ほど前に路上で転倒し、打撲傷が激しく一ヶ月半入院し、現在リハビリに専念して居りますが、未だ思うように歩行出来ませんので残念ながら欠席致します。御盛会をお祈り致します。

長島 恒雄(高3)

当日所用あり欠席します。出席の皆様宜しく。仕事の合間をみて今年サンクトペテルブルク、モスクワと北京へ行き見聞を広めてきました。また最近将棋初段を取得し、にこにこしているところです。

西村 通洋(高2)

幹事さんにはいつもお世話になり感謝致しております。今回は残念ながら、所用のため欠席させて頂きます。皆様によりしくお伝え下さい。盛会をお祈り申し上げます。

高篠平太郎(中40)

二十世紀も間もなく終りということでしょうが、それともフリーで老境に入ったせいでしょうか、何か行きたいところ、読みたいこと、できれば書きとめたいことなどやたらに多くなったこの頃です。郷里への往復も多くなりました。お陰さまで元氣です。

橋本日出松(高2)

北京訪問とカチ合ひとなり、返事が遅れました。

申しわけありません。先方の都合でOKになりましたので、出席させて頂いたいただきます。

眞壁史郎(高6)

高六会として高校第六会卒業生達が年に2回ゴルフをやっています。悲しいことに、彼が他界したなどと、段々とその数が減少しはじめました。でも継続したいものです。

日出間哲郎(高2)

月別カレンダーもあと一枚となり、なんとなく心せわしくなり、日々雑用に追われ、遊びもままならず元氣になんとか過しております。会員の皆様とお逢い出来るのを楽しみにしております。

駒井正明(高4)

勤務中の「富士汽船」が十月一日より海運業より外食産業へ業務変更し、社名を「株式会社ワンダーテーブル」に変更致しました。

小熊忠三郎(高3)

久しぶりに出席させていただきます。高校3回卒の同窓会も京浜地区在住者の幹事で無事終了。ホッとしているところです。

矢部敬一郎(高2)

この一ヶ月腰痛に悩まされています。永年の蓄積されたものでしょうが、軟骨が神経を刺激するとのこと。腰を曲げることが難しくなり、つい運動不足になって、体重は増える等、外にも悪影響が出て、健康の大切さを痛感しています。よい対応策がありましたら教えて下さい。

松下雄一(高29)

寒暖の差に対応しにくく老いを実感しています。夜間の外出に不安を覚えますので、残念ながら欠席します。

素顔のインド(一)

再訪インドの印象

佐々木 忠一氏(中32)

近代以前の日本にとって、釈尊の生誕地とされたインドは「天竺」と呼ばれ憧憬の対象であった。その生誕地ルンビニーは現在ネパール領である。仏教が日本に導入されたのは六世紀(西暦五三八年。五二

年の異説あり)で中国、朝鮮を経由して伝来した。仏教伝来は日本に計り知れない影響を与えた。われわれの通常生活は仏教歴史とその主要行事を、各人の宗教・信仰を問わずして慣行しており、夏季の民族大異動ともいふべき孟蘭盆(ぼんぼん)には、日本は津々浦々、盆の前数日、仏教国の様相である。日本の文化、社会については仏教の知識と教養がないと語ることができないことは、西欧を旅する時、キリスト教の理解なくしては単なる見聞に過ぎなくなることと全く軌を一にしている。中東アラブについてはイスラム教が同様の重要性を占めている。

インドと聞くと誰しもが仏教国と思いがちのようだが、今次のインド再訪の旅で知ったことの一つは仏教徒は人口の7%に過ぎず、なんと83%は、ヒンドウー教(インド教)で多神教を信じているという実態であった。因に一神教であるイスラムは11%、

キリスト教は2・4%(日本は1%弱)、シーク教(ターバンを頭に巻いている。ターバンは清浄のしるし)は2%弱である。インドには世界の大宗教が並存しておりヒンドウー教は国教ではないものの出生から死に至るまで大部分の通過儀礼(一人生の折節に行われる儀式・儀礼)は、その形式がほとんどを先住民族の宗教儀礼に起源していると思われる。

インドに興った仏教は初期のうちからヒンドウー教の神々を仏教の守護神として位置づけた。その好例は日本でも見られる四天王すなわち四守護神、仏を守る持国天、増長天、広目天、多聞天でもともととはヴェダーのヒンドウーの神々である。

この四天王のようにインドの神々は仏教に伴って日本に導入され、いたるところで民間信仰の対象となった。その主なるインドの神々は何々天と称えられている。

梵天 Brahman プラマーナ 寂靜清浄の天。
帝釈天 Sakadevanam Indra 梵王と共に佛法を守る神。超絶的武勇と奸知に長けたインド神が仏教に入ったもの。

弁天(弁才天または弁財天) Savayati 妙音天・美音天・大財功德天とも称する。弁才天は学問・音楽の神。財天は財産の神。もと河川を神格化したもので水辺に祀られることが多い。七福神の一。

金毘羅 Kumbhira クンピーラ 琴平鰐魚の

意。天竺の鬼神。魚神で蛇型、尾に宝玉を蔵する。航海の安全を守る神として最も船人が尊崇する。

水天 Varuna 水の神ヴァルナ。水天宮は漁業の守護神である。

閻魔王 Yamraja 光明・正法の神。人類最初の死者であることから「死の神」として冥界を支配した神。インドの神話から轉じて仏教に入り、地獄の大王となり、十八の將官と八万の獄卒を従えて、地獄に落ちる人間の生前の善惡を審判、懲罰する。

これらはインド(ヒンドウー教)の神々であるが、前述のように仏教を介在として日本に移入され、日本古来の宗教と習合して広く信仰されるようになったと思われる。インド人の最大宗教はヒンドウー教であるがその起源は前十七、八世紀とされる。他の大宗教と異り、教祖、開教に相当するものがなく、教義、經典もさだかではない。インドには世界の宗教、思想、哲学に関する宗教書は実に多い。前十二世紀から祭司のバラモンが数世紀かけて、彼らの神々への讃歌と祭式文をヴェーダ(根本聖典)にまとめた。ここにバラモン教が梵天を宇宙の本体であるとする民族宗教が成立した。やがてヴェーダの神々への信仰が衰え、そのバラモン教が土着の宗教と習合し、代わってシヴァ、ヴィシエナ、クリシュナといった神々が崇められるようになった。

前二〇〇〇年から一五〇〇年位にかけて
アーリヤ人種がインドの北西部に侵入して
以来前二五〇〇年代すでに高度の都市文明
を発達させていたインダス文明はアーリヤ
人種の侵入によって衰退していったものと
されるが、彼らは既にギリシア・ローマ・
ペルシアなどと共通する多神教を信奉して
いた。その宗教がインドの土地において多
神教を信ずる先住民の影響を受けて独自の
発達をなし、ヒンドウ教と称せられる宗
教の基礎をつくった。ヒンドウとはアー
リア言語の「インド」を指す。従って「イ
ンド教」と同義である。

アーリヤ人はやがてインド全土に進出す
るが固有の身分制度をして、祭儀を司る僧
職バラモンを最高位とすることにより、ヒ
ンドウ教社会に身分、階級制度ともいう

インド旅行中の佐々木ご夫妻



べきカーストが形成されていくのである。
元来カーストという言葉はインド人にとつ
て外来語で語源はポルトガル語の「カスタ」
(種族・血統)である。一五世紀末に初めて
マラパール海岸に着いたポルトガル人はこ
でインド人の間の集団ごとの区別の存在
に注目し、その集団的まとまりを指してカ
スタと呼んだ。英語の Caste は階級の意で
ある。インドで初めの職業集団は世襲の社
会集団で、バラモン(宗教儀礼と管理を司
る僧職)が最上位、次いでクシャトリア
(王族・士族)、パイシヤ(平民)シユドラ
(奴隷)の四種性を形成、職業・交際・通
婚・慣習など社会生活において約二千種に
及ぶ厳格な規制を生ずるに至った。

インド独立後、憲法十七条で一九四七年、
カーストは廃絶された。然し因襲は固くイ
ンド人は名のみ民主国に生きている。

ヒンドウ教とカーストによる歪みは識
字率四〇%(全人口の六割位、約六億人が
読み書きできない)、しかも使用言語が二百
六十言語。公用語すら十八語(通貨ルピー
紙幣は十八種で通貨額を表示)、六割以上の
人々が一日二食以下、大都市の路上生活者
は政府公表によるとボンベイ十萬、カルカ
ッタ十數萬、いわゆる無宿民。街頭で生れ
路上で死ぬ。火葬後骨は川に流される。キ
リスト教以外私はインド人の墓地を見たこ
とがない。他方インドはIT産業の高度技

術の工業国であるという。去る七月、森首
相はインドにおけるIT産業を視察、帰国
後国会で「インドの『IT革命』は素晴し
い。日本もあとに続かねばならない」と話
された。「インドIT革命の裏に貧困」と題
する作家小田実氏のアジア紀行(朝日新聞
十月二日)に倣い私も次回へ筆を進めさせ
て頂きたく願うものである。

訃報

岡村 了一氏(中43) 明治大学理事長・
弁護士・元川高同窓会長

平成12年9月15日東京文京区の病院で死
去。行年七十三歳。

間々田重信氏(中39)

平成12年2月10日死去。行年七十五歳。

両氏共在京初雁会発展のためにご指導
ご尽力をいただきましたことに厚く御礼
申しあげますと共に謹んでご冥福をお祈
り致します。

●会員の皆様には二十一世紀を元気で迎え
られた事とお喜び申し上げます。在京初雁
会も今年で創立48年を迎えます。発祥の地
銀座ビルゼンも交詢社ビルの建て替えで今
年中には思い出と共に無くなるようです。

これを機に在京初雁会も新たな出発の年に
なれど願っています。今年も宜しくお願
い致します。
(事務局・岡田)

鐘つき堂

在京初雁会（創立昭和28年）
会長 田中 隆
2011年（平成23年）
夏号 第71号
2011.6.20

御城

西御丸

掃部井伊

紀伊殿掃部井伊

紀伊

川越高校同窓会

秋季散策会

10.21(日)

「小江戸・川越」と「大江戸」

東京都江戸東京博物館副館長・

岡部恒雄氏（高15）

（12・6・22夕べの会講演より）

一 江戸ブーム

今、江戸ブームです。第一に江戸時代の見直しで、最近の歴史系の本をみると、綱吉の時代は経済が活性化していたとか、田沼意次の時代は、むしろ近代の夜明けという昔習った歴史と違った評価を受けている。第二に、江戸文化の成熟さの再確認です。明治新政府の徳川時代の徹底的批判への見直しである。浮世絵、歌舞伎、お茶、お花などは江戸時代に形づくられた誇るべき形式です。第三に、都市江戸の見直しです。最盛期130万人は雑然とした汚い都市でなく、整然としていてかなり清潔な都市であると、これは当時の外国人の見聞記に残されている。第四に、共同体としての親密感である。プライバシーよりも長屋社会の親密感を重くみ、これが心の豊かさにつながる。

二 大江戸・小江戸

平成十二年の暮れに、大江戸線が開通されました。それでは、「大江戸」という言葉はあったのだろうか。江戸の町は、十七世紀ごろは、承応四年三月の町触で江戸市中では農民が下馬する地域までをいっており、江戸城の

古町三百町といわれる城の外郭内側であった。その後、寛文二年には、街道筋の代官支配の町家三百町が町奉行に編入され、江戸の範囲が広がった。今の芝、三田、飯倉、下谷、浅草が範囲となった。さらに、文政元年老中の決定で絵図面に朱線を引き、御府内の朱引内が江戸の町となった。

この江戸が「大江戸」となったのは、十八世紀後半に登場し、十九世紀後半に入ってから使用されるようになった。それは、都市江戸の美称として使われたのである。寛政元年の山東京伝「通気粹語伝」には、「それ諸白の名に流れたる隅田川の景色は大江戸の隅におかれず」とあり、享和二年の十返舎一九「東海道中膝栗毛」や小林一茶の句に「大江戸や芸なし猿も花の春」と使われていた。このように、「大江戸」が美称として一般化したのは、地理的拡大と住民の増加という量的に大きくなったことが一つある。次には、江戸的なものが質的にも高まったことがある。それまでは圧倒的に上方文化に押されていたものが、上方文化に追いつき、追い越したことがある。恋川春町の黄表紙、洒落本が生まれ、「いき」「通」という美意識の形成、川柳、狂歌、錦絵の鈴木春信、浮世絵の喜多川歌麿、東洲斎写楽などが輩出し、根生の社会意識である「江戸っ子」が成立した。更に、百万都市江戸を支える生産力が、これまでの上方から江戸へ下る品物に支えられていた

のが江戸周辺の「地回り経済」が十八世紀後半以降展開してきて、幕末にかけて急速に生産が高まってきた。川越、佐原、栃木などは関東における流通の結節点として重要な位置を占めた。川越周辺でいえば、川島の醤油「金苗」などがある。そして、経済の発展は品物を動かすことは人も動くことで、それに伴い文化が交流することである。こうして江戸が「大江戸」として全国を中心となってきた。それでは、「小江戸」という言葉は、江戸時代にあったのだろうか。

文献的には定かではないが、大江戸の対概念とするならば、十八世紀後半よりも後、可能性として文化・文政時代あたりである。千葉県「佐原市」には、「お江戸見たけりや佐原へ御座れ、佐原本町江戸勝り」という俗謡がある。天下の城下町江戸に対して利根川水運が賑わった佐原が小江戸と称されていたころの名残である。伊能忠敬が河岸問屋役であった十八世紀末の本町は、江戸に似た景観と賑わいがあったことをこの俗謡が伝えている。小京都として名高い石川県金沢市も「小江戸」とよばれたことがある。金沢の民家調査によれば、十九世紀を境に京都風から江戸風への転換がみられるという。都市としての中央性が十八世紀後半以降、京都から江戸へ移った可能性を示しているのではないかとみられている。関東各地の地方都市で「小江戸」と称した事例の発見が期待される。

三 川越は江戸の母

川越と江戸の結びつきは、中世の川越城と江戸城の築城をした太田道真、道灌父子が係わっている。江戸城は、足利義政が古河の足利成氏の備えとして管領たる上杉持朝に命じ太田道真、道灌父子が築城したもので、最初は、古河城方面の北東部の備えとして川越城を守る出城であつたのである。その後、天文六年に小田原の北条氏に帰し、天正十八年に徳川氏が江戸城に入つた。関ヶ原の戦いの後、家康が征夷大將軍に就くと、江戸は徳川氏の城下町から全国支配の拠点都市へと変貌し、全国の大名に江戸城の改修と江戸の町づくりを命じた。寛永十五年ごろ、桃山風の絢爛たる武家の都・江戸が一応の完成をみた。江戸城は五層の天守閣が完成したのである。そして、川越城は江戸の北方の守りを担つた。

江戸城が川越城の出城であつたころ、川越から神社の出分かれがあつた。小仙波の日枝神社は、今の麴町の日枝神社となり、廓町の三芳野神社は、今の平河町の平河神社となっている。江戸城の守り神として神社を出分かれさせたのである。

さらに、江戸との係わりを決定づけたのは、天台僧正の登場である。天台僧正は、天正十六年に川越小仙波の喜多院の住職となり、天文年間以来の荒廃した塔舎を再興し、山号が星野山であつたものを東叡山と改め

て関東台総祿司として関東の宗寺に令し、重きをなした。その後、上野忍ヶ岡に寛永寺を建立して、喜多院の山号東叡山を寛永寺に譲り、再び星野山に戻して、現在に至っている。寛永十五年の川越の大火により喜多院も類焼したが、このときの將軍家光公により江戸城の紅葉山の別殿が贈られ、そこに家光誕生の間があつた。また、明治維新のころ、上野の戦争により寛永寺の根本中堂が焼失したが、喜多院の本堂を移設した。これらのことから、川越は江戸の母といわれている。

四 小江戸の条件Ⅱ小江戸サミットより

平成八年、「小江戸と呼ばれる町の人が集まって、町づくりを考えよう」と栃木市市制六十周年を記念し、栃木市に千葉県佐原市、川越市が集まり、「山車祭り」を共通のテーマに初めて「小江戸サミット」を開催した。平成九年は、市制度七十五年の川越市で「蔵屋敷の町並み」を、平成十年は、佐原市で「舟運」をテーマに開いた。そして、平成十一年には、「小江戸サミット in 大江戸」と称して、小江戸と大江戸との関連で、伝統と新しさを求めた町づくりを語りあつた。こうした経過のなかで小江戸の共通項として「舟運」「蔵屋敷」「祭り」が基本にあるということと一致し、これら三市の他に、このような町の連携を広げるとともに、伝統と新しい個性のある町づくりを目指すことが確認された。

(一) 舟運

新河岸川は、江戸時代の初期の寛文二年(1663年)頃、川越藩主・松平伊豆守信綱の五河岸(扇河岸、上新河岸、下新河岸、牛子河岸、寺尾河岸)改修完成以降から大正末期までの約三百年間、江戸と川越を結ぶ重要な舟運の道であつた。昭和六年竣工の新河岸川改修以前は、流域各所からの湧水を集めて、水量が豊富であり九十九曲といわれるほど蛇行し、川の口と呼ばれる和光市新倉で荒川に合流した。千住節の川越舟歌に「九十九曲がりやあだで越せぬ通い舟路の三十里」と歌われた。川越から花川戸までは総延長三十里ほどであつた。

この舟運の最盛期は、天保時代から明治二十年代半ばごろまでで、「川越夜舟」は乗り込んで一晩寝ていれば翌朝千住に着き、昼ごろには浅草花川戸に着くという触れ込みで評判をとり、多くの客が乗つた。この舟運の隆盛で、早船は宿場に訴えられた。川越街道の上板橋、下練馬、白子、膝折、大和田の五宿は、天保七年、大井町名主に頼み、宿場の窮状と早船の非をあげて、川越藩に訴えてた。結局、ご公儀深谷遠江守奉行の裁定で、早船は客専用を止める代わり、その舟の上乗りを認めるという玉虫色の解決を図つた。

舟運の積み荷は、河岸場の後ろの商品流通圏に係わる。福岡河岸の例をみれば、主に、三富(三好、所沢の一部)、武蔵野開発地域(川越、狭山、大井)の周辺の村々では、江戸へ

の下がり荷として、俵物と呼ばれる大麦、小麦、豆類や甘藷、里芋などの農産物、薪類、杉皮などで、江戸からの上がり荷は、肥料、千住の灰、箱崎の米糠、干鰯、魚粕、瀬戸物、金物、石、酢、塩、乾物、明俵などであった。佐原から荷が江戸を経由して川越へ運ばれたものも多い。

この舟運は、明治二十八年三月、川越鉄道（国分寺〜川越）開通に伴い、その翌年早船は廃止され、大正三年五月、新河岸川と並行に敷設された池袋と川越を結ぶ東上線の開通と大正十年九月の新河岸川改修工事の着工により決定的打撃を受けた。

舟運は、構造改革の波に転換できなかったことにより終焉を迎えたが、物が動き、人が交流し、文化も交流したことによりこの舟運をもたらした新河岸川は、現在でも、その旅情とともに文化を深く根づかすことに役だった。例えば、江戸に正風遠州流のお花の家元がいた。小堀遠州から始まり、華道社中の連名の資料によれば、お弟子さんが全国に八百五十人いたが、江戸に五百人関東地方に三百人のそのうち五十九人が川越の住民だった。

(二) 蔵屋敷

江戸の蔵屋敷について、天保八年から嘉永六年まで書かれた「守貞漫稿」喜多川守貞著によれば、見世土蔵は店蔵と呼ばれる土蔵造りの店舗、屋根の棟を道路と平行におく平入

りの二階建てが一般的で、隣に袖蔵が付く。袖蔵は棟を直角にする妻入りである。川越、佐原、越谷、春日部、栃木、結城、土浦などの商家に多くみられる。

川越では、寛永四年（1792年）の大沢家が古いが、お菓子屋の亀屋をはじめ、ほとんど明治時代の建物である。大沢家は昭和四十六年に国の重要文化財建造物に指定された。これは「江戸時代の土蔵造りに比べ地味であるが、質・保存ともによい。」として指定された。明治二十六年に大火があり、その時焼け残った土蔵造りを見習って土蔵造商家が建てられた。なお、川越は最盛期には二百軒以上もあった。

ここで、江戸の色についてみると、「江戸一目図屏風」文化六年（1806年）歟形満齋紹真によれば、店蔵も土蔵も白く白く描かれているなかに黒壁の土蔵が混ざっている。「江戸名所図」長谷川雪旦の「今川橋」の図では、外壁を黒塗りとし、二階を観音開きの土戸するなど意匠や耐火性を向上させた店蔵が散見される。幕末から明治にかけての店蔵意匠のはしりである。黒の漆塗りは、上塗りに煤煙や墨汁などを加えて磨き上げる。時間にも金もかかるため商人の富の象徴となる。この黒の色について、民俗学者で江戸東京博物館教授の宮田登氏によれば、紅白は本来田舎の色だという。それは江戸の武士社会ではより黒の比重が高かったのに対して、田舎で

は黒を意識しないので、晴れ着として白や赤系統の色が用いられ、図式的には、都会の黒に対して、田舎の白・赤が存在しているからだと指摘している。江戸時代から明治時代にかけて、黒色は粋に感覚として意識されてた。春日八郎が歌う「お富さん」の粋な黒塀見越しの松や本所・深川の小唄・長唄など粋筋の家の板塀の黒、深川の女芸者の男と同じ黒い羽織を着流し鬘を結った「羽織芸者」、正月の芸姑の正装の黒染のおずらしの着物などにみられる。そのころに加賀前田家の江戸後期の兼六園内の成異閣の書見の間の壁が紫と黒の組み合わせをし、熊本では天守閣、周辺の家臣の家、寺院は黒を基調とするものに変わった。

黒の色調については、関東では川越は特に代表的で、黒の建築は江戸時代の商家の粋感覚を表したものである。心理学的にみても、色彩の本質的な意味を表しているといえる。

この粋な蔵造りの町を残すため、中堅の川越市役所・荒牧一級建築士、醸建築研究所の笛木一級建築士が頑張っています。小江戸サミットの川越でのリーダーは、川越第一ホテルの社長の伊藤さんです。皆な川高の出身です。応援してください。

(三) 川越祭り

先に述べた松平信綱が川越城主となつて以降、城下町として整備された。信綱は、慶安元年（1651年）川越城下にも渡御祭礼

を実施するため、神輿二基、獅子頭一对、太鼓神輿蔵等を氷川神社に寄進して、城下を渡御する祭礼を創設したと伝えられている。榎本弥左衛門（札の辻の豪商）の「万之寛」のなかで慶安四卯年九月二十五日まつり渡り初り申候、と城主信綱が藩領の殖産を奨励するなかで、豊作と領民と共に喜んで祭りが初められた様子が書き残してある。

川越祭りの原形は江戸の天下祭りである。高沢町（元町二丁目）の「川越年代記」（承応二年）（1653年）によれば、川越商人の財力が豊かになるとともに江戸の文化は川越に流れ込み小江戸と呼ばれるほど繁盛して、「蔵造り」「まつり」を残したと記す。

江戸の天下祭りは、徳川家が産土神とした「山王権現」と江戸の総鎮守「神田明神」の祭礼を川越の地に伝えたものである。「徳川実記」（寛永十二年六月十五日の条）によれば「山王祭りあり、城の櫓上にてご覧じたまふ」と、はじめて言及あり、この時上覧したのは第三代將軍家光である。家光は江戸城西丸に生まれており、実際に初めて山王権現を産土神とした將軍である。また、神田明神は「江戸名所図絵」のなかで、「唯一にして江戸の総鎮守」としている。この祭りも將軍の上覧に浴したので、「天下祭り」と呼ばれた。

天下祭りの特徴は、「江戸型山車」である。京都は「鉾」、博多は「山」、高山・秩父は「屋台」であるが、「江戸型山車」の形式は、黒牛

に引かせた二輪車の上に三層の構造物がある。最上部には人形があり、下の水引き幕にかこまれた枠があり、人形はこの枠内を上下でき、人形・水引きの部分は、折り畳まれた状態で最下部の見送り幕の部分に収納される。このカラクリは、祭りの行程が、氏子各町の集合場所→吹上上覧→常磐橋門外で解散→各町、まで江戸城三十六町見附と呼ばれた城門のいくつかを潜る必要があった。最低で六回、多い町では十二回城門を潜った。江戸城の城門は大体同一で、門扉の高さは約4・4メートルで、その通過物は実際問題として4メートルを限界としていた。この伸び縮みするのが特徴である。

川越の山車は、江戸時代の天下祭関係資料に散見されるように、いわゆる四本柱の江戸山車に近い。構造、カラクリ、寸法も大体「江戸型」と同じである。ただし、囃子座の上に破風屋根を載せ、欄間・破風など彫刻をほどこす、最下部の「せいご台」と呼ばれる部分より上は、廻り舞台となっており、中心の軸にして回転する仕掛けとなっており、四つ辻を廻り易くしたもので、川越の職人の智慧が生きている。なお、四つ辻での「曳っかわせ」は川越祭の見どころである。平成十三年は、十月二十日、二十一日に行われる。

「江戸型山車」の拡がり、関東周辺の都市の祭りに見られる。川越、佐原、栃木は勿論、八王子、青梅、熊谷、所沢、飯能、本

庄、越生、佐倉、高崎、桐生、渋川、藤沢、栃木烏町、天下祭りの原型を素朴に残している静岡県大須賀町など数限りない。

この天下祭りを復活しようとして、平成十年九月に、神田明神、山王の氏子が中心となり、「江戸ゆかりの山車フォーラム——蘇るか？天下祭り」と名をうち、江戸幕府開府四百年を目標に（2003年）、江戸から拡がった各都市の山車を江戸城の前に集合させ、天下祭の復活を試みている。昨年は、江戸東京博物館で、「走る大江戸、蘇る天下祭」と題し、会場溢れる関係者が神輿を担ぎ、大いに氣勢をあげて突っ走っている。

五 江戸の心を支えるもの——小江戸

今、なぜ「小江戸」かというと、東京があまりにも変わっていくなかで、江戸的なものが見えなくなっていく。日本橋はもともと江戸的でなければいけない所が、橋の上に高速道路が重くのしかかっている。心ある人は江戸はなくなってしまうと思う。心を失ってしまう東京砂漠をどうしたらよいかと思ふとき、人々の心をつつ江戸的なものに出会うのは「小江戸」しかなくなっている。しかし、小江戸らしい形を復元して、人々に見せていくことは必要だが、江戸の心というものを各都市の個性を生かした中で、小江戸とすることが課題です。川越は川越らしい心をどう伝えていくか、もう一度、川越に帰って応援しましょう。

素顔のインド(二)

英領植民地から独立への道程

佐々木 忠一(中32)

「IT先進国インドよりIT技術者、専門家に對してヴィザ(旅券の査証)の条件を緩和することとし、速やかに実施する」というラジオのニュースを耳にしつつ、「西インドの震災に救援の手を」と訴える声の方が大きく耳朶に響いている。(二月二日の日誌より)

IT(情報技術)に関しては先進国と言いつ、震災の実況報道ではブルドーザーが云々とその工具不足の故に生存者救出が難渋している有様である。一体インドの現状はどうなっているのでしょうかと、インドに関心が深まりつつあるわれわれは、やがて間もなく夥しいインドIT関連の技術者達の来日をどう迎えることであろうか。

どうしてインドIT産業が榮え、アメリカのシリコン・ヴァリーにインド人技術者が顯著な活動をつづけ、今や日本にも森首相のIT革命推進の提唱によりインドから多数のIT専門家が、ソフト帯同で招来されるという現象が生じたのであろうか。インドにIT産業が発展したいくつかの原因に、インド人の語学力と数理的才能があげられている。勿論この語学力とは英語を駆使する能力を指す。この点日本の英語教育に欠けたるものは

何かと言及されるのであるが、インドの四世紀にもわたるイギリスとの関わりに比べ、アメリカの統治が僅かな年数に過ぎない日本とでは、英語の普及の度合が問題にならない程で、とにかく英語はインドのヒンズー語と並んで公用語となっており、政府の公文書は勿論、使用言語が二百六十種、公用語十八種の国では、あらゆる分野で共通語となるのはヒンズー語のような方言ではなく、英語となるのは当然である。

近頃よく眼につくことは、「甦る文化的先進国インド」、「経済の繁栄が人間の存在に危機をもたらす状況が見られる今日、インドは再びその文化的貢献を世界に向つてなそうとしている」としてインドを評価する声である。たしかに情報技術に関しては、アメリカでは「IT大国の本当の実力——専門家は真の情報革命の到来を予測している」。日本では「復活のカギは国内産業のIT化」と言われている。(ニューズウィーク 一月三十一日号)日本の経済復興にインド人技術者達が力をかしてくれようと期待されるのも当然である。

そもそもイギリスがインドとの関わりを持つたのは、徳川江戸幕府の成立期に當る一六〇〇年、東インド会社を設立したのに始まり、六一年にはインド第二の大都市ボンベイを領有(主要な建築物は重厚なヴィクトリア様式を誇り、フォート地区東南端の波止場に

立つインド門はイギリス国王ジョージ五世の上陸地点を記念して建てられ今も偉容を放つ)、次いで七四年にはベンガル総督が置かれ、九三年に「ザミーンダリー制」(土地保有者への納税義務)が施行されている。

一八〇〇年代には、二三年ボンベイ最高法院設置、三三年ベンガル総督に代りインド総督が置かれ、五八年ムガル帝国滅亡に伴いイギリスの直接統治、七七年ヴィクトリア女王はインド皇帝兼任を宣言、八五年ボンベイで第一回国民会議開催、全領有が達成された。(現在インドの各都市には「クラブ」があるがこれはイギリス的社交クラブであつて、イギリス統治時代の神聖な遺産とされ、いずれも少なからずイギリス風の格式を保持している。)

八五年開催された第一回国民会議は一種の国会(コングレス)でイギリス人によつて作られたものであるが、これをもとに国民会議派が組織され、そして政党インド国民会議派(コングレス党)が成立した。インド独立を実現させたのがこの国民会議派であつた。

二〇世紀には、ベンガル分割反対運動を嚆矢として、独立までに会議派は四つの運動のヤマを組織し、非暴力、非協力による大衆運動という形態をもつて動員し、社会主義を基盤に独立建設へと推進していった。反英運動の中心組織は、大反乱のような武力蜂起の形態をとらず、大衆運動を怒濤の如く次から次

へと高潮させていった。この中心組織である会議派の指導者達は卓越した政治家、即ちガンディー、ネル、チャンドラ・ボース、パテールであつて、全員イギリスで教育を受け、弁護士資格や高級官僚試験に合格、対イギリスのみならず世界に通ずる一流の指導者であつた。このたびインド再訪で、インド人は親日的だと知つた。それは親しくなつたあるインドの知識人から、インド人は上記の四人の指導者を深く敬愛していると聞いたことによる。特にインド国民軍を組織、指揮し、シンガポールに自由インド政府を樹立したチャンドラ・ボースを支援したのは日本であつた。国民軍の武器は日本軍より供与されたものだと思つて話してくれたのを私は感慨深く聞いたことであつた。また私がネル首相(当時)とその令嬢に親しく接した時のことを話すと、彼は眼をまるくしてじつと私を見つめ、「ユー・アー・グレート」と感嘆されたが、その印象は忘れ難く思う。

四つの運動とは、一九二〇年前後の「不服従運動」、三〇年前後の「塩の行進」、四二年「インドから出ていけ」で、ベンガル運動に続いたもの、いずれもガンディー指導の下に行われた。こうしてインドは一九四七年に民族独立運動の成果としてできた国なのである。六〇年余にわたる民族運動の歴史は、多くの困難にも耐えてインドの国民統合に大きく働く力となり、アジア諸国のなかで、軍事

クーデターなど過激な争乱も起すことなく、民主主義的な政權交替が実現する基盤の保障ともなつてゐることを証している。

イギリスが比較的少ない行政執行力と軍事力で四百年にもわたつてインド亜大陸を植民地として運営できた理由の主たるものに、イギリスもインドも階級社会という共通性があつたと言われている。カーストの形成過程や約二千種に及ぶ規制が厳存することは前稿(一)で言及した。そしてインド独立後、一九四七年制度の憲法第一七条でカーストは廃絶されたことになつてゐる。しかし何と言つてもいわずば有史以来の因襲が一夜にして消滅すべくもなく、未だに根強く社会生活を律していることは事実で、「壮大な貧困」「世界最貧国」インドと「IT先進国」インドを知るためには、政治・経済事情とその社会生活について更にその実態を深く知るべきであらう。

(註記)

M・K・ガンジー (Mohandas K. Gandhi 1869-1948) 独立運動の指導者。西インドの小藩主国ポールバンダルの宰相の長男として生まれる。ロンドンで法律を修め、南アフリカで人種差別反対運動開始。一九一五年(四十六才)で帰国。国民会議派指導者となり、非暴力・不服従を中心とするサティヤーグラハ(真理の保持)運動で反英独立闘争を指導した。
ネルー (Jawaharlal Nehru 1889-1964)
チャンドラ・ボース (Subhas Chandra Bose 1894-1945)

青少年の嬉しい話

田中 隆(中45)

毎日のように青少年の犯罪が報道され、とくにテレビのワイドショーではどの局でも一斉にこれでもか、これでもかと言わんばかりに報道しておりうんざりしている。

少し前の話であるが医学部の女子学生がたまたま父親(医師・病理学者)と一緒に散歩中、人混みに倒れている人を発見、医師と医学生であることを話しすぐ対応することになったが、率先して蘇生術(人工呼吸・心マッサージ)を行つたのは娘の医学生であり、父親は基礎医学者なので唯々娘の言われるままに脈を診ているだけであつたのと、勿論このケースは感謝状をいただいており、父親は母校の臨床教育にびつくりしたとのことである。

次の話はいよいよ先日、五月十二日夜のこと、時間は丁度九時半、携帯ラジオを聴きながら駅を降りたところ巨人・中日戦のフィナーレ、ノーアウト満塁で絶体絶命のところをセンターフライから史上初の三重殺ゲームセットで巨人が勝ってしまった。急いで帰つてスポーツニュースを見ようと思ひながらいつもの近道、駐車場の入口に入ったところオートバイが倒れており、そこに老人がうずく

まっていた。通りがかりの青年二人が集まってきた。一人は一九番へ、一人は車に挟まれた足を引き出そうとしているところで、見たところ側頭部から出血しており意識は朦朧、勿論黙って通り過ぎるつもりはなく自分は外科医であることを告げ、救急車が来るまで対応することになった。患者はその内気が付いたようで、小便したい、帰る帰るなどと動き始め、私共の対応に文句を言い出す始末。ここまで私が診てしまうとこちらにも責任が発生する。約二十分、やっと救急車がきて必然的に私は身分を明かすことになったが、そのためもあってか最初から一生懸命対処していた青年達の名前も聴くこともなく、救急車は出発してしまった。残された二人に私から「ご苦勞様」ということになってしまった。そこで二人の名前、住所、電話番号を聴き、何か言ってきたらお二人のことをお伝えするということで別れてきた。何と青年の一人は母校理工学部 of 学生さんである。

翌朝、現場にはまだ血痕がはつきり残っており、オートバイも横に放置されていたが、二日後には車もなく、きれいになっていった。一応事件性はなく、砂利道で滑って転倒したことのようである。(そう言えばヘルメットは籠の中にあった) 何か消防署から言ってきたら私のことは別として二人の熱心な対応を話すつもりである。お二人の適切な対応、私が責任者であれば感謝状ものである。

なお良い話の追加として翌日五月十三日の同窓会総会での嬉しい話も紹介する。

総会議事が終わった後、母校水泳部の「男子シンクロ」をモデルにした映画(矢口史晴監督、竹中直人主演)「ウォーターボーイズ」の予告編が放映された。映画化することになったきっかけはテレビ朝日のニュースステーションでの紹介がきっかけであり、男子高校生の爽やかに、明るい姿を描いた青春映画であり、八月から九月にかけて東宝系で放映されるようである。

青少年の悪い話ばかりである今日、母校水泳部が素晴らしいということだけでなく、青春を謳歌している真面目な高校生も沢山いるのだということを是非共大々的に宣伝してもらいたい。

事務局より

今回の鐘つき堂の表紙は秋季散策会と岡部氏の「小江戸・川越と大江戸」の記事に因んで古地図を使ってみました。10月21日(日)には川越高校同窓会の秋季散策会が皇居を中心に在京初雁会の主催で開催されます。詳細につきましては後日連絡致しますのでその節は絶大なるご協力をお願い致します。

在京初雁会創立以来48年の長きにわたって月例会の会場として大変お世話になってきました銀座・ビルゼンが9月20日をもって閉店

することになりました。今日まで会のシンボルの存在であっただけに残念でなりません。そこで感謝の気持ちをこめて『ビルゼンお別れ会』を9月7日(金)12時より会費3千円で開催いたしますので是非ともご参加下さい。

左の写真は昭和27年NHK藤倉アナウンサーの出版記念会がビルゼンを貸し切って開催された。歌う笠置シズ子。右下に藤山一郎★。この翌年にビルゼンにて在京初雁会が発足した。(岡田)





在京初雁会(創立昭和28年)

会長 田中 隆

2002年(平成14年度)

新春号……………第72号

(2002年1月15日発行)

在京初雁会

企画・総務 矢部敬一郎

〒363-0027
桶川市川田谷 450-403
☎ 048-787-5033

広報・事務局 岡田 良平

〒175-0094
東京都板橋区成増 2-33-14
☎ 03-3977-1815 (自宅)
☎ 03-3977-1811 (会社)

賀正

春酒介壽

平成十四壬午歳元旦

在京初雁会田中



あけましておめでとうございます。

今年の干支は壬午みずのえうまであり壬は水星の兄、午は馬、水運は「方円の器に随うしたが」「水も漏さぬ」など、やりようによつてどうにでもなる年であります。午についてはわれわれの年代では軍馬、馬車馬のごとくなどあまり良いイメージはないのですが、干支の方では天を駆ける神聖な動物であり、古代信仰では生馬を神に献上した習わしがありました。これが平安末期になり神社に願いごとや願いがかなった時の御礼として馬の絵を画いた額を奉納するようになり現代の絵馬になっております。

川越高校同窓会秋季散策会

旧江戸城めぐり

2001.10.21

5年前の散策会（増上寺・愛宕山・NHK博物館・バルハラデン）に次いで今年の同窓会秋季散策会は10月21日（日）に在京初雁会の主催により皇居を中心に開催されました。

東京のほぼ中央に広がる皇居は、江戸幕府の將軍の居城だったところ。巨大な城郭は栄華を誇った当時の建物のほとんどが消失しているものの、石垣やお濠が面影を残している。現在、北の丸、本丸と旧二の丸が公園として一般公開され、天守台や松之大廊下跡などを見ることのできる。

皇居は徳川家が江戸城に入城してから幕末にいたるまで、將軍家の居城として利用されてきたところ。現在は西側の115万平方メートルが皇居として御所などが置かれている。東地区に江戸城の旧本丸、二の丸、三の丸、北の丸が公園として一般公開されている。

当日は天候に恵まれ、腕章をつけた在京初雁会の会員が旗をもつて迎える中各地から続々と集合地点である市ヶ谷駅前の外濠公園に集まって来ました。田中会長、高島敬忠先生には赤十字の腕章を付けて頂き散策会の救護に万全を期しました。岡田副会長のコースの説明、注意事項などを受け最初の目的地靖国神社に向かって出発。歩くこと七分左手に靖国神社が見えてくる。参拝後しばらく境内を

散策。靖国通りの歩道橋を渡って田安門にたどり着く。木造の重厚な門をくぐると左手に

巨大な日本武道館の八角形の建物が視界に飛び込んでくる。武道館前から休憩所を左に見て遊歩道を進む。道沿いの立木、広い芝生広場にはのんびりと日光浴を楽しむ人がいてのどかな風景だ。ここ北の丸公園で最初の休憩をとることにする。それぞれ御夫婦や仲間同志で園内のベンチへ。前回もお世話になった糟谷 熊さん（高3）がわざわざ所沢から沢山の名物所沢だんごを差し入れて頂き、全員で美味しく頂き、一息つきました。本当に有難うございました。休憩後北桔橋より皇居東御苑に入苑する。江戸時代には天守閣がある本丸から直接外部に通じる門としてもっとも重要な場所であったという。そのため濠が深く、石垣も高く積み上げられている。さらに当時は北桔橋も跳ね上げ式になっていたという。

北桔橋を渡り門を入ったところにある発券所で、入園票（これは出るときに返す）をもらう。正面には石垣の壁がそそり立つ。巨大な切石を積み上げたもので、ぐるりと左から回り込むと、巨大な石垣が往時には天守閣がそびえていた天守台であったことがわかる。慶長12年（1607）2代將軍秀忠の時代に天守台の上には地上51メートル、5層という日本最

大の天守閣が完成した。それから50年後、明暦3年（1655）の振り袖火事で、本丸や二の丸の御殿とともに焼失して以降、天守閣は再建されなかったという。天守台に立つと北に武道館、東に大手町のビル群などが見渡せる。すばらしい眺めだ。丁度その時皇后陛下がお車でお通りになられ何人かの会員は手を振ってお見送りすることが出来ました。

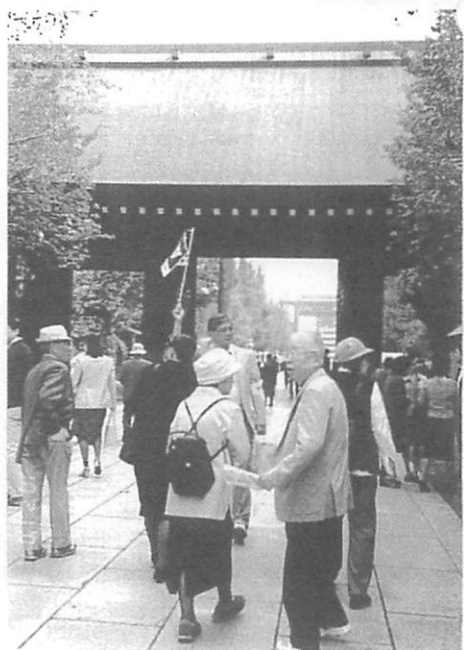
天守台の南側は本丸御殿があった場所、現在は樹木が囲み内側は植え込みと広い芝生広場がある。雑踏も聞こえず、ビル群もみえないのどかな空間だ。その中を歩いていくと、右手の松林の中に「松之大廊下跡」と書かれた小さな石碑がある。江戸城本丸の表御殿大広間から白書院に通じる大廊下で、襖絵に松が描かれていたのでこう呼ばれた。元禄14年（1701）3月に浅野内匠頭と吉良上野介の刃傷事件が起こったことで知られる。樹木に覆われた薄暗い中にある石碑を見て、万治2年（1659）に再建され、江戸時代の面影を残す富士見櫓へと巡る。

本丸休憩所から100メートルほどで旧二の丸へ通じる汐見坂。本丸側から坂を眺めると、当時は海が見えたという。今はビル群が杣形の石垣越しに望める。

汐見坂はかなりの急勾配で、自然と足早になりながら旧二の丸へ。二の丸には寛永7年（1630）3代將軍家光が小堀遠州に造らせた二の丸庭園がある。往時の苑池の名残をたよりに、回遊式庭園が近年復元された。池を中心にきれいに刈り込まれた生け垣が華やかだ。無事皇居東御苑の散策を終え全員大手門より退苑。ここで丁度半分の行程が終わった事

になったが誰一人疲れた様子はない。もし疲れた人がいたら地下鉄で内幸町までとお話したのですが殆どの会員は歩いて会場まで行くことになった。日比谷交差点から銀座方面に進むと日曜日のせいか人通りも多くなる。何度下見をしたこともあり、又、西 信行さん（高17）の奥さまが積極的に声をだして誘導してくれた活躍で全員が予定時刻に会場に到着することが出来た。前回はバルハラデンという名でしたが今回は今風に改装されその名もNBCクラブとなりました。田中会長の歓迎の挨拶の後、増島前会長の乾杯の音頭で懇親会が始まった。各地域、同期の人達がテーブルを囲み、田中会長、高島敬忠さん差し入れの美酒をいただき懇親の輪はいやがうえにも盛り上がった。佐々木忠一先輩もやや遅れてご夫妻で元気な姿を見せてくれました。渋谷同窓会会長をはじめ校内理事の栗原先生、花井先生、西野先生、伊藤事務局長には大変お世話になりました。

参加者全員に西田 守さん（高7）から宇宙衛星が撮影した都心の地図と岡部恒雄さん（高17）の『小江戸・川越と大江戸』の小冊子をお土産に差し上げました。紫句うの校歌を歌い懇親会も名残惜しいうちに閉会となりました。尚、今回の参加者は93名（会員69名、家族24名、校内理事3名）で、在京初雁会からは家族を含めて27名でした。参加会員は中卒32回から高卒21回までで平均年齢は68歳です。50歳以下の参加者はゼロです。もう少し若い人が参加する散策会になればと願っています。平成十四年度の散策会は和光初雁会が担当する予定のようです。（岡田）



在京初雁会発祥の地 ビルゼン例会場半世紀の幕を閉じる

在京初雁会創立の由来は、昭和27年当時東上線を利用して東京へ通勤している川中同窓生は相当多くいた。ある日東上線の車中で浅見倭夫氏(21)が菅間六郎氏(17)と会い、たまたま戦前在京川中の同窓矢部謙次郎氏(1)、矢部専之助氏(3)、喜多義之氏(6)ら同窓有志が日比谷の陶々亭で二年に一回位会合をされていたことを聞き、在京者と通勤者との同窓の懇親を深めるためそれを復活しようではないかということになり、坂田圭司氏(17)と相談し、当時銀座の交詢社一階でビルゼンというビヤホールを経営していた斉藤賢吉氏(11)を訪ねその趣旨を伝え会場の提供をお願いしたところ、斉藤氏は快諾され話はとんとん拍子に進み、同窓の人達を誘い合わせ相互の親睦を図る目的をもってここに在京初雁会が誕生することとなった。

毎月八日を例会日とし正午から二時間フランクフルトソーセージをつまみに生ビールを飲み、さすが銀座一流のカレーやピラフを廉価で頂きながら時に時局を語り、各分野で活躍する同窓の話を聞く例会がこの49年間何百回続いたことでしょう。

54年に新たに夕べの会が学士会館ではじまりビルゼンの例会も月一回となりましたが、

昨年の9月交詢社ビルの取壊しによりついに閉店。9月7日には佐々木、増島、松下、田中、矢部、日出間、荒井、柴崎、岡田の各氏が集まり、ビルゼンお別れ会を開催し、長年お世話になった斉藤社長(ご子息)に記念品を贈り、半世紀にわたり会員諸氏の思い出のビルゼン例会場の幕がおりました。(岡田)



記念品贈呈



ビルゼンお別れ会

賢治の花園を訪ねて

田中 隆

私はひょんなことから（とはいえ佐々木・増島両先輩の推薦により）在京初雁会の会長になった。そして自動的に母校同窓会の副会長となり、一昨年（平成十一年）の百周年記念式典・行事では組織委員会のメンバーとなり、数回にわたり委員会に出席することになった。

今回の賢治の花園のことについては記念誌編纂での話題になったことから特別に関心をもち、文学者でもない、また賢治の研究者でもない私が突然花巻に行きたくなった経緯と、幸いに医学部同窓会の公務で念願がかなったいきさつをお話する。

まえがきであるので文中で重複するが、登場する人達を先に紹介する。

◎佐藤隆房先生…川越中学7回生、明治四十二年卒（ちなみに私は四十五回、昭和二十一年卒、三十八年後輩である）、先生は千葉医専（現千葉大学）を卒業して共立花巻病院の設立に参加し院長となり、ここで宮澤賢治と出合うことになる。

◎佐藤 進先生…隆房先生のご子息、東北大学医学部専門部卒、隆房先生の後継者として総合花巻病院長、現理事長、医師会活動として岩手県医師会副会長、日本医師会代議員

等々。

◎宮澤清六氏…賢治の八歳年下の実弟で賢治の遺書を紹介し世に広めたのは、この人の努力である。有名な雨にもまけずの詩も清六氏が発見したものである。進先生とも親交があり、今回は非お会いしたいと考えていた。

◎高村光太郎…皆さんご存知の詩人、賢治、隆房先生との深い関わりは知らなかった。私はひとえに「風の又三郎」「雨にもまけず！」「二、三の童話だけの知識だけであったが、今回偶然の重なりで賢治の生涯を一日で経験することになった。唯々先輩、知人との出会いに感謝している。

一、初めて花巻を訪ねて

六月二十九日（金）私立医科大学同窓会連絡会が岩手医大の主催により花巻温泉で開催されることになり、安藤・河野副会長と出席した。折角の機会であるので宮澤賢治記念館と総合花巻病院中庭にある賢治の花園を訪ねたいと思い、私だけ朝の新幹線で行くことにした。

新花巻駅を降りて先ずびっくりしたことに、黒ネクタイ・喪服を着た人達が沢山下車、出口には宮澤清六氏の葬儀・告別式のバスが待っており、そこで初めて賢治の実弟清六氏の亡くなられたことを知った。花巻病院の中庭にある賢治の花園をわざわざ見に行くことにしたのは、病院長・理事長でもある佐藤進先生とはお互いに国際外科学会の会員であり、



佐藤隆房（左・川越中学7回卒業）と高村光太郎

数回海外にご一緒したことがあり、それだけでなく、その後東京都医師会、日本医師会の行事でお会いする機会が増えていた。なお先生は県医師会の副会長でもあり、学問だけでなく多方面で活躍されていることも判った。もう一つのご縁は、川越高校百周年記念誌の編纂にあたって宮澤賢治の主治医でもあった花巻共立病院（現総合花巻病院の前身）佐藤隆房院長のことを載せたいということが話題となり、ご子息が進先生であることを知り、その偶然にびっくりした。

以上のことから医師会での会の折り、百周

年記念誌のことについて、「新しい資料があったらお願いしたい」と伝えておいた。その後編集の方からも何の連絡もないため忘れていたところ、突然ご自分の書かれた「賢治の花園―花巻共立病院をめぐる光太郎・隆房―」の本が送られてきた。本は隆房先生と宮澤賢治の関係、それと詩人高村光太郎との関わりがくわしく書かれており、その中で主題である花園については、賢治が大正十三年四月、病院の中庭に造園した幻想曲風花壇を六十数年ぶりに進先生が復元した話であり、昔の資料、逸話がくわしく書かれており、実弟宮澤清六氏も序文に花壇の経緯を書かれている。考えてみると偶然とはいえ清六氏の葬儀の日に花巻の地を訪れることになり、しかもわざわざ賢治の花園を見に行くことになり、感慨深いまた忘れ得ぬ一日となった。

二、記念館と花園を訪ねて

駅の観光案内所で資料をいただき、同窓会連絡会までの約五時間のスケジュールを決めてみた。まず記念館まで行き、そこから何だか意味の判らないイーハトーブ館、童話村を徒歩で観ることにした。記念館では賢治の多彩な業績、とくに環境・宇宙・信仰（何と彼は熱心な法華經の信者であった）芸術・農業などなど文学以外のことを知る事が出来た。

次いで南斜花壇のある坂道を降りてイーハトーブ館へ、これは賢治研究者、愛好者の交流施設であり記念品、著書、童話などを販売

していた。孫へのお土産としてセロ弾きのゴーシュ、猫の事務所を買ってきた。賢治の童話は大人が読んでも為になり、現代の倫理、修身教育書にもなる名著である。隣接する賢治童話村も童話の世界を再現したところであり、これら三つの施設だけでも再度訪問する価値がある。会が始まるまでのあと三時間、有効に使うべく地元のタクシーを呼ぶことにした。これまた運が良く運転手のKさんは花巻の生まれでしかも賢治研究者でもあり、五時頃までに花巻温泉佳松園に行くこと、それまでに賢治に関わる施設を見たいこと、その中に花巻病院の花壇も見たいと付け加えた。するとKさんはびっくりして「お客さんで賢治の花園を見たいという人は初めてだが」「病院の佐藤先生は友人であり、たまたま会があつて花巻に来たが、清六氏の葬儀とぶつかり佐藤院長に連絡しないで来てよかつたと思つている」「いや実は佐藤先生は葬儀がおわつた後、故人を忍ぶ会を主催されるので一日中大変なはず」「病院は身分を明かして一寸だけ見せてもらえれば……」「それなら帰りに忍ぶ会の会場のホテルに寄つてみましょう」という事ですべてをまかせることにした。まずイギリス海岸へ、ここは花巻農業学校で教諭を務めていた頃、北上川川畔を歩き、その地形がドーヴァーの海岸に似ていることから命名したとのこと。次に農業高校とその校内に移築した羅須地人協会（ここは賢治が

農業指導を行ったところ）を見た後、花巻病院に向かった。病院はJR花巻駅の近くで市役所、花巻城跡に接した中心街である。

賢治が大正十三年に造つた花壇は木造病棟の中庭にあつて、中央部分の幻想曲風花壇は菱形のレンガで縁取られ、中に四つの半円形の枠を配置、四隅にはエプロン型の花壇を造つたもので、当時はファンタジー花壇と名付け、隆房先生が見つめている写真が残つている。今回進先生が再建したのは平成二年八月で、原形の花壇写真及び賢治記念館の南斜花壇を参考に造りあげたもので、花壇の新しい名前は清六さんの発案でベートーベンのファンタジー花壇 (Fantasia of Beethoven) と命名され、植えた花も原案に近いものという考えで現在も病舎の憩いの場となっている。

最後に有名な、雨ニモマケズの詩碑と賢治・高村光太郎の遺品、出版物を展示している桜地人館に行くことになり、運転手Kさんは四時に閉館のところを館長に電話をかけ特別に見せていただいた。

館長の説明を受け更にびっくりしたことは、昭和四十九年に隆房先生が開設した私設博物館であり、現在進先生が管理運営されているとのこと。そこで館長はわざわざ忍ぶ会に電話を入れ、私の来ていることを告げ、私も御礼を申し上げることが出来た。

近くにある賢治の詩碑は予め説明を受けて

いたことと、賢治の花園にもその「エピソード」がくわしく書かれているので、すべて確認しながら見る事が出来た。

三、同窓会連絡会での講演

正式な名称は、第三十二回全国私立医科大学同窓会連絡会東部会と言ひ、今回は岩手医科大学が主催、東部会ということで、北は岩手医大、南は神奈川県東海、北里、聖マリアンナ大学と十八医科大学同窓会の会で、毎回共通した話題を協議しているが、今回は新卒医師の動向についての話し合いがあった。

岩手医科大学の主催ということで会議とは直接関係のない講演があり、講師は同校の教養部文学科教授黒沢勉先生の「宮澤賢治における病い」ということで、私にとってはこの記念すべき日の締め括りとして拝聴した。医師の会合であるので病者賢治の心境が紹介された。

賢治の「岩手病院」なる詩は入院している患者の不安な気持ちと、けなげに明るく働いている看護婦に対する思慕と医師への励ましの詩であり、これは岩手医大（昭和三年当時

岩手医専）の開校の信念「医術は済生（命を救う）の根本」困窮に喘ぐ人々を救いたいとの願いに相通じるものがあつたとのこと。

雨ニモマケズの詩の本当の意味は、死を自覚した者の心境を表現したものであり、また人々の苦しみを救う仏教（彼の信仰した法華経）の教えを表現したもので、その意味で隆房先生が「野原ノ松ノ林……」の部分を詩碑に選択した意味が理解出来る。

また「S博士に：眼にて言ふ」なる詩も患者と医師との信頼関係を素直にのべたもので、S博士（佐藤博士）に対し、

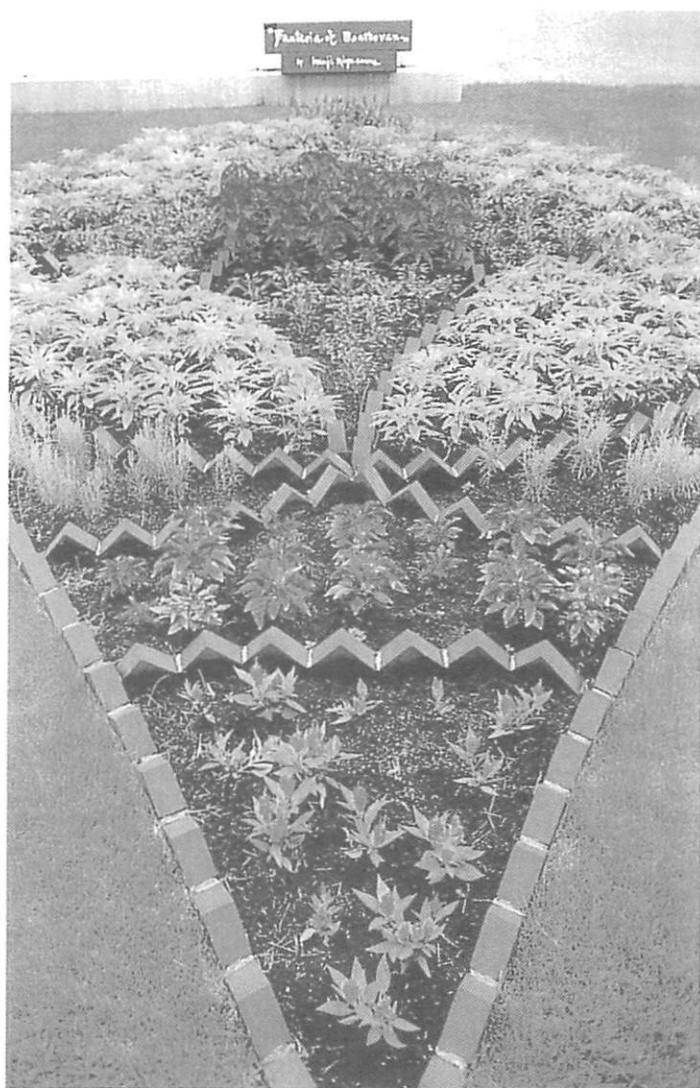
「花壇を二年いじつただけの関係でこんなに本気にみてくださった。これで死んでもここに文句がありません」と述べており、このことは今の医療の真髄に相通じるものであると思つた。

いずれにしても賢治は三十七才で、また同じような境遇の啄木も二十八で結核で亡くなつており、当時不治の病、肺病を患つたことで不朽の文学者が生まれたことでもあり、医学の進歩した現代では、啄木も賢治も出てこないと思われる。

まとめ

一、詩碑建立のエピソード

賢治の花園にも書かれているが、建立の申出、詩の内容は雨ニモマケズの後半部分、野原ノ松ノ林……とすること、高村光太郎先生に揮毫をお願いすること等すべて隆房先生の



賢治の花園・ファンタジー花壇

発案によるものであり、昭和十一年十一月二十一日建立式典の映画（ビデオ）を見せていただいた。建てる前から原文も判りにくいこともあつてか、書いてもらったのを見て脱字と誤字があつたが三年目の命日までに間に合わせることに、再度揮毫していただくのは失礼との意見があり、そのまま刻んでしまったとのこと、その後光太郎先生と隆房先生の再度の縁があり花巻に疎開され、何回かにわたって加筆訂正を相談されたが最終的に昭和二十一年十一月三日、石碑に直接加筆、追刻されたとのこと、その加筆部分は野原ノ松ノ林：行ツテソノ……南ニ死ニソウナアレバ行ツテも加筆、デクノボウをボーと書き替えてあり、このことがかえつて面白く、また記憶に残るエピソードである。

二、百周年記念誌での紹介記事

隆房先生は明治二十三年那須温泉湯本の旅館の後継ぎとして生まれ、地元の大田原中学三年終了後、父親の命令で川越中学に転校、佐久間旅館（市内松江町にある老舗旅館）の当主次郎氏にあずけられ旅館業を修業させられたが、親の意に反し医学への志が強くなり、千葉医専（現千葉大学医学部）に入学してしまつたとのこと。花巻には共立花巻病院が設立された時、院長兼外科部長として迎えられ、その後病院の発展、看護学校の設立、県医師会長、日本医師会議長などを務め、昭和五十六年五月二一日永眠、享年九十、（以下略）と

のことであり、宮澤賢治、高村光太郎との交友だけでなく、医療行政の祖でもあることが判つた。

三、宮澤清六氏の死去によせて

長年行つてみたいと思つていた花巻に念願かなつて着いたとたん清六氏の葬儀、会いたいと思つていた人が死去、人生にはまさかということもおこることを痛感した。黒沢教授の講演でも、清六氏の業績として賢治の遺品を整理、紹介したことが現在の宮澤文学、宮澤芸術などの基盤となつてゐることをくわしく話され、複製ではあるが雨ニモマケズが記入されている手帳を見せていただいた。

今回紹介した花巻病院のファンタジー花壇、賢治記念館に移設した南斜花壇、花巻温泉ばら園にある賢治の日時計花壇等も清六氏が指導されたようであり、賢治の心象世界を現代に具現化された人であり、佐藤先生が主催された清六氏の忍ぶ会でもそのことを皆で語り合われたことと思う

事務局だより

会員の皆様には良い新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年はアメリカの同時多発テロによるアフガンの紛争など、想像を越えた事件がおこりました。国内でも構造改革を掲げて発足した

小泉内閣も、経済の悪化に歯止めがかからず失業者が増すばかりです。

今日7日は春の七草で正月のご馳走で疲れた胃腸に七草がゆは何よりで、体内が清められるかのようなやすらぎを感じます。それにしては秋の七草が美的で風流なのにくらべると、春の七草の何と実用的なことか。今年も恒例になつてゐる大晦日からの伊勢参りに行ってきました。例年になく参拝客が少なく、寒さばかりが身に凍みました。新聞等による全国的風潮で10年ぶりの減少とか。

昨秋の同窓会秋季散策会は参加者93名という大勢の参加者で開催され、主催する在京初雁会からもご夫人を含め27名の参加を得て盛大に無事終了いたしました。参加した各地の会員から何通もの礼状を頂きました。ご協力有難うございました。11月に予定していた夕べの会が会場や諸般の事情都合により10月の散策会をもつて変えさせていただきますことを悪しからずご了承下さい。

13年度の行事としましては3月の夕べの会が残っておりますので、詳細が決まり次第連絡致します。在京初雁会も来年3月で五十周年を迎えます。これを機に大きく変わらねばならない転換期にきております。皆様からのご意見、ご提案などお聞かせ下さい。

今年一年良い年でありますように。（岡田）

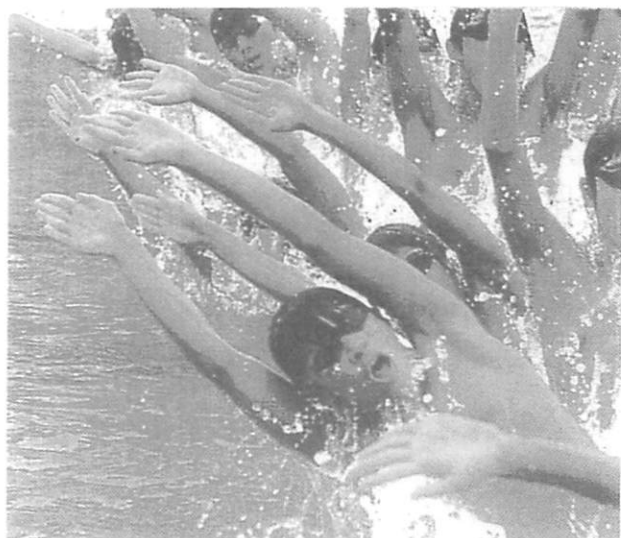


写真 ダイナミックな男子シンクロ
(百周年記念誌より転載)



在京初雁会(創立昭和28年)

会長 田中 隆

2002年(平成14年度)

夏号.....第73号

(2002年8月10日発行)

残暑お見舞い申し上げます

会長 田中 隆

本年度の総会は新しい試みとして去る6月30日に両国の江戸東京博物館に於いて開催されました。

今回の計画にあたっては私の知人で博物館の井波良子参与と前副館長の岡部恒雄氏(高15)にお世話になり、館内のレストランにて総会を開催し決算報告、事業報告と明年の在京初雁会創立五十周年事業についてのご意見を伺い、また私ども現スタッフがあと一年頑張ることとし、次期は若手スタッフにお願ひすることを提案し了解されました。

懇親会終了後、常設館の江戸時代コーナーでの解説付き見学会までご配慮を頂きいっしょに楽しく有意義な会でありました。

男女共学反対意見として ウォーターボーイズ見聞記

母校の水泳部をモデルにした映画「ウォーターボーイズ」が話題になりましたが、母校を意識しながら観ていると一層面白く、とくに戦時中勤労動員で明け暮れた時代を思い出し、今の高校生生活が唯々羨ましく主演の男女高校生役の爽やかなロマンスが特に羨ましく感じました。

映画のクライマックスは学園祭の前夜、ボヤ騒ぎがあり、消防車が来てプールの水を使ってしまい、急遽女子高のプールを使用することになり、熱狂した女子学生の前で素晴らしいシンクロの演技を見せるフィナーレでは何故か涙が出るほど感激した。映画が終わって明るくなつて周りを見ると、年寄りには私だけで半分以上が女子学生で満席となつておりびっくり、話の種にしたいと思つて受付でプログラムを買おうと思つたが何と売り切れ、追加印刷中とのこと女子学生が皆買つて行つてしまったとのこと、またびっくり。

春の同窓会総会でも議題になつたことですが、最近県議会でも旧制中学時代からの県立高校を男女共学にしようという案が出たとのこと、設備の改修その他反対意見もあった由、また私立の有名進学校はいずれも男子校、女子校であり映画のようにお互いに特長を活かし、良い意味での交流を図つていけば無理に共学にすることは無いと思つている。

(田中)

心の懸け橋

菅間 昭（高6）

さくら さくら

弥生の空は 見渡す限り

霞か雲か 匂いぞ出する

いざや いざや 見に行かん

美しく澄んだ子どもたちの歌声に迎えられて、南西アジア、アラブ湾岸諸国から来日した八人の新聞記者は、広島市立白島小学校の音楽室の一隅に、感動した面持ちで立ち並びました。お返しに一曲どうですかと促すと、インドから来た二人の記者が正面に進み出て、ヒンディー語の民謡を太鼓の伴奏を付けながら朗々と歌ってくれました。

音楽に国境なし、初めて会った外国人記者と広島の小中学生との間に、ほのぼのとした心の交流が生まれた瞬間でした。私が四年前から、団法人フォーリン・プレスセンターという外務省関係の組織で、外国人記者に対する研修プログラムを担当して以来、最も印象に残る場面の一つです。

この企ては、主として日本に特派員を常駐さ

せていない国々から、有望な若手の記者をある期間招き、専門家による講義、企業やマスコミ関係、あるいは教育・研究施設訪問などを通じて、日本についての理解を深め、将来日本に関心を持って記者活動をしてもらおうという目的で、フォーリン・プレスセンターが昭和五十六年から続けてきているものです。私自身NHK関係の勤めを辞めて、平成十年にこの仕事に携わるようになって以来、アジア、アフリカ、中南米など六十四カ国から二百八十余りの記者を受け入れ、様々な得難い体験をしています。

広島の小学校でインド民謡を歌ってくれた中の一人、ラグビール・スリニバサン君は今年三十五歳、インド南部のチェンナイ（旧マドラス）で、経済専門の記者として活躍しています。ラグビール君は研修プログラムを終えて帰国するとすぐに、「インドで作る日本のクルマ」、「ヒロシマの悲劇」、「大相撲の魅力」ほかシリーズで六本の記事を書いてくれました。その後も、こちらから教育雑誌への寄稿を依頼したり、一昨年生まれた彼の長男に誕生祝を贈ってあげたりするなど、きめ細かい交流が続いています。

この五月十九日、私の七十回目の誕生日に、例年と同じく彼からメールが届きました。「三年前、東京のマハラジャ・レストランで、八人揃って貴方にお祝いの言葉を述べたことを、つい昨

日のことのように思い出します。近くチェンナイで刊行される日本との国交樹立五十周年記念誌に、あの時松山で二人暮らしのご夫婦に歓迎されたホームステイにヒントを得て、「高齢化進む日本の社会」という短い文章を書きました。雑誌ができたら送りますので読んでください」。

各地の国際交流組織の協力を得て実施しているホームステイは、普通ではなかなか得られない一般の家庭生活に触れる機会として、最も喜ばれているプログラムの一つです。まったく無償のボランティア的な協力で恐縮すると、「ホストファミリーの方も十分楽しんでいるのですからご心配なく。そちらからのお客様はきちんとした方たちばかりなので、争ってお引き受けしているような状態です」などといった嬉しい返事が返って来たりします。

ホームステイはお願いするだけでなく、自分で引き受けることもあり、四年間で東南アジアの記者十一人を横浜の我が家に迎えています。外国語は一切ダメという家内ともども最初はかなり緊張しましたが、自然体が一番いいのだというコツを覚えてからは随分と楽になりました。最も成功したのは三年前タイの女性記者二人を受け入れたケースでしたが、問題は言葉でした。三十そこそこの若い二人と六十歳の主婦、育った環境は違い年は離れていても女性同士、家族

のことから、おしゃれ、お料理、恋愛、結婚と話が尽きることがありません。かたわらに座った俄か通訳は、辞書を引き引き悪戦苦闘、ひたすら就寝の時間が訪れるのを待ちわびるのでした。

初めて日本を訪れる記者たちの新鮮な印象を、出来るだけ直接聞きたいというのが、受け入れ側として常に抱く願望です。昨年春中国から迎えた一行の中に、珍しく日本語の堪能なラジオ局のアナウンサーがいました。戦争当時の忌まわしい思い出を胸に刻んでのこちらの問いかけに対して、二十五歳の若者の答はきわめて率直なものでした。「私たち若い世代は、日本との過去の不幸な関係にはあまりこだわりの持っていない。今回の訪問で、日本が先進国として発展している姿を目の当たりにし、また日本人が勤勉で友好的であることに感銘を受けました。帰国したら、日本で見たたり聞いたことを多くの人にきちんと伝えたいと思います」。

二、三週間という短い滞在でも、記者達は職業柄初めて見聞する様々な物事の特徴をよく掴んでいきます。「日本人は勤勉実直で規則正しく行動しますが、あまりにもきちんとしてすぎて応用性に欠けるところがあるようです。悲観的で緊張しすぎているように見えます。テレビはうるさすぎるし、社会に対する責任感に欠けていると思います。空間の使い方が非常に上手です。大

きな都市でも小さなレストランでも、整理整頓の工夫が行き届いています。交通網が発達している上に秩序がよく守られています。人々が自主的に交通規則を守っているのは、我が国が大いに学ぶべき点だと思います」。三年前北京から来た三十六歳の経済記者たちが、こちらの求めに応じて書き残していた言葉です。

瀋陽から参加した女性記者は、送別会の席上で涙をこぼしながらこう言いました。「これまで三十数年間、日本人は悪いことばかりする人種だと教えられそう思ってきました。この度の研修で私が得た最大の収穫は、過去の戦争に結び付けてこれまで自分が持っていた日本や日本人に対する考え方が、まったく覆されたことです」。

一人の新聞記者や放送関係者に日本の姿を正しく理解してもらうことができれば、それは多くの人たちに伝えられる可能性を持つことになります。私たちの仕事の成果は、道路や橋やダムの建設のように目に見えるものではなく、お互いの心と心の結び付きの上に成り立つものなのです。一步一步時間をかけて取り組む必要があります。これからの将来ある外国のジャーナリストとの間に、そうした心の懸け橋を一本でも多く渡すべく努力を重ねて行きたいと思っています。

私の浅草・川越 3月10日

小熊 忠三郎（高3）

6月30日は1カ月にわたり世界中を熱狂させたサッカーW杯2002年の最終決定戦ドイツ対ブラジルが、わが家にほど近くの横浜国際総合競技場で行われ、ブラジルの優勝で幕を閉じた日である。

当日、「小江戸」と呼ばれる川越中学・高校出身者の在京初雁会総会が江戸東京博物館（両国）で開催された。懇親会にひきつづき初めて広い館内を見学する機会に恵まれた。「江戸から東京まで400年の歴史と文化」をうたいものになっているだけに興味津々。私にとっては江戸と川越を結ぶ水上交通要路であった隅田川―新河岸川ラインによる物資交流で城下町川越が繁栄した様子が展示物をつうじよく理解できた。

更に、興味深く強烈だったのは浅草で生まれ過ごした幼少時代期の昭和初期、特に学童集団疎開と昭和20年3月10日の東京大空襲の展示にはくぎ付けになった。それは当時の浅草区にあった山谷堀国民学校生の集団疎開先、宮城県玉造郡川渡温泉（現鳴子町）へ何十年振りに皆で訪れ帰京したばかりであったからでもある。昭和7年度生まれの6年生にとっては「古稀」の祝い

を兼ねてのものであった。

昭和52年(1977)3月5日付け読売新聞都民版は東京大空襲33回忌の特集を行った。そのトップに「44才の小学校卒業式、胸はずませて58人——散り散りのさびしさ今消えて」という記事で、隅田川・桜橋畔に建つ母校山谷堀の我々の卒業式をとりあげている。1970年代始めKDDのニューヨーク駐在員のころ、日本から送られてくる新聞紙上で毎年3月になると「00年ぶりの卒業式」といった記事をみかける度に、やつてもらえなかった卒業式のことを気にかかり、小学校の卒業証書をもたない寂しさを感じていた……。

戦況が悪化し米軍の日本本土爆撃が危惧されるようになった昭和19年6月当時の政府は「学童疎開促進要綱」を閣議決定し、学童(小学6年生以下3年生まで)の縁故疎開が勧められたが、「江戸っ子」を誇る縁故先のない者については「集団疎開」が実施されることになった。両親が新潟県出身で親戚の多いわが家では母の猛反対にもかかわらず、兄が従軍していたこともあったか頑強な父の「次代をになう子供は学童疎開だ!」の一言で誰も見知らぬ東北の片田舎の鳴子町での集団疎開生活に参加させられた。

同年8月暑い真夏の中、山形県境の奥深い湯治場がある陸羽東線川渡駅に特別列車で到着し

た。親元を遠く離れ、辛い苦しい集団生活、この間の事は筆舌につくし難い。7か月たつてやつと6年生だけが進学のため帰京することとなり両親や姉と再会できた時の嬉しさはいまだに忘れられない。小荷物に着き、虱だらけの衣類の煮沸がすみホット皆が落ち着いた3日目。強い風の吹く3月9日の深夜「空の要塞B29」の大編隊による初の無差別焼夷弾攻撃に遭遇した。私も一家は隅田公園内の小さい粗末な簡易防空壕に入り、2時間余りにわたる強風下の戦火をしのぎ、最後は酸欠あわやの状態にまでいたつたが、辛うじて全員が生き延びることができた。「ああ生きられたんだ」、この時ほど生の喜びを実感したことはない。死者7万6千人の中にはともに疎開・帰京した何人かの幼い同志の命があった……。

川越高校3期生の還暦文集「おーい楠の木よ」には私と同じように東京大空襲を体験した同窓生の寄稿文が数編あり、その凄まじさを怨念をもつて書きつらねている。

大空襲後の東京下町は一面の過疎地域となつたため、終戦後山谷堀小学校は建物を残し廃校となつてしまった。また「竹馬の友」もちりじりになり音信不通で同窓会も長い間開けなかった。私もニューヨークから帰国後、遅ればせながらの卒業式を呼びかけ、皆の賛同をうけることが

できたが、廃校となつた学校の卒業証書の発行者名・公印をどうするかが問題になった。地元区会議員にも働きかけた結果、幸いなことに東京都台東区教育委員会名で発行されることとなった。「昭和20年3月10日山谷堀国民学校初等科の課程を終了したことを証する」と証書の中に卒業年次と学校名が入り教育委員会名と公印付きの異例の卒業証書の取り計らいをしてくれた関係者の暖かい配慮があった。

卒業式は昭和52年3月13日都立台東商業高校に転身した旧校舎の講堂で、物故者の冥福を祈る黙禱をはじめに昔の小学校そのままでの雰囲気なかで、77才になられた当時の教頭先生より一人ずつ証書を受け取った。校歌は全員がそらんじていた。

♪古人の言聞し 墨田河原にほど近く 待乳の山の春秋に 恵まれ健てし学舎は
その名もゆかし 山谷堀♪

私は小く大学の母校の校歌が大好きで、カラオケではアカペラで歌うことがよくある。川越高校の伝統的な古風の校歌も味がある。♪秩父の嶺のゆるぎなく人間の水の末長し♪大学の♪都の西北♪はいうまでもない。浅草と川越に長い間住んだせいか「隅田川」「入間川」と「川」の入った両校の校歌は素晴らしい。その点、早稲田は「杜」だけだ。

戦争中のどんな国民学校でも、ふつうなら戦後はまた小学校と名前が元に戻って卒業生を出し続けているはずだが、明治42年に創立された山谷堀校については我々が最後で、あとは一人も卒業生を出していない。その点、明治32年創立の川中・川高は私の高校在学中に50周年を、また1999年には創立百周年を迎え、校歌のとおり「未長く」同慶のいたりだ。最近ほ男子・女子だけの埼玉県立の高校は「差別をなくす」とやらお上の意向で男女共学にするとかの動きがあるやに聞くが、お茶の水女子大学に男を入れるというのと同じですっきりしない。

前記の疎開先川渡温泉への「センチメンタル・ジャーニー」は唯一元氣な女性恩師をかこみ63年生までの男女16名が参加した。歴史と伝統を誇る湯元「真澄の湯」の藤島旅館、湯治場だった昔の面影を今も伝えてくれ、我々の寝泊まりした部屋が、そのまま湯治客用に使われていたのは、川高3期の同窓宮崎敏昭君から聞いてはいたものの、實際を目の前にし驚きでもあり嬉しいことでもあった。仙台の奥座敷といわれる鳴子地区の温泉旅館は戦後様替わりしたため、戦時中に疎開した他校の人達から羨ましがられている。旅館主人の取り計らいで皆で苦しい辛い農作業をした軍馬補充部隊を訪れた。現在は東北大学農学部の実験センターになつてい

たが、昔のままの古い馬舎がそのまま残っていたのが懐かしかった。当時、年に一回たつ村の馬市を見たことがあったが、手塩にかけた愛馬を安い代金で軍部に引き渡す農家の人達の涙、人身売買を強いられているようだと言ふ幼な心に思つたものである。

帰りに旅館の主人からいただいた記念品の中に鳴子観光協会発行(1997年)の鳴子ものごとたりシリーズの一つ「子供時代に戦争があつた。我々以上に地元の方々の大変な苦労があつたことを初めて知ることが出来た。学童疎開がど

んなものであつたのかを以下冊子のタイトルから列記させていただこう。「見知らぬ町、鳴子での疎開生活。それは忘れられない戦争の記憶になつた」「昭和19年夏、子供たちは特別列車でやつてきた」「食糧確保に奔走した町の人々」「きびしさ、寒さ、そしてシラミの苦労」「いつもおなかがいっぱい」「昭和20年3月6年生は帰京した」「家を焼かれ、家族を失つた子供たち」「町の人々が子供たちを見守つた」「8月15日を過ぎても疎開は終らなかつた」「子供時代に知つた戦争のつらさ・悲しさ」「いまも心に生き続ける第二のふるさと鳴子」。

「次の世を 背負うべき身ぞ たくましく
正しく伸びよ 里に移りて」

この歌は皇后陛下が昭和19年12月23日戦時中日光に疎開された皇太子殿下の誕生日に際し、親の膝元を離れ暮らす日本中の疎開学童を激励するために詠まれたもので、御歌とともにお菓子が下賜された。今では殆ど見かけない楕円形をしたビスケット数枚が「御賜」と印刷された白い袋に入っていた。江戸東京博物館でこの白い袋を見た瞬間、忘れていた何ともいえない甘い味が舌先に感じられ、世の中にはこんな美味しい物があつたのか、という思いがよみがえつた。

御歌にある「次の世を」「背負つた」我々はそれぞれ分野で「たくましく」活躍し、戦後の日本を世界一流の経済大国にまでのしあげたと自負している。

昔、東上線福岡駅前のかつま芋畑に多数の木柱アンテナが林立していたのを覚えておられることと思うが、その「福岡無線」の本社であるKDDに入り、国際電報、国際テレックス、国際電話のプロセスをつうじ「貿易立国」の裏方を担い、全世界の電話をダイヤルで、という夢はかなつた。これも浅草・鳴子・川越という「里」に住んで「正しく伸びるよう」指導、鞭撻、厚情をいただいた多くの先輩、同僚、後輩それに家族のおかげと感謝している。

(7、19、'02記)

上福岡物語

純農村から東京ベッタタウンへ
先輩生田巖氏の死を偲びつつ

日出間哲郎（高2）

一、上福岡市の生い立ち

明治22年中福岡、福岡新田、川崎、駒林の4ヶ村が合併して福岡村となり、昭和35年11月に町制を施行、昭和47年11月市制をしいて上福岡市となった。第2次大戦の頃までは米、野菜作りを生業とする純農村であった。

二、住宅都市への道のり

1 江戸時代から明治末年まで80年間続いた船問屋（福田屋）10代目星野仙蔵衆議院議員として政治家の道を歩む。

江戸時代から大正末期まで三百年間にわたって江戸の花川戸（浅草）と川越地方を結ぶ物資輸送の重要な役割を果たした新河岸川の舟運、寛永15年の川越大火で類焼した仙波東照宮（喜多院境内）を再建するため、新河岸川を利用して資材を江戸から運んだのはじまりという。本格的な舟運は江戸幕府の老中松平伊豆守信綱が川筋に次々と河岸が開かれ福田屋が福岡河岸で船問屋として営業をはじめ、現在、木造3階建の家があるこの家は明治から大正のはじめにかけて経済と精神文化に多大の功績があった星

野仙蔵が居住した家（市指定文化財）で、さらに江戸屋、吉野屋といった三軒の舟問屋、対岸には橋本屋の醤油醸造所があった（橋本屋は高2の橋本日出松家と関連があるのではないかと思う）

2 水槽塔は知っている 火工廠

（東京第一陸軍造兵廠川越製造所）

農民の激しい建設反対運動を抑えて陸軍が旧上福岡村に建設し、昭和12年から終戦まで主に小銃、機関砲などの弾薬を製造した、3つの工場からなる県内有数の規模の軍需施設であった。戦争が激しくなるにつれて周囲の住民や学生が動員され7千人から8千人が作業に従事した。

川越中学学徒動員の尊い犠牲となった

生田 巖さんの死……

当時勤労動員学徒として火工廠に配属された私達1年生、先輩3年生、川越高女、川越工業、山村女、星野女、秩父高女、小川高女、川越商業などが主な学校だと記憶しております。

生田さんは昭和19年11月22日火薬の計量作業に就業中、爆発事故に逢い全身大火傷を負い翌日15歳の若い命を閉じたのである。生田さんは希望していた陸軍予科士官学校に入学する事になっていった秀才であり、父は「わが一人息子に贈った予科士官学校入学記念の軍刀が、病室で冷たくなった巖さんのベットの前に置かれ、父親が涙していた姿は、人々の胸を締めつけるものがあつた」と担当の看護婦さんが言っていた

という。

三、むすび

戦後、地元では火工廠跡地の平和活用運動が起き、市役所、学校、工場（日本無線、新日本無線、大日本印刷などが建設され、また半分は住宅供給政策として昭和33年から36年にかけて「霞ヶ丘」「上野台」と県下随一の2つの大型団地を建設し、生活や村の景観に大きな影響を与えた。

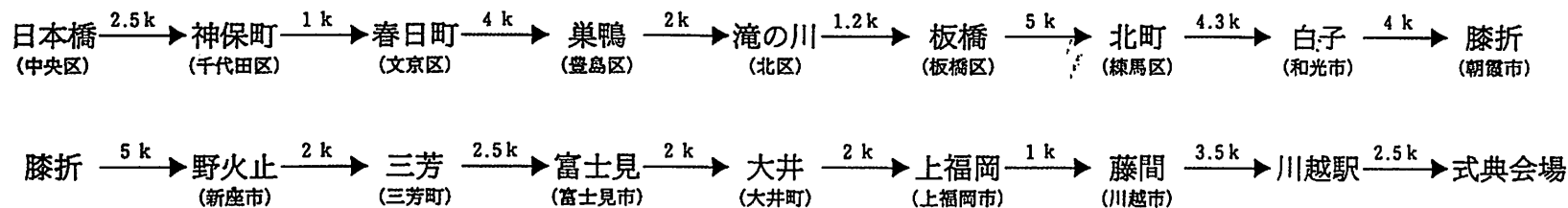
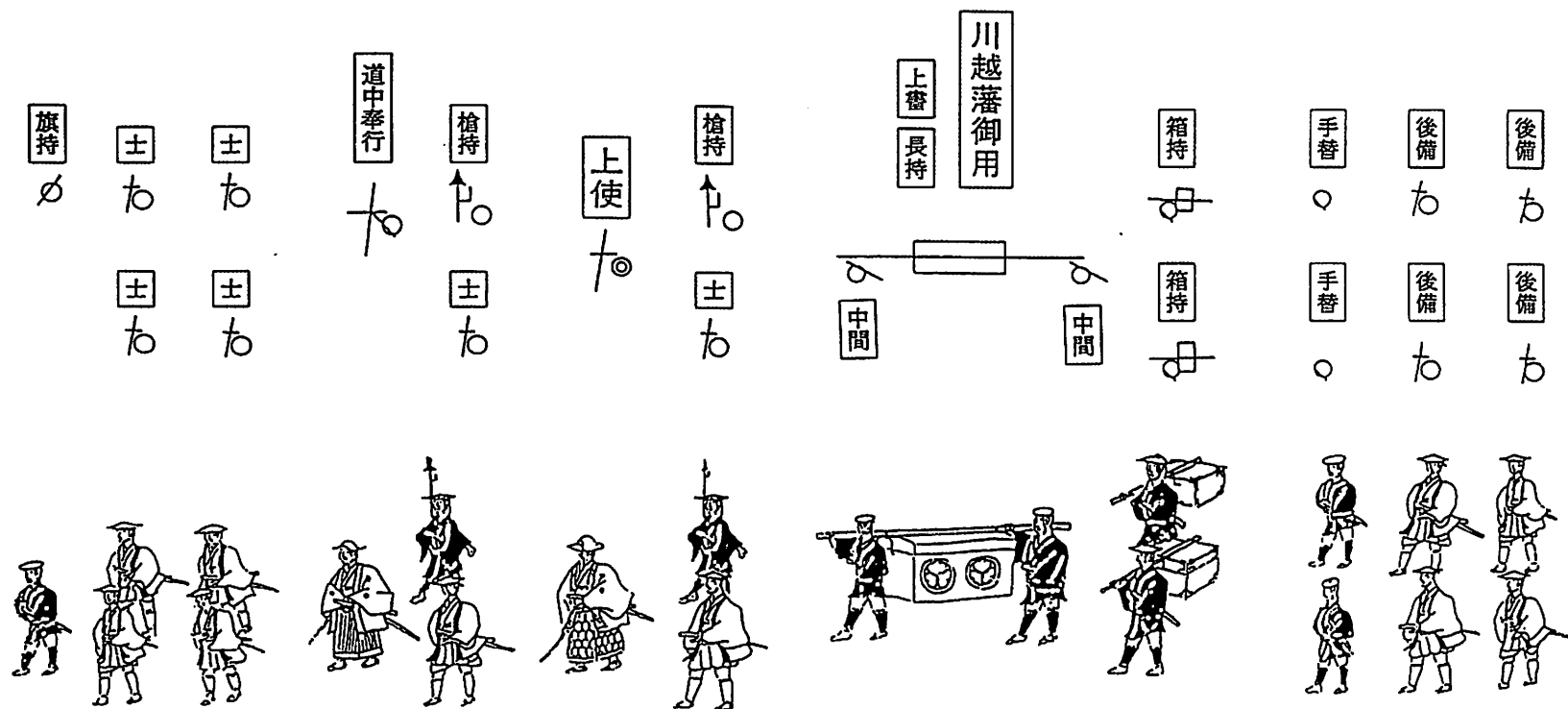
福岡河岸舟運から大正3年の東武東上線の開通で東京との結びつきが強くなった上福岡には、昭和2年に無線福岡受信所が開設され、林立する無線塔は福岡村のシンボルとなった。社宅の整備も進み従業員は福岡村に転入してきた。

その後、昭和12年には陸軍の施設であった火工廠ができ、官舎や営団住宅が相次いで建設され、人口も次第に増えていき、昭和33年から36年にかけて大型団地を建設し、人口の急増、商店の急増、公共施設の整備等々福岡村は農村から都市型へと変容し、東京のベッタタウンとして発展してきた。

私は福岡村で生まれ、育ち、小学校入学当時火工廠が出来たため、小学校への通学路が雑木林の中の暗い道を新河岸川のほとりをと遠い通学路となり、先生に叱られて残された時など泣き泣き駆け足で帰った事が今でも残る火工廠の塀を見るたびに思い出され、今は懐かしさを感じている、古希を迎えた今日この頃です。

上使行列

大江戸から小江戸へ
川越街道400年の道のりを歩く



上使行列 (川越商工会議所資料より)

川越街道は中世期ころより開かれ、太田道灌が川越・江戸城を築城したことにより、川越城から江戸城へ向かう河越・江戸道が次第に整備されていった。

徳川家康の命により中山道の宿駅制度が整えられ、江戸城と川越街道も中山道の脇往還として整備が進められ幕府が伝馬朱印を交付(1602年)してから今年は400年目にあたる。約160年前江戸將軍家(東京都知事)より房総警備命令書(川越市制80周年祝辞)を武州入間郡川越城主「松平大和守齊典・川越市長」に届ける上使行列を当時の衣装で、当時の街道を通って行列を再現する。私も成増の家の近くでこの行列を迎えた。

当日は当時の衣装をまとい酷暑のなか日本橋を出発した一行は午後4時頃成増から旧川越街



↑成増から白子へ ↓白子宿を通過する行列

道に入りわずかに面影を残す白子宿をとおり、熊野神社境内で開催されている白子宿時代まつりの会場で大勢の市民が大歓声で迎える中元気に到着した。川越藩火縄銃の模範演技や秩父小鹿野歌舞伎「白波5人男」の上演など、都内7区、県内6市2町の川越街道沿道の人々との親睦を深めながら朝霞膝折宿にて1日目の行列を終えた。



在京初雁会だより

ビルゼン、東方会館という永年親しんできた例会場がなくなり、今期の総会を江戸東京博物館の見学も兼ねて開催したところ27名の方々の参加をえて盛大に開催されました。今回新たに恩田和也さん(高1) 斉藤和夫さん(高1)の両名を会員に迎えることができました。現在会員は63名です。今期の会費未納入の方は何分よろしく願います。

次期例会は11月と3月を予定しております。来年は当会創立50周年を迎えますので何か良い企画がありましたらご提案下さい。今号の鐘つき堂は四名の方から早々とご寄稿をいただきましたが、私の入院騒ぎで発行が遅れましたこと深くお詫び申し上げます。

今夏は例年になく酷暑の日々が続きますが、会員の皆様も健康に留意され、元気にこの夏を乗り切ってください。(岡田)

秋季散策会のお知らせ

今年には和光初雁会の主催により開催

日時 平成14年10月20日(日)

集合 東上線・有楽町線と光駅南口

9時30分集合

行程 約6キロ

懇親会会費 5千円(同伴者3千円)

*奮ってご参加下さい。

広報・事務局 岡田 良平

☎175-10094 板橋区成増2-33-14
☎3977-11815 (自)・11811 (会)



在京初雁会(創立昭和28年)

会長 田中 隆

創立50周年

2003年新春号

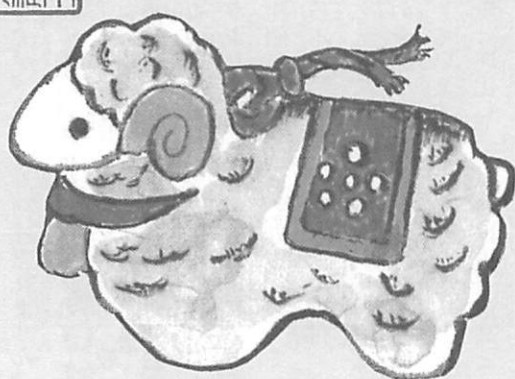
第74号(平成15年1月15日発行)

迎春

一心相伝

平成十五癸未歳元旦

田中 隆



新年の挨拶

会長 田中 隆

あけましておめでとうございます。

今年は色紙に一心相伝と書きました。一心と相伝を勝手に結びつけて作った四文字熟語です。これはわれわれスタッフ一同心を合わせて発展させた在京初雁会をこれからもずっと続けてもらいたいという意を込めて書かせていただきました。

さて今年^{みづのとし}は癸羊歳です。未は羊、前年の飛躍から一転して最も性質従順で節度がある君子といわれる羊の歳であります。

大昔から羊は「羊の十徳」といわれており、人間のために羊肉や羊毛だけでなく角、皮、骨、脂等々重宝がられており捨てるものは殆どなく医学の世界でも手術で用いられるカットグット(腸線)は吸収性縫合糸の原型でもあり、最近まで使われておりました。また一般的にはジンギスカン料理としての羊肉についてはそれこそ太古の昔から馳走として好まれておりますが、そのことを偽った故事として「羊頭狗肉」なる諺があります。羊肉と称して犬の肉、看板に偽りがあることの諺として有名であり改めて昨年の牛肉大騒動、輸入魚の勝手な日本名、その他輸入食品の不正表示、でたらめな賞味期限等々挙げたらきりが無い程いづれも羊頭狗肉騒ぎだらけで今年を迎えました。

今年こそ節度のある羊歳にならって二度とこのようなことのない年であるよう引きしめていただきたいと唯々祈っております。

今年の景気は どうなる？

長島 恒雄（高3）

早いもので二一世紀に入ってもう三年目です。前世紀末から続いていた不況も、依然として先行きの見通しははっきりしません。海外からは、日本の景気回復に対する要望やら経済政策に対する批判が寄せられてきましたが、昨年後半頃からはアメリカさらにヨーロッパの景気もおかしくなり、日本を追うような形になってきました。悪くすると、世界的な大不況に突入しかねない状況です。

よく「失われた一〇年」といいますが、だんだん伸びてもう十四年目に入ります。この間政策当局は決して無策であつたわけではなく、不況対策として財政支出を増加し続け、その結果国債発行残高は巨額になり、格下げという不名誉な事態まで招きました。また景気回復のための金利引き下げは、世界史上例のない低金利水準に達し、これ以上の金融政策の余地がないほどになってしまいました。

この不況の主因は、何といつても個人消費が不振なこととす。ところが巷には物が溢れており、消費者は買えなくて我慢しているわけでは

ありません。物価は値下がりを続け、デフレ状態になっていますが、それでも物は売れません。豊かな消費者は、欲しい物は殆ど手に入れてしまっています。ただ消費者が気に入った物、最近の例では海外旅行、ブランド商品、この正月のおせち料理など嗜好に合った商品が、高額にも拘らずというより高額であるが故に、ヒットしています。物価が下がり続けているといつても、世界一の日本の物価が、国際水準に近付いていると見ることもできるでしょう。中国など東南アジア製の食品や電機が街に溢れて、物価引下げに貢献しています。

また雇用環境は悪化し、失業率は史上最高となっています。企業はそれぞれにリストラを行い、人員削減に努めています。ところが労働組合はストライキも起しませんし、会社が希望退職を募ると直ぐ応募者が殺到します。新卒者についても、空前の就職難といわれますが、折角就職しても相変わらず離職率が高いまです。そして単純な肉体労働には応募者がなく、東南アジアなどからの外国人に依存していますし、反面高度な技術者などについては国内だけでは採用難で、これも外国人に頼らざるをえない状態です。

これが、日本の不況の実態ではないでしょうか。わが国のように豊かになった国では、マクロの統計数字だけでは、実態が判りません。こ

こ十数年来の不況対策の効果が芳しくなく、また海外からの無為無策との批判も、ここに原因があると思われれます。

振り返って十数年前の一九九〇年頃には、GDP（国内総生産）で日本は世界第二位、トップのアメリカの八〇％にまで迫っていました。今ではアメリカの五〇％まで下つたものの、相変わらず第二位、しかも第三、四、五位のドイツ、イギリス、フランスの合計に匹敵します。またアジアで成長著しい中国の四倍、韓国の一〇倍を上回っています。対外純資産や外貨準備高では、断然トップです。国民一人当りの平均指標をみても、所得にしても貯蓄にしても、さらに寿命にしても、世界一の水準にあります。問題は、この十数年来下げ続け、まだ下げ止まらない地価と株価、資産デフレにあるといえましょう。バブル経済の最盛期であつた八九年の経済白書は、新潮流として高度化、グローバル化、ストック化の三つを挙げ、わが国経済を謳歌しました。「ストック化」とは、今や死語となりましたが、地価と株価の高騰により国民の資産が豊かになったことを意味します。ところがその後、このプラス面は否定され、むしろ土地や株式を持つ者と持たざる者の資産格差が拡大したとしてマイナス面が強調されるようになり、地価と株価の高騰はバブルとされ、厳しい抑制策が強行されてきました。土地については

融資や取引の規制や地価税などの課税強化、株式については不祥事に絡んでの規制強化などです。やがてこれらの規制は緩和から撤廃に至りますが、時既に遅く、反騰するどころか、今だに底を打ったといいきれないのが現状です。この間の地価と株価の下落額は、一〇〇〇兆円を超えたと推定されますが、これはわが国のGDPの二倍に当り、個人金融資産の八〇％程度の巨額なものです。

この資産デフレは、現在わが国経済の最大問題とされている銀行の不良債権の元況ともなっています。土地や株式は、銀行自身の資産であると同時に貸出企業の資産や担保でもあり、二重に影響を与えます。地価と株価の下落が止まらない限り、銀行の不良債権問題の解決はできないといつてよいでしょう。

さて、今年の景気はどうなるでしょうか。長らく景気の足を引っ張ってきた地価と株価は、もう合理的水準をかなり下回っており、そろそろ上昇に転じてくるでしょう。数年来推進されてきた小泉構造改革や個々の企業のリストラも、景気に及ぼしてきたマイナスの面は薄れ、今後はプラスの影響が強くなってくるものと思われま

す。景気も次第に明るくなってくるのが期待されるのではないのでしょうか。

法律実務家の

養成にかかわって

川合 善明（高21）

私事ですが、平成12年4月5日から本年（平成15年）1月21日まで、司法研修所の民事弁護教官をしていました。

司法の世界は一般の人にとっては縁遠い世界で「司法研修所」がどんなことをしている場所なのかご存じ無い方も多いのではないかと思います。若干の経験を書かせていただきます。

司法研修所は、埼玉県和光市のはずれにあります。東京都練馬区大泉学園町と隣り合わせに位置し、最寄りの駅（東武東上線の和光市駅）から歩いて約20分かかる、やや不便なところですが。しかし、すぐ隣には和光樹林公園や大泉中央公園といった規模の大きい公園や陸上自衛隊朝霞駐屯地があるために、北側や西側は森が続いていて、ここは山の中ではないかと錯覚するような、なかなか良い環境です。

司法研修所は我が国唯一の法曹養成機関です。司法試験に合格しても、司法研修所に入り司法修習を終了しないと、法律実務家にはなれません。前期3ヶ月、実務修習12ヶ月、後期3ヶ月、合計18ヶ月（1年6ヶ月）の司法修習を履修し、

最後に二回試験と呼ばれる卒業試験に合格して初めて裁判官、検察官、弁護士になれるのです。司法修習の内、前期と後期各3ヶ月の集合教育を担当するのが司法研修所です（実務修習期間中は、全国各地の地方裁判所に配属され、原則としてマンツーマンで裁判・検察・弁護の実務教育をうけます）

司法研修所での教育は民事裁判、刑事裁判、検察、民事弁護、刑事弁護の5科目に分かれ、それぞれ現場の裁判官、検察官、弁護士が担当します。私が在職中は1クラスの司法修習生の数は70〜72名で、14クラス（全体で約1000人）ありました。この14クラスのそれぞれについて5人の教官が付くわけで、全体では70人の教官がいます（今年から修習生の数も教官の数も増えます。）

毎年4月から6月までが当年採用の修習生の前期修習、7月から10月初めまでが前年採用の修習生の後期修習で、この期間は教官はかなり多忙です。

実務に教官が研修所で講義を行うのは、民事弁護の場合、1000分単位の講義が平均して週2・5回くらいですが、講義の無い時には、講義の準備や教材の検討のための合議（民事弁護教官室全員の会議）・小委員会（各講義のコマ毎に、その準備の中心になる小委員会を決めています）がありますし、中でも起案の添削にはか

なりの時間をとられます。これは民事弁護以外の科目でも同じですが、研修所の教育の目的はあくまでも実務を教えることにあるため、実際の事件記録を基に作成した記録を与えて、その記録の事実関係に基づき、訴状や準備書面といった訴訟関係書面を作成させることが研修所のカリキュラムの中心になっています。

修習生に書面を起案させたら、教官はそれを添削して講評します。もちろん成績もつけます。1クラス70〜72人ですから、添削作業はかなりの量です。民事弁護の場合、前期修習中に5回、後期に3回の起案がありますので、4月から9月までの土、日曜はたいがい起案の添削をしていました。

講義のほかにも、修習生の施設見学等の行事にも同行しますし、修習生の事務所訪問（見学）を受け入れたり様々な飲み会にも参加しますの
で、これも時間を相当とられます。

毎年、10月から翌年の3月までの半年間は、研修所に修習生はいないのですが、この間、教官は暇かといえますと、前半の半年ほどではありませんがやるべきことは多く、やはりかなりの時間をとられます。次年度の教材の作成や講義の方針決定、どの教材をどのように使おうかなどの準備は、この時期に済ませておかないと間に合わないのです。それやこれやで、自分の印象では自分が仕事に割くことのできる時間の太

体7割くらいを、研修所の関係に使った、という感じですが（他の弁護教官も同じような印象を持っているようです。）

教官の仕事はどのように時間にとられますが、実は結構楽しいものです。第1に普段の弁護士業務とは異質の仕事が出来るというのは、とても新鮮な経験です。このことは教官経験者が口をそろえて言っていますが、私にとっても普段の弁護士業務から離れて修習生に教えるということは大変刺激的でした。

第2に若い人たち、大体自分の子供たちと同じ世代の人たちと議論したり飲んだり出来るのはとても勉強になりますし、文句無く楽しい時間でした。そして何よりも、200人以上の自分の教え子が、全国各地で弁護士や裁判官や検察官として司法の一翼を担っているのだという感覚は、自己満足ではありますが、なかなか魅力的なものです。

私が25年前に司法修習生として経験し、今回は教官として関与した現在の司法修習制度は間もなく無くなります。来年（2004年）4月にはロースクールが設立され、2006年にはロースクールの卒業生（かつ新しい司法試験に合格した者）を対象にした新司法修習が始まり、現行の修習制度は2011年には完全に無くなる予定になっています。新司法修習制度の下でも司法研修所は存続しますが、研修所が法曹養

成に直接関与する期間（修習生が研修所に通う期間）わずか2ヶ月程度になると構想されています。

大きく変化する直前の法曹養成制度に教官として関与できたことを、私は貴重な経験であると考えています。

台湾とその

高砂族

高島 敬忠（高10）

出身大学の同窓会行事として、平成14年3月台湾出身同窓にご参加いただき、移動理事會を開催することになった。在京初雁会々長の田中隆先生が出身大学同窓會會長でもあり、その御供の一人として台北市を訪問する機会があったので、小生の興味ある台湾に関する事柄について記述したい。

その課題は戦中派の子供に残っている台湾の高砂族である。

台湾の人口構成は全人口の九割を漢民族が占めている。その内訳は本省人（第二次世界大戦前に対岸の福建省や広東省から移住してきた漢民族の子孫）と蒋介石政權の台湾亡命（1949年7月）以降中国大陸各地から台湾に逃れて

きた外省人と区別される。そして、残りの一割が先住民である。戦前、日本人はその先住民族を「高砂族」と呼んでいた。別名「首狩り族」とも呼ばれている。

さて、その台湾の自然と歴史について調べると、十六世紀にポルトガル船が台湾海峡を通過するとき、この島を遠望して *Ilha Formosa* 「うるわしの島」華麗島」と呼び、豊臣秀吉がこの国に開国を促した文書では「高山国タカサグニ」と称したという。台湾島はその面積に比して標高三、〇〇〇メートル以上の高峰が多い。年配の日本人にはなじみ深い、当時の日本最高峰、新高山（現在名、玉山3、997メートル）が代表的存在である。

高砂族を語るにはその地形や気候も大切な事項なので簡略に記すと、島の中央軸の東寄りから南にかけて中央山脈、雪山山脈や海岸山脈が走っている亜熱帯気候であり、北回帰線が台湾上を横断している。中央軸より西側は諸河川により形成された海岸平野が広がっている。しかし、中央山岳地帯は冬場雪も降る山地気候である。

さて、台湾先住民族は漢民族より山地同胞の意から山胞とか山地人（高山族）などと呼ばれている。それを構成する部族は九属とも十属ともいわれている。それを列記すると、タイヤル（アタヤル）、サイシャット、ブヌン、ツォウ、

ルカイ、パイワン、アミ、ピュマ、ヤミ（タオ）の九部族に加え早く平地に住んだために漢化された平地山胞（平埔属「ヘイホ属」）から成っている。

日本統治下では高砂族と呼ばれていたが、首狩りという野蛮な行為でも知られている。第二次大戦でわが国は彼らを徴用し、ジャングル戦用に高砂義勇隊と称し戦場で勇敢な日本軍人として活躍させた。

司馬遼太郎はその著書「街道を行く四十、台湾紀行」で、彼ら山地人は本来黒潮に乗ってきた民だった。と述べている。日本人の起源をここで述べるつもりはないが、小生は沖縄人、アイヌ人も同様な海の道をとって日本にも上陸していると考えている。従って、わが国は単一民族国家だの不沈空母などと米国向けに述べた元首相がいたが、朝鮮半島経由のアジア人もおり、アジア人の多民族国家と考えている。余談であるが、混血の地域に美人が多いといわれている。わが国の美人の産地、秋田、新潟県はロシア人との糸満市はオランダ人との混血の結果であるうと推測される。

さて、この台湾旅行中話題になった、小生の蜜行について触れたい。それは檳榔（びんろう）についてである。司馬遼太郎著前出図書に檳榔の件に触れていたもので、新しいことに興味深い小生は今回の旅で檳榔を味わった唯一の同窓のようである。

しかし、何人かは以前試したことがあるような雰囲気だった。司馬遼太郎著「台湾紀行」のその部分は具体性があるので、転記してみると、「市の中いたるところに「檳榔」という看板がでている。箱には美人の写真などが印刷されている。やや、いかがわしい。嚙むと赤い唾が出る。某氏は飲み込んでいたが、普通は路上に吐き出さねばならない。一種のドラッグで、齧っている内に軽い陶酔感、もしくは覚醒感がやってくるといわれている。もともとは山地人の風習から始まったものらしい。ヤクザ社会ではこれが一種のシンボルになっている」。と記されている。台湾出身の大学生に勧めたら「一般人にとって檳榔の実をかむなんて、格好の悪いことなんですよ。」と後になって教えられた。この檳榔の実には青い実を採り小刀で半分割り、これに練石炭を和し、カズラの葉（キンマの葉）に包み口中にて含んで嚙み、その汁を唾液とともに吐くというものである。

小生は鳥来からの帰途、街道の道端で運転手の頼氏が車を止めたところで、十個入りの檳榔を五十元（二百円）で一袋買い、その店の人になんとなく体がほてってきた。

顔が赤くなるのを感じた。同僚の岡田君ご夫妻も君赤くなつたよと評していた。気分は少々フワとした感じだった。一時間ほどで、その

気分から開放されたが、赤い唾が出るまで結局噛んでいなかった。こんな風習は東南アジア一円にひろまっていたそうである。一時期、この練石炭に麻薬を仕込みヤクザの資金源になったこともあり、檳榔嗜好は禁止されたが、いまはまだ大流行であるという。繁華街では檳榔を運転手に売るミニスカートの小姐が見かけられるという。また、山地人の結婚並びにその儀式には贈答品として必要不可欠な品物となっている。街中ではトラックやタクシー運転手が眠気覚ましによくそれを噛んでいて、窓より赤い血のような唾をするので、ある西洋のマスコミは台湾のドライバーは酷使されており血を吐きながら運転していると評していたという笑い話もある。

また、小生の診療所の外来に台湾で兵役に服した若い本省人が来ており檳榔の件を話題にしたら、寒い冬の夜の歩哨に勤務する時には、体がすぐ温かくなるので、毎晩のようにそれを噛んでいたものですよと言っていた。ロシアなど寒いからといってアルコールを過剰に摂取し、肝障害やアルコール中毒になるよりも檳榔の方が得策であると考えるが、如何なものであろうか。

山人から檳榔に話が飛躍したが、台湾国内において、今や改めて山人らの文化、文明が見直されつつある。先住民は国民党政権時代に同化政策がとらえてきた。その結果、先住民族は漢化されその部族意識を失いかけていた。

しかしながら、昨今の先住民の民族文化復興の気運が人々の意識の内に上がってきた。西長文化村や九属文化村などの施設が設置され、その文化、文明の存続が図られつつある。

最後に、岡田良平事務局長など台湾を十回以上も訪問されていることを伺い、小生の見聞はそれに比較したら、ごく僅かだが、親日的な隣国として、また、日本統治下で教育を受けたご老人は日本語も使える。そんな台湾人は日本人に対し大和魂を忘れるなど励ますこともあるとか。台湾とは日本国とこれだけの交流がありながら、外交上正式な国交がないのが現実である。ごく日本的な本音と建前の矛盾を改めて実感したしだいである。

台湾雑感

台湾といえはなんと言っても故宫博物院である。イギリスの大英博物館、フランスのルーヴル美術館、アメリカのメトロポリタン美術館、ロシアのエルミタージュ美術館と並ぶ世界五大博物館の一つである。もとは北京の故宫・紫禁城に収蔵されていた歴代王朝の文物だが、近代中国の混乱期に破壊・略奪等の危機にあったが満州事変を機に1933年より移送をはじめ、国共内戦を避け1949年に優先順位の高い文物は無事に台湾に移送され幾多の変遷をへて現在の台北郊外に落ちついた。70万点余の収蔵品

を全部見終わるには20年も係るといわれている。

「ご飯食べた？」と言うのが挨拶になるほど食に長けた台湾。多くの名店で上海、北京、四川等沢山の中華料理を食べるのも観光の大きな目玉となっている。今話題の揚げ料理も鶏肉・豚肉等大豆などが原料とはとても思えない食感・味である。又料理といえは酒、お茶がある。お土産などに買うお茶にも次のような種類がある。

●青心烏龍茶

台湾烏龍茶の源樹、奥深い香りと甘味

●翠玉烏龍茶

すがすがしい香り、ホットするやさしい味

●四季春烏龍茶

早春を思わせるやさしい香りとマイルドな味

●凍頂炭焙烏龍茶

香ばしい香りとコクのあるのどごし

●凍頂貴妃烏龍茶

有機茶、さわやかな芳香とまろやかな風味

●高山杉林溪茶

滑らかな香り、すっきりしたさわやかな甘味

●高山陳年老茶

熟成されたまろやかさ、深いコクのある味

●文山包種茶

蘭の花のような香りが高く、爽やかな味

●東方美人茶

フルーティーな甘い香りと紅茶に近い味わい

(岡田)

川越高校

くすの木句会近況

柴崎 育久（高2）

母校の創立百周年を記念に「俳句大会」を開催しようということで立ち上げた「川越高校くすの木句会」は、毎月例会を重ね昨年十一月で五十回を数えました。卒業生を中心にその父兄や伴侶が、川越駅西口の「川越福祉センター」の一室を借りて、毎月第一土曜日の午後一時半から句会を重ねて来たわけです。毎回句会の後に句稿を大先輩の松本旭先生（中35卒・俳誌「橘」主宰）と小沢克己先生（高20卒・俳誌「遠嶺」主宰）へ送って選をお願いしています。が、お蔭様で会員の作品の水準も高くなってきました。またその間、さきたま古墳や飯能・所沢方面へも吟行し、各地の諸先輩にもお世話になって同好の輪が広がりました。初心者の入会大歓迎です。お心当たりの方をご紹介します。連絡先：川越市南通町15-16 佐々木 新宛

☎ 049-222-0484



近作から

金輪際腰を据ゑたり冬の雲

桂林にて

秀峰を縫うて灘江の小春かな

富士白し小松菜の畝まつすぐに

冬暮光象と名残を惜しみつつ

煮凝やまぼろしといふ酒に遇ふ

クリスマスワイングラスは緑茶にて

城崎の外湯めぐりや初しぐれ

短日や鑑真和上の太き眉

ふくろふや星の序列に狂ひなく

新しき恋のマフラ―編み始む

小春には古希を背にして歩くなり

氷柱窓削るこけしの身の細き

聖堂の隅や異教徒着ぶくれて

安斎 和子

大原 絹子

奥山 昌美

桑田 忠男

小林 幸二

小谷野美津

斉藤 恒

佐々木 新

澤田 洋々

柴崎 富子

森住 霞人

宮崎 敏昭

柴崎甲武信

在京初雁会第2回例会

12月2日(日) お台場にて開催・29名参加
 今回は東京湾レインボーブリッジを渡りお台場までの散策会を開催した。当日は生憎の小雨模様にもかかわらず、ゆりかもめ線「芝浦ふ頭駅」には20名が集結した。やや風がありました。が、近く遠くに竹芝桟橋、日の出桟橋、晴海埠頭、東京タワー(霞んで見えず)高層ビル群を眺め、橋下を航行する遊覧船に手をふりながら



お台場まで約1時間かけて完歩し、9人の仲間が待つフジテレビ球体展望台24階のレストラン『シノア四季』に無事到着しました。田中会長が乾杯で在京初雁会名入りのスペシャルコースメニューで懇親会を開催、親睦の輪を広めた。久しぶりに参加された松下さんも24階からの小雨に煙るお台場の風景を楽しんでいました。解散後若者で賑わうお台場の散策を楽しんだ。りんかい線「東京レポート駅」より本日開通した川越行き電車で初乗車した人もいた。(岡田)



川高同窓会散策会開催!

平成14年度同窓会「秋季散策会」が10月20日(日)和光初雁会の主催で盛大に開催された。当日はやや天候が心配されたが、それでも各地初雁会から100名に近い参加があり、我が初雁会からも田中会長以下18名の参加がありました。和光樹林公園をはじめ司法研修所・税務大学の施設をみながら理化学研究所ではグループにわかれて最先端技術の説明をうけた。無事散策を終え、市民文化センター内のサンアゼリアで和光初雁会の皆さんから大変な歓迎を受け、上原会長さんから和光市の成り立ちから現状についての話が有り懇親会は盛会のうち次の再会を約してお開きとなった。

菅間氏母校で文化講演

会員の菅間 昭(高6)さんが昨年12月12日に母校で文化講演をしました。当日は川高体育館アリーナに在校生1100名が参加『私の歩んだ道』と題し、小学生から中学、高校、大学そして社会人と時には病、挫折と闘い、今日にいたるまでの人生を熱く、ユーモアを交えながらの熱弁は生徒、教職員に大きな感銘を与え、氏自ら指揮をとった応援歌、校歌の大合唱は会場を熱気に包み盛会のうちに終了致しました。

次の例会は3月末頃、総会は6月を予定。50周年を機に役員の若返りをはかりたいと願っていますので諸兄のご協力をお願いします。



在京初雁会(創立昭和28年)

会長 田中 隆

創立50周年

2003年夏号

第75号(平成15年7月30日発行)



合縁奇縁

在京初雁会五拾周年

平成十五癸未歳仲秋

田中 隆



在京初雁会50年の略年表

年度	事 項 (敬称略)
昭和27	浅海俊夫(中21)・菅間六郎(中17)等が坂田圭司(中17)と在京者と懇親を深める会の設立を相談。会場として銀座交詢社ビル内でジャホール・ビルゼンを経営する斉藤憲吉(中11)が会場提供を快諾。
昭和28	3月18日総勢22人で在京初雁会が発足。11月初代会長に矢部謙次郎(中1)が就任。毎月8日正午ビルゼンで例会。
昭和37	喜多義之(中6)2代会長に就任。
昭和38	児玉政介(中7)3代会長に就任。
昭和39	創立10周年記念大会を同窓会と共催。
昭和43	川越氷川神社で開催。25名参加。
昭和48	ビルゼン社長斉藤憲吉急逝。
昭和49	創立15周年野上正(中37)中国問題講演。
昭和53	創立20周年を記念して会報「鐘つき堂」を創刊。佐々木忠一編集長。
昭和58	坂田圭司(中17)4代会長に就任。
昭和59	創立25周年記念大会を学士会館にて開催。41名参加。
平成元年	創立30周年記念大会を学士会館にて開催。45名参加。
平成3	矢部義一(中23)5代会長に就任。
平成5	菅沼・矢部・岡田の高2の三氏が新役員に就任。
平成6	増島龍二(中35)6代会長に就任。
平成8	田中 隆(中45)7代会長に就任。
平成9	創立40周年記念大会を学士会館にて開催。37名参加。
平成11	在京初雁会主催で同窓会秋季散策会を芝増上寺で開催。103名参加。
平成13	夕べの会を初めて池袋・東方会館にて開催。会創立者で4代会長坂田氏ご逝去。
平成15	川越高校百周年記念大会開催。 創立以来の例会場のビルゼン閉店。 在京初雁会主催で同窓会秋季散策会旧江戸城めぐりを開催。93名参加。 在京初雁会創立50周年。

在京初雁会の想い出

矢部敬一郎（高2）

私は二十年ぶりに故郷桶川に戻り生活を始めて早十年になります。地元での生活にも慣れ、安定したと実感しています。母校百周年記念事業で各地に同窓会が結成された際地元初雁会（川島・桶川初雁会）の設立に参加し世話役を兼ねています。

このような経緯から在京初雁会の行事への参加が少なくなり、当会会員を辞するのが望ましいと考え、三月末に田中会長宛に申し出を致しました。

これがきっかけとなり、役員方ご相談の結果「感謝状」を出すことにした旨の通知を受け過日受領致しました。二十年間お世話役として務めました。感謝状を受領するのは、おこがましい限りと恐縮いたしております。

例えば昭和53年（まだ現役の頃）に当時会長であった矢部義一さんからお招きを受け「ビルゼンの例会」に出席したのが最初でした。当時は会創設時からの役員方が健在で「若手が来たと歓迎して下さいました。その後間もなく橋本日出松さん（高2）が参加して下さい、二

人とも「例会のスピーチ」をやらされました。それから同級生の参加が続き、現在では高2だけで13名います。

以来20年近く私は多くの先輩にお世話になりました。今では私の大きな財産となりました。例会の講師選びでは会員の皆様から率先して協力いただき、例会の魅力になってきたものと思います。

ビルゼンが交詢社ビルの建て替えにより創立以来のビルゼンでの月例会は終わりました。永年にわたり会場を提供していただいた斉藤誠彌氏に感謝申し上げます（斉藤氏は新たな道を拓かれるそうです）。このような環境変化の中で役員を辞任することは誠に申し訳有りませんが、今後は一会員として諸活動には可能な限り参加し、今までお世話いただいた方々の再会を楽しみたいと思います。会発展の為に特定の方に集中してしまう会の運営を改め、役員を倍増し併せて役員分担の明確化が必要です。会報参加者（投稿者）も広範囲の方々から積極的に投稿される環境づくりに務めなければなりません。

最後に長い間ご指導いただいた先輩の方々、ご支援いただいた皆様に御礼申し上げ、在京初雁会が益々発展されることをお祈り致します。有り難うございました。

感謝状

矢部敬一郎殿

貴殿は本会副会長として永年にわたり会の事業運営に尽力され本会の発展に多大なる貢献をされました

このたび退任にあたり記念品を贈り感謝の意を表します

平成十五年六月十五日

在京初雁会

会長 田中 隆



訃報

菅沼伸之氏（高2）病氣療養中のところ平成15年7月16日逝去されました。平成2年より副会長兼事務局局長としての会の運営に積極的に活躍されました。『四国路の遍路』『中国・三峽下り』『モンゴル旅行記』など内外の旅行記を鐘つき堂に発表し会員を楽しませてくれました。通夜・葬儀には同期で会員の矢部・日出間・橋本・荒井・柴崎・岡田の各氏が参列されました。在京初雁会の発展のためにご尽力を頂きましたことに厚く御礼申し上げますと共に謹んでご冥福をお祈り致します。

矢部氏は副会長総務担当として会の運営に携わり、特に高校卒の会員増強に力を注ぎました。6月15日の総会で上記のように感謝状を贈呈いたしました。現在は出身地桶川に戻り川島桶川初雁会会長として活躍中です。

増島隆二前会長を悼む

山崎 豊弘（中35）

増島君は去る3月15日ご逝去され、17日通夜・18日告別式が四ツ谷駅前の聖イグナチオ教会にて取り行われました、享年83歳でした。

初雁会の幹事さんより追悼文のご依頼がありましたので、ご葬儀の席上友人を代表して述べた弔辞のいただきたいの内容をここに思い起こして披露し、追悼文と致します。

増島君、今日ここで貴兄の御霊の前でお別れのご挨拶をするとは思いませんでした。一昨日奥様から訃報のお電話を頂いた時は驚きで目の前が暗くなり涙が出てしまいました。4ヶ月前の旧臘12月1日に在京初雁会の例会がお台場のフジテレビ球体展望台のレストランで開催された時、貴兄は奥様ご同伴でお見えになられ、綺麗な東京湾の景色を眺めながら楽しく若き日の懐かしい思い出話に花を咲かせ、あんなにお元氣だったのに、また本年一月中旬に新年のお電話を頂いた時もお元氣な声を伺い、お互いにまだまだ頑張ろう本年も宜しくと話し合ったばかりなのに、僅か2か月後には早くも幽明境を異にするとは思っても居ませんでした。私にも親

友は沢山いますが、貴兄との友情は70年以上もつづき唯一最も長い、胸襟を開くことが出来た親友中の親友でした。

昭和6年4月川越中学校に入學した時、増島君はその時級長でした150人3クラスの新入生の中で3番以内で合格されていました。その内野球部に入部、川中野球部のピッチャーで活躍し、私達は試合の時には応援に行つたものです。増島君は野球部長の飯田先生に何が何でも野球部に入れと勧誘され「俺は野球しに入學したようだ」と言うて居られました。昭和11年夏の県大会で豊岡実業に1対0で勝ち優勝、川中野球部の黄金時代を築かれた功労者であります。増島君は放課後の野球部の激しい練習を控え、昼休みの休憩時間に私達が遊んでいる時に、寸暇を惜しんで一人でよく英語を自習されて居られました。川中卒業後仙台の二高に、続いて東北帝大に進まれ、更に軍隊に行かれた頃はすっかりご無沙汰してしまいました。

しかし、人のご縁は不思議なもの、この広い人の多い東京で二回お会いしております。一回は昭和30年頃私が丸ビルの丸善に本を買いに行つた時増島君とバツタリ再会。「今、アメリカ銀行にいるよ」とのこと。私は「俺は英語を怠けちゃつたのでアメリカ銀行は勤まらんよ」といったことを覚えております。二回目は地下鉄の電車の中で会い、お互いに手を振って僅か一駅

で別れました。幸い事務所が丸ビルと隣の三菱本館と近いので時々誘いあつて思い出話や近況を話し旧交を温めていました。そのうち増島君はロンドンに行くことになり、役名もVice President（副社長）に出世されていました。「偉くなったな」というと「アメリカの会社にはいよ」と謙遜されておられました。その後離ればなれになり、お互いに疎遠になつておりました。

処が15、6年前の昭和60年末頃、増島君から突然20、30年振りにTELが入り「在京初雁会に出て来ないか」とのお誘いを受けました。私は私を忘れずに電話をくれた彼の友情に感謝感激し喜んですぐに入会し、今日に及んでおります。その後は5月「母の日」に母校に帰るとのことで開催される川中・高の同窓会総会と毎年秋10月に開催される35回卒の同窓会には互いに電話で誘い合つて参加しております。

思えば増島君は心の優しい、思いやりのある方、その上スポーツマン更に努力家・勉強家でした。また家庭菜園もお得意で、彼が丹精して作つたジャガイモ、ホーレン草、ピーマン、大根等をみかん箱一杯にときどき頂いておりました。一番敬服したことは在京初雁会の夜の懇親会の時、よく奥様をお連れになつてご出席になられ、ご夫妻の仲睦まじいのは私達の御手本で

ありました。

奥様をはじめ、ご遺族皆様のご心中、如何ばかりか御悔み申し上げます。増島君との思い出を述べ簡単でありますが弔辞とさせて頂きま
す。安らかにやすみなさい。ご冥福をお祈り
申し上げます。(合掌)



*弔辞の終わりに「初雁会」は川中同窓会の別名で、川越城が初雁城と言われた由来を捕捉説明しました。

*上の写真は、昭和11年夏、県大会出場を控えグラウンドで練習中の野球部で同級生の5人に集まってもらい、私が撮ったものです。
右から増島君・佐々木君・小島君・岸野君・山崎君です。増島君がユニホームを着用しなかったのは分かります。また5人のうち山崎君を除き4人の方は既にお亡くなりになりました。

夏と野球

増島隆二(35)

齢六十を過ぎた今でも、毎年夏が来る度に想い出すもの、それは旧制川中時代の野球です。

昭和七年に入学飯能小学校で投手として県大会で優勝、全国大会に出場した関係から、当時部長でおられた故飯田先生から国語の授業が終る度にお誘いを受け、ついに幼い心の中に野球部入部を決意二年間は水汲み、球拾い等に喜々として過し、三年から選手になり五年間部でお世話になりました。其の間県下大会で優勝しなかったのは一度だけ(但し北関東大会には準優勝校として出場出来ました)、桐生中、高崎商(四年迄北関東)、横浜商(五年の時は南関東)等には生まれ甲子園への雄図は空しく実現しませんでした。が、良き先輩、同僚、後輩に恵まれた云わば懐しい牧歌的時代でした。一浪で中断した野球生活は旧制二高に入学後も続き、インターハイも別な夏の想い出の一つです。
(在京初雁会30年誌より)

生田さんの死にざま

橋本日出松(高2)

同僚の日出間哲郎さん(高2回)らが、近く地元上福岡市の歴史民俗資料館で、戦争中、学徒動員で働いた上福岡火工廠の話をするという。そこで事故死した生田巖さん(中46回)にも触れると聞いた。

川高八十周年記念誌の動員記録によると「上福岡火工廠では死亡 一、朝霞被服廠では重傷一」となっている。死亡者は生田さんで、重傷者は、実はこの私である。生田さんとは、全く面識はないが、私にとり、忘れたい人なのだ。当時、川中生は、いくつかの軍関係施設で働いていた。私は朝霞の被服廠に配属され、主として、廠内の資材を引込み線ホームに運搬する「力仕事」をやっていた。

事故は、終戦まで僅か三週間程の昭和二十年七月二十六日の午後発生した。軍靴の底に鉄を打込む機械をトロッコで搬送中に、貧弱な線路をうまく乗切れなかったトロッコの前輪が浮上がり、背の高い機械が弧を描くように、押し手の側に倒れたのである。

「神風」を信じていた軍国少年の私は、連日よく働いた。この日も、一息懸命トロッコを押していたのだが、覆いかぶさるように倒れてきた鉄打機に気づいたとき、あわねな軍国少年は前

につんのめり、辛うじて上半身だけが線路の外に逃れただけだった。

鉦打機は、私の背中、腰、足（特に右足）を押しつぶした。やけ火箸を背中から突き刺されたような激痛と共に、身体が数分も放り上げられるように感じ、小便が流れ出した。

そばにいた仲間が「火事場のバカリ」を発揮して機械を持ち上げ「はやく出ろ！」と叫ぶのだが、私に動く力などなかった。

その瞬間、私の脳裏を走ったのは、不思議にも「死の恐怖」ではなく「生田さんの死にざま」だった。生田さんは火薬の暴発で大やけどを負いながらも、同室の女子作業員を気づかい、「いささかもめめしい態度を見せず、軍人のように息絶えた」と聞いていたのだ。「生田さんのように立派に死のう」と私は歯をくいしばって激痛に耐えた。

搬び込まれた廠内の診察所には、あいにく軍医が不在だった。「カンフルを持ってこい！」と、オロオロする看護婦たちをどなりつけたのは東松山で医師を父に持つ吉松幸男さん（故人）だった。この友情、生涯忘れられない。

一命をとりとめたが、まさに奇跡的だった。後年、当時の級長赤田健一さん（故人）が「重傷を負った橋本君が人並み以上に活躍しているのはよろこばしい」と書いてくれた。本当にうれしかった。でも、機械の下敷きになり、意識が薄れそうになるのを止めてくれたのは「生田さんの死にざま」であった。

あれから半世紀を上回る歳月が去ったが、日出国さんらが、生田さんの最期をどのように紹

介するのか——その記事が新聞に出るのを心待ちにしている。（六月二十八日記す）

一昨年古希を迎えた高2の有志30名が約56年ぶりに川越中学1年の終りから2年の終戦の日まで勤労動員で働いた上福岡の旧陸軍火工廠跡を訪ねた。今は当時の面影は殆どなくなり、ところどころに、朽ち果てた建物と防護壁が鬱蒼とした林の中にあった。大方は民間の立派な工場が立ち並んでいた。その中に当時のままの姿で残っている水槽塔を見つければ、皆当時のことが胸裏をよぎった。それについても14歳の少年が命がけて鉄砲の弾を造っていたのだ。夏が来ると思い出す。懐かしさの余り写真のようなラベルを作り赤ワインのビンに貼って記念品としてみんなに配った。聞くところによるとこの思い出深い水槽塔が近々取り壊されるらしい。誠に残念である。（岡田）



亡き父と南アメリカ

縦断旅行の思い出

菅間五郎（高9）

私の父菅間六郎は、二〇世紀を目前にした一九〇〇年、川越生まれ、川越中学第一七回の卒業生である。青春時代を京都の高等学校で過ごし、東京の大学で工学部に学びながら、海外での仕事に夢を馳せ、商社会社に就職している。若し第二次世界大戦が起これなければ、五人の息子達を引き連れてロンドンに行き念願の海外勤務に就く予定になっていた、と父からよく聞かされた。後年、私が初めての海外勤務地先であつたメキシコからロンドンへの転勤を命じられ、東京経由でロンドンに向かう時、まるで我がことのように喜んでくれた父の顔を、今でもまざまざと思い浮かべることが出来る。

戦争の為商社マンとして活躍する夢を断たれ、かてて加えて商社会社からメーカーへの転職を迫られた父は、四十五歳の働き盛りではあつたが、川越から通勤できないことを理由に転職を断わり、辛うじて川越から通勤可能な小さな会社、心ならずも身を置くことにしたのだ。中学三年生の長男を頭に五人の子供達の命を繋

ぐ為、貴重な田畑を貸してくれた親類を頼って、終戦直後に川越の中心から四キロほど北に離れた、当時の入間郡芳野村に移り住んでいた父としては、やむを得ぬ選択であったのだが、この為父の後半生は決して恵まれたものではなかった。

「一反の畑大事と我が子等が耕す姿見れば頼もし」想像を絶する食糧難だった当時の心境をこんな風に詠った父であった。

こうした不遇の父を支えたのは、自ら発起人の一人としてその設立に尽力した在京初雁会の存在で、当時銀座のビルゼンで開かれていた例会に出席して帰宅した時の父の顔は輝いて見え、同窓生達の活躍振りを子供達に聞かせるのであった。川越の人達との付き合いを大事にした父であった。

年を重ねるにつれて、父はお酒の一杯でも入ると実に馴軽になり、自分の名前が六郎であるところから、五郎と名付けた末っ子の私を捉まえては、お前は俺の兄貴だとよく言っては笑わせていた。そんな父が古希を迎えた頃、突然しかとした理由もなく、俺は死にたいのだと言いだしたことがあった。母や四人の兄達からは大変な騒ぎを買ったが、その時は非そうして下さいとはつきり言った私に対して、お前が一番俺の気持ち判ってくれると安心した様に言う父であった。妙な父であった。

私が大学三年生の時、家の経済状況も弁えず突然南米を旅行したいと言いだした時真つ先に賛成してくれたのが父だった。自分の夢を子供が果たしてくれるのが嬉しかったに違いない。こうした父の思いを察してか母は母で「いいことよ」と一言副えてくれたお蔭で、私の無銭旅行に近い南米への旅は実現することになった。

「南米への企業進出とその動向」という尤もらしい研究課題を掲げ、丸の内界隈にある会社に寄付をお願いして回り、片道の船賃と懷中に150ドルが残るお金を集めることが出来た。奉加帖を回すに当たっては父が友人知己に書いてくれた沢山の紹介状が大きな力になってくれたのであり難く思ひ出す。

初めは目的地のコロンビアに二ヶ月滞在した後、直接日本に戻る計画であった。ところが今振り返っても途方もないことだと思ふのだが、ここまで来たのならついでにという軽い気持ちで、あの広大な南米大陸を陸路縦断し、アルゼンチン行きを決行したのであった。私にとつては生まれて初めての海外旅行であったので、旅行中、万感の思いを込めてせつせと父に書き送った手紙の中に即席の短歌一首を添えたことがあった。それを読んだ父が返歌を詠みこんだ手紙を書き、届くとも知れないその便りを私の訪問先国の日本大使館気付けで送る一方、私から受け取った手紙を同窓会に持ち込んでくれたの

であった。そのお蔭で、異教を旅する息子を案ずる父親の一文と南米事情を伝える私の手紙とが、一緒に同窓会報に掲載されることになったのであった。

その時の私の歌はアンデス山中で望郷の念にかられた折に、家でしょっちゅう耳にしていた父の歌声が聞こえて来るような気がした中で、生まれたものであった。南米から帰って父からの返歌と私が送った歌と手紙と一緒に同窓会報に同時に載ったことを知り大変感激したことを覚えてる。

然し何よりも嬉しかったのは、父の葬儀の際に弔辞を頂戴した在京初雁会の岡村和夫さんから、この親子のやり取りについて、父の生前の心暖まるエピソードとして触れて頂いたことであつた。

父の命日などに墓前で高唱するその歌二首を最後に添えさせて頂きます。

初めての異国にありて淋しきに

耳に懐かし父の歌声

五郎

行程万里遠き南米に踏み入りし

五郎よ今宵いづくにか眠る

六郎

以上

教育評価と医療評価

田中 隆 (会長)

先日ピッツバークのS先生(私の一年先輩)からびつくりするようなうれしい近況報告がとどいた。

ピッツバーク大学では名誉教授になっても研究費を獲得して研究を続けることが出来、また要請があれば引続き学生、レジデントの教育を行なうことができるとのこと、たとえ名誉教授でも隠居仕事ではなく正規の講義、指導をしていれば大学の制度である教育評価を受けることになり指導したレジデント各位から患者ケア、リサーチテクニック、教育コミュニケーションなどを含めた教育指導評価があり、S先生の成績は五段階評価の四、四であり、主任のM教授から労をねぎらった親書がとどいたとのこと。因に全教員の評価の平均値は三、七でありS先生の四、四は素晴らしい成績である。

今から六年前(1997年)、ピッツバーク大学の移植研究室に留学している教室員二名に合うことと、肝移植で有名なスーパースター教授と先輩S教授を表敬訪問した折、S先生から米国における病院評価一覽表を見せていただいた。

米国では十数年前から毎年各診療科別の病院ランク (Best Hospital 19xx 世) が発表されているが評価の基準を見るとニューズインデックス、死亡率、技術スコアなどがあり、上位にはマサチューセッツ眼耳鼻科、ジョンホプキンス、UC LAなど有名病院が含まれており、ピッツバーク耳鼻科は五位にランクされていた。

このような情報公開は早晚日本でも、思っていたら三年後の二〇〇〇年、全世界の医科大学の設備、機能評価であるゴーマンレポートが発表されわが大学医学部は十七位(米国、カナダを除く)であり、なぜか東大、京大より上位であり、それこそわが大学の教育方針、いち早く対応した教員の自己点検などが評価されたためと理解した。

それだけでなくその年の八月には毎日新聞のトップ記事として胃癌学会の手術五年生存率が発表され病院の格差にまで言及され、一寸行き過ぎではないかとびつくりした(幸いに我々日大外科の症例数、成績も上位にランクされていた)。考えてみると日本ではこの頃から癌の治療方針、有名施設が報道されるようになり、今回の医療改訂では年間の手術症例数が一定の数に達しないと手術点数は三割カットするというような理屈に合わない制度が導入され、大きな問題になっている。

話は少し脱線したがこのようなことからこれ

からの大学、とくに医科大学の教育制度を考えてみると、S先生からの手紙のような米国式教育指導評価も近々導入されることと思われる。

病院評価と違ってこのような教育評価はその判定基準さえしつかりしていればむしろ歓迎してよい制度であると思われるが如何なものか……わが大学ではもう始まっている。いやこれから、そのうち国家試験成績だけでなく教育設備、環境、研修医の動向などを含めた教育評価のランクまで公開されるかもしれない。

「追記」先日の新聞報道で数学の模擬テスト問題が全然解けない高校教師が居り、教育委員会で問題となり首にしたとのこと。全く実力の無い数学教師が今迄まかり通っていたという日本の高校教育制度、唯々びつくりである。

2000年(平成12年) 8月6日 日曜日

生存率に差
「腕」の差
胃がん手術

学会が成績を調査

18施設で最大33ポイント

MAINICHI

毎日新聞

NEWSLINE 6-4

上場したいけど… 7

時代の風 中西 博政氏 3

対談 対談 2-3

今週の新聞一読と紹介 9-11

東京が何処から自国文通る 27

日曜くらぶ 別冊

平成15年度在京初雁会総会・第1回例会

6月15日梅雨空の中幸い雨に降られる事もなく都内の名園『後楽園』に於いて28名の参加を得て盛大に開催されました。1629年水戸家藩祖頼房が起工、神田上水を利用した築山泉水庭で二代光圀によって完成、現在涵徳亭など一部が残存している。庭内は睡蓮・花菖蒲の真つ盛りで見応えがありました。皆さんそれぞれに園内の散策を楽しみました。散策後近くの後楽園会館にて総会兼例会を開催し、14年度の決算書・事業報告並びに15年度の予算書を説明し了承されました。今期より岡部恒雄氏(高15)・椎橋勝信氏(15)・西 信之氏(17)等にご協力を願ひ、役員体制を強化する事になりました。宜しくお願い致します。

尚、今回新しく名簿を作成いたしました。誤記などありましたら連絡下さい。

同窓会秋季散策会のご案内

日時 10月25日(土) 午前10時
場所 箭弓稲荷(東松山駅西口徒歩2分)
会費 6000円(同伴者3000円)
コース 箭弓稲荷(徒歩)↓吉見百穴(徒歩)↓平安閣(バス)↓東松山駅

主催 東松山初雁会

皆さん奮ってご参加下さい。

会員通信

松井頼敏(高四) 十ヶ月後に迫った務め人人生の終着駅への軟着陸態勢に入っています。

笹崎能輝(高18) 6月より温泉館の建設が始まります。来年6月にはその姿が出来上がると思っています。約1200坪の日帰り温泉施設です。

松下雄一(中29) 川越高校剣道部のOB会から「在学当時の剣道部」についての原稿以来があり「剣道についての思い出」として拙文を事務

局に送りました。

高篠平太郎(中40) 5月の同窓会総会に出席、久しぶりに田中会長さんにもお会いしましたが懇親会の方は脚を曲げてのお座りはもう苦手で失礼しました。川越ではまだパーティ式は無いのかなと残念に思いました。日高に戻って早くも三年目、元気が天々と家内と共に頑張っています。日高市ではいま合併問題が賑やかです。

15年度年会費振込宜しくお願い致します。



在京初雁会平成14年度事業報告

1 会員の動向

- イ 会員 70名(会費納入者58名)
- ロ 新入会員 7名 柳沢 勇(中41) 恩田和也(高1) 斉藤和夫(高1)
西澤 孝(高1) 猪鼻 茂(高9) 菅間五郎(高9)
宮寺雅之(高17)
- ハ 退会会員 1名 増島隆二(中35) 死亡

2 行事

- ◆鐘つき堂 第73号(平成14年8月)
第74号(平成15年1月)
- ◆例会 第1回☆平成14年6月30日(日) 27名参加
江戸東京博物館内レストラン“匂花”にて総会を兼ねて懇親会
終了後岡部恒雄氏(15回)のご配慮によりガイド付きにて館内
を見学、
第2回☆平成14年12月2日(日) 29名参加
ゆりかもめ線“芝浦ふ頭”駅より東京湾レインボーブリッジを
歩いて渡り、お台場海浜公園を経てフジテレビ24階のレストラン
“シノア四季”にて懇親会を開き親睦を深めた。
第3回☆平成15年3月30日(日) 20名参加
桜咲く千葉県下総中山の法華経寺見学を兼ねての研修散策会。
日蓮ゆかりの境内を散策後、近くの田中会長宅をお借りして親
睦会を開催、会長ご一家のおもてなしに会員感謝感激。
- ◆本校同窓会 ☆平成14年5月12日(日) 95名参加 本会より9名参加
本会会員の長島恒雄氏(高3)が
『日本経済は再生できるのか・・・成功は失敗のもと、失敗は
成功のもと』と題して講演。佐久間旅館にて懇親会開催。
- ◆同窓会散策会 ☆平成14年10月20日(日) 95名余 本会より12名参加
和光初雁会主催で“叱られて”等々有名な童謡詩人清水かつら
ゆかりの和光市で開催。司法研修所・税務大学・理化学研究所
を見学、市民文化センターで懇親会開催。
- ◆本校文化講演 ☆平成14年12月12日(木) 川高体育館
本会会員の菅間 昭氏(高6)が
在校生千余名をまえに『私の歩んだ道』と題し文化講演。

以上



在京初雁会(創立昭和28年)

会 長 田中 隆

2004年新春号

第76号(平成16年1月15日発行)

初夢

お猿

壽

三番叟

平成十六甲申

元旦

在京初雁会 田中

隆



明けましておめでとうございます

会員の皆様には幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年度は会の行事に色々とご協力を頂き有難うございました。本年は昨年以上に若い方々に積極的に会の運営に携わっていただき、在京初雁会が充実した1年でありますよう宜しくお願い致します。

同窓会秋季散策会を主催！

私共の在京初雁会は先年創立50周年を迎え、記念会を予定しておりましたが、折角の行事を同窓会全体の行事としてお祝いしていただけたらと考え、本年の秋の同窓会秋季散策会を記念行事として主催させていただくことになりました。ご協力の程宜しくお願いいたします。

日 時 平成16年10月24日(日) 確定

散策地 浜離宮・汐留(予定)

★詳細につきましては順次お知らせ致します。

目次

有料道路・橋	大野惣平(高15)	2
うどん・そば	西澤 孝(高1)	4
阪神優勝	岡田良平(高2)	5
巨人・阪神	田中 隆(中45)	6
淡路島に私の石碑が	田中 隆(中45)	7

◆第3回例会を3月末に予定しています。

有料道路・橋

大野惣平（高15）

私は、昭和42年に京都大学の土木工学科を卒業し、首都高速道路公団に入社しました。以来2年前に退職するまで合計34年間首都高速道路の建設や保全に携わってきました。今日は首都高速を例にとりながら有料道路や橋についてお話したいと思います。

1 有料道路

江戸時代に日本を訪れた外人宣教師は「日本の道路は大変すばらしい」という記録を残しています。「えっ?」と思われるかも知れませんが、「平らでキレイだ」と感心しているんです。種明かしをすれば、馬車が無いので道が大きく掘られることがなかったということのようです。明治以降、富国強兵策のもと鉄道や港湾に集中投資がされましたが、道路の大半は昔のままでした。

昭和31年、経済白書は「もはや戦後ではない」と謳い、自動車は全国の保有台数が100万台を突破して物流の主役に躍り出ます。同じ年、アメリカのワトキンス調査団は「日本の道路は信じがたいほどに悪い。工業国にして、これほ

ど完全にその道路網を無視した国はない」と報告しています。

本格的なモータリゼーションに対応した道路の整備、とりわけ高速道路の建設が急務になりました。道路は基本的な社会基盤であり不特定多数の人が使用しますので、本来税金で整備すべきものです。しかし、当時は財政状況がまだまだ厳しく高速道路を税金で建設する余裕はとてありませんでした。窮余の一策として導入されたのが「借金で建設し、通行料金で返す」という有料道路制です。国会では「金を払って道路を通る人なんているのか」という議論もあったようですが、ともかくこれを法的に可能とする道路整備特別措置法がつけられ、高速道路



を建設管理する組織として日本道路公団が設立されました。いずれも昭和31年（1956）のことです。

直後から日本は高度経済成長の時代に入り、自動車の爆発的な普及やインフレ等もあり、このシステムは非常にうまく働きました。作れば作るだけどんどん収益もあがる、まさに打ち出の小槌みたいなものでした。

ところが1990年代以降、バブルがはじけるとともに色々な問題が出てきました。長期不況による通行台数の落ち込み、料金値上げの抑制、地形や環境対策に起因する建設費のアップetc.。その結果、このままつくり続けると借金が返済できなくなる、ということから道路四公団の民営化が議論されているのは皆様ご承知のとおりです。

ただ、最近の議論はあまりにも採算性のみに偏っている感じがします。基本は、日本の国としてどのような高速道路を必要とし、それをどのように整備していくか、ということなのではないでしょうか。現在の有料道路制はそのうちの一手法にすぎません。

2 首都高速道路

首都高速道路公団は昭和34年に設立されました。同じ道路公団でも日本道路公団と違い国と地方が折半で出資しています。建設の手法にしても地方議会の同意が必要である等、いろいろ

「うどん」と

「そば」



西澤 孝（高1）

「平成15年度在京初雁会第2回例会」は11月8日（土）浅草雷門の「魚眠荘」で講演を交えての会であった。当日はちょうど「（一の酉）」で浅草は大賑わい、よき日に設定されたものよと感じた次第である。

首都高速道路公団で活躍の大野惣平氏の『有料道路・橋』についてのお話は有意義であり、特にご専門が「橋」とのこと、最後の「橋の語源考」の「橋・箸・嘴（くちばし）・梯（はし）・階（きざし）・柱（はしら）・舁（はしけ）」はとも興味深く聞いた。

ところで「魚眠荘」一階の居酒屋「やかた」での宴会の終わりに出てきた「そば」の美味しかったこと。幹事の岡部さんや西さんの案内によると、会津高原産の「そば粉」100%でつくる「手打ちそば」主人自慢のものだという。繋がらないで食べやすく、そしてうまい。「美味しい」というのを、もう少し詳細に表現したいのだが出来ないのは残念。会がハネて、同期の恩田和也氏・斎藤和夫氏と三人で鷲神社まで行ってみ

ることにした。まず観音様にお参りをして「花やしき」の横を抜け、ひさご通りへ。高村光太郎の「米久の晩餐」の「米久」(?)を横目で見ながら、言問通りを左に折れて旧国際通りを右折。神社に着くと、門前は既に参詣人が堵をなしている。拝殿まで進むのには、時間がかかりそうなので途中で参拝で許して貰い、熊手市を一回りして前の通りへ出た。江戸時代の若者だったら、素足めきに清掻きの音締めでも聞かんものと、裏へ廻ったのだろうか、など思いながら三人とも用事を控えていたので、タクシで浅草橋へ。斎藤氏はJRで、恩田氏と私は地下鉄で家に帰った。

私は少年時代を川越を中心とした入間地方で過ごしたが、上京するまで「蕎麦」を食べた記憶がないのである。親戚に行っても出てくるのは大体が「うどん」だった。母親の実家へ行くと、伯母が「きょうは、うどんをつくるべえ」と言つて、よく麵棒を持ち出したものだ。そばというと「しなそば」で、越生町に「和田才」(?)と言う料理屋があつて、ここの「しなそば」はよく憶えている。越生にはうどん屋はあつたが、蕎麦屋はなかったと思う。

小学校の同窓会の締めくくりは、いまでも、うどんが出てくることが多い。でも、川越は少し違うようだ。城下町ということと、江戸の影響があるのか。「江戸」はやっぱ「蕎麦」だ。

「天衣紛上野初花」の一節、あの雪の夜に直次郎がとびこむのは、入谷の「そば」屋だし、落語の「時そば」にしても、すべてが蕎麦である。今でも、池の端の蓮玉庵、連雀町のやぶ、雷門の並木、永坂の更科、室町の砂場などなど。これに魚眠荘の「やかた」を加えようか。

「そば」と「うどん」は、浜松を境にして東がそば、西がうどんという分類ができるのだそうである。思い浮かぶのは「讃岐のうどん」、長崎には「皿うどん」なんていう料理もある。信州「信濃のそば」は定番だが、関東から北はそばが一般的なのだろう。享保時代（と言えば八代將軍・吉宗の頃）から川越は鐘つき堂の近く、志義町（現在は松江町二丁目）で米穀商だったという、同期の原田秀四郎氏によると、「入間地方は水田が少なく陸稲が多かったこともあって、いい米がとれなかった。が、小麦の収穫はよかったので、自然に「うどん」を食べるようになったのだろう」ということだった。

博多生まれの博多育ち、大学を出てから東京で就職した私の知人は埼玉は所沢の方と結婚して、所沢で所帯を持った。まず驚いたのは何かというところ。埼玉県人とは、何とうどんの好きな人たちなのだろうか、と不思議に感じたそう。だ。もともと、この話には落ちがあつて夫人の里は「うどん」屋だったのである。

阪神優勝

岡田良平（高2）



昨年のプロ野球は星野監督率いる阪神タイガースが18年ぶりに優勝を果たした。川に飛び込む程の熱狂的ファンではないが、大変嬉しい1年であった。会員の皆様もご存じのように在京初雁会の田中会長は熱烈な巨人ファンで春の宮崎キャンプに激励に行くほどです。会長に仕えて10年になりますが、こればかりは良きライバルです。毎年東京ドームで巨人・阪神戦を三、四試合づつ二人で応援にいきますが、今までは負け試合が多く余り楽しい思い出はありませんでした。今年も一緒に四試合くらい観戦しましたが圧倒的な強さで溜飲をさげ「江戸の敵を大阪（？）で討つ」という心境でした。今年もまた田中会長と東京ドームで岡田新監督ひき



る新生タイガースと4番バッターばかりのそろう巨人とどう戦うのか応援を楽しみにしています。

田中会長はいつから巨人ファンになったのか伺ったことはありませんが、チームが競い合う以上にファンとして良きライバルがいることは密かにファン魂に磨きがかかるものであります。私がどうして何時から阪神ファンになったのかは定かではないが、多分、川高二、三年（昭和23、24年）頃からだと思ふ。周囲に巨人ファンが多かったので臍曲がり気分、或いはそのころ何か屈折した気持ちがあったのか。あるお盆の日実家に兄弟や子供たちが集まったときテレビの巨人・阪神戦を何気なく観ていると阪神が点を取ると皆喜んでるところをみると我が家の血筋がそうさせているのかなとも思った。ファンといっても熱狂的な行動的ファンもいれば、勝つとにやっとする程度の心情的ファンもいる。私はどちらかと言うと後者かもしれない。そうはいっても昭和53年の開幕前夜後楽園駅近くの礪川公園に阪神ファン30、40名が集まり、マジ解説などで氣勢をあげ、私が先頭にたつて阪神の定宿・淡路町のグリーンホテルまでシユプレヒコールをあげながらデモ行進をしたことを思い出す。水道橋駅近くまでは富坂警察の巨人びいきのお巡りさんが警備に付き何となく邪険に扱われ舗道の隅を歩かせられたが、神田警察に変わったとたんに阪神びいきのお巡りさんが警備につき車道を車を止めながら堂々と行進しホテル前で後藤監督を激励したこともあった。

警察官の巨人・阪神戦をみた思いでした。残念ながらこのシーズンは球団史上初の最下位となりました。

18年前のあの優勝前夜に同級生の荒井利治君から電話があり「岡田、おまえ高校の頃から阪神ファンだったよな、明日の試合の切符あげるから、見てこいよ」と言つて神宮球場のボックス席の切符2枚を貰った。お蔭様で翌日神宮球場で21年ぶりの阪神優勝の歓喜のルツボの中に身を投ずることができた。誰もが見たかった試合の切符をわざわざ思い出して私にくれた荒井君の友情に優勝した以上の喜びを感じたことを今でも忘れることはない。昭和60年10月16日の

昭和60年の優勝記念グッズ



全試合掲載の新聞縮刷版→



ことである。この年日航機御巢山墜落事故があり、阪神の球団社長が亡くなられた。すぐ後の席で遺影を抱きしめた遺児が優勝の喜びに沸くスタンドを唇を噛みしめてみつめていた姿が印象に残っている。

ファンといえば大なり小なりチームに関するお宝グッズをもっているものだ。たわい無い物でも本人は大真面目に自慢したがるものだ。ところで私のお宝は18年前に優勝したときに活躍した選手の似顔絵付き未使用のライター、今は懐かしい三葉オーシャンの未開封ウイスキーなど写真の品々である。今回18年前のウイスキーで乾杯したかったが、岡田新監督のもとでの優勝まで待つことにした。相当の古酒になることだけは覚悟しているが10年以内には飲みたいものだ。

今回の優勝祝賀会がさる11月22日に中野サンブラザで東京地方のファン百余名が集まって盛大に開催された。今度いつ訪れるか分からない優勝を念じて祝杯をあげた。いい大人がなぜこども無邪気になれるものか不思議に思ったが、ファン心理というものは有難いものと同時に恐ろしいものだ。私もいつのまにかファン歴55年になってしまった。

ところで年末恒例の「今年の漢字」に「虎」が選ばれ、京都・清水寺の森清範貫主が特大紙に揮毫した。18年振りに優勝した阪神タイガースが「やれば出来る」との勇気を与えたのが理由とのこと。ただ応募した漢字の虎の漢字の次に多かったのが、「戦」「乱」という。毎日の



ように報道されるイラク戦争や国内では児童虐待などの乱れた世相が恐い。「虎の子」という言葉があるように今年は阪神タイガースの虎

もいいが、子どもや恵まれない人に愛情や友情を築く「虎の子」の一年にしたいものである。新聞の読者が選ぶ昨年の10大ニュースでも阪神の優勝がトップに選ばれ、まさに虎ではじまり虎で終わった一年でした。その外、松井選手のメジャーでの活躍などスポーツ選手の明るい話題の多い一年でもあった。

巨人・阪神

田中 隆(中45)

岡田君、星野阪神の優勝心よりお喜び申し上げます。さて、岡田君のうれしい記事を読ませていただき余白の部分を追記として一言書かせていただく。

岡田君はどうだか知らないが、世上ではアンチ巨人という言葉がよく使われている。しかしアンチ阪神という話は余り聞いたことがない。考えてみると巨人が優勝して阪神が2位、阪神と接戦してやっと巨人が優勝するのが一番であり、最下位の阪神ではその年は全く面白く無く、むしろ不甲斐ないと思っていた。

岡田君には悪いが「けちんぼ阪神」「ベンチが

あほやから」などの批判に対しむしろ同情さえしていたところである。

記念すべき平成15年、なぜ阪神が優勝したか、いくつかの要因を考えてみた。

その第一は星野監督の采配、監督が変わればこうもちがうものかとつくづく考えさせられた第二は何と言っても熱狂的な応援であり、前年は予行演習、昨年は甲子園だけでなくどこへ行ってもその応援はうらやましい限りであった。第三は全試合出場していた松井が抜けてしまった駄目巨人のおかげ。

ところで岡田君の質問、私がいつから熱烈巨人ファンになったかであるが、学生時代午後からの議義をサボって後楽園の外野席に行ったことが数回あったが正式な昭和40年春、ファンの会の幹事が外科に入院、その代理として例会に出席したところ会長が何と大先輩のK先生であり、幹事の一人が循環器科の教授、そんな所から即刻入会させられてしまった。何とその年から巨人は川上監督の九連覇が始まっている。

その当時は日本一になると祝賀会に呼ばれ、記念品として縮緬のベナント風呂敷をいただき六枚たまった時それを使って掛布団を作ってお客さん用として使っている。残念なことに九連覇目の昭和48年はアメリカに留学中のため八枚で終わっている。その他のお宝は長島監督との2ショット写真、王選手と一緒に作った六連覇記念金製ネクタイピン。長島・王選手連名のサインボール等々である。

淡路島に私の石碑が

田中 隆（中45）

「人生は出会と選擇である」という私の石碑がひよんなことから淡路島に建っている。造つてくれたのは医学部の同窓、大先輩島太郎先生である。先生は昨年（平成15年5月）八十三歳で枯木の朽ちるように亡くなったとのこと、お葬式に行けなかったので何としても年内にお墓参りと思つていたところ岡山の学会に出席することになり、念願かなつてお墓参りと石碑を再訪してきた。

そもそも島先生と私は先輩と後輩という関係だけでなく、先生のお孫さんが医学部で私の教え子であるということから同窓会長選挙に際し激励の手紙をいただき、当日は杖をつきながら出席いただいたことから交誼が始まり、時々ご自分の書かれた地元新聞の切り抜きを送つて頂いていた。

平成10年4月、たまたま知人の結婚式で神戸に行くことになり、そこで新しく出来た淡路大橋を渡つて淡路島まで行つてみようということであつた。島先生宅を訪問した。

先生は地元では落書きドクターとして有名であり、それだけでなく診療所の裏山に野外文学館と称して石碑を沢山造成しており、その数何と二百七十基、また診療所の待合室、診療室の

壁、天井には先生並びに患者さんの落書きがびっしり、内容についてはいずれも人生訓、養生訓などであり、建物が古くなつたが改築出来ないとのこと。このことが島中の評判となり、更に新聞にも紹介され、これがきっかけになり民放テレビで連続ドラマまで作られ、それこそ島内きつての有名人名になつてしまった。因みにテレビの主演は先生が芦屋雁之助、奥さんは三ツ矢歌子だつたとのこと。

石碑文学館については診療所の玄関にも掲示されており、早速見せていただいた。群立する石碑には有名人、無名人の人の歌、俳句、人生訓などが彫られており、つい最近までご自身で彫つていたとのこと、医学者としては北杜夫、なだいなだ、岡山、神戸大学外科の教授などの石碑もあり、所せましと林立していた。大部分は自然石で時々開かれていた石市で一山づつ買つてくるとのこと、しかし最近では疲れたので石屋に頼んでいるとのこと。説明のなかばで話のはずみに私の石碑を建ててくれることになつてしまった。

帰つてきてはて何を書くかという段になつて、有名人の石碑を想い出してみたが名前だけで記憶に残るような字句がないこともあり、折角作るのだから誰にも読める簡単な字句ということであつた。私の人生訓「人生は選擇である」なる字を書くことにした。早速家内の友人の書家のところへ行き七十の手習いがはじまつた。

考えてみると島先生とは同窓会長選挙という出合によりこのようなことになつたことから私

の人生訓に出合を加え「人生は出会と選擇である」なる字句に変更し自分なりに満足のいく碑文を送らせていただいた。

それから何回か手紙をいただいたが、裏山は一杯なので淡路勤労センター横の私有地に会津八一の歌碑と並べて作ることにした、梅雨の季節には彫ることが出来ない、真夏には石屋が老人になつたので彫つてくれない、などの通知がありそれから一年後、突然出来上がったとの写真入りの手紙が届き、写真をよく見ると会津八一の歌碑より大きな石碑であり早く見に行きたいと思つていた。その内いくつかまとめて除幕式まで開いてくれるとのこと唯々びつくりした。何か関西方面に行く機会はないかと思つていたところ平成11年6月、福岡と広島で同窓会支部総会があり、その帰路これまた出来上がったばかりのしまなみ海道を渡り今治、徳島経由で淡路島に行くこととし除幕式前に見せていただくことになつた。

この時石碑の数はなんと四百七十余基であり、目標は五百とのこと、その執念、石集め、彫刻費用等々今更ながらびつくりした。

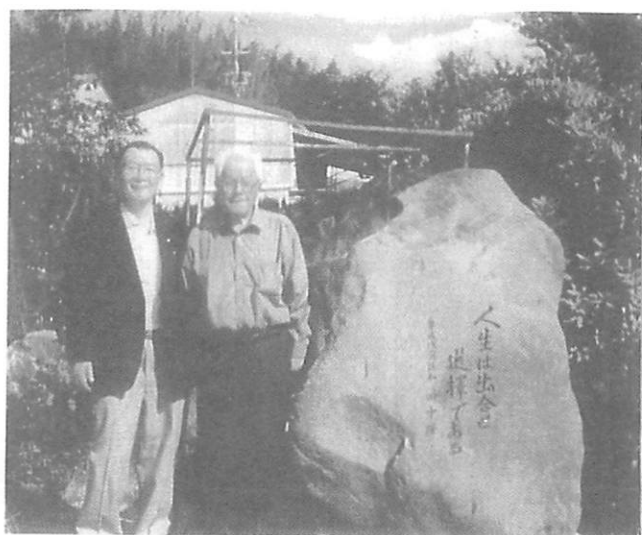
五百基落成記念の会には何があつても出席したいと考えていたところ五月に突然亡くなられたことを知り更々びつくりした。

今回の墓参りで五百もある石碑目録を是非見せていただきたいとお聞きしたところ遺品の中には見つからないとのこと、診療室の落書きについては「落書きドクトル健康帖」なる著書にまとめられているので記録として残してい

るが、石碑目録は出てこないとのこと、ことによると剽軽な先生のことだから永久不滅の石に刻んであるので目録まで残す必要はないと考えたのかも知れない。

改めて落書きドクトル健康帖を読み返してみると「七十五歳は死に頃や」「お金は生きているうちにうまく使いなさい」と巻末に書かれており、八年も余分に生きまし、石碑は五百の目標も達成したということで寿命を全うしたと考えたのかも知れない。残念なのはいく人かの有名なエピソードを是非お聞きしたいと思っていたが果たせず、この事だけは心残りである。

一緒に行った家内が先生に聞いた唯一の記憶



出来上がった石碑と島先生

として、坂を下った出口のところにあつた患者おばあさんの「わたし水仙を二百株植えさせていただきました」という石碑の周りに水仙が沢山咲いていたこと、それと傍らにあつた先生の祖母の「感謝、八人の医者育てた人」との先生自筆の石碑だけは今回確認して帰ってきた。それにつけても林立した文学石碑は島先生の偉大なる人生目録である。

平成15年度在京初雁会第2回例会

昨年11月8日に高15の岡部さん、高17の西さんなどの企画により浅草吾妻橋近くのホテル・ニュー・漁眠荘にて30名の参加を得て盛大に開催された。一の酉とは思えぬ暖かい日に恵まれ、別掲のような大野惣平氏の講演に続き、懇親会と移り、ホテル自慢のお酒・料理に舌鼓をうち絶品の手打ちそばを頂きながらお開きとなり、それぞれのグループに別れて浅草寺や鷲神社の一の酉などへと繰り出して行った。

事務局通信

昨年は会の要職を務められました増島氏(中35)、菅沼氏(高2)、松下氏(中29)の方々が亡くなりました。皆さん会の行事には積極的に参加され、応援してくれた方ばかりであり、誠に残念でなりません。あらためてご冥福をお祈り致します。尚、増島さんの奥様は現在パリに在任しており皆様に宜しくとのことのお手紙をいただきました。

★12月22日池袋にて幹事会開催。

★1月末に幹事会を開催し、汐留地区・浜離宮

などを見、他に3月の例会場所を決定する予定。(岡田)



訃報

松下雄一氏(中29)病氣療養中のところ平成15年8月23日逝去されました。通夜・葬儀には山崎豊弘氏、田中会長、岡田副会長が参列しました。

松下氏は副会長として活躍され、世代交代したあとも若い人の後見役としてご指導いただきました。昨年6月の後樂園での例会にはお元気で参加されただけに誠に残念であります。在京初雁会のためにご尽力頂きましたことに厚く御礼申し上げますとともに謹んでご冥福をお祈り致します。

在京初雁会五〇周年に寄せて

川越高校同窓会会長 渋谷 健

在京初雁会が昭和二十八年に産声を上げられ、ここに五十周年を迎えられ、その記念事業の一つとして「散策会」をご計画いただいたことに、心からの敬意と感謝を申しあげます。これも初代会長矢部謙次郎氏に始まり、現在の田中隆氏に至る歴代会長を中心とした会員各位の長年にわたるご尽力、ご協力が醸し出した結果であり、今後も貴重な歩みが継続されることを心から期待いたします。この年月は母校の歩み（百余年）のほぼ半分に達することになり、この偉業は合計十八に達する初雁会に先駆者としての多大の指針を供与していただき、貢献いただいたことに感謝を申し上げ、これからも二十一世紀に相応しい初雁会の在り方の模範をお示しくださるよう心から願います。

さて、私事になりますが、在京初雁会が誕生した年は昭和二十七年に初めて教職に足を踏み入れ、母校の教壇に立たせていただいた翌年に当たるという不思議なご縁を感じます。そこでこの当時に暫しタイムスリップして、その当時のことを若干回想してみたいと思います。

この時期は松本利雄先生（体育科）のご指導のもと、陸上競技が盛り上がり、それがクラス対抗駅伝競争（本校―武蔵嵐山駅間折り返し）の発足に繋がり、交通事情の悪化による中止（昭和二十九年）まで続き、悲喜こもごもの想い出も多く、当時の生徒諸君には懐かしく思い起こ

されることと思います。

また、当時は埼玉県西部の中心校としてかなりの評価をいただきながらも、著名大学等への進学面ではいま一つの伸びを欠いておりました。そこで同窓会も危機感を感じたのが、これが対策として昭和二十九年年度から「向上賞」制度を設け、生徒諸君の勉学意欲の向上と進学実績の飛躍に役立つことを期待したようでありました。これが刺激となったのか、やがて進学実績は向上し、県を代表する進学校としての地位を固めるようになったとおもわれます。しかし、最近では私学の台頭に押され、一般的には公立高校に寄せる県民の期待は薄れ、過日の上田埼玉県知事の発言「私学に公教育が負けている。中身で公立を選択するようになるべき」（記者会見）になりました。安定基盤の上にマンネリ化してきた県立高校への警鐘とも考えられます。川越高校には関係ない問題かも知れませんが、この時期に同窓会として果して何が出来たのか、考えさせられるものがあります。

また、終戦後いち早く取り入れた学校五日制が諸般の事情で順次廃止になったのもこの時期であります。それが五十年後の今日、ゆとり教育を標榜し、再度台頭してきたのも不思議です。話はかわりますが、以前から同窓会が協力し、母校の後輩に先輩達が激励を与え教養を身につけさせる目的で、文化講演会を持ち、岡村了一元会長、佐々木忠一前会長をはじめ中には芥川賞受賞作家等多くの文化人にも講師としてご協力いただき、生徒に多大な感銘を与え、効果を上げてきております。更にそれとは別に川高百

周年には松山幸雄氏（中47、元朝日新聞論説主幹）に講演をお願いしたところ、それに生徒が反応し積極的に意見が出されたり、多くの質問が出る熱心さがあつたと承っております。また最近では国の理科教育振興策に呼応し、加藤進氏（中44、京都大学名誉教授）や神部勉氏（高10、東京大学名誉教授）等にご無理をお願いいたし、ご講演やご講義をいただき、そのことが今まで遠い世界で近寄り難い存在であつた方々や分野に直接接する機会を持つことに繋がり、親しくお話を承ることで、理科方面への関心が一層高まり、理系や中でも医学薬学系への進学者が順に増加してくるなど、影響力の大きさを実感しております。願わくば、これからも多くの先輩の方々にご協力いただき、同窓会としても財政的支援にとどまらず、学問の面からも、あるいは人生を左右する豊かな選択肢を確保するといった面からも強力なエネルギーを後輩に注入できたらと考えます。会員各位のご協力を心から願います。

聞くところによると、浦和高校同窓会が百十周年記念事業で環境問題を取り上げているとのことあります。本校同窓会もこれからの新しい時代にマッチした周年行事の在り方をこの際模索したいと考えます。これからも変わらぬご支援とご助言をお願い致します。

取り留めのないことを書きましたが、終わりに在京初雁会が次の五十年を目指し、「散策会」でスタートを切れ、そして今後もより充実した実りある成果を収められることを心から期待し、拙筆いたします。

私の半世紀と在京初雁会

会長 田中 隆

私ども在京初雁会は一九五三年（昭和28年）に発足、実は昨年が創立五十周年でした。何か記念行事をしたいという考えておりましたが、ただ集まって祝賀会を開いても能がないと思つているうちについつい秋になってしまいました。

丁度その時、東京は江戸開府四百年で祝賀行事が開催されており、日比谷、丸の内は御神輿や山車の行列で賑わっていました。長い行列のしんがりを川越の山車が舟橋市長の音頭でひときわ際立っていました。

このことがきっかけで幹事会で検討した結果、我々在京初雁会も江戸東京をテーマに同窓会秋季散策会を五十周年記念行事とすることを計画、同窓会のご了解のもと今回開催する運びとなりました。

考えてみますと本会の発足した昭和28年は私が大学を卒業した年であり、4月からインターン生活を送っており、その後十年近くは所謂無給医局員、それでもお金をもたないのに先輩に連れられて夜の銀座には出役しており、何回かビルゼンなるビヤホールにも行っておりまし

た。そのビルゼンで初雁会なる同窓会が毎月開

かれていたことは全く知らずにおりました。昭和四十年頃のこと、外科教室の後輩でもある大澤 崇君（高7、後に東松山市民病院院長）から「毎月八日の正午、銀座のビルゼンで在京初雁会という昼食会があり、田中先生も出席されたら」「そんな会、暇を見つけて一緒に行こうか」「僕なんか一緒に行く所じゃ……」とのこと、言われてみると私自信も当時は忙しい病棟医長、昼休みなどゆつくり食事が出来る身分ではなく、そのまま忘れておりました。

後から考えると大澤君は霞が関ゴルフクラブのメンバーであり、後に五代会長になられた矢部義一先輩（中23）とはゴルフ仲間であり、在京初雁会への出席を要請されたようで、私もその後何回かゴルフ場でお会いしました。いろいろ詳しく聞いてみますと、何故毎月八日なのだろう、また何故正午という昼の時間なのだろうということが気になり、私なりに考えました。戦争を経験した先輩達は毎月八日は大詔奉戴日と言つて、朝礼の時間に校長、社長が詔勅を読み上げる日であり、忘れられない日であること、昼間の集まりということは余程の閑人か、おつかえ運転手のいる大企業の重役さん達の集まりだろうと思つておりました。このことも後から考えると半分当たっていたかもしれません。

私の所属している日本大学医学部には先輩として耳鼻科の高山乙彦教授（中28）、公衆衛生の

川真八教授（中36）がおり、県人会を通じてご交誼をいただいております。

どのような経緯か判りませんが西川先生が岡村了一会長の後任として同窓会長への就任が内定した頃だったと思います、佐々木忠一先生、佐久間勇次先生（日大農獣医学部教授、現生物資源学部）の音頭で日大初雁会なる会を佐久間旅館で開催、皆々日大の教授連であり、助教授である私と呼ばれ、そのことがきっかけで在京初雁会に入会、ビルゼンの例会にも出席、矢部会長とも再会しました。

この頃から昼間の例会だけでなく、夕べの会が学士会館で開催され、勤務地駿河台の近くでもあることから毎回出席することになりました。このような経緯でスタッフの一人となり、平成五年には佐々木先生の推薦により増島会長の後任として会長に就任しました。

私の人生にとつて最も忙しい時期でもありましたが素晴らしいスタッフ（高2の矢部、菅沼、岡田副会長）に恵まれ、四十周年記念（平成六年）、増上寺・愛宕山の秋季散策会（平成八年）、江戸城めぐりの秋季散策会（平成十三年）、それと今回の五十周年散策会を無事に務められたこと、またこの間の会報『鐘つき堂』の発行については編集、発行のすべてを岡田良平君にお願いし、これまた無事に本記念号の発行に至ったこと、唯々感謝です。

草創期の在京初雁会

佐々木忠一（中32）

「在京初雁会は昭和28年（一九五三）三月一日、銀座ビルセンにおいて発会式が挙行され、矢部謙次郎氏（中一）はじめ二十二名が参集して発会を宣言し、爾後毎月八日正午を期し例会を開くことを決議した。また年に一回川高同窓会との合同大会を開き、会員相互の親睦をはかることとした」（在京初雁会二十年史）

愚生が入会を認められたのは創立十八年の一九七一年九月七日で、爾来末席につらなること三十余年、その間委員、会報担当、副会長などという呼び名に浴し、顧みて未だに赤顔せざるを得ません。

故坂田圭司名誉会長は創立二十周年に当たり、述懐して「この会を設立したことが、極めて適切で有意義であったことを痛切に感じている。それは初雁会が結成以来、単に二十年という月日を経過したというだけでなく、毎年一回母校である川高同窓会との大会（現在は秋季散策会）を含め、毎月八日唯の一回も休むことなく、今月まで（一九七三年三月）実に二百四十二回に及ぶ会合を持ちつづけてきたことに大いに意義と誇りを感じていると共に、二十年の長きにわたり、在京、在川の同窓の各位が、先輩後輩混然一体となって互いに親睦を深めた功績

は初雁会としての役割を十分果たし得たものと喜んでゐる。（中略）

今回奇しくも二十周年を記念して委員佐々木忠一氏が編集責任者となって、年四回会報を発行して初雁会の広報につとめられることとなり、その創刊号が四月八日に立派に上梓されたことは誠に欣快に堪えない。この会報が口となり耳となり、又強固な礎となつて会員の増加を図り、会本来の使命である会員相互の親睦を深め、弛まざる発展のため、大いに役立つことを期待して止まない。（後略）

更に坂田さんは創立二十五周年の記念祝賀式（一九七八年三月八日・神田の学士会館）の挨拶の中で「影の後援者である埼玉県人会はその機関紙『埼玉往来』に於いて、初雁会のことを企画と団結力の強さに於いて、実に他に類のない輝かしい記録を打ち立て、正に日本一の同窓会であるとの讃辞を呈しておりますし、五十二年八月（一九七六）には東京テレビ12チャンネルが本会の活躍ぶりを認め、例会の模様を録画して九月六日にこれが全国放送されて、大いに初雁健児の旺盛なる意気と面目を施したのであります。（中略）

今や各地に同窓会の支部として、初雁会が結成されつつあるやに聞いております。母校に学んだ青春の日々の感激をしのびつつ、深い友情のきづなに結ばれていることは、誠に心強い限りで、これからも大いにこの輪を広げ、互いに

手を携えて、母校並びに同窓会の隆盛に貢献して行きたいものと念じております。（後略）

私は坂田さんを深く尊敬しているものの一人ですが、ひと皆ひとしく、坂田さんの母校愛と後輩を敬愛する思い、その情の厚さにお会いする度に強く感動させられました。九十歳の頃からその後か、とにかく高齢で起居行動がかなりご不自由になられておるにもかかわらず、在京初雁会の現役の幹部達をご慰労と激励のため所沢の閑雅なお邸にお招き頂いた時（これがお目にかかった最後となりました）田中会長以下数名が参上し、私も末尾についてお呼ばれに与る恩恵に浴したのですが、タクシーを使つてご愛顧の料亭で饗応を有難く拝受いたしました。田中会長はご家庭料理に与るものとばかり思っていましたのにと、たいそう恐縮されますと、坂田さんはあつさり「家内も年をとり、自宅ではねえ」と話されたものです。私は度々故岩泉さんのお供で自宅の食堂で奥様の「広東料理」をいただきましたが、坂田さんは「家内は天津井も得意なんですよ」と機嫌でした。川中時代の五年間が坂田さんにとって如何に価値あるものであったことでしょうか。進学された八高及び東大のご友人のことは殆ど話題に出ませんでしたが同級生のトナ会についてはよくお話を承り、中十七回の先輩が次々に他界され遂に二、三名になられた頃「その二、三名も脚、腰が立たなくなり集まらないので解散した」と

淋しげに小声でつげられましたが、坂田さんもその後間もなく九十五歳で天寿を全うされました。お葬儀に田中会長と列席させて頂きました。

在京初雁会を語るとき、私の入会の際は児玉政介先輩が会長をしておられ、ビルセンで厳然として背を伸ばして中央に座席を占めて居られ、愚生には眩しく近づき難い方でした。秋田県知事（最後の官選知事）より厚生次官となられ、勲一等を親授されました。ご退官後財政審議会、家政学院大学長の要職にあり、ご健脚な方で日本の全国の山は悉く抜抄され「山を樂しむ」「日本山岳図絵」などの著者としても山岳人に親しまれていたと承っています。会長を退任され後事を坂田会長に託されて名誉会長となられた頃は、神経痛や高血圧、白内障のため例会へもご出席されず、八王子に自ら養老院を建てられ、ご自身も「特一号室」と表札をかかげられて一番奥の棟に余生を送られておりました。私が創立二十五周年の記念事業の一つとして「功労賞」を贈呈すべくその特一号室に参上した時は眼帯をして黒白テレビで大相撲放送を見ておられましたが、参上の旨を申し上げるとテレビを止め、ベッドの上に威儀を正して坐られ、持参の額入り功労賞を読み上げますと幾分緊張して両手をさしのべて、お受けになりました。明治の人だと強い感銘を受けました。例会で末席から「会長に申しあげたいことがあります」と発言し「どうして、この会には会報がないの

ですか」とのご返事に、一言「では君が作りたまえ」。そして後に坂田さんにあの若者の名はとお訊ねとのことでした。八王子へ参上したのは三月十七日の早春の晴れた日で未だに印象に残っています。因みに「創立功績表彰状」を菅間六郎氏に贈呈すべく飯能のご自宅に参上したのは三月十一日で、寒い曇りの日でした。

在京初雁会創立の由来

東上線が開通して以来、東上線を利用して東京へ通勤している川中同窓は相当多きを数えているが、昭和二十七年十二月某日、東上線の車中で浅海倭夫氏（中21）が菅間六郎氏（中17）と会い、たまたま戦前在京川中の同窓矢部謙次郎（中1）、矢部専之助（中3）、森田茂一（中3）、野上啓治（中4）、室岡惣七（中4）、喜多義之（中6）、矢部家治（中8）、安田三郎治（中8）、加藤正二（中10）の諸氏が二年に一回位、日比谷の陶々亭で会合されていたことを聞き、浅海氏も誘われて出席したところ、在京者と通勤者との同窓の懇親を深めるため、それを復活しようではないかということになった。

昭和二十八年一月十二日（月）に浅海氏は菅間氏と同期の私の会社（王子造林）を訪ね、私に会い、その希望を延べ、更に二月二日両氏が私を訪ね、一同で交詢社一階でビルセンというビヤホールを経営する斉藤憲吉氏（中11）を訪ね、その趣を伝え、会場の提供をお願いしたところ、斉藤氏は快諾され、話ほとんどん拍子に

進んだ。又世話役として定評のあった高橋三四次氏（中23）にも協力を頼み手分けして同窓の人達を誘い合わせ、同窓相互の親睦を図る目的を以てここに在京初雁会が誕生することとなった。（坂田圭司）

〔筆者追記〕昭和二十八年一月（一九五三）以降の登場人物も今は故人であるが、私が入会当時はお元気で活動的な方々でした。浅海氏は東京高等工芸出身で銀座の松阪屋百貨店において意匠関係のお仕事をしておられ、菅間氏は確か東大の工学部出身、高橋氏は東大農学部出身で農林省の高官で馬事関係では全国の農場、特に北海道の牧場に局長として赴き、昭和29年度の母校との大会は十月十日、大宮の国立種苗牧場で開催、見学後野外でのジンギスカン料理で懇親会を開くなどお世話をされている。

初代会長 例会の第一回は昭和二十八年四月八日ビルセンで開かれているが、会長は十一月八日の第八回例会において行われた。この例会は三十二名の出席者で盛会、満場一致で矢部謙次郎氏（中1）が選出され初代会長に就任。同氏は在任中昭和三十七年三月七日脳溢血で急逝された。同氏は時事通信社からNHKに入り放送部長として活躍。毎年八月八日（終戦記念日）にはスリルに富んだ話をされ、話題も豊富、弁舌も流暢で戦争終結時の玉音の録音盤の保管責任者として随分とご苦勞されたとのこと、例会出席者は同氏の話聞くのを楽しみにして居ら

れたようでした。

愚生も例会が八日と設定されていたため、勤務先の大学が神田なので地理的には例会会場へ近いにも関わらず出席日に当たると銀座まで出掛ける訳にも行かず、必ずしも例会精勤とは言えず、会員の中には夜間ならと洩らす方々もあり、では「夕べの会」を開き、毎回スピーカーを予定し、会報に予告したら如何かと提案したところ副会長の岩泉迪人氏も賛同され会場がビルゼンでは営業の中心が夜間であるため、というので神田の学士会館を会場とし、年四回位開くこととなった。夕食会ともなり、スピーカーもお願いしやすく、かなり長く続き出席者も二、三十名あり、そのうち工学博士のマジシャンも常連となり、毎回好評でした。

愚生も七十歳の定年退職後も、私立大学の特権で非常勤講師を各大学で務め、八十二歳まで現役として若い方々と勉強を楽しみ、退職後もボランティアとして生涯学習講師（東京都教育庁登録）となっています。兵隊にもなれず（戦時中赤紙と呼ばれた招集も来ず）中学の同級生から「かわいそうに若死するだろう」と言われていた身が（数年前はじめてこのことを知りました）。未だにヒョウヒョウとさせて居られるのも、初雁健児の諸賢と親しくさせて頂く恩恵と感謝しておるものであります。妄筆多謝。

『新河岸川と隅田川・浅草界限』

岡部 恒雄（高15）

「ハア、九十九曲がりやあだでは越せぬ
通い舟路の三十里、キタ、ホイサー」

第57回・くすの木祭の先達として、第三回くすの木俳句大会が、8月28日同窓会会議室で開催されました。選者の松本旭（中35）、本阿弥秀夫（高19）両先生を招いての句会終了後の懇親会でこの舟歌が桑田忠男氏（高1）より披露されました（ちなみに句会ではこの唄よりも以上の高得点を獲ました）。

新河岸川を下る川越夜舟の呼び名で賑わった早舟の船頭が、新倉の「川ノ口」から荒川筋に出たときに、安堵の気分になって歌い出したのがこの川越舟歌（千住節）だと言われています。此処まで来ると、船頭も棹をおさめてゆったりと帆を張り櫓を漕ぎだす。

新河岸川と云えば、江戸時代の初期から大正末期まで三〇〇年間、江戸（東京）と川越を結ぶ重要な舟運の道だった。川越はもとより武蔵一円の物資輸送に重要な役割を果たすとともに、川越地方に江戸文化をもたらした。

川越から「川ノ口」まで、約八里の川筋に二十三箇所、合流点から花川戸まで荒川筋に十六

箇所余の河岸場があった。川越から花川戸までは総延長三十里ほど、およそ一二〇キロの船旅であった。

舟運には、荷船・客船とも普通七、八〇石（米俵で二五〇―三〇〇俵）積めて、船底の平らな高瀬船か艀（にたり）船が用いられた。その用途によつて荷物だけ運ぶ不定期の「並船」、主に乗客を運ぶ定期便の「早船」、急ぎの荷物を運ぶ定期便の「急船」、今日下つて明日上がるという特急便の「飛切船」などの名称があった。

新河岸川から江戸の千住・花川戸へ向けて客を乗せた早船を創始したのは、砂村の善兵衛という人である。天保二年（一八三一年）善兵衛は艀（にたり）船の間を仕切って床板の上に筵を敷き、木で屋形を組み竹を渡してその上に屋根菰を掛け、苦で小屋形を覆って風雨を凌ぐように造作した屋形船をした。そして、早船と名付けて新河岸から客を乗せた。これは一カ月六度、月の三と八の日に出航する三八船で、三月から八月までの暖かい季節に限って運航した。その後、いろいろ批判が出て、福岡村の栄次郎に頼んでその名義で運航を続けた。栄次郎は自分の船も屋形船にし立て一六船の運航を始めた。その結果、早船は二艘となり、一六船、三八船で月に二、三度、新河岸・花川戸を往復するようになった。

天保四年になると、上新河岸の間屋兼名主の八兵衛と下新河岸の間屋兼名主の源次郎外一名の船主が、新規に屋形船を仕立ててこれに加わった。そこで、上・下新河岸から合計五艘の早船が季節に関係なく毎日一艘出帆するようになった。

乗り込んで、一晚寝ていれば翌朝千住に着き、昼ごろ浅草花川戸に着くという触れ込みで評判をとった。川越から川越街道を江戸に向かうはずの旅人も、これを伝え聞いて早船を利用し、いつしか客専用の早船となった。

積荷については江戸から運ばれる上りと、江戸へ向って運ばれる下りの別があった。下り荷は俵物と呼ばれる大麦、小麦、豆類や甘藷（サツマイモ）、里芋などの農産物、それに薪炭類・杉皮などであった。そのなかで川越のサツマイモは江戸時代、江戸城に上納する御用芋として川越と千葉のものと決められていた程当時から有名であった。

川越のサツマイモは武蔵国川越領に隣接する南永井村（現所沢市）の名主が寛延四年（一七五一年）からつくりはじめ、次第に周辺の村々に広まった。この川越サツマイモは新河岸川の舟運を利用して江戸市中に運送され、間屋達の手を経て市中に売られた。しかし天保二年（一八三一年）問屋が江戸城内へ献上する御用芋と

称して不正を行った。このため川越・千葉の村々が御用芋を直接納めさせて欲しいとの嘆願書を出した結果、川越・千葉双方で江戸に「御用所」を設置し、そこへ代表を派遣することになった。このように江戸城への上納さえも自分達の手により行った川越地方のサツマイモの名声は益々大きいものになり、サツマイモといえば川越と云われるほどその産地として知られるようになった。

サツマイモは救荒食として普及したが、アワ・ヒエ・ダイコン葉など日頃、腹にたまらないものを食べていた農民の日常食に甘くて腹ごたえのするサツマイモが加わった意味は大きいものでした。

寒くなると赤いあんどん看板に「九里四里うまい一三里半」と書いた焼き芋屋がやってくる。九里（栗）と四里を足して、それ以上においしいから十三里半だと説明されるけど、ただの足し算なら切りよく十五里でもよいのだが、十三里または十三里半でなければならぬ理由がある。川越からお江戸日本橋までの距離が十三里半なのである。生産地と消費地を結んだコビーであり、「この焼き芋は川越から持ってきた本場物である」という意味が「九里四里うまい」に込められていたのである。

なぜ「川越いも」が庶民の間でも有名になっ

たのかは、青木昆陽がサツマイモの試作に成功してから六十年後の寛政のころ（一七八九―一八〇一年）、江戸の町に焼き芋屋が現れたからだ。焼き芋は江戸庶民のスナックとして人気が高まり、たちまち焼き芋屋のない町はないほどになった。川越いもはその焼き芋屋用のイモとして発展したもので、質がすぐれていたために天保期（一八三〇―四四年）には「本場もの」としてはやされるようになりました。

晩秋に収穫したイモはそのまま貯蔵され、冬になってから出荷された。そのため江戸時代から「囲いイモ」として知られていた。明治期に入っても焼き芋屋はますます栄え、それと共に「川越イモ」が更に有名になりました。

先日、くすの木句会（毎月第一土曜日午後一時より川越駅西口徒歩五分・埼玉県川越福祉センターで開催、この九月で七〇回、中35回の松本旭、高20回の小澤克己両先生の選もあり、会費毎回五百円）の句会後の恒例の懇親会で「昔、銀座のバーの女の子へのお土産で一番喜んだのは屋台の焼き芋でそいつが一番もてた。金にまかせた指輪やハンドバックを贈る奴はもてなかった」という話で盛り上がった。これは絶対川越いもである。

浅草の河岸に芋問屋「川小商店」があります。川越芋作り農家だった創業者・斉藤小平次は明

治九年（一八七六年）新河岸川―浅草の舟運を

利用して浅草駒形に芋問屋「川小」商店を開業

しました。関東大震災・第二次世界大戦・芋統

制令など幾多の困難を乗り越えて、さつまいも

一筋に百二十年余、益々商売繁盛しています。

この小売部が昭和五十九年（一九八四年）に

アンテナショップとして開店している。現在は

昭和六三年（一九八八年）に有限会社「興伸」

を設立、「おいもやさん興伸」として都内に五箇

所お店を出している。

川越イモは江戸の焼芋屋用のイモとして発展

したものだ。ところで浅草に東京のいも羊羹の

老舗といえば「舟和」があります。その創業は

明治三十五年（一九〇二年）である。

しかし川越に縁のある屋中定吉翁編纂の「さ

つまいものお料理」（明治三八年・六合館出版）

によれば「いも羊羹というものを初めてこしら

えた」とある。屋中家は江戸時代からのいも問

屋で江戸城本丸御用のサツマイモを納めてい

た。著者はその三代目だったが、若いときに

転業しイモ製品を試作していたのであろう。し

かも成功したのである。

明治三十八年刊行で「翁」を名乗っているか

ら、これは幕末から明治初期にかけてのことで

あろう。「舟和」のいも羊羹よりいかに早かった

かわかる。

この本にこう書いてある。

「さつまいもは食物の中でも一番陽気な食物で

して、大きければ笑い、曲がつていれば笑い、

食はずぎてはまた笑い、実にこれほど笑う食物

はありますまい。笑っておりさえすれば家内は

大和合」とあります。川越の雰囲気を感じるで

はありませんか。

地元、川越では市民による文化活動グループ

「川越いも友の会」やおいも商品のお店グルー

プ「川越サツマイモ商品振興会」があり、ユニー

クなサツマイモ振興活動を行っています。

川越七福神の一つ妙善寺（川越駅東口徒歩七

分・川越第一ホテルそば）に川越さつまいも地

蔵尊があり、毎年十月十三日に「サツマイモの

日」とし「いも供養」が行われ、終了時には健

康祈願したオイモが配られます。

因みに十月十三日としたのはサツマイモの旬

は十月、収穫も多く、色々な品種が出揃い、ま

た値段も安くなります。「九里四里うまい十三里

半」の十三と十月を結び付け、一九八七年秋に

川越で全国に向けて宣言したものです。

さらに、誇るべきは世界で唯一の「サツマイ

モ資料館」があります。おいもファンの市民グ

ループ「川越いも友の会」の夢は「川越の地に

オイモ資料館を！」でした。その熱意をうけて

会員の一人「いも膳」社長が会員の協力を得て、

私営で平成元年四月に設立しました。この資料

館館長の井上浩（高2）氏が地元文芸雑誌「武蔵

野ペン（現在二一八号）に「サツマイモ資料館長

日記」をすでに四十六回の連載を続けています。

「サツマイモ」の話が中心になりましたが、こ

のほかに浅草寺境内の伝法院の庭は川越に茶

道で多くの弟子をもった小堀遠州設計の優美

な庭、同じく現役では川越出身で喜多院で修行

した塩入亮乗住職など話題にしたい人や話が

多くあります。

（参考）

・川越舟運・斎藤貞夫著（元川越高校教諭・さきたま出版

・上福岡市立歴史民族資料館・常設展示図録

・サツマイモ資料館（無料）・川越市小室一八一五

・さつまいものお料理・屋中定吉編・川越市立図書館所蔵

・川小商店（台東区駒形二一―二六）

・おいもやさん興伸・駒形店（駒形二一六―六・駒形泥

鰯の向い側）

魚眠荘命名の由来

張継作 楓橋夜泊より

月落鳥啼霜满天

江楓漁火对愁眠

姑苏城外寒山寺

夜半鐘声到客船

在京初雁会名簿 (会員・元会員・物故者・例会参加者等)

太字は現会員

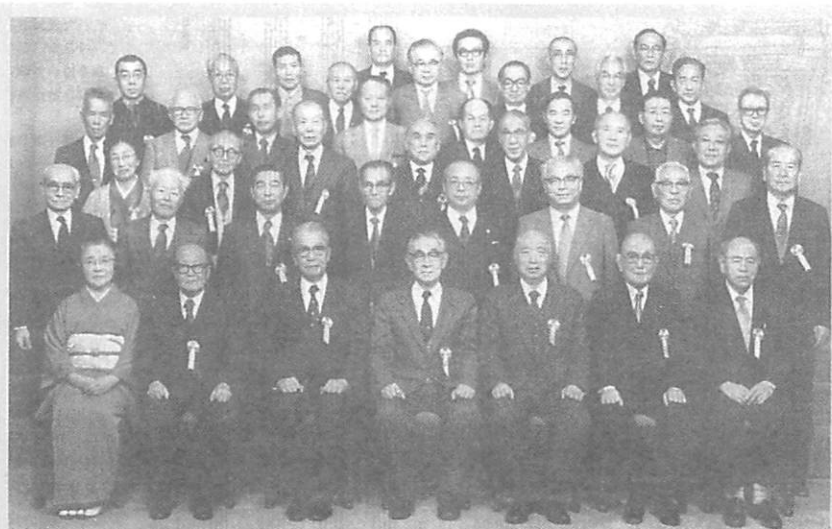
年 月	回期	氏 名				
明治36	中 1	岡田 恒輔	岡田 萬雄	矢部謙次郎		
明治38	中 3	森田 茂一	矢部専之助	山口 政二		
明治39	中 4	野村 将三	野上 啓治	松本 良三	室岡 惣七	
明治40	中 5	山根 揆一				
明治41	中 6	喜多 義之	小久保清治	佐々木 貞	関口 正治	
明治42	中 7	児玉 政介	山崎 嘉七			
明治43	中 8	岸 武八 安田三郎治	黒石 亀吉 矢部 家治	染谷清四郎	西川喜四郎	前原 多助
明治44	中 9	浦島亀太郎	加藤 貴弼	小池 恭平		
明治45	中10	加藤 正二				
大正 2	中11	岩崎賢太郎 関口 武男	牛窪 久松 高橋 章重	神田 万治	栗原 幾蔵	斉藤 憲吉
大正 3	中12	石川 四郎 細田 重雄	宇田川定雄 町田彦三郎	越部百四三	田口武次郎	原 次郎
大正 4	中13	小川 茂富	大野又四郎	中村安五郎		
大正 5	中14	伊藤 浜吉 馬場 宗光	今井 了 森脇 富英	太田 淡 吉村 長治	近藤 洋二	柴田善兵衛
大正 6	中15	椎名平一郎				
大正 7	中16	会川静之助 皆木 泰三	柿沼 米造 横関 栄一	栗原達三郎	田中慎次郎	野村 武治
大正 8	中17	新井 正直 仲 篤司 森田 稔	伊藤 泰吉 福島 茂吉	坂田 圭司 藤野忠次郎	坂西 多郎 府川 良吉	菅間 六郎 宮沢 良次
大正 9	中18	井口 正夫 中山 又	石井 源一 根岸 幸生	太田 泉 星野 吉三	奥富 茂 松本 茂雄	小峰鹿三郎 矢沢四郎右衛門
大正10	中19	稲葉 健治 平野 恒	岩崎 清録 山田 健司	岡村新三郎 鈴木 誠一	奥田 武甲	清水 一郎
大正11	中20	金山 靖吉 外口茂三郎	鯉沼 寛一 原田 愛助	小杉 太郎 柳下 俊輔	小山 辰吉	鈴木 知二
大正12	中21	浅野 八郎 桑島 稔	浅海 倭夫	伊藤長三郎	神田 嘉治	久保 信吉

大正13	中22	内田 静馬 島田 斌	榎本 斌 中村 莊平	神田 四郎 本多 昇	小林 郁三 目黒 勝郎	斉藤 賢吉 小山 次郎
大正14	中23	甲斐野新三郎 遠山 四郎 古谷喜代次	北村 博学 永田 潤一 矢部 義一	菅原 琢爾 原 次郎 山本 照夫	砂田 太三 平井 義雄 渡辺 和	高橋三四次 藤村 信一
大正15	中24	浅野 誠一	安齋 恒男	平岡徳次郎	船津鴻之助	
昭和 2	中25	石川 四郎 島田 久三	井上彦二郎 鈴木 庸夫	岡本 勤	金子甲子雄	佐々木信治
昭和 3	中26	金井 俊雄	橋本 国治	山田 勝利		
昭和 4	中27	落合 忠治 平岡忠次郎	久保 真齒 萩野 昌己	中善寺登喜次 林 清七	手島 弘 山本 秀順	西川桂之助 市川 宗貞
昭和 5	中28	岩泉 迪人 鈴木 善男 根本 峰好	大塚 平 徳田 信夫 渡辺 康	落合 義作 友光 正昭	斉藤 正臣 中里 高繁	柴崎 武夫 水村 実
昭和 6	中29	小峰 芳平	武田 葛	松下 雄一		
昭和 7	中30	関口 寛 山崎重兵衛	野上 完一 久田 三郎	野沢勝三郎	深沢 義雄	永岡 正康
昭和 8	中31	土屋 博	仲 知之	比留間清次郎		
昭和 9	中32	新井 辰平 佐々木忠一	岩崎 靖夫 土屋 祥平	鹿島 鶴 福田 龍雄	金子 秀夫 山本 道	久下 惣作
昭和10	中33	鹿島幾太郎	金子 紀孝	徳田 良輔		
昭和11	中34	家村相太郎	高橋 孝治	西川莊二郎	森山邦三郎	
昭和12	中35	岩泉 惟人 増島 隆二	宿谷 喜人 山崎 豊弘	橋本 次郎 山下 義雄	藤井 信男 山田 知七	細島 博文 田中 義之
昭和13	中36	萩野 文夫	木本 策司	久保田四郎	西川 湊八	堀口 武夫
昭和14	中37	安藤 福衛 宮本 蔚	遠藤 正吉	中野 護央	野上 正	松本 博一
昭和15	中38	浅川 邦雄	阿部 親興	佐久間勇次	坂田 順一	高山 乙彦
昭和16	中39	宇津木清蔵	間々田重信			
昭和17	中40	高篠平太郎	中沢精次郎	平野 寿作		
昭和18	中41	星野 猛				
昭和19	中42	平岡 壽夫	保野 昭一			
昭和20	中43	内田 幸男	岡村 了一	島田 嘉夫		

昭和21	中44	大久原秀雄				
昭和22	中45	井口 富夫 桜井陽一郎	岡村 和夫	栗原 三男	小村 嘉彦	田中 隆
昭和24	高 1	恩田 和也	斉藤 和夫	塩田 拓男	渋谷 健	西澤 孝
昭和25	高 2	荒井 利治 内田 紀成 菅沼 伸之 橋本日出松 吉田 稔美	石井 勝己 岡田 良平 高橋 克治 早川 岩男 佐々木 新	井上 浩 岡部 延夫 田中 幸夫 日出間哲郎	岩崎 美郷 柴崎 育久 野上 修 増田 健児	上西 正人 清水 順一 西村 通洋 矢部敬一郎
昭和26	高 3	大川 解 田中 崇	小熊忠三郎 中村 生秀	糟谷 熊 長島 恒雄	関根 憲治 三友 善夫	宇都野正章 森田 重敏
昭和27	高 4	伊藤 継善	駒井 正明	松井 頼敏	比留間正博	三浦 真
昭和28	高 5	加藤 健一	染谷 潔	田島 弘美		
昭和29	高 6	菅間 昭	林 秀樹	真壁 史朗		
昭和30	高 7	鈴木 勇	土屋 實雄	西田 守	大澤 崇	
昭和31	高 8	平田 篤義				
昭和32	高 9	菅間 五郎	猪鼻 茂	大井 忠		
昭和33	高10	多田 収	大野 一良			
昭和35	高12	甲斐野孝久	高橋 明吉	鎌田 昭次		
昭和37	高14	大河原義重	小見山 進			
昭和38	高15	岡部 恒雄	大野 惣平	国田 正矩	椎橋 勝信	鈴木 洋雄
昭和39	高16	日下 英元	高山 忠郎			
昭和40	高17	関口 栄一	西 信 之	宮寺 雅之	横山 秀男	
昭和41	高18	新井 宏明	笹崎 能輝	橋本 秋穂		
昭和43	高20	仲村 永靖				
昭和44	高21	井上 道男 横溝 高至	大館 廣 平井 通雄	川合 善明	内藤 豊	本多 良一
昭和45	高22	野口 准史				
昭和47	高24	塩野 元美				
昭和48	高25	石川 正樹	小谷野八弘			
昭和57	高34	高瀬 進一				

在京初雁会50周年記念実行委員会

会長 田中 隆(中45)
 実行委員長 岡田 良平(高2)
 幹事 日出間哲郎(高2)
 幹事 岡部 恒雄(高15)
 幹事 西 信之(高17)
 幹事 内藤 豊(高21)



昭和53.3.18 在京初雁会創立三十周年記念 学士会館

在京初雁会50周年の記念行事として川越高校同窓会秋季散策会を開催できますことは、当会にとりまして誠に意義のあることであり、ご協力頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。当日は130名という多数の参加者ですので何かと不行き届きな面があるうかとおもいますがご容赦下さい。

今回の『鍾つき堂』は会の50年の歴史を振り返ってみました。渋谷会長にはお祝いのお言葉を頂き有難うございました。また佐々木先生には創立の由来などを詳しく書いていただき、今更ながら50年の重みを感じました。

在京初雁会の歴史を語るとき銀座ビルゼンは忘れることのできない存在でした。平成13年9月にビル建て直しによる廃業まで48年間例会場として在京初雁会会員の心の拠り所であり、安らぎの場でした。先代社長の斉藤憲吉氏(中11)から息子さん(川高に関係なし)に変わっても従業員共々廉価にて奉仕していただき、会運営の原動力となっていました。閉店のときには田中会長より記念品を贈呈して感謝の気持ちを伝えました。

最近の例会は都内の名所を巡り、ご夫婦での参加も多くなり、年3回の例会も、今まで以上に親睦の輪が広がっています。

在京初雁会名簿は現会員・元会員・故人のほか会にかかわりのあった方々を少ない資料の中からリストアップして今回まとめてみました。凡そ

330人位ですが、失礼ながらまだまだ漏れている方もおられると思います。皆様の協力を頂いてより正確なものを作りたいと願っていますので宜しくお願いいたします。

事務局便り

16年度第1回例会が7月4日銀座ライオンで開催。会員・家族27名が参加。飲み放題の本場のビールで乾杯。懇親会も盛会のうちに終了、その後久しぶりに銀ブラなどを楽しみました。尚、第2回例会は11月に予定しておりますが、今回の散策会に会員・家族が46名参加しておりますので、例会にかえさせていただきますので、ご了承下さい。(岡田)



例会後銀ブラを楽しむ。



在京初雁会(創立昭和28年)

会長 高島敬忠

2005年秋号

第78号(平成17年10月1日発行)

新役員選出

在京初雁会の平成16年度の総会が17年度の第1回例会を兼ねて34名(夫人含む)の参加を得て7月9日、光が丘ホテルカデンツアにて開催されました。田中会長、岡田副会長が今期を以て退任し、新たに高島会長をはじめ次の方々が、役員に選任されました。尚、田中、岡田両氏には今後も顧問としてご指導をいただくことになりました。

顧問	岡田良平(高校2回)	顧問	田中隆(中学45回)
副会長	大館 廣(高校21回)	副会長	西 信之(高校17回)
副会長	内藤 豊(高校21回)	副会長	岡部恒雄(高校15回)
副会長	高島敬忠(高校10回)	副会長	高島敬忠(高校10回)
副会長	岡部恒雄(高校15回)	副会長	西 信之(高校17回)
副会長	内藤 豊(高校21回)	副会長	大館 廣(高校21回)
副会長	田中隆(中学45回)	副会長	岡田良平(高校2回)
副会長	田中隆(中学45回)	副会長	岡田良平(高校2回)
副会長	田中隆(中学45回)	副会長	岡田良平(高校2回)
副会長	田中隆(中学45回)	副会長	岡田良平(高校2回)



田中 隆(中45回卒)

在京初雁会は
永遠に不滅!!

確か、平成五年春の例会の時だったと思う。佐々木忠一先生(当時、同窓会会長)と増島隆二会長と呼ばれ、次期会長になつてほしいとの要請があった。理由は増島会長の体調が悪く、辞任したいとのこと、私自身、病院長に就任したばかりであり忙しく、辞退したところ、
「中卒から高卒への橋渡し、短期でよい」
「スタッフはそのまま留任してくれるので、まとめ役だけお願いする」
という条件、最終的にはお二人の大先輩に口説かれてしまった。

後者のまとめ役、何もしなくても...ということは、高二の岡田、菅沼、矢部君が企画、会計、編集などすべてやってくれたので、言われた通りであったが、前者の短期の橋渡し役については全くの嘘であり、三君に後押しされ、とくに岡田君には最後の数年間、企画、「鐘つき堂」編集等をすべてまかせつぎりの十二年間でした。

後から考えてみると歴代の会長の内、私が最も長い任期ではなかったかと思われ、この間、

四十周年記念式典

増上寺、愛宕山、秋季散策会

靖国神社、皇居東御苑、秋季散策会

そして、五十周年記念事業として、濱離宮、隅田川、浅草の秋季散策会等々、

盛り沢山な企画を成功させたこと、これはすべて皆さんのおかげであり、有終の美を飾れたこと。岡田君共々感謝の念のみである。

なお、後任の高島敬忠君は、私の医学部同窓会でもスタッフの一人としてお世話になつており、また、高島君は渋谷同窓会長の川高教員時代の最初の教え子であった由、同窓会とのパイプ役としても活躍していただけている。

今回、就任したスタッフの方々はいずれも五十周年記念事業を担当された諸君であり、それこそ一氣に若返ったこと、これまたうれしい限りである。

最後に一言、誰かの真似。

「在京初雁会は、永遠に不滅です。」



在京初雁会
会長 高島敬忠 (高10)

小生、高校一〇回卒の高島敬忠（ヒロタダ）と申します。昨年から老齡基礎年金を頂戴する年齡となっております。

七月九日の十七年度在京初雁会の総会の席上、ご指名を受けました。若輩者ですが、高校十五回から二十一回卒の四名の副会長に支えて頂きながら、田中前会長時代の良い雰囲気踏襲致したいと考えております。

本会は、五十年以上の伝統ある同窓会であります。平成十六年秋発刊の「鐘つき堂77号」を見ますとその創立期がしのべれますが、小生が八代目の会長という事になります。

高校二回卒の諸先輩が綺羅星のごとく大勢会員としていらっしゃるのに十回卒までなぜ若返ったか想像いたしますと、職場も住所も在京ということに縛りますと、限られてくるという事で納得した次第であります。

この在京初雁会は会員相互の親睦をはかるとともに、母校を後援し、会員の社会的向上を期することが目的と考えます。このような趣旨に御賛同いただける会員のご家族も歓迎いたしてきております。

もとより微力な者であります、会員御諸兄のご意見を拝聴しながら、本会を運営してゆきたいと考えてます。田中前会長時代同様ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申しあげます。

田中会長、岡田副会長永い間ご苦勞様でした。お二人のコンビは抜群で田中会長の指導のもと岡田君は15年間本当に良く頑張りました。聞けば二人は巨人・阪神のファンでお互いに敵味方、また医者と患者の仲という立場の違いがかえって会の運営に良い結果をもたらしたと思います。創立40周年、50周年、3回の同窓会散策会と他のどの初雁会にも真似の出来ない大きな行事を良くぞなし遂げたものと今更ながら感服する次第です。私が入会した頃は銀座ピルゼンの昼食会、学士会館の夕べの会とややもすれば堅い感じの会でしたが、その重い伝統を壊すことなく、会員諸氏のご夫人の参加を積極的に勤め、昨年の50周年の女性陣の活躍は他の初雁会の人達の驚嘆の的となりました。各地名所の散策会、同窓生識者による講演など充実した会の運営は会員同志の親睦の輪を一層広め、同窓の絆を強固なるものにしました。これもお二人方のご指導の賜物と厚く御礼申し上げます。本当にご苦勞様でした。（日出間記）

新会員紹介

榎本達次氏（高17回）税理士事務所勤務
日出間哲郎さんの中学の時の教え子。

スペイン旅日記

菅間五郎（高9）

サンチアゴの道の功德か思わざる

人に出会って旅は楽しき

サンチアゴの像に頼づき父母に

感謝の祈り捧げしも旅

ユーラシア果つる岬に我来たり

聖地巡礼旅の終わりに

消え霞むシエラネバタを後にして

夕日は落ちるアランブラかな

緑なすオリブの樹は打ち続く

グラナダセビリア車中窓外

スペインの小さな町に歴史あり

ハポンと名乗る人に会いにき

グアダルキビル大きな川とう川岸に

胸張りて立つ常長の像

波乱万丈艱難辛苦の旅思ふ

セビリア郊外川岸の町

僧院が私の家と言ひ切りし

修道の士はアメリカの人

粗衣纏い日に一食の修道士

心に残る出会いなりけり

以上の十首は五月二三日より、約一ヶ月の旅程でスペインへ出かけた折の旅日記です。

七十五歳になる私の長兄夫婦、六十九歳の

次兄の嫁を道連れにしての一大旅行だった。

無事成田に戻った時は正直ほっとした。

長兄は七十歳を過ぎてから版画を嗜むようになり、五年前全く同じメンバーで欧州美術館巡りの旅をした時の風景を題材にして北海道展に出品し、二年続けて入選してしまったところから、次の題材としてサンチアゴの道を考えていたので、五郎がもう一度あの道へ行くのなら、一緒に連れて行って欲しいと言い出した。私が四年前の二〇〇一年に歩いた時の写真やらビデオを繰り返し見て、私の為に蔵書票迄作ってくれたこの兄の願いを叶えるべく今回の旅は実現した。

結局、サンチアゴの道を車で走ること二、〇〇〇km超、四人で取り捲った写真はこれまた二、〇〇〇枚を超える膨大なものになった。長兄夫婦は当初からこれが最後の海外旅行と漏らしていたので、折角のことと思い、その後バルセローナ、グラナダ、セビリヤ、マドリッド、セゴビア、トレドといった世界遺産の地を廻る旅にしたので、兄達は冥土の土産の旅だと言って喜んでくれた。

私は人との出会いが大好きで、旅の楽しみは人との出会いであると思っている人間である。他生の縁と言うが、サンチアゴの道にはほんの一、二回道ですれ違っただけですっかり打ち解けてしまう出会いがある。私は前回道を歩いた時、木陰で蹲るようにして休んでいた、ブラジルから来て歩いていた老夫婦に話掛けたのが縁で、今では彼らを両親

と呼ばせて貰っているような間柄になっている。昨年サンパウロに出かけた折は彼らの家に泊まり、もてなしを受けたと言う具合である。

サンチアゴの道は世界中からの人が来て巡礼をしているので、出会いを楽しむにはうってつけの所である。今回は車で走ったので、そう多くの人とは話せなかったがドイツから犬を連れて二ヶ月半歩いている猛者とか、夫に二人の子供を預けて一人で歩いているフランス女性、メキシコ人等々と出会って楽しかった。

巡礼は普通サンチアゴ・デ・コンポステーラの大聖堂に到着して巡礼証明書を貰うと終わりだが、通の人はユーラシア大陸の最西端の岬まで歩く。地の



終わりと呼ばれているその岬で我々はそのメキシコ人を迎えることになり、メキシコの歌と一緒に歌い彼の完歩を祝ってあげた。

道での出会いは楽しいが、再会は更に楽しい。しかし、辛い再会もある。

実は今度の旅で一番最初にやらねばならぬ事があった。道を一緒に歩いた友人の奥様の墓参りであった。

二年前のクリスマスの夜に悲報は届いた。サンセバスチャンという避暑地の高台にある墓地に向かう車の中で、友人が俺は余り墓には行かないのだとぼつりと漏らすので、何故かと訊くと、妻の魂は家で自分と一緒におり、墓には彼女はいないからだと言返事が返ってきた。この奥様は前回道を歩いた時、車を運転した後方支援役を買ってくれ、私が足の肉刺に苦しんでいた時にやさしく介護してくれた人だった。

道を歩いた人は天の川の星の一つを埋めると言われているのだから、五郎の散骨はイグアスの滝も良いけれど、灰の半分はサンチアゴの道に持って来なさいといってくれた人であった。

悲しい再会であった。

サンチアゴの道沿いにはかつて日の沈まぬ國と言われたスペインの栄華の跡を思わせる教会や修道院が無数にある。スペインは時には中南米を侵略し、その富を簞簞したとの汚名を着せられるが、ローマに代わってキリス

ト教の布教に勤めた功績は大きい。日本に派遣された宣教師がこういうところで育てられたのかと思うと感慨深い。

ブルゴスにあるミラフローレス修道院にお邪魔した時に應對してくれた修道士がアメリカから来て二十五年になるという方で、そのお話に大いに心を打たれた。九歳の時にこの道に入ることを決め、十一歳の時にスペインの神学校に来て、そのままスペインに残っているとのことだった。

居残ったと言えば、仙台藩の伊達政宗が欧州へ派遣した支倉常長の使節団一行のなかにも、そのままスペインに居残った人たちがいる。

常長はローマ法王、スペイン国王に拝謁は許されたものの、目的は達せられず失意の内に帰国したのであるが、彼の家来のうち数人がスペインに残ってしまったという。居残るのにあたり彼らはハポンという苗字を名乗ったのだろう。今も尚、セビリアの郊外の小さな町で彼らの末裔がハポン姓と名乗り住んでいる。六百名ほどいるそうだ。

日本を出る時からこの町を訪ねたいと思っていたが、全く幸運にもこの町に行くことが出来、日本人会の会長さんにもお会いすることが出来た。愛知万博に招待され、つい数日前に日本から戻ったばかりのことだった。

今度の旅も良い出会いの旅であった。

大江戸線徘徊記(1)

岡部恒雄(高15回)

新宿駅

水温む四谷大木戸水番所

新宿四丁目角に四谷大木戸跡があります。四谷大木戸は江戸市中の出入りをチェックした場所です。神田上水に次いで建設された玉川上水水番所もありました。

四代将軍家綱の頃、江戸城の西部と南部の給水を目的に、幕府が江戸の町民玉川庄衛門・清衛門の兄弟に工事を請け負わせ、承応三年(一六五四年)六月に完成したのが玉川上水である。上水は多摩川の羽村に堰を設けて取水し、四谷の水番所まで四十三キロは掘割で、ここより江戸市中には地下(暗渠)石樋・木樋といった水道管を埋設して配水していた。

工事は幾多の困難に遭遇したが、工事の責任者川越藩主松平伊豆守の家臣安松金右衛門の協力もあり完成する。承応二年に羽村から四谷大木戸を開削し、翌年には虎ノ門まで水道を引いた。現在でも難しいほどの短期間で完成させている。

掘割によってでた土砂は掘割の両側に堤として積み上げ、桜の木を植栽(羽村、小金井など)し、当時江戸の人々の行楽の場所となった。

(次回は、代々木駅)

鐘つき堂

在京初雁会(創立昭和28年)

会長 高島敬忠

2006年新春号

第79号(平成18年1月15日)

謹んで新春の

お祝詞を申しあげます。

旧年中は格別のご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

会員諸兄のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も宜しくおねがいします。

年頭にあたり、様変わりする教育事情について、少々触れてみたいと思います。

我々、終戦直後より学校教育を受けた者には、知育、徳育、体育の三本の教育の柱はゆるぎない最高の教育課題でありました。

しかし、最近「食」の重要性を再認識するため、『食育』なる言葉が使われ出し

ました。平成十七年七月十五日より食育基本法が制定され、施行されてきております。その基本法の前文を見ますと、子供たちが豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要であり、食育こそ生きるうえで基本であつて、知育、徳育、および体育の基礎となるべきものとの位置付けになっています。

確かに、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、忙しい生活を余儀なくされている国民の食生活は乱れがちであります。肥満や生活習慣病の増加、過度の痩せ志向などの問題に加え、「食」の安全性の問題や「食」の海外依存の問題など、「食」に関する情報が社会に氾濫しております。

そこで、あらためて、国民一人一人「食」について、意識を高め自助努力をし、健全

な一活を実践することを目的に制定されていきます。

また、児童生徒の日常生活にまで、ある団体は介入し、『早寝、早起き、朝ごはん』なるキャッチフレーズのもとに、脳活性化物質セロトニンを十分に供給できるよう指導しております。従来は当たり前だったことが、あらためて教育の場に登場してきております。

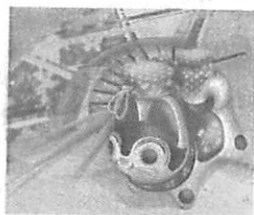
我々も長寿を願うなら、野菜を中心にしたバランスの良い食事をし、腹八分目で、適度な運動をすることが、長寿につながることは百も承知していますが、自分の弱さの為か、なかなか実行出来ません。

今年は己の食育元年として、三日坊主にならぬよう努力していきたいと思ひます。

平成十八年 元旦

在京初雁会会長 高島敬忠

迎春



在京初雁会第二回例会の開催

平成十七年度の第二回例会が十一月十九日に開かれました。場所は池袋西口「ピアレストラン銀座ライオン」で午後四時から行いました。

出席者は、婦人同伴を含め三十三名、うち、今回より新会員になった方が三名加わりました。

「新会員」

- ・榎本達次氏（高校十七回）
- ・板谷敏弘氏（高校三二回）
- ・横山大輔氏（高校四十回）

例会は、「特別講演」と会員の近況報告を含め、三時間余の活気溢れる会となりました。

特別講演

『東京空襲六十年』

講師・板谷敏弘氏（高校三二回卒）
・東京都写真美術館・事業企画課長



私は、東京空襲という未曾有の悲劇を風化させまい、二度と繰り返すまいとの願いのもとに、大きな研究テーマとして体験者

の資料を集めることをしております。

多くの人々の努力によって、科学的検証が行われ、体験も語り継がれてきました。そして最近あらたに発見された資料により、空襲で犠牲になった方々の遭難軌跡がしだいに明らかになってきました。

これまでに知られている日本側、米国側資料と複合的に検証することにより、その日人々はどういうような行動をとり、そしてどのような結果に至ったか判明しつつあります。

1 空襲の段階

まず、東京初空襲（ドウリットル空襲）は、昭和十七年四月十八日、米空母ホーネットから発進したB25爆撃機16機のうち、13機が荒川、王子、葛飾、牛込などを奇襲して、死者39名、負傷者300人余を出した。

これをもとに、米国は、ボーイング29による戦略爆撃を開始しました。

奥住喜重氏の「中小都市空襲」（三省堂）によると空襲は三期に分かれている。

『第一期』は、高高度（一万呎）からの通常爆撃による高高度精密爆撃として、昭和十九年十一月二十四日、昭和二十年三月四日にかけて行い、攻撃目標は、主に飛行場・工場であり、昼間敢行したものだ。

東京での標的は、武蔵野町にあった中島飛行機武蔵野製作所であった。同所は、当時、日本でも最大級の工場で、おもに陸軍機を製造していた。武蔵野製作所に投下されたのはM64とよばれる爆弾で、日本側

でいう250kg爆弾である。現在でもときどき発見される不発弾の多くはこの爆弾である。

ここには、昭和十九年十一月二十四日から二十年四月十二日まで、十一回にわたり述べ一、〇二〇機の来襲を受け、死者四六七名、負傷者一六五名の被害を受けた（米軍が記録した日本空襲・草思社）。

米軍側のこの期の空襲の評価は、成果不十分だと判定した。

① 米軍も予期しなかった強い偏西風により、標的への爆撃が困難だった。

② 高高度からでは、目標が雲に遮られることが多く、目視による爆撃が困難だったため、精度が落ちた。

③ まだ、米軍側の攻撃態勢が十分でなく、出撃機数が少なかった。

④ 護衛機なしの昼間爆撃では、B29といえども危険が大きかった。

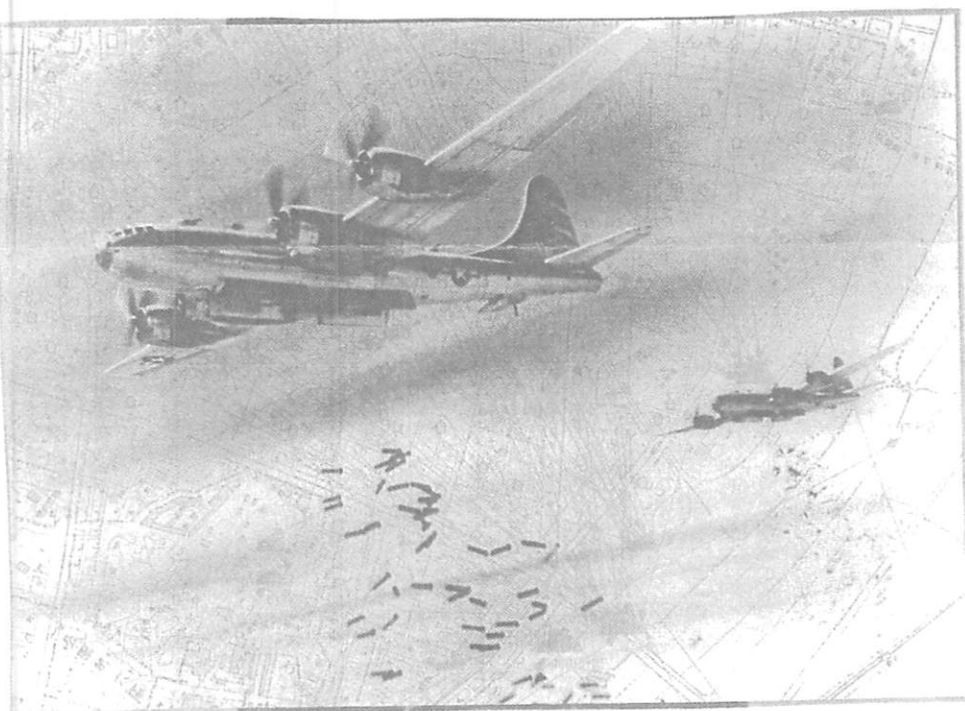
しかし、この第一期中にも、たとえば、二十年一月二十七日、二月二十五日、三月四日などは市街地への爆撃があり、日本側の被害は、東京だけでも死者一、八〇〇人余り、負傷者三、七〇〇人余り、罹災者は一〇万人以上に達している。

また、工場についても、米軍の見積もり以上に被害は大きく、また工場疎開をはじめたことで、生産性は落ちた。

『第二期』は、爆撃機集団のハンセル司令官が更迭され、カーチス・ルメイが就任し、一間の無差別爆撃が始まった。

第二期の空襲における東京の被災状況は次の通りである

20.5.25~26	20.5.24	20.4.15	20.4.13~14	20.3.10	年 月 日
中心部・西部	南部地区	蒲田地区	北部地区	下町地区	被災地区
464	520	109	327	279	攻撃機数
3,262.0	3,645.7	768.9	2,119.6	1,665.0	投弾量・t
3,651	762	841	2,456	別表	死者・人
17,899	4,130	1,620	4,746	別表	負傷者・人
43.5	13.7	15.5	29.5	40.9	焼失面積k m ²



第二期は、昭和二十年三月十日～六月十五日にかけて行われた。大都市市街地を攻撃目標とした夜間低空（二～三千m）による焼夷弾による空襲であった。

「」の被害をもたらした三月十日の状況は次の通りである。

帝都防空本部情報	警視庁史	警視庁警備753	資料
83,070	83,793	72,439	死者
113,062	40,918	20,679	負傷者
3	12	2	全壊
259,011	204	4	半壊
889,213	267,171	256,000	全焼
	971	758	半焼
	1,008,005	1,159,186	罹災者

「隅田川を挟んだ墨田区（上側）と日本橋区（現・中央区東日本橋）の被災直後。両国橋（左）と新大橋（右）の間。」

（翌日の新聞より）

墨田区側には元両国国技館、塹川が見える。日本橋区側には、千代田小学校（現・日本橋中学）浜町公園（右端）久松警察（やや中央）が見える。



（注）墨田川には、犠牲者が累々と浮かんでいたが、消されていた。

一 死者数について

東京都慰霊堂に「東京空襲による犠牲者」として、葬られた白骨は、一〇、四〇〇体で、三月十日以外の犠牲者が含まれているとしても、その合計は、最大でも二一、〇〇〇体余りとみられる。地中に埋もれてしまった、あるいは、はるか海に流されてしまった方などを加えると、三月十日の犠牲者は、推定十万人に達すると考えられる。

二 被害が大きくなった理由として、当時の警視庁消防部の所見で次のように述べている。

- ① 投下弾、火災状況に比して、消防力が不足だったこと
- ② 風が強かったこと
- ③ 風向きが変わったこと
- ④ 広範囲に火災が発生したため、消火力の圧力が極度に低下したこと
- ⑤ 投下密度が濃密で、投弾方法が巧妙だったこと
- ⑥ 通信機関が途絶したこと
- ⑦ 隣接相互の応援が不能になったこと
- ⑧ 避難民が雑踏したこと
- ⑨ 避難民の搬出物が消火活動を阻害し、また延焼を起こしたこと
- ⑩ その他の理由として
 - ・空襲警報の発令が遅れたこと
 - ・初めての大规模な夜間無差別爆撃だったため、不意をつかれたこと。
 - ・当初、初期消火に努めたため、逃げ遅れた。

- ・住宅密集地で火の回りが早かったこと
- ・広域の避難所がなかったこと
- ・下町は水路が多く、退路を絶たれたこと

この三月十日以降の大規模空襲に関する都民の動向について、警視庁消防部は所見を記している。

- ・四月の空襲は、都民は焼夷弾攻撃に対する初期消火は不可能と観念し、また恐怖心が助長されて、避難に専念した。
- ・五月二十四日の空襲は、四月のように避難するものは少なく、一般都民の士気は極めて旺盛だった。

・五月二十五日、二十六日の空襲は、連日の大空襲により都民はその戦闘意識をほとんど喪失し、初期消火は全く行われなかった。

『第三期』は、昭和二十年六月十七日、八月十五日（この日までであった。）に全国五十七の中小都市が、夜間または昼間に、低空（二、四千m）による無差別爆撃を受けた。

東京では、昭和二十年八月二日に八王子が大空襲を受ける。

- ・攻撃機数 一六九機
- ・投下弾量 一、五九三・三t
- ・焼失面積 二・九平方km
- ・焼夷率 八〇%
- ・死者 四五〇人

I 米軍の使った主な焼夷弾について

① M47A2・一〇〇ポンドI・B焼夷弾

大型の油脂焼夷弾で、一発で手が付けられない火災になる。先導機が投下して火災を発生させ、後続機の目印とした。

② M69・6ポンドI・B焼夷弾

小型の油脂焼夷弾で、米軍が日本家屋焼夷用に開発したもので、東京空襲で最も多用された。直径約8センチ、長さ約50センチの六角棒状の鉄筒のなかに、ナフサネートやパーム油、ガソリン等を混ぜたものが入っており、信管の作動によりナフサームを撒き散らす。B29に搭載するときは、38発（？）を束ねて、空中で散開するようになっている。

これの原型ができたのは、昭和十七年で、研究開発はスタンダード石油である。この効果を検証するため、ユタ州のダグウェイ試験場に、日本の木造二階建て長屋十二棟を内部まで再現して実験し、その優秀性を確認する。

③ M50・4ポンドI・B焼夷弾

直径約五センチ、長さ約三五センチの六角棒状のテルミット・マグネシウム焼夷弾でM69より貫徹力が強く、建物が堅牢なヨーロッパ戦線で使用されていたが、昭和二十年五月以降は、日本に対してもしようされた。八王子の空襲は100%、この焼夷弾であった。



M69油脂焼夷弾 昭和20年（1945年）

分散状況



1発の親弾から38発のM69焼夷弾が約700m上空でバラまかれる。

1機のB29は1520発のM69焼夷弾をばらまいた。

III 日本軍の反撃

「米国防略爆撃調査団報告」及び「日本防空史」（浄法寺朝美氏）にみると次のとおりである

◆総数

米軍側資料	日本側資料	
延11,983機	延7,230機	迎撃機数
697機 (内、B29は、485機)	1,196機 (戦闘機含む)	撃墜(損失)機数
3,041人 (内、B29は、2,059人)		搭乗員戦死

東京空襲についてみると、第二〇航空軍の「日本爆撃既報」によると、

- ・ B29損失(空戦) 四九機
- ・ B29損失(その他) 七九機
- ・ 損傷機数 六五一機
- ・ 人員損失 九七人
- ・ 日本軍撃墜機数 四、三六六

日本の防空体制については、

・ B29の侵入経路を正確に把握できなかった。

・ 特に、第三期にはいると、迎撃の重点が絞れなくなった。

・ 高高度爆撃に対しては、迎撃できる戦闘機がなく、高射砲も届かない状況だった。

・ B29に対しては、戦闘機の装備では威力不十分であった。

・ 夜間空襲に対しては、レーダーなどの開発が遅れていた。

・ 本土決戦に備えて、迎撃による消耗をさけようとした。

IV 戦略爆撃について

一 米軍の戦略爆撃は、原則的には、軍事施設や軍需産業に対する精密爆撃であったが、ヨーロッパ戦線において、英軍がドイツ諸都市を無差別爆撃を始め、米軍も加わるようになる。そして精密爆撃から地域爆撃となっていた。そして、昭和二十年三月以降、日本に対する無差別爆撃となった。

米軍側からみると、戦略爆撃の目的は変化していった。

・ 「精密爆撃」は、当時の技術では実際上「精密」は不可能であった。

・ 地域攻撃(無差別爆撃)については、むしろ相手国民の戦意を昂揚させるのではないか。また、一般市民を殺傷することには、非人道的でアメリカの精神に反する。

・ 当時の米軍陸軍航空部の考え方として、

空軍として独立するためにも、戦略爆撃の有効性を誇示したいという思惑があった。

・ 日本に対する復讐心が根底にあった。中国戦線における日本軍の非道、真珠湾奇襲、捕虜への虐待などの事実あるいは宣伝によつて、日本人は「人間以下」という観念が固まってきた。

・ さらに、戦争を早期に終結させ、自国民の犠牲を最小限に抑えたいという意志が強くなってきた。

・ 空襲の目的は、一般市民を無差別に爆撃することではなかった。その目的は、日本の主要都市の市街地に集中している工業的および戦略的な目標を破壊することであった。(「作戦任務報告書」より)しかし、総力戦では、戦闘員・非戦闘員の区別が不可能であった。

二 空襲の評価

① 日本側の評価(「空襲ノ輿論ニ及ボシタル影響及ソノ対策等」にみる。)

・ 空襲に対する敵愾心は驚くほど希薄で、むしろ、防空部隊に対する不信頼や行政官庁の救護不良に対する不満が多くなった。

・ 大空襲に対しては、あたかも天災に対すると同様の不可抗力に傾いた。

・ 空襲の激化のよつて、自暴自棄な風潮が強くなり、戦争末期頃には、民心は破綻状態になった。

② 米軍側の評価

・ すでに戦局から、日本の経済や国民生活は破綻しており、空襲が日本の降伏に決定

的な役割を果たしたどうかは疑問である。むしろ爆撃は、船舶攻撃や会場封鎖のためにもっと活用したほうが効果的ではある。として、そもそも、市街地空襲に対してあまり積極的な評価をしていない。（「戦略爆撃調査団報告」より）

・しかし、爆撃司令官等は、日本を降伏させたのは、徹底的な焼夷空襲のためだ、原爆がなくとも、日本を降伏させることができた。としている。

V 今後の課題

東京空襲から六十年、空襲体験者の証言を今集めなければ年々困難になっていく。空襲・戦争関係資料の収集・保存も困難さをましている。東京の都市構造が大きく変化している状況のなかで、空襲被災者の再調査、名簿の作成、空襲被災地区の再調査が急がれている。勿論、日本及び米国保管資料の調査研究も着実にやっていかなければならない。

なによりも、空襲体験者の多くの方からお話や資料等の提供をお願いしたい。

【講師からのお願い】

東京空襲に限らず、あの戦争の体験や資料をお寄せ下さい。今後の研究の資料として活用したいので、お願いします。

「連絡先」

352-0011

新座市野火止四一五―二十九―103

板谷敏弘

TEL 048・482・4154

*もしくは、事務局にご連絡ください。

この講演のあと、出席者から次々と体験談や親から伝え聞いた話が披露されました。

口火を切ったのは、その日、日本橋区両国に住み、被災に遭われた岡部延夫氏です。隅田川両国橋界隈の被災写真の周辺の解説をするとともに、その時、生後一ヶ月に満たない弟を背負い、明治座に逃げず（明治座に逃げた人は大半の人が焼死した。）蔵前方面に逃げ、一家全員助かったという経験談が披露されました。

続いて、以前もこの「鐘つき堂」に、東京空襲について触れられていた小熊忠三郎氏が、浅草で被災を受け、資料の表紙に飾られた浅草住民の避難実態の地図をしみじみ眺め、自分も言問橋に逃げ、辛くも生き残ったという、生々しい話ができました。言問橋の浅草側には今は、その犠牲者を悼む碑が建てられています。

日出間哲郎氏は、朝霞での体験や学徒動員の勤労奉仕の話、柴崎育久氏は和光市での東京空襲の空の赤々とした輝きを詩的語り、そのうえ、撃墜された米軍パイロットの生々しい死体について語りました。橋本日出松氏、岡田良平氏、佐々木新氏など

それぞれ体験を披露されました。最後に佐々木忠一氏がしみじみと述懐していただきました。



「銀座四丁目」 師岡宏次 昭和20年(1945)9月 95651144-5

「政略出産」 小熊忠三郎（高校三回卒）

私は昭和七年十一月六日東京の浅草で誕生。明治生まれの母が四十歳という高齢出産で、当時は通常の分娩なら「お産婆さん」扱いなのだが、脆弱だったため大病院で手術のすえ、生をうけたと聞く。母乳なしで育てられたためか、幼時からの歯科医院通いが今だに続いているが、これまで大病院に患ったことがないのは両親のおかげだ。

敗戦直前の昭和二十年三月十日の東京大空襲に遭遇し川越へ移住。中学入学願書提出のおり、自分の戸籍抄本を初めて見て驚いた。なんと生後まもなく父方の伯母（小熊姓）と養子縁組とあるのではないか！。十歳年長の兄から「お前は家の子じゃない」と小学低学年の頃よくいわれた謎が解けた。

新潟県出身の伯父（関東大震災のとき本所で死去）が明治末期に小熊家で初めて上京、弟たちの面倒をみたことを父は忘れることがなかった。その一人娘の恋愛結婚相手の学卒造船技師は「婿入り」を断固拒否。たまたま実姉以来、七年目に授かった次男である私を養子に出し、伯父の家を廃絶させないようにしたのである。律儀で昔気質な父と母のせめてもの恩返しだったことを納得した。幸い、戦後石川県より川越のわが家に同居していた伯母が存命していたので、父は直ぐ復籍の手续きをとってくれた。

「政略結婚」ならぬ「政略出産」という造語を両親に捧げ、自由気儘な道を歩ませてくれたことを感謝する七十二歳となった。毎年五月第二日曜日「母の日」に行われる母校同窓会の総会には出席することにしてある。前日、川島町の実姉宅（亡き義兄は川中卒）に宿泊し、二人で旧鎌治町の法善寺のあと会合に出席することが、親孝行だと思っている。

（二〇〇五・十一・六、横浜市在住）

大江戸線界限徘徊記（二）

岡部恒雄記（高校十五回卒）

代々木駅

大試験北参道抜け願掛ける

代々木はかつてはこの辺り、谷、丘、森に囲まれた「代々木九十九谷」と言われた村落があり、江戸で不足する野菜類を主に生産し、神田や日本橋に出荷していた。

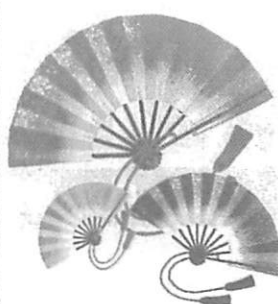
代々木の名は、現在の明治神宮御苑の東門近くに、「代々木の大樅」といわれたモミがあり、その名が由来とも言われている。

明治神宮内苑は熊本藩加藤家二代目改易後に、彦根藩下屋敷として明治維新を迎えた。大正四年に明治神宮の建設地に選ばれ、大正九年に、明治天皇、昭憲皇太后を祀る神社とした創建され、その時、全国からの十万余りの献木があり「代々木の森」になった。

明治神宮にはJR原宿駅から参拝するのが一般的ですが、JR代々木駅から徒歩五分少々で入り口に立てます。大江戸線とも接続しています。

JR代々木の駅前に予備校の雄「代々木ゼミナール」が聳えたっています。全国にサテライト教室を持ち、芸能スター以上の人気を博するカリスマ講師を多く抱え、三十万余に及ぶ受験生に影響を与えています。

この前を左に曲がると徒歩五分で、明治神宮の裏側の北参道に通じます。



本年もよろしく願っています。

役員一同

在京初雁会会長・高島敬忠（高一〇回）

総務・西 信之（高一七回）

総務・内藤 豊（高二一回）

会計・大館 廣（高二一回）

顧問・田中 隆（中四五回）

顧問・岡田良平（高三回）

事務局・広報・岡部恒雄（高一五回）

350-1308 狭山市中央4-15-15

T&F 042(959)8016



在京初雁会(創立昭和28年)

会長 高島敬忠

2006年初夏号

第80号(平成18年5月15日)

佐々木忠一先生の卒寿を祝って

六義園でのお花見の宴席で、佐々木先輩が卒寿を迎えられたことが皆さんにご報告されました。拍手でお祝いされたことが、印象深く記憶に残りましたので、わが国の最近の寿命について考えてみました。

日本人の寿命は、直近のWHOの資料では平均寿命が八十二歳であり、女性のそれは八十六歳、男性は七十九歳と報告されています。2004年の厚生労働省調べと比較しますと、それぞれ半年ぐらい長命になつています。

振り返ってみますと、わが国で平均寿命が五十歳を超えたのが、1947年(昭和二十二年)のことであり、欧米諸国は1900年代の前半には、平均寿命が五十歳を超えておりわが国は半世紀も遅れていたことになります。

第二次世界大戦後、生活の改善、衛生思想の普及と医療の発展、さらに国民経済が順調な伸びの結果、1984年には女性の平均寿命が八十歳を突破、六十五歳生存率も男性80%、女性90%となりました。

2001年には、平均寿命が男性七十七・六四歳、女性八十四・六二歳となり、まさに高齢化社会に突入してきました。

このように早く高齢化を迎えた国は歴史的になく、厚生労働省もあたふたと厚生老齢年金や介護保険等々に四苦八苦しているのが現状です。

一〇〇寿者以上の人口は、人口一〇万人当たり、三・〇人を超えております。しかし、超高齢者の増加に拘らず、限界寿命年齢は延長していません。

と、言いますことは、ある限界寿命範囲で多くの方が一斉に死亡するということになると考えられます。

「二」が開業してみますと、これといった大病をお持ちでない方は、経験的に、その寿命は九十歳前後にあるだろうと推測します。

百寿者をセンチナリアン(Centurian)と英語では表現していますが、佐々木先生にはさらに十年ご精進いただき、百寿歳をこの在京初雁会で挙行したいものですね。それまで我々が何人生存しているでしょうか。実現したいものです。後輩諸兄記憶しておいて下さい。

寿命の話のついでに話題を提供しておきますと、皆さんご存知のスコッチ・ウィスキー、オールド・パーに描かれている Thomas. Perry氏は152歳まで生きていたことになっており、わが国の江戸時代の百姓・満平は194歳まで生きたとされております。

人生何とか生きてゆくには努力、努力の積み重ねですね。同窓諸兄、佐々木先生を目標に質の良い長命を目指して頑張りましょう!!。

平成十八年 夏月

在京初雁会 会長 高島敬忠



第三回例会・散策会報告

椎橋勝信・記（高十五回）

桜にはまだ早いだろうと思っていたのだが、好みの七、八分咲きだった。一週間後のはずの花見ができて、思わぬ収穫だった。そもそも六義園にこんな見事な枝垂桜があること自体全く知らなかった。トクした感じだ。

翌日のA紙の社会面のヘソ（紙面の見栄をよくするためその面の中央部分に載せる大きな写真のこと。業界用語）にライトアップされたこの枝垂桜が載っていた。ちなみにわがM紙は1面に上野公園の花見の写真。どっちがよかったか考えたいところだが、それよりも六義園を出る時、確か「入園は8時半まで」とあった。桜の時期だけのだろうが、来年デートコースに挑戦してみてはいいか。



六義園が、柳沢吉保の庭園だったこと、それも立派なものであることは聞いていたが、いつでも行けると思ってたパスし続けていた。六義園から歩いて二、三十分ほどの北区西ヶ原に叔父の平野寿作（中四十回）宅がある。浪人中ひと冬お世話になって予備校に通ったことがある。四十年以上も前の話だが、よくそばを通って、いつか行こうと思ったところの懸案。在京初雁会は忘れかけたところへ案内してくれるから有り難い。

二〇〇三年六月の後楽園散策も全く同じだった。

トクと言えばこの日はもう二つあった。一つは焼き団子。入園してしばらくたつたところで、全員に二本ずつ配られた。それがちょうど小腹のすいたタイミング、一本でなく二本というところがうれしい。それより何より、花見に団子をぶつけた計らいが心憎い、参りましたという感じだ。岡田良平前副会長の心配りと察した。成増駅近くの「つるや」で求めたという。材料の米がいいのと、醤油がよく滲みていて、そのこげ具合が絶妙。焼き団子の庶民的な香りを求めて西武新宿・池袋線沿線を嗅ぎ回っているマニヤとしては感激ひとしお。入曽駅前「美好」のはるか上を行く（ただし値段もわずかに高いが）。最近行っていないが、川越・蓮馨寺近くの数軒や「時の鐘」そのはの団子屋にも劣らない。日高市の狭山

市との境界近くのお茶屋さんがやっている団子屋に匹敵する。（ただし値段は「つるや」の方が安い）。百本近く成増から駒込まで運んでいた岡田、真壁両先輩に改めて感謝。美味なる努力、それも見えないところに苦勞が隠されているものです。

もう一つのトクは懇親会の帰り巣鴨駅そばの和菓子「福島屋」の「上用饅頭」。幹事さん作成の説明書にあったので寄ってみたのだが、同伴者が「帰宅したら濃茶の主菓子に」と買ったが、蒸した皮のモチモチ感と餡の透き通るような味が、うるさくなくて気に入った。同伴者が「上用」は当て字のはずだというので、元の字を調べたところ分らない。あきらめていたら、たまたまその日の新聞に入っていた折込広告に、森繁久弥の好みの菓子が載っていて、この饅頭が紹介されていた。それによると、薯（草カラムリに薯）と漬（草カラムリに漬）の二文字。ヤマイモのことで、国語辞典によるとシヨヨと読む。シヨヨ饅頭とは、餡をヤマイモでつくった皮でくるんだのを蒸したものとある。「シヨヨ」「ジョウヨウ」に転じ、「上用」となったのか。あのモチモチ感は山芋をつかっているからだ、と勝手に納得している。

後楽園散策後、体を壊し、今回二年半ぶりの参加だった。最近はおかけると体調（？）がうまくいくことが多く、会合には引きこも

りがちになってしまおうと感ずるのだが、無理を押したために一日、二日寝込んだりすることを考えれば、家にじっとしていた方が楽だと出無精になってしまふ。何回か連続して休むとなおさら出にくくなる。そんな会合がいくつかある。だが、在京初雁会は出にくくはなかった。今回の散策会の案内を頂戴して、迷わず出席にマルをつけて投函した。同居人も「私も行く」と言う。後樂園散策の時の印象が強かったようだ。この気安さは何だ。

歳をとった、というばそれで説明はつくのだろう。だが、同窓会は何かが違う。県人会や町内会にも似たようなものを感じる。集まって懇親するという集まること自体に意義がある。はつきりした目的がない。

二十年近く前になるが、ある首相がニューヨークの国連総会に出かけた。公式会議には出席して演説などを行ったのだが、国連事務総長主催の昼食会には欠席した。ここは、各国の首脳同士が気楽に懇親して親しくなってパイプを太くする、また、日本を売り込んだり、懸案の解決を打診したりする絶好のチャンスなのに、みすみすその機会を逃した。その間どうしていたかというば、その首相出身県のニューヨーク県人会や、出身大学のニューヨーク同窓会に出席していたのだ。私はこの話のある役所の幹



在京初雁会を祝福する六義園・枝垂桜

部から聞いて、せっかくの首脳外交の機会を逃し、居心地のいい会合に出かけた
と批判する記事を書いたことがある。

その首相は本来の外交は不得手で、根回しとか、気配りの方が合う古いタイプの保守政治家だった。国益の観点から言えば、私の批判は当たっていた。

だが、会合に出るのがちよつとつらくなることも、ある歳になって、あの時首相が「逃避」したのがわかるような気がしてしょうがない。

在京初雁会の会合で大先輩に、四国札所めぐりに行きたいと話したことがある。その数日後、その先輩から、四国八十八箇所霊場めぐりの分厚い全資料が送られてきた。単なる観光案内ではなく、貴重なものだった。いまだに一箇所も行けず、その資料のコピーはファイルに閉じ込まれて書棚に眠っているのだが、その時のうれしさに「恐縮さ」があまりなかった。素直に喜べる、と言おうか、どこかに甘えがあるのかもしれないが、堅苦しくない感謝の気持ちだった。それが同窓会の人間関係だと感じた。電車の中で、席を譲ろうと思っても、「失礼かな」「余計なお世話かな」と逡巡してしまうことがあるが、この種のためらいのない関係といつていいのかもしれない。

六義園の桜の下で、その先輩に資料のお礼をいう前に「四国へ言ったかい」と

声をかけられた。花も団子も、そして人間関係の温もりを感じた一日だった。

(筆者)

(参加者三十八名)



【散策会後記・編集人より】

散策会にはご参加できなかった佐々木忠一氏(中三十二回)は、巢鴨で行われた懇親会に、名古屋からわざわざお出でいただいた娘さん共々参加。同氏から最近の川越高校同窓会の近況が報告されるとともに丁度、卒寿を迎えられたことも披露。早速参加者からお祝いの拍手が送られるとともに、当日参加の女性陣全員から祝福のキスと記念写真となりました。

皆様も卒寿を目指して、お達者に。このようなお祝いが待っています。

は、最年少の横山大輔氏(高四十回)の音頭で校歌斉唱となりました。



『参考』

椎橋氏の報告にありました「巢鴨の話」を再掲いたします。川越と縁があります。

一 江戸時代の巢鴨

江戸時代の巢鴨は、増上寺支配で町奉行支配地でもありました。当時からあったのは六地藏「真性寺」(現在も実在)です。江戸時代全体から見れば比較的新しい町でした。

当時の巢鴨は四つの町に分かれており、板橋側から、上組・上中組・下中組・下組となっていました。十九世紀以降、場末として両国・深川と同じ、江戸の行楽地でした。植木屋が多く、それもただの植木屋でなく、菊をいろいろと創作して見せる、今のテーマパークのようなところだったようです。

現在の「とげぬき地蔵(高岩寺)」は明治時代に上野駅を造るため、上野の山から巢鴨の現在地に移されたものです。

二 植木屋「内山長太郎」の話

江戸時代の植木屋として書物に載っていた人に、川越街道の白子宿出身で「内山長太郎」という人がいます。幼くして植木屋を志し、十五歳から唐辛子の苗(賞翫用の苗)の行商をし、吉原の遊女の好評を得ました。また、富山藩主・前田利保と知り合ったほか、多くの藩主とも知り合い、その名を高めました。

天保飢饉で野菜が高騰した折、川越在

から「かぼちゃ」を仕入れ、江戸市中に投売りして大儲けしました。その儲けで土地を買い植木屋を開業し、江戸から見物客を集めたのです。

三 巢鴨町軒別絵図

仁孝天皇の第八皇女であった「和宮」(第十四代徳川家茂将軍・夫人)一行が、文久元年(一八六一)江戸に入ることを知った幕府は、この一行が多勢で板橋宿では賄い切れないので、急遽、巢鴨の町方の絵図を作成、巢鴨に宿を取るよう通達を出しました。

当時の江戸切絵では武家のみが明記され、町方の商人等は明示されていませんでした。急遽、三日間で作成した絵図(名前と職を書いたもの)は商店等を明記、家作の大きいところに○を付けました。

その軒別絵図を見ると、植木屋、交通関係、食べ物屋、野菜屋の四分類になり、植木屋だけでなく近隣に食べ物屋があり、植木を見た後、一杯やろうとしたらしく行楽地だったことが分かります。

現在の桃花源ビルは、植木屋・保坂四郎左衛門の土地でしたが、飲み屋の遺物が大量に出てきました。植木屋の屋敷でしたが、四郎左衛門が平右衛門に土地を貸して「飯屋」を営ませていたのです。

JR巢鴨駅前に「福島屋」という老舗の和菓子屋さんがあります。この和菓子のご先祖「福島弥三郎」さんの名が軒別

絵図にあります。言い伝えによると、江戸時代の福島家の軒別絵図の位置とほぼ一致し、同絵図の史料の信頼性が高まったのです。

四 これからの巢鴨

巢鴨の軒別絵図と内山長太郎の行動をみると、交通、流通、遊興の三つの要素で一致します。とりわけ、巢鴨は交通の起点になっていて、川越と深い関係があったのではないかと分かっています。巢鴨遺跡の膨大な発掘データが保存されています。一方、国道十七号線の拡張工事、巢鴨市街地活性化計画の着手等で多くの問題を抱えています。江戸時代から地域に根付いた生活文化をそのまま町づくりに活かせるかが課題です。楽しい遊び心があつて「もてなしの町巢鴨」を引き継いでほしいものです。

江戸六地藏尊真性寺



真性寺
聖徳4年(1712年)に建立
された江戸六地藏尊

『東京大空襲と二十三年目の卒業式』

田中 隆（中四五回）

勤労働員で兵器はほとんど作られていない割には、大本営の戦局発表は日毎厳しさを増し、東京も昭和十九年十一月三十日を皮切りに、昼夜空襲警報が鳴り、爆弾、焼夷弾の攻撃を受けるようになった。

時々帰ってくる父親の話によると「地方はどこも軍需工場だけが狙われているが、東京では焼夷弾の盲爆が始まった」、「火工廠は火薬を抱えているので空襲警報が鳴ったら出来るだけ離れた防空壕に逃げるだよ」など余り良い話はなかった。その危険な東京へ帰って行く後ろ姿を見ながら、開戦当初のような戦局への好転を信じていた。

昭和二十年三月九日夜半、いつものように警戒警報で目を覚ましました。ラジオでは特別の放送はないが、裏の島の空が赤くなり、外へ出てみると東京がいつもと違って広範囲に燃えており、低空飛行のB29の編隊が次から次へと焼夷弾をばらまいており、見る見る内に火の海。それが一晩中続いていた。一家揃って父親の生死が心配となったがどうすることも出来ず、寒さでガタガタ震えながら朝まで火勢が弱まるのを待つばかりであった。

「東京は全滅だ」、「東京下町は全焼で死人の山だ」などの話がささやかれ、東上線で被災者がぞくぞく帰ってきたとのことで、急遽自転車飛ばし駅に行き数時間待ったが、父らしい姿は見当たらず帰宅。母と相談して東京へ行くことを話していたところ、焼焦げのオーバーを着て眼をつぶった父が駅で話かけられた人に連れられて帰ってきた。

途中、お茶の水の病院に行き、洗眼と目薬をもらってきたが、痛くて目を開けることが出来ないこと、わが家は勿論全焼。消防団なので逃げるのが最後になつてしまい、近くの川に入り、材木屋の筏につかまり一夜を過ごしたとのこと、このために焼死しないで助かったとのこと。

二、三日経って目も治り二人で焼け跡へ行った。わが家の防空壕の物は全部焼けてしまい、残ったのは防火用水の放り込んだ茶碗と焦げたラジオだけ。父親はがつくり肩を落し、放心状態。涙こそ流さなかったがこれからのことを考えていたようだ。帰りがけに私の将来のことも話し合い、当然、父親の仕事を継ぐことも出来なくなつてしまい、どうしたのか考えていた。

ガード下には焼死体の山がいくつも見られ、悪臭を放っており惨憺たる光景。これを見ただけで人には言えないが「日本はもう負ける」「本土決戦になる前に

降伏した方が」と思うようになった。どこだったか忘れたが、病院の焼け跡にテントを張り、治療している医師と看護婦さんを見た。その時、将来、医師になろうと決心。これを父だけに話した。

級友は皆、特幹（特別幹部候補生）、予科練（海軍飛行予科練習生）を受けるなど軍人志向の話ばかりである。来年卒業、医専や医大なら入学試験があるだろうと考え、それから毎晩押入れの中に電気スタンドを持ち込み、ひそかに受験勉強を始めた。考えてみると、父が突然失業したということが今日の自分に繋がっていることになる。

以上が私自身に話である。

戦後の昭和三十二年、縁あって結婚、世帯を持ったが、前号で紹介した家内は当時卒業を控えた小学六年生であった。この学年は前年の八月、学童疎開令が下り、多くの生徒は縁故疎開、田舎がないので縁故疎開も出来ずとりあえず残留組として本所堅川（現墨田区立川）に残ることになった。

友達も皆、親から離れているのに自分達は家の人達と一緒に居られることをむしろ喜んでいたが、次第に空襲がひどくなり勉強どころではなくなり、挙句の果て二月二十五日、ひどい積雪の日に空襲で自分の家は全焼。幸いに晝間で無風だったので、家族は全員無事。疎開のため家族がいなくなった隣町千歳町の伯

父の家に移り住むことになったが、わずか二週間後の三月十日、二度目の戦災、これが運命の東京大空襲である。次から次への敵機襲来で焼夷弾の雨。とりあえず母と一緒に逃げるようになったが、行く先は良く知っている焼け跡のわが家の方向であり、最初に目に映ったのが酒屋さんの大きな地下防空壕。しかし、多くの人がつぎつぎと入ってくるし、焼け跡でも烈しく火の粉が舞っているの思い切ってそこを飛び出し、焼け残っている中和小学校の方に行くことにした。その途中、間引疎開で造られた貯水槽に飛び込み、やつとのことで風と火の粉の猛威から逃れることが出来、いくらか下火になったところで学校の裏門から講堂に入り、これで助かったとのこと。

運悪く表門の方に廻った人達は入ることが出来ず、全員焼死。ぶくぶくしたマネキン人形のような死体の山。五里霧中の逃避行ではあったが、九死に一生を得た一夜であった。家族七人、全員無事、結局は焼け跡に逃げたことが運命の分かれ道であったようである。

その後、小岩の兄の家に寄宿、そこで近くの江戸川高女に手続き入学、縁故をたよって潮来へ。その結果縣立潮来高女に一年間、いろいろ苦労があったようだが後から考えてみると小学校の卒業式はしていないし、卒業証書も貰っていない学年であり、それだけでなく残留組の中には

一人もの行方不明、亡くなった友がいたり、また疎開組にも受験のため帰京して戦災に遭遇した友、家族が亡くなつて戦災孤児になつてしまった友もいたり、それこそ大変な学生だった。

このように苦労した同窓はそれだけ深い絆があり、その後、何回もクラス会を開催、その折の提案で昭和四十三年に二十三年目の卒業式を行うこととなり、母校、校友会の協力を得て盛大に挙行。このことが新聞、テレビで報道され、これがきっかけで同年代の卒業式が各地で開催されている。



【主な新聞に伝えられた卒業式の写真】

憲法改定のこと、二度と戦争をしたくないとのことで終戦記念日、原爆記念日、沖縄戦記念日、靖国大祭等々の行事が盛大に行われているが、私達にとっては陸軍記念日であった三月十日がそれこそ戦災記念日であり、二度とこのようなことがあつてはならないとくづく思っている。

【六義園散策後の懇親会での
筆者・田中隆・文代ご夫妻】



【注】

本文は、川越の文芸誌「武蔵野ペン」124号に掲載されたものを、筆者の了解を得て、再掲したものです。
前号の「東京空襲六十年」の続きの証言として、掲載させていただきました。

大江戸線界隈徘徊記 (二)

岡部恒雄記 (高校十五回卒)

国立競技場駅

聖五月車椅子バスケットなる

東京都は、再び二〇一六年のオリンピック開催地として立候補の名乗りをあげましたが、前回の一九六四年東京オリンピックのメイン会場となった国立競技場の前に大江戸線の駅が出来た。

この周辺に、神宮プール、秩父宮ラグビー場、東京都体育館、神宮野球場などスポーツ施設が集中しています。

神宮プールは、かつてフジヤマのトビウオと呼ばれ、次々と自由形で世界記録を出した古橋広之進選手が活躍し、まだオリンピックに参加を許されてなかった日本を勇気付けた舞台でした。

ピストルがプールの硬き面に響き

山口誓子

東京都体育館では、全日本車椅子バスケット選手権が行われています。ここでの優秀な選手が選抜され、世界選手権に続きます。日本は世界のなかでも上位にランクされています。

この中に、サッカーのJリーグの柏レイソルで活躍した京谷選手がいます。サッカーの現役中に交通事故に遭い、下半

身マヒの重度2という重症を負いました。しかし、奥様の懸命な協力のもと、車椅子バスケットに転進しました。今や全日本車椅子バスケットのエースとなっています。

車椅子バスケットは、健常者のバスケットとは又違った別のスポーツをみるようで、その迫力は眼を見張るものです。体育館のなかですが、五月の澄みきった空のように、爽やかに夜遅くまで熱戦が続きました。

青山一丁目駅

捨つる恋散るいちよう蹴り絵画館

絵画館の正式の名は、「聖徳記念絵画館」で、明治天皇・昭憲皇太后の御聖徳を後世に伝えるために造営されたもので、神宮外苑のシンボルといえる存在です。青山通りの外苑入口から銀杏並木越しに見える石造りの外観は、周囲の森とあいまって荘重な趣をたたえ、東京を代表する風景のひとつとして親しまれています。

神宮外苑は、民間有志により結成された「明治神宮奉賛会」が中心となり、国民の浄財によつて造成され、大正十五年十月二十二日に明治神宮に奉献された。

なお、明治神宮の創設は大正九年のことですが、その後空襲で焼失し、昭和三十三年十一月、国内・外から多くの浄財が寄せられ、神社建築の粋を集めて現在の社殿が復興されました。

この辺りは、明治の頃青山練兵場であった。日比谷から青山へ移るとき、陸軍は丸の内の所有地を三菱に払い下げた。これが現在の丸の内オフィス街であり、練兵場が現在の日比谷公園である。

秋の銀杏が黄葉したなかを歩くといろいろな思いが廻ります。



皆様のご意見、投稿を

お待ちしております。

在京初雁会役員一同

会長

高島敬忠(高10回)

副会長総務・西 信之(高17回)

副会長総務・内藤 豊(高21回)

副会長会計・大館 廣(高21回)

顧問・田中 隆(中45回)

顧問・岡田良平(高2回)

事務局・広報・岡部恒雄(高15回)

350-1308 狭山市中央4-15-15

T&F 042(959)8016



在京初雁会（創立昭和28年）

会長 高島 敬忠

2007年 新春号

第81号（平成19年1月15日）

謹んで新春のお喜びを

申し上げます。

旧年中は格別のご指導を賜り、有難うございました。

会員諸兄のご健康とご多幸をお祈り申し上げますと共に、本年も宜しくお願い申し上げます。

さて、四十年前の事ですが、小生がある稀な染色体異常疾患をたまたま外来で見出し、入院させ主治医としてお世話したことが契機となり、人類遺伝学への興味を覚えました。まだ、当時は人の遺伝を語るのに染色体レベルの研究です。師を求め他大学まで出掛け教えを乞い、米国留学時も先天異常を主研究領域としている教授に師事しました。

あえて、新年早々に遺伝の話など引き

出しましたのは、最近、新教育論が議論されており、そこで、新渡戸稲造氏の武士道がにわかに話題になったからです。

新渡戸稲造氏は著書「武士道」のなかで、DNAの変異に基づかない、すなわち遺伝とは考えられない事柄を、日本国民、特に「サムライ」に刻み付けた性格は、遺伝という言葉を使い、それが広範に影響しているだろうと考察しております。遺伝学の教科書では後天性形質（獲得形質）は遺伝に関係ないと記されております。

なぜ、百年以上前に執筆された新渡戸の武士道なのでしょう。武家の風習で躰られた教養や品格などを取り入れ、人格を確立しようという事でしょう。ならば、現代に生きている大人や若者も再教育の必要がありそうです。

この新渡戸稲造氏の血を継ぎ末裔に

たる障害児を十数年も主治医として外来で診てきたことがあります。

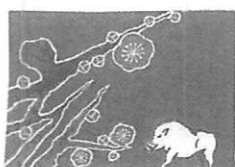
その御両親から禅僧・相田みつを氏のテープを頂戴しました。それを聴きますと、相田氏は「自分の番、いのちのバトン」という詩の中で、自分の二十世代前では、なんとその先祖は百年間に三世代の交代があるとして、我々一人一人はその体の中に、少なくとも紀元一〇〇〇年に生きていた二〇〇〇万人のDNAをもっている」と計算しています。

一個体はどのように何百万・何千万人によって支えられてきた貴重な命であります。粗末に出来ません。

戦後の自由奔放な教育の弊害が噴出してきております。そこで、武士道を指導原理として精神活動に取り入れ、わが国を再興しようという狙いがあるのでしよう。より正義心が培われ、正直者が馬鹿をみないような世の中になって欲しいものです。

平成十九年 元旦

在京初雁会会長 高島敬忠



第二回例会・講演会報告

講演者・佐々木瑞枝教授

(略歴) 佐々木忠一氏の長女として京都で生まれる。山口大学教授、横浜国立大学留学センター教授を経て、現在、武蔵野大学・大学院教授(言語文化専攻、日本語教育専修コース)。第四回産経児童出版文化賞受賞。日本語ジェンダー学会会長。日本語教師養成講座講師(エコール・プランタン他)。

主な著書に『外国語としての日本語』(講談社現代新書)『生きた日本語を教えるくふう』(小学館)『女と男の日本語辞典』(東京堂出版)『日本語ことはじめ』(北星堂書店)『日本語教育の教室から』(大修館書店)『女の日本語男の日本語』(ちくまプリマーブックス)など多数。



(講演要旨)

今日お招きいただき、ありがとうございます。この在京初雁会には、父と一緒に何度か参加させていただきました。

父は川越高校の在京初雁会参加を晩年の楽しみの一つとしておりました。

今日の講演会は皆様とのお縁を大切に「双方向の講演」とさせていただければと存じます。

今回のお話も、父が前回の同窓会でご依頼を受けたようで、「瑞枝ちゃん、今度同窓会でボランティアで話をしてくれ」と嬉しそうに言っておりました。

今日も会場のどこかで父が聞いてくれているのではないかと思っております。

私は、英文科出身で、子育てが終わった頃から三島にある日大の国際関係学部で英文通訳法や翻訳法を教えていました。しかし、英文というのは文法的なミスはすぐ分つても、文章のニュアンスになると、なかなか難しいものがあります。自分が本当に英語の翻訳法を教えても良いのだろうか、どこかに罪の意識を覚えるようになりませんでした。

「横田基地将校夫人クラブの経験」

ちようどそんな折、横田基地にある将校夫人クラブから「ぜひ日本語を教えて欲しい」というお話があり、私は二人の娘たちを車の後部座席に座らせて、横田基地まで週に二回ほど、日本語を教えるに行くようになりました。

その中で、「日本語の数は教え方が難し

いけれど、何かルールはないのですか」と聞かれたのです。

それまで考えたこともなかったのですが、無原則に見える日本語にも、暗黙のルールが存在するのですね。

「助数詞の教え方」

たとえば、「二はい、二はい、三はい」がそうですね。一はPの音で「はい」、二はHの音で「はい」、三はBの音で「はい」になりますね。

皆さん、他同様のルールを持つ語がありますか。

(声)「二ぼん、二ぼん、三ぼん」

そうですね。同じですね。私達は当然のように使っていますが、他にも「いつびき、にひき、さんびき」のように同じルールで「P、H、B」と変化します。

「アメリカン・スクールでの経験」

横田基地ではよくパーティがあり、そのでアメリカン・スクール・ジャパンの校長から自分のところで日本語を教えていたきたいとの話があり、教えることとなりました。

今から思えば、非常に良い経験をしたと思うのですが、日本の高校生と全く違ったアメリカの高校生たちの態度に大きなカルチャーショックを受けました。特に大胆な服装や先生と学生が友達のように上下関係がないことなどです。こんなところで教えられるのかと心配でした。

私は当時三十代で、経験も乏しく、大きなアメリカの高校生の中に入るとまるで

巨人の国に来たような感じでした。

日本語を教えた経験といえ、高校国語の授業で教えた経験と横田基地で将校の夫人たちに教えた経験だけです。

ありがたいことに、ハワイ大学で日本語の素晴らしいテキストを出していて、私はそれに沿って教えることで、自分も学びながらできたように思います。しかし、テキストがあっても、日本語のルールには分らないことが多々ありました。

「てフォーム」

国語学では聞いたこともない「てフォーム」という項目を教えるときには、正直、冷や汗が流れました。

「動詞十て」ある、いる、おく、しまう、くる、いく、くれる、あげる、みる」など実に多くの例があり、その一つ一つに意味があるのです。

「食べておく」といえば、何かのために準備することですが、「食べてしまう」といえば、完了を表します。

アメリカンスクールではそういう風にふだん考えたこともない日本語の暗黙のルールを考えながら教えることになりました。

「いつてきます。」というのも、この「てフォーム」なのです。『行く十て来る』と考えてみれば、「行く」と「来る」の間に「て」が入っている不思議な表現です。

「てきます」には「行つて元の場所に戻る」の意味があります。ですから日本人は家を出るときに「行つてきます」という

のです。それはもとの場所、つまり自分の家に戻るからです。

同様の例に「コピーしてきます」「煙草買ってくるよ」などがあります。

こう教えると生意気な高校生たちも嬉しそうに次々に例文を出してくる、日本語の醍醐味に触れたひと時でした。

「自動詞・他動詞」

国語の授業の中で一番つまらなかったのは味気ない文法のページではありませんでした。実は私もその一人です。でも、外国人に日本語を教えているとその味気なさが面白さに変わります。

辞典をひくと、必ず「自・他」と書いてありますが、みなさん「自・他」など見過ごしてすぐに解釈を「覧」になるのではありませんか。

しかし、外国人に日本語を教えていると、この自動詞・他動詞が使い方によって大きく意味が違ってくるのが分ります。

一つ例をあげてみましょう。

「お風呂は湧いていますよ」と「お風呂は湧かしてありますよ」は、両方とも同じ意味ですね。しかし、この二つの表現は微妙にニュアンスが異なります。

会場の皆さんの中で女性はどういうを言いますか。また男性と奥様に、どちらを言われた方が嬉しいですか。手を挙げて下さい。「お風呂は湧いていますよ」の方は、圧倒的に多いですね。「お風呂は湧かしてありますよ」は、七人で少数派ですね。

「お風呂は湧いていますよ」は、「湧く」

自動詞でお風呂が自然に湧いたような印象ですね、英語に訳すのは大変難しいです。なぜならお風呂は勝手に湧いてくれませんから。



それに対して「お風呂は湧かしてありますよ」は、「湧かす」が他動詞で、「湧かしたの私です」と自分の行為をはっきり言っていることになります。英語ではこのほうが訳しやすいのです。

控え目な奥様が言う「お風呂は湧いていますよ」に対して、「湧かしてあります」は自分の行為をきちんと主張できる「現代型」と考えればいいのでしょうか。

最近の若い人は「湧かしてあるから」とか「湧かしたから」と日本語の表現も段々変わってきているようです。

このように、時代の変化とともに動詞の使用法も変化を見せ、自動詞で使われたものが他動詞で使われるようになっていきます。

英語などに翻訳した場合、他動詞の方が主語・述語の関係が明瞭で訳しやすいですね。

「育つ・育てる」

父は毎年夏は川上の山荘に行つて、涼しい夏を過ごすのをとても楽しみにしていました。湿気の多い東京の夏が苦手な私も夏は長野で過ごすのですが、そんな時、近隣の方に植木の世話をお願いしています。時々、電話で植木の様子を聞くのですが「ちゃんと育てていますよ」と安心させてくれます。

「育てています。」の「育てる」は他動詞で「育っています。」は自動詞です。

今の場合で外国人に「植木はちゃんと育っていますよ」と英語で言おうとしますよね。でも、それを言うのは英語では大変難しいのです。夏のペランダは大変暑く、水をやらなくては枯れてしまいます。やはり「育つ」ではなく「育てている」ですよ。日本語として自然な「育っている」英語にした場合には「育てている」と他動詞で言ったほうが外国人には分りやすいです。日本語は簡単なようで、教えるのは本当に難しいですね。

皆様に質問です。では、「開ける」と「開く」はどんな場面を思い浮かべますか。

(声)「ドアが開く」

いいですね。何で開く、のですか。

(声)自動ドアで開く。

(声)自然現象で、風でドアが開く、いいですね。では、「開ける」はどうですか。

(声)いっぱいある。荷物を持っているので、開けて下さい。

外国人は間違えるのですよ。「開けて下さい」と教えないといけない。「開いて下さい」とは絶対言わない。でもそこは解らないようなのです。

(声)英語ではその違いの表現はあるのですか。

英語で言う場合には本来の意味に近付けるために主語を何か、加えないといけないのです。「ドアを開けます」は、

「I open the door」[You open the door]ですね。今は英語ブームですが、日本語に立脚した英語の授業というのは、あまりないのが残念ですね。

「消す・消える」

では他の動詞の例を考えてみましょう。

「消す・消える」はよく使われる動詞ですが、皆さんならどんな例文が考えられますか。「消す」はどうですか。

(声)「地震で火を消す」「仏様の火を消す」

そうですね。誕生日にロースクの火を消す。あれは、消えて下さい、ではないですね。

外国人学習者は「ろうそくを消してください」というべきところを「消えてください」と言ってしまうますが、間違えるのも無理ないですね。自動詞と他動詞が非常に似ている上に、英語では同じ動詞が自動詞・他動詞、両方の役目を果たすことが多いですから。

「消える」はどうですか。

(声)電気を消す。電気が消える。が分かり易い。

自動詞、他動詞の使い分けは本当に面白いですが、英語にしてみるとその違いがよく解ります。対照言語学のなかでも、もつと日常の日本語から実践的に考えるべきだと思います。

「つづいていきます。」

次に、「つづいていきます。」について考えましょう。さきほどお話しした「てフォーム」の一つです。前に様々な動詞がきます。例を出してみましょう。

(声)泣いています。

いいですね。これは、現在進行形です。日本人は現在進行形がまっさきに頭に浮ぶようですね。英語の文法で勉強しているからもしれません。他にありますか。

(声)愛しています。ビデオを映しています。

進行形は多いですが、他にも主要な用例が三つあります。

(声)その話はしています。結婚しています。

そうですね。ドアが開まっています。開いています。これも同様の用例ですが案外難しいです。

「つづいていきます」他に、どういう用例がありますか。

(声なし)

私が子供のころ家に泥棒が入ったことがあります。私は、廊下に黒い影が通り過ぎたことに気付いてましたが、恐ろしくて

声が出ませんでした。父や母が奥の和室で寝ておりましたので、泥棒は奥まで行かなかったのだと思います。私の寝室の向かい側には応接間がありました。

翌日の朝、家の様子をみたら、応接間の額は外れていました。椅子は倒れていました。父の出張のカバンも開いていましたし、庭には大きな風呂敷が広げられていました。泥棒の足跡が残っていました。これらの、「椅子は倒れている」「足跡が残っている」などは、「くっついている」の二番目の用法です。これらの共通するのは何でしょう。

これらは「瞬間的に起きたことの結果の持続」と説明されます。ちよつと分りにくいかもしれませんが、「椅子が倒れている」の「倒れる」のは一瞬のことですが、「倒れている」は倒れる結果の**状態**がそのまま持続していると説明されるのです。

「くっついています」の三番目の例を考えましょう。

皆さんの服装など考えてみて下さい。眼鏡をかけてます。靴を履いてます。などです。外国人に教えるときは、服装が良い例です。これは、状況を表してます。

四つ目はなんでしょうか。

(声) 晴れています。曇ってます。

それもいいですね。もつと分り易いのは毎日する動作がよい例です。

(声) 会社に行ってます。昼寝してます。いい例ですね。我々は毎日、決まったことをしますね。「毎日、散歩している」「食後は歯を磨いている」「夜は十時に寝てい

る」、これらは「くっついています」という文型を使うことが多いのです。これも直訳では英語にし難いのです。

「くっついています」は、そのまま英訳するのは大変難しく、この四つのパターンに分けることで、意味が鮮明になります。

日本人は普通こういうことは考えないで使っていますよね。

私が日本語教育を始めた頃には、日本語教育がこれほど注目を集めるとは思っておりませんでした。しかし、ここ十年ほど、いわゆる「日本語ブーム」が起きています。昨年はパリのユネスコで日本語についてお話させていただいたり、NHKの教育番組「日本語なるほど塾」留学生から見たニホンゴのトホホ」(平成十八年七月七日から八月二十五日四回)に出演させていただきました。

テレビの番組は四回とも、父や姪と一緒に見ました。父はテレビの前に座り、熱心に見ながら「よくそんなことを知っているね」と感心してくれました。

父は褒めることが非常に上手で、私もいつまでも父親に褒められることを励みに、これまでがんばってきた思いがあります。父は天寿をまっとういたしましたが、ほんとうに最愛の人をなくした思いです。でも私ががんばっている姿を見てもらったことで、多少の親孝行はできたかなとも思っております。何か良いことがあると一番喜んでくれたのは父でしたから。

物語を通してみる

日本語とジェンダー、竹取物語

私は、言語文化を専攻しており、また、日本語ジェンダー学会の会長をしておりますが、この学会で制作した「竹取物語」の話をいたし、ビデオをご覧いただきます。



千年以上も前に出来た「竹取物語」は、視覚を通して想像力に訴える作品です。

「源氏物語(絵合わせの巻)」でも、この物語が絵を伴って鑑賞されていた様子が見えます。

「仏教思想」 この物語は、当時の仏教思想を色濃く反映させています。「この世は儚いものだ」という当時としては最新の天台宗の仏教思想が入ってきているのです。「漢字仮名混じり文」 この当時の文章は、公的には漢字・漢文が使われていました。特に男性の知識階級は漢文でした。ところが、この物語は当時の話し言葉を「仮名文字」の和文として書かれています。作者は

不詳とされてますが、女性ではないかと思われます。

「子供用の物語りではない」 内容的に見ると結婚に関することが具体的に記されていて、現代では「竹取物語」がまるで子供のための物語になっていますが、原作では、かぐや姫の結婚を願うおじさんがかぐや姫に早く結婚させたいために、ある皇子が訪ねて来たとき、「蒲団を敷きました」と書いてあります。当時の結婚の形式がわかり、ジェンダー的な視点からも検証に値する作品だと思います。

「結婚を拒否する姿勢」 かぐや姫には、宮廷の帝にさえも従わない一徹さがありました。たとえどんなに身分の高い人が相手でも「結婚を拒否する姿勢」は、この後書かれた『源氏物語』で、「光源氏」の訪れを心待ちする女たちの姿とは全く異なった視点です。

「難題」 かぐや姫は五人の貴公子に難題を出しますが、その一つ一つには、当時の時代背景が描かれています。

たとえば、「阿部御主人（あべのみうし）」には、「唐土（もうこし）」にある火鼠（ひねずみ）の皮衣（かわごろも）をいただきとうございます」という難題です。当時、遣唐使、遣隋使の公益は途絶えてましたが、密貿易が行われ、「密貿易を禁じる」という布令がでていたのです。その禁令を犯してまで、かぐや姫の難題に答え、かぐや姫を手に入れようと奔走する貴族の様子が皮肉として描かれています。ここ

からも、著者はその当時の世の風俗を苦々しく思っていた知識人だと想像できます。「十五夜の月」 当時、日本には十五夜を特別なものとしてみる習慣ありませんでした。中国で十五夜の月を特別な物として最初に見た有名な皇帝がいますが、誰でしょうか。

（声） 玄宗皇帝です。

そうですね。白楽天はそれを漢詩にしたのです。それが日本に伝わって、これを竹取物語の作者が知って書いているのは、中国のものをかなり読んでいる非常に知識人であり、最新の知識をこの物語の中に「今はむかし」の物語として入れたのです。「儀礼的な終わり方」 子供の読む竹取物語はかぐや姫の昇天で終わるものが多いのですが、本当の物語の終りは実に儀礼的です。

帝はかぐや姫からもらった「不死の薬」と手紙を焼くことで、今後の地上の統治での決意を固めるところで終わっています。帝はその手紙を天に一番近い、活火山であった富士山で手紙を燃やします。その煙が天上に上っていくことで終わっています。煙は地上と天とのコミュニケーションの役割と考えられます。

（文責・岡部恒雄）

（追記） 今回の講演で見ましたDVD版「物語を通して見る日本語とジェンダー・竹取物語と鶴の恩返し」（企画・制作 日本語ジェンダー学会）は、佐々木瑞枝先生から、在京初雁会へ寄贈を受けました。

ご覧になりたい方は、岡部恒雄までご連絡いただければ、お送りいたします。「懇親会の様子」（写真提供・西澤孝氏）



佐々木先生を囲んで（左）現会長と（右）前会長



岡部大孝



日出岡夫人・佐々木孝子・菅原五郎さん・松井さん

【佐々木忠一先生を偲んで】

田中隆（中四五回）

確か昭和六十年頃のことだったと思う。私の勤めていた日大医学部には先輩として、耳鼻咽喉科の高山乙彦教授（中三八回）、公衆衛生の西川眞八教授（中三六回）が居られ、両教授から日大初雁会という会に夫婦で出席せよとのこと、当時、私はしない助教でした。

会場は川越のご存知、佐久間旅館、びつくりして出席したところ、佐々木先生ご夫妻・当時日大経済学部教授（中三二回）、佐久間勇次農獣医学部教授（中三八回）と松本傳一国際関係学部教授（中三七回）が居られ、話の様子からどうやら佐々木先生が音頭をとられたようで、日大初雁会なる名前も先生の発案、仮に付けた名前前で、要は西川先生の同窓会会長内定、激励会のようでした。

その後、何と西川先生の交通事故による訃報があり、推薦者であるという責任をとられたのか、佐々木先生ご本人が同窓会会長に推薦され四年間、それだけでなく先生の推薦で私が在京初雁会の会長十二年間、川越ペンクラブの会員、同人、総会での卓話などなど、すべて佐々木先生のご配慮があつてのことでした。

先生はこの会でも最長老、顧問として殆ど毎回出席されており、いつもお元気で体調不良を訴えたこともなく、ただ、亡くなれたご子息の病氣のことで相談をうけたことが切っ掛けで、佐々木家の医療コンサ

ルトアントを仰せつかつておりました。
（川越ペンクラブ・平成十七年四月）



（右から、矢部敬一郎、佐々木忠一、松本傳一代表幹事、田中隆の各氏）

長女である佐々木瑞枝さんは私の勤めている東十条病院の患者さんと医師という関係で、何回かお会いしておりました。当時、横浜国立大学、留学生センターの教授をされており、各国の留学生に日本語を教えたおられ、「留学生から見た日本語」、「女と男の日本語辞典」等々沢山の著書があり、またNHK教育テレビでも「日本語なるほど塾」などで活躍され、佐々木先生

「松本、ユーモア溢れる話し方に感動、ぜひ在京初雁会での卓話をお願いしたいと考えていました。」

今年の三月末、六義園でのお花見散策と巣鴨での懇親会の折り、先生は名古屋から来られた娘さんと懇親会のみ出席され、この席でいつものようなご挨拶があり、卒寿を迎えられたことをユーモアたっぷりに話され、これに添えて出席されたご夫人十一人（相当のおばあさんもいましたが）全員から祝福のキッスと記念写真、いつになく盛り上がった会でした。

その時、ふと思ったことは、話し方はいつもの通りでしたが、何となく覇気がなく、ことによると最後の出席になつてしまふかと思ひ、前から考えていた瑞枝さんの講演をぜひお願いしたいと発言しました。

先生はこのことを大変お喜びなられたようで、後からの話ですがお宅に帰られてから、瑞枝さんに「出演料の無い講演だが、是非引き受けてほしい」と云われ、このことが瑞枝さんへの遺言になつてしまった由。

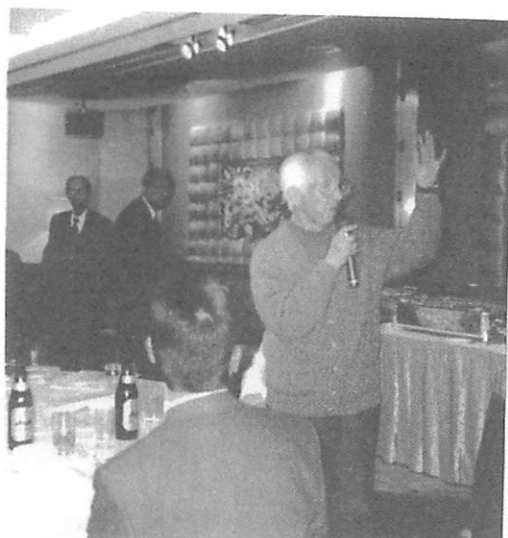
わずか一ヶ月少し、五月七日、私の病院に電話があり、「佐々木さんという女性からの電話、急用とのこと携帯電話を聞いておきました。」とのこと、早速私の方から連絡したところ先生の訃報、入浴中に亡くなられているのを見、医師にかかつていないので検死、検案書などいろいろあつて家族だけの密葬をされ、告別式を五月九日、そのことを川越関係の知人に連絡してほ

しいとのこと、私から高校同窓会会長代行、ペンクラブ代表幹事でもある松本先生に連絡した次第、皆さんへの連絡が遅くなったのも以上のようなことでした。

あらためて考えてみると、平均寿命を越えた人であれば、いつ心臓がストップしてもそれは天命であり、しかも大好きなお風呂の中で苦しまず逝かれたこと、むしろ佐々木先生らしい終わりであったと思えてなりません。

私にとつては初雁会の折、何となく最後の出席になるかもの予感が当たつてしまい、びつくり、ただもう少し早く瑞枝教授の講演依頼をしておけばよかったと、そのことだけが、心残りです。

つつしんで、ご冥福をお祈り致します。



(在京初雁会での佐々木忠一氏の講話風景)

アンコールワットの旅

菅間五郎・記(高5回)

JALパックのツアーで四日間、アンコールワットの遺跡群を堪能した。現地であテンドしてくれたカンボジアの空が大好きだという大和撫子のガイドさんのお蔭で素晴らしい旅になった。古色蒼然たる遺跡や彫刻を見るたびに思うことがある。それらが作り上げられた時の元の姿に触れて見たいといつもつくづく思うのだ。

アンコールワットはアジア人が作り上げた物であるだけに、より一層感動が深いものに成ったが、江戸時代の寛永九年にこの地を祇園精舎と考え、はるばると海を越えて訪れた日本人がいたそう。この人の感動は如何ばかりであつたろう。

アジア人の成したる業ぞその威容

アンコールワットは我らが遺産

古も世界平和を祈りしぞ

四面観音の穏やかな顔

恐ろしき自然の猛威遺産喰み

大蛇の如く大樹地を這う

バンテアイスレイの女神麗い

千年の時空を超えて我に微笑む

数々のデヴァータ(女神)見れど

腕の削げ顔無き像の忘れかねつる

父母の供養の為に波濤越え

アンコールワットを訪いし人あり

その人の姓は森本名は右近

寛永九年正月のこと

カンボジアの空が好きだと屈託なく
ガイド勤めし大和撫子

野茂もいてあいつの顔も丸ちゃんも

クメールの旅は楽しかりけり



皆様のご意見、原稿を

お待ちしております。

在京初雁会・役員一同

会長 高島敬忠(高10回)

副会長 西信之(高17回)

副会長 内藤 豊(高21回)

副会長会計 大館 廣(高21回)

顧問 田中 隆(中45回)

顧問 岡田良平(高2回)

事務局広報 岡部恒雄(高15回)

350-1308 狭山市中央4・15・15
Tel & F 04(2659)8016

母校正門前の巨樹



在京初雁会
(創立・昭和28年)
会長 高島敬忠
2007年夏季号
第82号(平成19年7月1日)

今春のお花見会は、母校を五十年振りに再訪しました。

冒頭の挨拶で、Age・Moment(観光ガイド・佐々原氏より教えられた)のためか、正門前の巨樹を擧げると口走り、失笑をかい、楠木と訂正いたしました。

この楠木(Campbor・Tree)につき言及いたします。

クスノキ木科・常緑広葉樹に属します。わが国本土に産する樹木中、最大のものとされており、五月には小さな黄色い花を咲かせ、十月になると小さな実を沢山つけます。関東以西に、楠木の巨木は散在しており、特に鹿児島や宮崎に多いといえます。

加茂の大楠(徳島県)、神田天満宮の楠木(大阪府天然記念物やや指定)や熱田神宮(愛知県)の七本の楠木の巨木、殊に、大分市の八幡社の楠木は神木とされているそうです。楠木の樹齢は、五百年から六百年と長い。わが国の二番手の巨木には櫟(ニレ科落葉広葉樹)や榆があります。

巨木の中で別格なのは、世界自然遺産にも指定された屋久島の縄文杉でしょう。その樹齢は二千年から七千年と推定されています。

会員の中で、マスコミや広告代理店業に関心のある方がおりましたら、この正門前の楠木の巨樹をウオーター・ボーズに勝る川高の名物にすることはできないでしょうか？

平成十九年水無月

在京初雁会会長

高島啓忠



【母校同窓会総会報告】

平成十九年五月十三日に、同窓会総会が開かれましたので、報告いたします。

今回は、同窓会会則が整備され、併せて役員組織の見直しと役員改選が大きくなりました。

一、第五条（役員）の改正

これまで、各地域の初雁会の会長が副会長となっていました。が、あまりにも多くの方が名を連ね、実質的な活動とリンクしなくなり、今回、副会長と各地域の会長の役割を見直しました。

◎副会長は会則として若干名とし、当面互選で6名としました。

その内訳は、川越市内から2名、在京・近畿地区から1名、東上線沿線地区から2名、西武沿線・日高地区から1名としました。

この結果、川越地区から、馬場弘（高十二）・石山豊（中四十五）、東上線沿線地区から、浅田光二（中四十三）・矢部敬一郎（高二）、西武沿線・日高地区から弓削多光一（高四）、在京・近畿地区から、在京初雁会会長の高島敬忠（高十）の各氏が選出されました。

なお、その他の地区会長は常任幹事となりました。

二、校長の異動

前校長・菊池健太氏は、三月三十一日で勇退、新校長に吉澤優氏（高十九）が川越南高校から就任されました。

三、平成十九年度主な事業活動

- ① 教育活動支援・六十万円 特に、スパー・サイエンス・スクールの支援
- ② 進路活動補助 図書費、土曜セミナーへの援助
- ③ 秋季散策会・十月二十一日（日）

主催・狭山初雁会、場所・智光山公園

- ④ 四校（川越・浦和・熊谷・春日部）の各校）対抗ゴルフ大会・九月五日（水）

主催・川越高校、場所・霞ヶ関カントリー

四、報告事項

在京初雁会母校訪問（三月二十四日）を記念して、同窓会総会の日に記念植樹を行ったことが報告されました。

五、記念講演

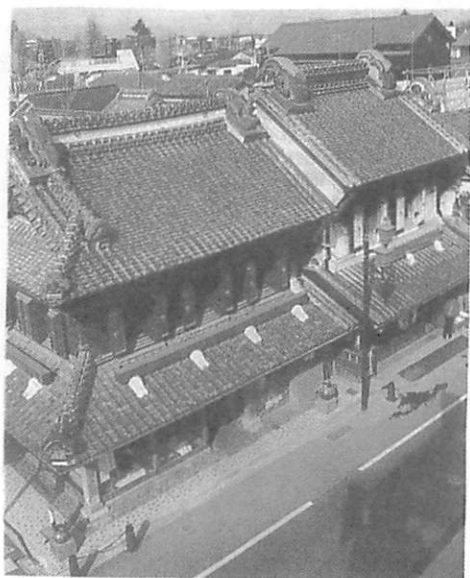
『川越一番街のまちづくり』

可児一男氏（高七）

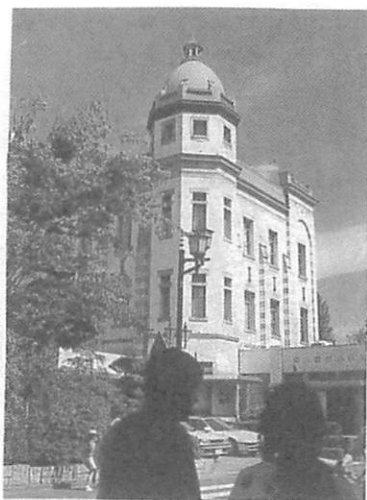
川越一番街商業組合町並み委員長

「川越蔵の会」「川越一番街商業（協）」

「一番街街並み委員会」などの熱心な活動により、コミュニティマート構想モデル事業、自分も町全体も良くなるような提案型ルールの策定などにより、マンションの規制、電線の地中化、伝統的建造物群保存地区の指定（平成十一年十二月）、街路整備、街路灯のシンプル化、などが報告されました。



重要伝統的建造物群保存地区



埼玉りそな銀行川越支店（国の登録有形文化財）（C）

◎母校訪問と川越街並み散策で、川越の変容を実感しましたが、このような努力がうったことが理解できました。

春の散策会の報告

在京初雁会事務局

在京初雁会はこれまで、東京近辺に住・在勤の方々が、都内で交流・懇親を深めて参りました。今回の春の散策会は創立（昭和二十八年）以来、会として未だ訪問していない母校及び観光都市に変貌した川越の街並みを散策しようということになりました。

一 母校訪問

平成十九年三月二十四日、午前十時半、図書館棟二階に集合、参加者三十四名。まず、菊池健太校長より、新装なった学校の施設内容、科学技術振興のための「スーパースサイエンスハイスクール」の指定、「くすのき講座」の開催、ウオーターボーイズなど盛り込んだ「くすのき祭」の様子、最近の進学状況などの話を伺いました。

この後、校内の最新の理科棟、剣道場、柔道場などの体育館を案内していただきました。

なお、私どもの訪問に当り、同窓会事務局・伊藤豊氏（高二）、校内幹事・山崎邦俊教師（高三十一）、沼野昌義教師（高三十四）、が休暇を割いてお世話になりました。

ありがとうございました。

「くすのきの下で・中央が菊池校長」



「説明する菊池校長と沼野教師（右）
山崎教師（左）」



「スーパーサイエンスハイスクールの
中核・理科棟」



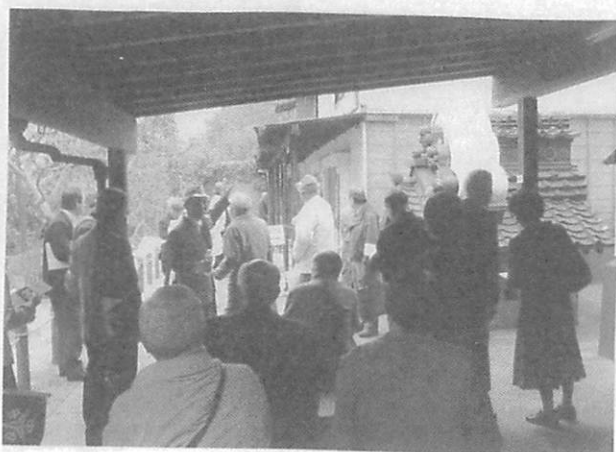
二 小江戸川越蔵街散策
観光ガイド・佐々原茂雄氏（高九）

佐々原氏は、高校の英語教師を長年勤めた後、社団法人・川越市シルバー人材センターで川越市の観光ガイドをなさ
つておられます。数少ない英語でのガイ
ド担当で、最近ではアジア関係大使館の
婦人の案内などを行い、引っぱりだこの
大忙しです。

同氏の案内で、母校を後に、氷川神社
へ（思い出を一文にして頂きました会員
がおります。後出。）。ここで散策会恒例
の岡田良平氏（高二）差し入れの成増名
物「だんご」に舌鼓を打つ。



ここから、裁判所前を通り、「広済寺」
へ、神仏混交の面影を残す数少ない寺と
説明を受ける。会員の中から、この寺に
優秀な同年輩の女性がいた、との話が飛
び出す。更に、札の辻を経て、蔵の街並
みの中心を歩み、蔵造り資料館へ。佐々
原氏の熱心な説明に聞き入る。



服部民俗資料館では、当主の服部氏か
ら川越商人の歴史に話が弾む。

大正建築の粋・埼玉りそな銀行を見上
げつつ、会員の山崎豊弘氏（中三十五）
が館長の「山崎美術館」を見学。山崎氏
自から案内。橋本雅邦画伯などの名画を
鑑賞する。川越の文化の深さに感じ入る。

〈説明する山崎氏・中央は今回投稿していただいた内田氏（高2）〉



▼美術館正門



ついで、隣組の「茶陶苑」の当主・山崎氏を佐々原氏の人脈の力で引つ張り出し、魅力的なイベントの開催への試みの話を聞く。今夕は、喫茶室でジャズのコンサートを開催すること。



そして、川越文化に酔いながら、懇親会場「かぶや」で会員相互の話と酒に最後は酔う。



江戸川越の「時の鐘」

川越市シルバーガイド

佐々原茂雄（高九回）

去る三月二十四日（土）に、在京初雁会の方々に蔵造りの町を案内させて頂いた後、幹事の岡部さんより、会誌「鐘つき堂」の原稿を書きませんか？と、ご依頼されて、気楽に引き受けたものの、目先の仕事に忙殺され取り掛かれず「やるしかなか！」との気持ちで始めた。

さて、主に「時の鐘」について書くとのことだが、市販のガイドブックを始め、多数の本が「時の鐘」について必ず触れている。

小泉功先生・青木一好両氏共著になる「大江戸・小江戸川越時の鐘ものがたり」を中心に文章をまとめてみたい。

江戸時代に書かれた川越地誌として「川越素麵」^{そうめん}「多濃武之雁」^{たのむのかり}「三好野名

勝図会」^{ずえ}「新編武蔵国風土稿」「川越松山之記」「川越の紀行」等があるが、その中で最も古く、寛延二年（一七四九年）に亡くなったとされる板倉善衛門良矩作「川越素麵」によれば、江戸時代初期に川越城を拡張、城下町を整備した五代目城主松平信綱が、「時の鐘」の再鑄を命じたところがあるのが最初のようなのである。

①三代目城主酒井讃岐守忠勝と「時の鐘」市販案内書が酒井忠勝が鑄造させたとする根拠は、文久元年（一八六一）年に鑄造され、明治二十六年（一八九三年）の大火で溶解した銘文にある。

彼は時間に厳しくて、江戸城に登城する諸大名の登城時刻に必ず太鼓を打たせて時間を知らせたことから「酒井の太鼓」（曾祖父の兄酒井左衛門尉忠次も異なる意味で呼ばれた）と呼ばれ、札の辻から市役所方面に向かう通りの南側「常蓮寺」の境内に寛永年間（一六二七年～三四年）に創建させたとされる。

②五代目松平信綱と「時の鐘」

寛永十五年（一六三八）年に川越大火があった翌年、川越城主となった松平信綱は城下町を上下十ヶ町に整備して、中央部にある桶屋の職人町である多賀（箍）町（現・幸町）の現在地に鐘樓を再建した。

承応二年（一六五三年）正月、前城主が使用していた鐘が「損壊」したために、銅鐘を新たに鑄造し、「時鳴鐘」として体制が整えられ、鐘撞人を鐘樓の西側に常駐させて、毎時、鐘を撞いて時を報せた。

一方、「火の見櫓」の役目も果たした。城下町は人家も多く火事が多かったので、大風が吹くと鐘樓の四方を板戸で囲い、板木、綱、かけやなどを用意して、

銅鐘に火がつきそうな時は、十ヶ町から十人の人足が手伝いにきて、上から降ろして穴倉に収納することもあったという。

③九代目城主秋元番知と「時の鐘」

宝永元年（一七〇四年）番知は甲州谷村から川越に入府する。番知に従った太陽寺盛昌の孫盛胤が著した「多濃武之雁」では、信綱の代の銅鐘は「形が小さく音も悪い故、当時は決して今会所にある」と記されている。そこで、番知はわざと谷村から銅鐘を運ばせ、多賀町の鐘樓に取り付けている。

この銅鐘は、音色が良く「長久の鐘」といわれて、火事、洪水、地震など災害が起こると、音色が悪くなるといわれる程の名鐘で、十二代城主秋元涼朝が山形へ領地替えになると、鐘も一緒に運んでいった山形で使ったそうである。

④松平大和守時代の「時の鐘」

十三代目城主松平大和守朝矩が、前桶より入封した明和四年（一七六七年）には銅鐘がないため、しばらく太鼓を打っていた。しかし、太鼓では鼓動の響きが少ないため、翌年、幸町・長喜院の銅鐘を借りた。次の城主直恒が藩主の明和七年（一七七〇年）に銅鐘を新鑄した。

しかし、安永三年（一七七四年）大火

で鐘樓と共に焼失した。その翌年、鐘樓が完成すると今度は末広町の行傳寺の鐘を借用した。この銅鐘は音色も良く、遠方まで響いた。

借用期間は、安永五年（一七七六年）から七十年以上も続き、このため次のような落書きが城下に広まった。

「大和さま法華の寺に借りが出来

判（半）はつけども金（鐘）はかえさず」時の鐘が「半」刻毎に撞かれるのを印鑑の「判」に、鐘を「金」にもじっている。

⑤十六代城主松平大和守斉典と「時の鐘」斉典は嘉永元年（一八四八年）に銅鐘の新造を決意し、十力町、四門前（蓮馨寺、妙養寺、行傳寺、養寿院）に地続きの七か村から百五十両を強制的に集めた。

銅鐘は、総重量約千四百五十kg、全長一・八m、直径九十一cmの巨鐘であった。しかし、「音低く遠方に響きかねる」という失敗作だった。

⑥十八代城主松平大和守直侯と「時の鐘」

巨鐘が使用に耐えられないとわかり再び前城主斉典が行傳寺から強引に借りた銅鐘も安政三年（一八五六年）の夜火事で鐘樓は全焼、借りた銅鐘も溶解した。

そこで、城主典則は元町大蓮の鐘樓と銅鐘を借りて時の鐘の代用とした。天保四年（一八五七年）鐘樓が完成し

たが、銅鐘は志多町の広濟寺から借用した。

文久二年（一八六一年）銅鐘が新たに鑄造された。鑄物師は小川五郎衛門栄長で、時の鐘の鑄造は三度目だった。

⑦現在の「時の鐘」

明治二十六年（一八九三年）三月十七日の川越大火で町の三分の一が焼失した中、文久二年に鑄造された時の鐘も鐘楼もろとも焼失してしまった。

「時の鐘」の再建には、初代岡田秋葉町長を始め官民一体になって取り組んだ。造営委員には、当時の町の名士で川越商業銀行と川越貯金銀行を創立した

かねきち

竹谷兼吉他六名がなり、渋沢栄一、高田早苗など川越に関係する実業家・政治家・学者、町長岡田と助役三名、町会議員二十四名、川越町区長二十九名と代理八名、埼玉県知事銀林綱男と県義捐金、明治天皇からの御下賜金千五百円、合計二千七百余円が集められた。

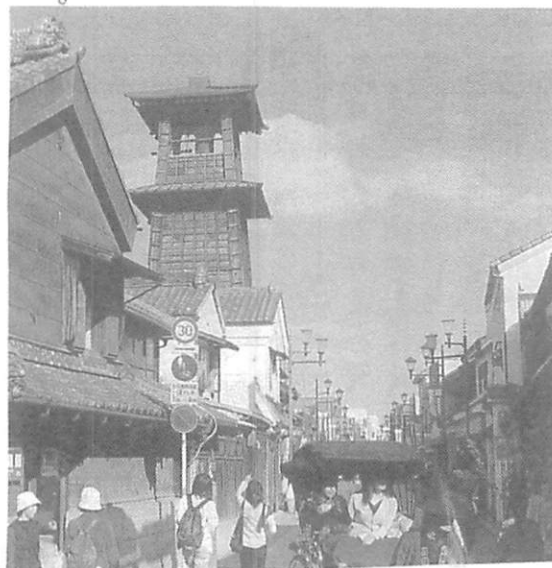
新鑄される銅鐘の鑄物師には、小川家に代わり矢沢四郎衛門に決定され、翌年の七月二十六日に完成。全長二・二三m、外径八十二cm、重さ六一九・八kgである。

鐘楼は雪塚稻荷や町家を手がけた地元の大工関根松五郎の設計・建築になる。鐘楼の高さは、十六・二m（五丈三尺五寸）、木造トタン屋根三層造、階段が付与され、堂内は三層に分かれ、周囲の木

造壁面には筋交いを各層に斜めにつけて強化する近代建築の応用と認められる工夫が施されている。

昭和五十年（一九七五年）川越市文化財保護協会が自動鐘楼機を寄贈して以来、朝六時、正午、午後三時と六時の一日に四回、各六打で、市民に時を報せている。

又、平成八年（一九九六年）環境省主催の「残したい日本の音風景百選」にも選定され、均整が取れ、蔵造りの町に似合う城下町川越の象徴として、ますますその存在感を増している。



⑧現在の「時の鐘」を見守る方々

☆宮岡正兵衛さん「町屋勘右衛門」

幸町では、刃物の「まちかん」として有名、川越に来て十一代目の当主に伺った。昭和四十九年（一九七四年）〜平成

まで三十年近く「時の鐘」の管理をされた宮岡さんの話では、「時の鐘」は「時」だけでなく、「火災報知器」の働きもあり、近くは、早く激しく、遠くは、ゆっくり悠々と撞いていたようだ。

第二次世界大戦前は、「時計男」の異名を持つ岩内老人がスイス製のモバルト時計で正確に時を報せていたという。戦後は、年一回「時の記念日」だけしか撞かなかったそうだ。

昭和五十年文化財保護協会の発足記念に氷川神社・山田勝利宮司と共に「自動鐘撞機」贈呈を提案して実現させた立役者だったようだ。

☆矢澤秀雄さん「鍋四」矢澤四郎右衛門
長野県佐久郡矢澤庄（現在・上田市殿城村矢澤）から府中へ出て、川越の代官町（現・宮下町）で初代鑄物師、二代目東明寺村（現・神明町）から十三代目ご主人に伺った。

現「時の鐘」は、十代目・矢澤四郎右衛門忠八が鑄造した。材料は古い鐘を下物にし、地金は東京の間屋から仕入れた亜鉛、錫、唐銅等も加え、炭も溶解用極炭、鑄型乾燥用雑炭は比企方面、粘土は

名細、砂は入間川と特化した所から作ったそう。

☆田中進さん 田中源五郎さんの曾孫
田中進さんは「時の鐘」入口で「田中だんご」を商っているが、曾祖父の源五郎さんは、薬師神社の所に住み、明治の初期から大正十二年（一九二三年）頃まで、アメリカ製ウォルサム時計を使用し、夜間は鐘楼に泊まって、毎正時に鐘を撞いたそう。

佐々原茂雄氏の連絡先は次のとおりです。

社団法人
川越市シルバー人材センター

観光ガイド
佐々原 茂雄

事業所 〒350-0053 川越市郭町1-19-6
Tel:049-222-2075 Fax:049-222-8973
自宅 〒350-1106 川越市小室50-8
Tel & Fax 049-245-7987
E-mail sasa-yan@pop.kcv-net.ne.jp



時の鐘



喜多院



川越まつり



大沢家住宅（国指定重要文化財）
寛政4年（1792）の建築で、間口が広く、関東地方の町屋としても大変古い例に属し、国の重要文化財に指定されています。



家光誕生の間

小江戸川越の見所

【自転車通学の話】

内田紀成（高2）

川越市内春の散策を終わりに「かぶや」での懇親会の席で、岡部さんを交えて「桶川から六年間自転車通学していったんだよ。」という話をしたら、その話を会報に載せたいということになってしまった。

距離は二里強であった。県道であった

おっpegわ

が砂利道で荒川、越辺川、入間川、と三本の川を渡った。いずれの川も流れている川の岸から岸へ橋桁の上を材木を組み立てて渡したものであった。外の土手を上り下りして平坦な河川敷を走り木の橋を渡って再び土手を上り下りするといった、上り下りの道であった。

当時、ノーパンクタイヤというのがあったが、空気のタイヤと比べものにならない程振動が烈しく、たちまち痔になってしまったこともあった。

我々高2卒は、中学生生活が4年、高校生活が2年であった。中学生生活の一年後半から二年の終戦迄は上福岡にあった火薬工場へ勤労働員となった。桶川から川越駅迄自転車、そこから更に東上線に乗って上福岡で下車、そこから隊列を組んで工場へ入る。この時は通学ではなく通勤であった。自分でご苦労様と言いたい。

日曜日は午前中、教練の時間であった。

或る日、三人で下校途中、川越郊外に出たところで警戒警報のサイレンが鳴り、あまり間を置かずに空襲警報のサイレンが鳴った。するとすぐ西の方から艦載機の群が向かってくるのが見えたので、申し合わせる暇もなく自転車を取り捨ててそこから離れて、田の畦に身を潜めた。艦載機は自転車を目がけて次々と機銃掃射を浴びせた。土煙りが次々に立つのを目の当たりに見た。パイロットの姿が見えるくらいの低空飛行であった。

幸い自転車に弾は当たってなかった。戦時体制だったせいとその事は、はつきり覚えているけれど恐怖感はなかった。後で考えて見ると自転車様々である。

毎年、雨が二、三日続くと水害が増して、両岸から河川敷に溢れ出すことが一、二回ある。河川敷の両側の土手から土手迄、川が一杯になるともう海だ。事前に気象を予測して、橋の近辺の若い衆が県の委託を受けて橋桁を次々と取り外して、小高い所へ積み上げた。そして尚、自分の家に保管している伝馬船を浮べ交通に一役買うのであった。伝馬船は自転車が三台乗せられる大型のものであった。

若い衆は、棹も使えたり櫓も使えた。若い衆といっても我々より一回り以上も上のおじさんである。県の委託で仕事をしていたとはいえ、尊敬すべき人々であった。

戦後から授業の遅れと受験と両方やらなければならなかった。自転車で走っている時は頭はからっぽである。英語の単語を暗記するには都合がよかったと思う。

冬の晴れた朝は富士山、秩父の山々、雪の日光の山々、を眺めながらの通学であった。雪が積もった時はアウトで、テクテク歩いて行くしかなかった。

夏の暑い日、越辺川に架かっている釘無の橋の下砂の州に降りて、そこで白いパンツ一枚になり水泳ができた。まさに、天然プールであった。もう一つの楽しみ、女学生がスカートを靡かせながら自転車で橋の上を走っているのを見下ろすこともなく見ること。

自転車ですら思っていたことはなかった。むしろ、今ある健康は自転車通学のお陰と思っている。

(現在の釘無橋)

今は、架け

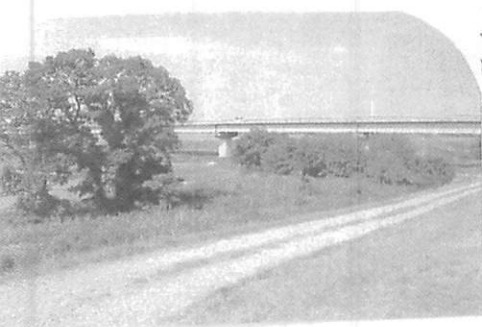
替えられ、

永久橋に。

橋の下の

砂州は当時

のまま。



「4日の日をありがとう」

小見山 進(高十四)・久実子

私たちは、二十四年前の昭和五十八年(一九八三年)三月二十六日(土)、川越の氷川神社で大勢の方々に祝福され結婚式を挙げました。

三月二十四日(土)の在京初雁会の例会で思いがけず、氷川神社に参拝の機会があり、その日のことを昨日のこの様に鮮明に蘇らせていただき、感謝一杯です。今年も二十四年前と同じように、氷川神社の神前では数組の結婚式が厳かに行われておりました。

その時、私は三十九歳でJTB東松山の支店長、久美子は二十六歳で東松山支店の社員でした。社内結婚・・・！！



私はJTBの支店長を歴任した後、岡山県有数の企業集団・両備グループの中核企業である両備バス株式会社に就任いたしました。

東京支社長として八年目を迎えた平成十三年（二〇〇一年）、「飯能市の市議会議員に立候補してほしい」との強い要請を有志の方から受けました。両備バスの仕事にももの凄く魅力を感じており、選挙は非常に厳しい状況が予想できましたので、立候補をお断りしました。しかし、「飯能市の発展の為に力を貸

してほしい、是非、出馬してほしい」と多くの方々から説得され、JTB（両備バス）を五十七歳で退職し、飯能市議会議員に立候補する決断をいたしました。地元の付き合いは、川越高校入学以来四十年以上疎遠になっておりましたので、選挙は想像以上に厳しく、戦いは熾烈を極めました。多数の皆様のご支援をいただき当選することができました。

地方分権が進み、都市間競争が激しさを増す現在、「飯能市が安心・安全で暮らしやすいまち」として勝ち残りを懸けて、二期目の市議会議員活動に全身全霊を打ち込んで頑張っております。

妻・久美子は、JTB関係の仕事で活躍するとともに、飯能市図書館協議会委員・飯能謡曲連盟の評議員・飯能地区厚生保護女性会役員・飯能市赤十字奉仕団役員など地元の文化活動・奉仕活動に精力的に取り組んでいます。また、今年から母校東京家政学院の同窓会（光塩会）副会長に推薦され、母校発展のために積極的に活動させていただいております。来年の平成二十年（二〇〇八年）には、銀婚式を迎えますが、娘三人（長女・遥は、今春成蹊大学を卒業し、埼玉りそな銀行新所沢支店勤務、次女・順は、大阪芸術大学に在学中、三女・泉は、飯能市立南高麗中学校の三年生）に恵まれ、奥武蔵の山麓で穏やかな家庭を築いております。

私たちは、在京初雁会の例会に出席して、数多くの方々とお付き合いさせていただき、沢山の事を学び、元氣と刺激をいただいております。

これからも初雁会のご縁を大切にして、会員皆様のご指導をいただきながら、夫婦でお互い努力して高め合い健康に留意しつつ、楽しい思い出作りに努めてまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。感謝！！



氷川神社

【母校訪問記念植樹報告】

在京初雁会春の散策会は、平成十九年三月二十四日、会創立（昭和二十八年）以来初めての母校訪問と川越蔵街散策を行いました。

これを記念して、「シデコブシ（モクレン科）」の植樹を、母校同窓会の日（五月十三日）に行ないました。

場所は、正門の来客者駐車場の正面です。白い花が春になって咲きます。

〈同窓会会長・田中正氏（右端）、前校長・菊池健太氏（右から六人目）と在京初雁会会員の皆様と記念写真〉



〈前校長・吉澤優氏（右から二人目）も感謝の記念写真〉



母校訪問記念植樹

平成19年3月24日

【シデコブシ】

モクレン科

在京初雁会

(創立昭和28年)

なお、今回の植樹に際して、格安の費用で引き受けていただいたのは、卒業生・越坂部洋氏です。庭の手入れのご要望がありましたら、左記にご連絡下さい。

宮前造園有限会社 越坂部洋

〒359-0026 所沢市牛沼402-1
☎ 04(2943)5553

又、五十年後、この木の成長を確認するため母校訪問を計画してます

大江戸線界隈徘徊記(五)

岡部恒雄記(高校十五回卒)

六本木駅

ぼうぶらや不夜城六本木樓家とす

六本木という地名の由来は、その名の通り六本の木があったからとか、あるいは、上杉、朽木、高木、青木、片桐、一柳という樹の名の六屋敷が六つあったからとか様々な説がある

江戸時代、六本木ヒルズがある場所は、毛利家支藩、長州中藩があったところで、元禄赤穂事件の時に、岡島八十右衛門以下十名の赤穂浪士切腹した場所でのある。

また、乃木希典が嘉永二年(一八四九年)も毛利藩邸で生まれ、現在の毛利庭園と呼ばれている池のほとりの井戸で産湯に浸かったと云い伝えられている。

戦前は軍事施設として利用されていたので、殺風景な街にすぎなかったが、戦後、赤坂、麻布一帯は米軍に接収され、米国人向けのバーやカフェ、ナイトクラブ、ホテル、レストランなどが増え、洋風の街並みが形成された。

麻布十番駅

新樹光麻布十番暗闇坂

麻布十番は、「善福寺」の門前町として発展してきた町である。延宝三年(一六七五年)幕府が古川の改修工事を行ったとき、

この地点を河口から十番目の工区であったから、という説と、元禄十一年(一六九八年)將軍綱吉の別邸を建設したとき、舟運のため川さらいを行い、その人足の第十組をここから出したという説がある。

また、享保八年(一七二三年)江戸時代後半に商業が盛んになると、十番においても数多くの商店が創業され、この頃に創業され、現在まで続いている老舗も多い。

このあたりは坂が多い。「安藤記念教会」の坂は、一本松坂、坂上には何代目かの一本松があるがまだ小さい。昔は一本松が茶屋を覆うほどの大きさだったという。ここで、坂は二手に分かれる。「暗闇坂」と「大黒坂」で、暗闇坂はいまでも木立がうつそうとして薄暗い。往時は追剥が出たというから、怖い坂だったのである。

皆様のご意見、原稿を

お待ちしております。

在京初雁会・役員一同

会長 高島敬忠(高10回)

副会長 西信之(高17回)

副会長 内藤豊(高21回)

副会長 大館廣(高21回)

顧問 田中隆(中45回)

顧問 岡田良平(高2回)

事務局広報 岡部恒雄(高15回)

350-1308 狭山市中央4-15-15

TEL&F 04(2943)8016

お祝詞謹んで新春のと申し上げます。

旧年中は、格別のご指導・ご協力を賜り、

厚く御礼申し上げます。

会員諸兄のご健康とご多幸とお祈り申し上げますと
共に本年も宜しくお願い申し上げます。

今年は、「同窓会考」を試み、在京初雁会の益々の発展に寄与できればと考えました。一つの学校を単位として考えた場合に、その同窓会は卒業年次が同じという横の繋がりの学年単位や小規模ですがクラスが、卒業時同じだったというクラス（学級）単位の同窓会などがあります。

この辺の同窓会が主流でしょうが、また縦の繋がりの同窓会は、開校以来100年も経過すると数万人の単位の同窓生が社会に輩出されます。さらには、総合大学などになりますと同窓会という名称よりも校友会などと改称され50万人を超える規模になっています。また、各大学などでは、県人会等も存在します。川高同窓会でも地区同窓会が20以上設立されていますし、クラブのOB会なども存在しています。

そもそも、当初、その存在は母校での修学時代を懐かしみ、方言を使って言いたいことを言い合える情報交換の場、人の交流の場であったと考えられますが、いわゆる人脈としての機会の場にもなっていたことでしょう。

わが在京初雁会は50年余の歴史を持ちます。上記のような目的を持ち、横の繋がりと縦の繋がりが、時代時代の先輩諸兄の努力のよりうまく絡んでここまで継続されてきたものと思います。

種々、同窓会の会則を見ますと、その目的に会員相互の親睦をはかると共に名簿の発行や母校の後援などが先ず掲げられております。母校の今年の大きな事業の一つとして、同窓会名簿の発行が取り上げられております。小生としましては、今年は会員諸兄の心を一つに結べるような事業や母校への後援を含め模索していきたいと考えております。

会員諸兄のご協力とご理解をお願いいたします。

最後に、今春は昨年春、我々の会の名義で校門前に植樹した白連が花を付けてくれることを祈ります。

平成20年新春

在京初雁会会長 高島 敬忠



2008年・新春号

第83号(平成20年1月15日)

在京初雁会(創立昭和28年)

会長 高島 敬忠(高10)

副会長 西 信之(高17)

副会長 内藤 豊(高21)

副会長 大館 廣(高21)

顧問 田中 隆(中45)

顧問 岡田 良平(高2)

広報 岡部 恒雄(高15)

350-1308 狭山市中央4-15-15

T&F 04-2959-8016

皆様の投稿・ご意見をお寄せ
下さい。



初詣・初大師だるま市

第三回例会及び講演会

- 1 日 時 平成19年11月17日・12時より
- 2 場 所 銀座七丁目「ライオン」レストラン・34名参加。
川越・養寿寺住職・金剛秀房氏（高10）新参加
- 3 講演会 「裁判員制度について」
・講演者 「横溝高至弁護士（高21）」 ⇒

今回は、卓話を伺うというのではなく、模擬裁判形式で実際の判断を会員の皆様の行っていただくという形式で行いました。その前に、裁判制度のあらましを横溝氏より説明がありました。

・裁判員制度は、「司法に対する国民の理解の増進とその信頼の交情に資する」ということが趣旨である。これは、国民の皆さんに、地方裁判所で行われる刑事裁判に参加してもらい、被告人が有罪かどうか、有罪の何合どのような刑にするのかを裁判官と一緒に決めてもらう制度です。原則として裁判員6人と裁判官3人が一緒に刑事裁判の審理に出席し、証拠調べ手続きや弁論に立ち会った上で、評議を行い、判決を宣告します。



この制度は、平成16年3月に法律案が出され、同年5月21日に可決成立し、同月28日に公布され、実際には、平成21年5月までに始まります。

外国にある陪審制や参審がありますが、これらとどう違うのかがあります。

陪審制は、犯罪事実の認定（有罪かどうか）は陪審員のみが行い、裁判官は法律問題（法解釈）と量刑を行う制度です。米国や英国で採用されています。

参審制は、裁判官と参審員が一つの合議体を形成して、犯罪事実の認定や量刑のほか法律問題についても判断を行う制度です。ドイツ、フランス、イタリアなどで採用されています。

日本の裁判員制度は、これらと比較し裁判員と裁判官が合議制を形成する点では、参審制と同様です。ただし、裁判員は事実認定と量刑を行い、法律問題は裁判官のみで行う点で参審制とは異なります。日本独自の制度となっています。

裁判員の権限は、裁判官と協力して裁判内容の決定に実質的に関与するものです。このため、裁判員は、有罪かどうか、有罪の場合にはどのような刑罰にするかの決める権限があります。刑事裁判の公判審理に出席し、裁判官と一緒に裁判を行うので、証人や被告人に対して必要な尋問や質問を行うことができます。評議を尽くしても意見の一致が得られなかったときは、多数決により表決します。ただし、裁判員だけ、あるいは裁判官だけによる意見では結論を決めることはできず、裁判員、裁判官のそれぞれ1人以上が賛成していることが必要でそれでは、「模擬裁判」で実際に皆様が裁判員になった積もりで判決を出して下さい。それぞれの役割はそれに相応しい芸達者な人に演じていただきます。

「模擬裁判」：事件の概要

被告人・君島二郎＝内藤豊（高21）は、通行人から金品を奪い取ろうと企て、吉川時男＝大館廣（高21）と共謀の上、平成17年9月6日午後1時30分ごろ、豊島区西池袋二丁目30番16号の西池袋公園北側入口付近において、通行中の安部孝志（当時60歳）＝本多良市（高21）に対し、こぶしでその後頭部を数回強打するなどの暴行を加えて安部の反抗を抑圧し、安部からその所有する現金1万5千700円及び腕時計等物品4点（時価合計8万5,000円相当）を奪い取り、その際前記一連の暴行により、同人に全治3週

間を要する顔面等打撲傷の傷害を負わせたものである。

☆冒頭陳述

・裁判官＝横溝高至（高 21）冒頭陳述を行ってください。

・検察官＝岡部恒雄（高 15）検察官が証拠により証明しようとする事実は次のとおりです。第 1 に、被告人は現在豊島区西池袋の㈱明和商會に勤務しており、独身で前科前歴はありません。第 2 に被告人と共犯者吉川時男との関係は中学校時代親しく交際していた同級生です。吉川は広域指定暴力団江頭組の構成員です。第 3 に犯行に至る経緯ですが、平成 14 年ごろから競馬パチンコなどにのめり込み複数のサラ金業者から借り入れし、犯行当時約 500 万円に膨れ上がっており、返済の見込みは立たない状況でした。平成 18 年 9 月 6 日午後 8 時ごろ、被告人は JR 池袋駅に向かう途中、吉川と偶然出会い付近に居酒屋「酒処一番」に入り、そこで被告人は吉川に対し多額の借金を抱えていることを打ち明けました。その話を聞き吉川は公園で通行人を襲い金銭を奪う計画をしました。第 4 に犯行状況ですが、「酒処一番」を出て午後 11 時 30 分ごろ吉川が公園を歩いていた被害者に対し、計画通り話かけようとしたところ、被告人は被害者の後ろに回り、いきなり、こぶしで被害者の後頭部を数回殴りつけ、全治 2 週間を要する頭部打撲等打撲等の傷害を負わせました。吉川は被害者から時計を奪い、財布から 1 万円札 14 枚、5 千円札 2 枚、千円札 7 枚の計 15 万 7 千円、キャッシュカードクレジットカード各 1 枚抜き取りました。第 5 に犯行後の状況は吉川は犯行現場で被告人に 1 万円札 6 枚、千円札 3 枚を手渡しました。被告人はそのまま帰宅したが、吉川は公園出口でパトロール中の警官から職務質問を受けていたところ、被害者が助けを求め職務質問をしていた現場にやって来たため犯行が発覚し、その場で逮捕されました。吉川は共犯者である被告人の氏名、住所を供述したため、翌日の午前 9 時ごろ警察官が被告人の自宅に赴き逮捕したものです。



・裁判官 それでは弁護人の冒頭陳述をお願いします。

・弁護人＝西信之（高 17）弁護人が証拠により証明しようとする事実は次の通りです。被告人は確かに本件犯行当日、午後 10 時 30 分頃まで「酒処一番」で吉川時男と食事をしたが、そこでの話しは中学時代の思い出話やお互いの近況だけで、強盗を計画したことはありません。中学卒業後は交際は途絶えてましたが、事件の日、被告人は「酒処一番」で現在の自宅の住所、電話番号を紙に書いて渡しました。被告人は午後 10 時 30 分過ぎ「酒処一番」を出て吉川と別れた後はまっすぐ自宅に帰りました。翌朝、被告人は自宅に押しかけてきた警察官により身に覚えのない強盗容疑を告げられ逮捕されました。逮捕後、被告人は一貫して自分の無実を主張し続けております。今回、検察側の証拠として提出される、被告人が持っていた被害者の千円札については、本件犯行後吉川から分け前としてもらったものでなく、勤務先近くのコンビニエンスストアで買物をしたときの釣銭として受け取ったものに過ぎません。



・裁判官 今、検察官と弁護人の双方から冒頭陳述して頂きましたが、今回の争点は、第 1 に「酒処一番」での被告人と吉川の会話の内容、第 2 に「酒処一番」を出た後の被告人の行動、第 3 に逮捕当時被告人が所持していた千円札を手に入れた経緯ということでよろしいですか。

・弁護人・検察官 はい、その通りです。

・裁判官 では、証拠をまず検察官から先に提出して下さい。

・検察官 第 1 に司法警察職員織田裕一作成の通常逮捕手続書、第 2 に医師小泉幸太郎作成の診断書、第 3 に被害者がメモした取引先の社長の携帯電話番号が手書きされた千円札 1 枚を証拠として提出します。

☆証拠申請

- ・裁判官 次に弁護側の証拠を提出して下さい。
- ・弁護人 第1に雑誌「東洋ビジネス」の平成18年8月1日号の67頁から75頁に記載された被害者のインタビュー記事です。これによれば、被害者は会社近くのコンビニに毎朝立ち寄って朝食を購入すると記載されています。第2にコンビニ「パーソン」西池袋2丁目店で合計486円の買物をして1万円札を出し、9514円のお釣りを貰ったことが記載されています。第3に被告人の会社の平成18年9月分の被告人のタイムレコーダーです。これによれば被告人は事件当日の朝7時43分に会社に着しています。以上です。

☆証人尋問：被害者・安部孝志＝本多良市（高21）

- ・裁判官 検察官、主尋問をどうぞ。
- ・検察官 平成18年9月6日午後11時30分ごろあなたは会社を出て西池袋公園の中を歩いて池袋駅に向かっていましたね。公園で誰かに会いましたか。
- ・安部 前から若い男が歩いてきました。
- ・検察官 あなたはその男の顔を見ましたか。
- ・安部 はい、街灯もありはっきり見ました。
- ・検察官 あなたが公園で見た後、何がおこりましたか。そしてどうなりましたか。
- ・安部 後ろから別の男にすごい力で頭を何度も殴りつけられました。頭がボーとして倒れてしまいました。
- ・検察官 気絶しまったのですか。
- ・安部 いえ、気絶するほどではありませんでしたが、怖いので仰向けに倒れたまま薄目をあけ様子を伺っていたら、先ほどの前から来た男が私の横にかがんで財布からお札を抜き取ってました。
- ・検察官 他に誰かいましたか。
- ・安部 少し離れたところにもう一人若い男が立っていました。
- ・検察官 その男の顔も見ましたか。その男は今この法廷にいますか。その男を指差してください。
- ・安部 （被告人を指差す）この人です。
- ・被告人 （立ち上がって大声で）あなた、いい加減なこと言わないで下さい。
- ・裁判官 被告人着席しなさい。
- ・検察官 それから2人はどうしましたか。そしてあなたはどうしましたか。
- ・安部 かがんでいた男が立ち上がって少し話した様子でしたが、すぐに2人はそれぞれ別の方向に走り出しました。私は誰かに助けを求めようと思って、公園の出口の方へ歩いて行きました。
- ・検察官 公園の出口に誰かいましたか。
- ・安部 警察官と先ほど前から歩いてきた男がいました。
- ・検察官 あなたが「その男が強盗だ、捕まえてくれ」と叫んだので、その場で男は逮捕されたのですね。
- ・安部 はい。
- ・検察官 逮捕されたとき被告人がもっていたものを警察署で見せてもらいましたか。
- ・安部 はい。私の取引先の取締役の携帯電話の番号がメモされた1000円札が1枚ありました。事件の2日前に彼の携帯電話の番号を覚えてもらう機会があり、手元に紙がなかったので持っていたお札にメモしたんです。
- ・検察官 証拠の1000円札を証人に示します。（1000円札を証人に見せる）この1000円札



に書いてある、この数字は何だか分りますか。

- ・安部 先ほど私がお話した、取引先の取締役の携帯電話の番号です。この数字は私が書いたものです。
- ・検察官 あなたはこの事件までに被告人と会ったことがありますか。
- ・安部 いいえ、一度もありませんでした。
- ・検察官 被告人に対して、今、どういう気持ちですか。
- ・安部 突然殴られて、本当に怖く、また、痛い思いをしました。被告人を厳重に処罰して欲しいです。
- ・検察官 終わります。(着席する。)
- ・裁判官 では、弁護人、反対尋問をどうぞ。
- ・弁護人 あなたの怪我は全治2週間の大怪我だと言うことですが、そんな怪我を負うほど強く殴られたのに意識はしっかりしていたのですか。
- ・安部 確かにボーとしていましたが、気は失いはありませんでした。
- ・弁護人 あなたは仰向けに倒れて被告人を見たとき、目を開けてはつきり見ましたか。
- ・安部 いいえ、犯人に気付かれると殺されるかもしれないと思ったので、ほんの少しだけ目を開けて、顔も動かさないように見ていました。
- ・弁護人 被告人は、どこにいましたか。
- ・安部 私が倒れているところから2メートル程離れたところに立って、辺りの様子を伺っていました。
- ・弁護人 被告人が立っていた位置から街燈まではどのくらい離れていましたか。
- ・安部 被告人のところから街燈までは、12、3メートルは離れていたように思います。
- ・弁護人 被告人の顔を見ていた時間はどれくらいですか。
- ・安部 10秒くらいだと思いますが、はっきりわかりません。
- ・弁護人 翌日、警察から「もう一人の犯人が捕まったので確認のため来て欲しい」という電話があったのですね。警察で、被告人を見せてもらう前に、他に何か言われましたか。
- ・安部 はい。警察で「昨日逮捕した男が、共犯者のことをしゃべりました。向こうにいるのが今朝捕まった男です。あなたが見た犯人かどうか確認して下さい。」と言われました。
- ・弁護人 あなたは、被告人を見て「間違いありません」と言いましたね。目を細く開けて短時間見ただけなのに、そんなに自信があったのですか。
- ・安部 はい、自信がありました。
- ・弁護人 被告人を見る前に、自分を殴った犯人の特徴を警察に話したことがありますか。
- ・安部 いいえ。
- ・弁護人 ところで、あなたは、会社のすぐ近くにある「パーソン」というコンビニエンスストアを利用することはありますか。
- ・安部 はい、時々利用します。
- ・弁護人 事件のあった日の朝は利用しましたか。
- ・安部 その日は利用していないと思います。
- ・弁護人 「東洋ビジネス」8月1日号に載っている、あなたのインタビュー記事によると、あなたは「毎朝」7時に通勤途中のコンビニエンスストアで朝食を買って、出社後、仕事をしながら朝食をとる、と書いてありますよ。
- ・安部 インタビューの時は確かにそう答えました。でも、実際には毎朝必ずコンビニエンスストアを利用してる訳ではありません。
- ・弁護人 事件のあった日の朝はコンビニエンスストアを利用していないと、はっきり覚えているのですか。
- ・安部 (2秒ほど沈黙する。)

- ・弁護人 終わります。
- ・裁判官 裁判員の方、何かご質問ありますか。(裁判員の質問は、略)
- ・裁判官 それでは次に、吉川時男＝大館廣(高21) 証人尋問を行います。

検察官、主尋問をどうぞ。

・検察官 被告人とはどういう関係ですか。

・吉川 中学校の同級生で、当時は親しかったのですが、卒業後はずっと会ってませんでした。

・検察官 事件の日の午後8時ごろ被告人と池袋駅の近くで再会したのですね。その後、被告人と2人で「酒処一番」という居酒屋に行って、10時30分ごろまで店に一緒にいましたね。

- ・吉川 はい。
- ・検察官 店ではどんな話をしたのですか。
- ・吉川 はじめは、中学時代の思い出話や互いの近況などを話していましたが、そのうち、被告人が借金が増え、取立ても厳しく困り果てているという話をし始めました。
- ・検察官 その話を聞いてあなたはどう思いましたか。
- ・吉川 自分もいつも金に困っている状態なので、いっそのこと2人で恐喝か強盗でもしたらいいのではないかと考えました。
- ・検察官 その考えを被告人に話しましたか。
- ・吉川 はい、西池袋公園で恐喝か強盗を持ちかけました。近くの勤め人が通るのですが、夜も人通りも少なく、こういうとなんですが恐喝や強盗にむいた場所なのです。
- ・検察官 被告人は何と言いましたか。
- ・吉川 はじめは渋っていましたが、結局賛成してくれました。
- ・検察官 「酒処一番」で反抗の計画を立てたのですね。
- ・吉川 はい、私が通行人に話しかけ、被告人が後ろから通行人の口を抑えて木陰に連れ込み脅かすという計画でした。もし通行人が反抗したら、殴りつけてでも金をとろうと話合いました。
- ・検察官 店を出たのは10時半ごろで、10分ほど歩いて西池袋公園に着いたのですね。それで、被害者が通りかかったのが11時半ごろですね。
- ・吉川 はい。金持ちに見えたり、老人のように見えたので襲うことにしました。
- ・検察官 あなたは、何をしましたか。
- ・吉川 計画通り、被害者の前から歩いて行って話しかけようとしてしました。
- ・検察官 被告人は何をしましたか。
- ・吉川 被告人も計画通り被害者の後ろに回って被害者に近付きました。しかし、私が被害者に話かける前に、被告人がいきなり被害者の後頭部を殴りつけました。
- ・検察官 被害者はどうなりました。
- ・吉川 前のめりに倒れそうになりました。被告人が引き続き殴りつづけたので、被害者はとうとう倒れてしまいました。
- ・検察官 あなたは被害者に暴行を加えましたか。
- ・吉川 いいえ、計画が狂ってびっくりしているうちに被害者が倒れてしまったので、私は、手を出していません。
- ・検察官 被害者が倒れたあと、あなたはどうしましたか。
- ・吉川 被害者は気を失ってしまったようだったので、被害者に駆け寄って仰向けにしました。腕時計をはずし、背広の内ポケットから財布を抜き取ってお札を抜いた後、またポケットに戻しておきました。
- ・検察官 その間、被告人は何をしていたのですか。
- ・吉川 2メートルほど離れたところに立って見張りをしていました。
- ・検察官 その後どうしましたか。



- ・吉川 1万円札を6枚と1000円札3枚を分け前として被告人に渡し、違う出口から逃げるようにと言いました。
- ・検察官 あなたは東側出口に向かう途中で警察官に呼び止められ、職務質問されたのですね。
- ・吉川 そうです。そこに被害者がきたので、その場で逮捕されました。
- ・検察官 警察で被告人のことを話しましたか。
- ・吉川 はい。始は被告人をかばうと思いましたが、すぐばれると思い直して全てを話しました。居酒屋で被告人の現在の住所を聞いたので、それも話しました。
- ・検察官 被告人に対し、今、どんな気持ちですか。
- ・吉川 強盗を言い出したのは私ですから、被告人には悪いことをしたと重います。しかし、いきなり殴りかかった被告人の罪も軽くないと思います。
- ・検察官 終わります。
- ・裁判官 では、弁護人、反対尋問をどうぞ。
- ・弁護人 「酒処一番」ではどこに座っていたのですか。
- ・吉川 カウンターのすぐ横のテーブル席です。
- ・弁護人 誰かに話を聞かれるとは思わなかったのですか。
- ・吉川 客がたくさん居て騒がしかったので、かえって聞かれる心配はないと思いました。
- ・弁護人 10年ぶりに会った被告人にいきなり強盗を持ちかけて、賛成してくれると思いましたが。
- ・吉川 いいえ、断られてもともとだと思っていました。
- ・弁護人 被告人はすぐに強盗の計画に賛成したのですか。
- ・吉川 しばらく迷っていましたが、10分程度で決心したと思います。
- ・弁護人 被告人は強盗で取った金を何に使うと言っていましたか。
- ・吉川 借金の返済に充てると言っていました。
- ・弁護人 「酒処一番」の支払いが誰がしたのですか。
- ・吉川 被告人が私の分も払ってくれました。
- ・弁護人 公園に着いてから50分も待っていたのですか。店を出てから江頭組の事務所に戻ったりはしていませんか？
- ・吉川 いいえ。
- ・弁護人 被害者が転倒してから、あなたが逃げるまでの間、被害者はずっと気絶していたのですか。
- ・吉川 はい、私にはそう見えました。
- ・弁護人 終わります。
- ・裁判官 裁判員の方、何か質問はありませんか。(略)
- ☆被告人質問：被告人・君島二郎＝内藤豊(高21)
- ・裁判官 それでは被告人質問を行います。では、弁護人、質問を始めて下さい。
- ・弁護人 吉川とはどういう関係ですか。
- ・君島 中学校の同級生でした。
- ・弁護人 事件の夜に吉川と「酒処一番」に行ったことは間違いありませんか。「酒処一番」で、借金で困っているという話を吉川にしましたか。
- ・君島 はい。
- ・弁護人 吉川は何か言いましたか。
- ・君島 「大変だな。俺は組の仕事で借金の取立てもするからよく分るよ。」と言いました。
- ・弁護人 それで吉川と二人で強盗の計画をしたのですか。
- ・君島 とんでもない。あんなに人のいるところで、そんな話をうるはずがありません。
- ・弁護人 仮にそんな話を持ちかけられたら、あなたは賛成したと思いますか。
- ・君島 とんでもない。借金はたしかに大変ですが、強盗するくらいなら親に頭下げます。



- ・ 弁護人 「酒処一番」を出てからどうしましたか。
- ・ 君島 駅まで戻り、そこで吉川と別れ、まっすぐ家に帰りました。
- ・ 弁護人 逮捕されたとき、7万円ちょっとの現金を持っていたね。なぜ、持ってたのですか。
- ・ 君島 はい。2日くらい前にパチンコで大勝したのです。
- ・ 弁護人 あなたが勤務している株式会社明和商会の住所はどこですか。
- ・ 君島 豊島区池袋2-3-5です。
- ・ 弁護人 被害者の安部さんが社長をしておられる株式会社三和貿易の住所は豊島区西池袋2-3-7ですが、あなたは三和貿易の場所を知っていますか。
- ・ 君島 はい。私の会社の二つ隣のビルです。
- ・ 弁護人 事件の日の朝、あなたは会社に出社しましたか。
- ・ 君島 その日は会議の準備のためにいつもより早く、7時40分くらいには出社したと思います。タイムカードがありますから、それを見れば分ります。
- ・ 弁護人 その日、出勤前にどこかに寄りましたか。
- ・ 君島 はい。家で朝食を食べる暇がなかったので、会社の近くにあるコンビニでおにぎりとお茶を買いました。
- ・ 弁護人 吉川があなたを共犯者だと言っているのはなぜだと思いますか。
- ・ 君島 誰かをかばっているのだと思います。私の借金の話を聞いて、ちょうど話の辻褄が合うと思ったのではないのでしょうか。絶対に許せません。
- ・ 弁護人 被害者の安部さんについてどう思いますか。
- ・ 君島 被害に遭われたことは気の毒だと思います。でも、見てもいないことを見たと言って、私を犯人に仕立てあげたことはひどいと思います。
- ・ 裁判官 検察官、質問して下さい。
- ・ 検察官 事件の日に帰宅したのは何時ごろですか。
- ・ 君島 12時前です。
- ・ 検察官 そのことを証明してくれる人はいますか。
- ・ 君島 いません。一人暮らしですから。(無念そうに頭を垂れる。)
- ・ 検察官 終わります。
- ・ 裁判官 裁判員の方、質問ありますか。(略)

☆ 論告・求刑

- ・ 裁判官 以上で証拠調べはすべて終了しました。では、検察官、論告・求刑をして下さい。
- ・ 検察官 被告人が強盗傷害の罪を犯したことは十分証明されたものと考えます。
第1に、被告人は逮捕当時、7万円以上の現金を所持しており、被告人の当時の経済状況からこの所持金が被害者から奪ったものであります。実際に逮捕当時被告人が所持していた1000円札1枚には被害者が書いた手書きのメモが残されています。また、被害者及び共犯者である吉川の証言もあります。吉川は自分の犯行を認めており、虚偽の証言をする理由はありません。
次に、犯行の状況ですが、被告人はギャンブルで困ったため安易に金を得ようと考えて行った反抗であり、その同期に同情の余地は全くありません。
被告人は、何の抵抗もしない被害者をいきなり殴りつけるなど、全治2週間の重症を負わせその犯行は極めて悪質であり、犯行の結果も重大です。被害者には何の落ち度はありません。被告人は犯行を否認し続け、被害者に対する弁償も犯行にたいする反省の態度を示していません。
よって、被告人を懲役3年に処するを相当と考えます。
- ・ 裁判官 では、弁護人側の弁論をどうぞ。
- ・ 弁護人 被告人は本件犯行にまったく係っておらず、無罪であることは明らかなです。
第1に、吉川との関係で10年ぶりに偶然会った2人がその日のうちに強盗を計画

し、実行したのは不自然です。また、被告人は定職についており仕事を失う危険を犯してまで安易に犯罪に走ることは考えられない。500万円もの借金を抱えて5万円か6万円で強盗で手にしたところで意味もなく、居酒屋での会計で吉川の文まで支払う余裕があったのです。

第2に、被害者の証言は信用できません。被害者は自分気を失っていなかったと証言していますが、吉川の「逃走するときまで被害者は気を失っているように見えた」との証言と矛盾しています。しかも、被害者は立っていた犯人から街燈まで12、3メートル離れていたと証言していますが、暗い中、薄目のままで犯人を確認することは不可能です。また、被害者は、警察で逮捕された被告人だけ見せられた上に、警察官から「昨日逮捕した男が話した共犯者が向こうにいる男だ。犯人だと思うか」と尋ねられているが、警察官に誘導されれば、よく覚えていないのに「そう思う」と答えてしまった可能性は十分あります。

第3に、吉川の証言も信用できません。吉川は「被告人がいきなり殴った」とし、「自分は被害者に暴行を加えてない」として自分の罪を軽くしようとしている。また、真実の共犯者を庇っている可能性があります。さらに、吉川は居酒屋で犯行の相談をしたと証言していますが、他の客も大勢いる居酒屋で強盗の相談をするなど不自然です。

第4に、物的証拠についてです。被告人が逮捕当時持っていた1000円札1枚に被害者の手書きが残されたことは事実ですが、被害者の朝の習慣からすると、事件当日も朝7時前に会社近くのコンビニエンスストア「パーソン」西池袋2丁目店を利用しているはずで、被告人が事件当日の朝「パーソン」西池袋2丁目店で買い物したのは被告人の自宅から見つかったレシートから明らかですから、被害者が朝7時前に「パーソン」を利用したとすると、被告人は、その後同じコンビニエンスストアで買い物をして、釣銭として携帯電話の番号がメモされた1000円札を受け取った可能性は否定できません。結局被告人が犯人であることを示す証拠は何も存在しません。よって、弁護人は無罪を主張いたします。

★最終意見陳述

- ・裁判官 これでこの事件の審理を終結しますが、最後に被告人何かいいたいことがありますか。
- ・君島 私は強盗など絶対にしておりません。お願いだから信じて下さい。
- ・裁判官 では、いったん休廷いたします。

☆ 判決言渡し

- ・ 判決のあたっの留意点

①被害者（安部）の証言は	信用できる	信用できない	（理由）
②共犯者（吉川）の証言は	信用できる	信用できない	（理由）
③被告人（君島）の証言は	信用できる	信用できない	（理由）
④1000円札は犯罪の	証拠になる	証拠にならない	（理由）
⑤その他判決にあたって考えたこと			

その結果、

- ・ 出席会員の判決結果：無罪・30名、有罪・4名

◎ 意見交換

- ・ 証拠調べにあたって、法廷のなかで意見を聞くだけで、現地調査など行わないのでは判断が難しい。欧米のほうの方が徹底しているようだ。・ 量刑の判断が難しい。・ 殺人事件など被害者の意見を聞くのか。感情的に影響を受け易く、客観的判斷することは難しい。など、活発な意見交換が交わされました。

「追記」今回の講師・横溝高至弁護士の連絡先

・ 日比谷中央法律事務所：千代田区日比谷公園1番3号市政会館513号室
電話：03-5251-5201 FAX03-5501-3186

在京初雁会の思い出 一更なる発展を願って一 矢部敬一郎（高2）

私が在京初雁会に参加したのは、昭和53年（まだ現役の時代）。当時、在京初雁会会長だった矢部儀一氏（共同石油㈱会長）からお招きを受け、「ビルゼン」の『例会』（毎月8日）に出席したのが最初でした。

当時は、私共同期（高2）が相前後して12名が加入、「若い者が来た」と歓迎を受けました。当時の役員は会創立時からの役員（別記参照）の皆様が健在でした。

銀座「ビルゼン」は銀座の中央にあつて歴史を感じさせるような「ビヤホール」で、東京八重洲口・銀座周辺に勤務する方々が12時前後に集まり2時まで、予め卓話をいただく方を依頼し、「卓話」「会員情報」「母校の近況」等の交換で啓発されることの多い会合でした。更に、3ヶ月毎に『夕べの会』と称し、神田神保町にある「学士会館」に於いて懇親会を開催した。

当在京初雁会は、母校同窓会の中心的役割を果たし、母校100周年記念事業で懸下各地に地区初雁会が結成（17の会）されるまで、川越市はじめ、懸内在住の方および東京、神奈川、千葉在住の方々までを包含する同窓会全体をリードする役割を発揮されてきました。私も事務局の一人として約20年間お世話になり、多くの先輩からご指導をいただき、貴重な経験をさせていただきました。

この間、会長は、矢部儀一氏、増島隆一氏そして最近まで田中隆氏、この間、佐々木忠一氏からも力強いご支援、ご指導をいただき感謝しております。

私は、平成5年、東京世田谷から故郷埼玉の桶川に転居したため役員を辞し、行事への参加も少なくなってしまう、もうしわけなく思っています。

加えて、前述の母校100周年記念事業として設立された川島・桶川初雁会に参加、以来世話役をしています。在京初雁会の経験を活かすことができましたことにお礼を申し上げたい。

本年6月、思い出の故郷から伊豆（伊東市伊豆高原）に転居しました。中学・高校と6年間、自転車通学した川越街道など故郷への思いを深くしている昨今です。前述した「月例会」「夕べの会」も諸環境の変化で、実施が困難となり、今では年2回の懇談会に依存せざるを得ない状況にあり、現役員の皆様には大変なご苦勞をお願いしています。

IT化が進み、今では携帯電話、個人ユースパソコンを持たない人は居ないと云われ、交流のあり方にも工夫が必要思います。若手と称された高2の連中も喜寿の年齢、高卒年次2桁世代（高17回が本年が定年60歳）の今、新規加入者を迎える努力が是非必要と思います。会長様はじめ皆様のお力添えで更なるご発展されるようお祈り申し上げます。

ご参考までに「在京初雁会の歴史（概要）」と「会員の動き」を添付致しましたのでご参照下さい。

（下記の写真はある日の会合、左端が筆者の矢部敬一郎氏）



I 在京初雁会歴史 (主な事項)

・昭和28年3月18日	在京初雁会発足・会長矢部謙次郎氏
・昭和38年4月7日	設立10周年記念
・昭和48年4月8日	「鐘つき堂」創刊
・昭和58年	30周年記念
・昭和60年7月	会長・矢部儀一氏就任
・昭和64年1月	高2若手新会員参加(12人)
・平成3年	会長・増島隆二氏就任
・平成6年3月22日	40周年祝典
・平成8年	会長・田中隆氏就任
・平成15年	50周年祝典
・平成17年10月10日	会長・高島敬忠就任

II 会員の推移

・昭和28年3月	79人=中・46人(58.2%) 高・33人(41.8%)
・平成14年3月	77人=中・53人(68.8%) 高・25人(31.2%)
・平成18年4月	72人=中・14人(19.4%) 高・58人(80.6%)

作文教育

齋藤和夫 (高校1回)



わが国の作文教育は英米に比べ、遅れていると思います。
単純に、日米テキスト置いての分量のみ比較してみます。
日本では、「表現」指導専用テキストとしては、高校「国語
表現I・II」の二種類があるだけで、両者合わせても、
約270ページに過ぎません。手元にある米国の「Scott.
Foresmann and Company 社」の小学生用テキスト

「Language and How to use it」は、6冊から成り、合計1,248ページです。これに、同社の、中・高生用のテキスト4冊、合計2,056ページを加えると、3,304ページとなり比較にならない程多いのです。

さらに、その小学生用テキスト「Language and How to use it」の高度の指導内容には、驚かされます。日本では小学生のテキストでは見られないような、指導項目が見られるのです。例えば、詩の韻律 (rhyme)、詩の形式、内包 (connotation)、直喩 (simile)、暗喩 (metaphor)、擬人化 (personification)、アウトライン (outline)、従属関係 (subordination)、抽象語と具象語との関係、などです。

小学生段階から言語学を駆使し、易か難へと無理なく、系統的に作文の書き方を教えています。因みに、上記テキスト「Book 1」は、6コマ続きの絵を見せ、まずそれについて、話をさせることから始っています。

英国もまた作文教育に力をいれています。米国と同様に易から難へと無理なく教えていこうという姿勢には変わりありません。

英語教育の権威 L.A.Hill 氏は初心者指導について、「作文は創作活動であるから、創作意欲を削ぐことのないよう教えることが大切だ」と次のように言っています。

「生徒に原稿用紙『自分が思ったこと、感じたことを自由に書け』と言って書かせる作文教師が最も悪い教師だ。事前指導をしないで書かせると、生徒は、ミスの山を築き、それを見て落胆し、書くのをやめてしまうかもしれない。そのうえ訂正する先生の負担は、増えるばかりになる。作文は創作学習であるから、無理なく書く意欲を守り立てるような指導をしなければならない」といって、易から難へと段階的に進む5種類のテキストを書きました。」

私は、高校英語教師として、その第三段階のテキスト、「Picture Composition Book」を使って授業したことがあります。作文を書けといえど嫌がる生徒が多いものですが、この授業では彼らは大いに積極的に書き大成功でした。

また私は、通常の授業ではできないので、放課後などを使って、英米の様々なテキストを使い、スピーチコンテスト、自由作文コンテストなどに参加する生徒を募り、指導したことがあります。彼らは書き上げると「見てください」と言って自信満々、目を輝かせ草稿をもって、職員室に入って来ました。

彼等はそれまで漠然としか持っていなかった考えを、言葉によって明確に表現する方法を知り、創造の喜びに満ちていたのだと思います。

自らも作文学習を体験してみようと思い、私は英国人・F氏から、個人指導を受けたことがあります。彼の授業で使ったテキストは、L.G.Alexander「Essay Letter Writing」、で、イギリスでは中・高校生程度のものだそうです。様々な種類の作文について、模範文を使って書き方を教わった後に書いた作文を、訂正してもらうといった授業でしたが、練習題は難題でした。いくつか挙げてみます。

① ストリーライティング (600語以内)

- ☆ 「あそこに路上生活者がいる。何故そうなったのか書け」
- ☆ 「若くして秀才の誉れ高くして、人生の後半において失敗した人について、何故そうなったか書け」
- ☆ 「年をとり、若者に対する接し方が、狭量となり意地悪になる教師の話」
- ☆ 「世界の船の歴史を与えられた字数で書け」
- ☆ 「言葉の意味を取り違えた笑い話を書け」

② 説論文

語数：600～800語

時間：90分（書くのに70分、読み返しと訂正に20分）

態度：この題に賛成か反対かを決めてから書け

- ☆ 「戦争準備は、平和を維持する最も効果的手段である」
- ☆ 「全ての歴史は現代史である」
- ☆ 「目的は手段を正当化する」
- ☆ 「規律のない自由などありえない」
- ☆ 「『良き垣根は良い隣人をつくる』。この言葉の含意を述べよ」

このテキストには課題が、この他に500題近くあります。中・高校生が人生を考えるのに役立つ問題ばかりです。書くことは、考えることです。これら諸問題について書くことは、人生に対する見識を深め、自信を強めることに役立ちます。

このように、英米では作文授業は、わが国とは比較にならぬ程度重要視されています。小学校より系統的な作文教育が行われ、作文を楽しませ、人生について考えさせています。

今年度中に、改訂が予定されている小・中・高校の学習指導要領について、8月17日の読売新聞は、第一面トップ記事で、『言語力』全教科で育成」と報じました。更に同紙は、「中教審は、こうした力が欠けていると分析」と付記しています。

日本でもようやく全教科で『言語力』の教育が進められようとしているのです。前に述べた如くこの教育は、青少年の考える力を育てるばかりでなく、人格形成に役立つものであり、国を挙げて取り組まねばならない課題です。具体的にどのような授業が展開されるかまだ分かりませんが、『言語力』の育成は、作文教育の中で最も効果的に行われることは確かです。したがって、作文教育はその中心的推進力とならねばなりません。日本でも、ぜひ英米のような体系的作文授業を行い、青少年の豊かな個性を育てて戴きたいと思います。

私の乏しい知識経験の中から一文を書かせて戴きました。



在京初雁会 (創立28年)
会長 高島敬忠
2008年夏季号
第84号 (6月15日)

こぶしの花

今春の小金井公園でのお花見は、お天気にも恵まれ、満開の桜並びに江戸東京たてももの園の由緒ある歴史的建造物を見学させていただき幸せでした。

最近では母校同窓会役員会に出席する機会がありますので、平成十九年度の母校の様子をご報告したいと思えます。

先ず、昨年我々が植樹しました「シデコフシ」の白い花が三輪咲いておりました。辛夷IIこぶし (Magnolia paecocissima)の花には、小生自身色々思い出がありますが、校門左側の校舎の前にそれを認め、ほっとしました。

平成二十一年は母校百十周年に当たります。

役員会に出席しますと、我々にお馴染みの矢部敬一郎氏 (高校2回) が川島・桶川初雁会会長としてご出席されております。

さて、川高の目指す学校像として「県下有数の進学校として期待に応えつつ、伝統ある自主自立の校風を継承・発展させ、将来に亘って社会の中枢を担う良識溢れる人材の育成に努める。」と掲げられています。卒業して、半世紀にもなります我々も時代に流されることなく、あらためて再考させられる言葉ですね。

今年の進学状況の一部を紹介いたしますと、東京大学六名、東京工業大

学十一名、一橋大学四名、早稲田大学二十九名、慶応大三十四名などで、現役合格率は昨年を上回って、六十一%ということでした。

部活動では、運動部で弓道部が個人で団体に出場、ラグビー部は県予選で浦和高校に快勝、三位になっております。SSHの件では、文科省の指定を受け二年目でしたが、それ相応の成果を挙げているようです。平成二十年度高校入試は三百六十六名の合格、全員入学ということでした。

対外的には、オーストラリアの兄弟校セントアウグスティン・カレッジの生徒教員が来校したとのこと。我々同窓生として何時か相互交流を考えなければと愚考いたします。

母校同窓会としては、現在名簿作成に大きな努力をしております。その製本費充当のために、事業主には広告掲載を是非お願いしたいとのことでした。「川高ホームページ」をご覧ください。

(<http://www.kawagoe-h.sped.jp>)
以上、母校の現況をご報告し、巻頭言に代えさせていただきます。

平成二十年六月

在京初雁会会長・高島敬忠

春の散策会・報告

本多良市(高21)

今年の気象庁の桜開花予想は、東京では、三月上旬時点で三月二十九日であった。これより前の二月に、在京初雁会・春の散策会の案内が舞い込んだ。その日は桜開花予想日と重なった。

この案内によると、小金井カントリーゴルフ場に隣接する「江戸東京たてもの園」を中心に、徳川吉宗以来の桜の名所となっている都立小金井公園の花見という謳い文句であった。やつと開花した桜を見るのもちよつと薄ら寒い感もあるが、皆さんとお会いするのが楽しみであったので、夫婦で参加することとした。

そうこうとしているうち、三月中旬になると関東地方の気温も上昇し、桜が開花するに必要な総温度が急速に増えたきた。第二回目の気象庁の桜開花予想が二十七日になり、三回目にはさらに二日程早まってきた。そして、二十九日の散策会の会場で

ある小金井公園に行ってみると、何と満開の状態になっていた。

さすが、在京初雁会の幹事さん、気象庁職員や気象予報士の科学的判断力に頼らず、神憑りの直観力に感心した。まさに絶好の花見となった。



さて、メインの「江戸東京たてもの園」であるが、私も住宅関係の設備の仕事をしているので、前々から行ってみたいとの思いがあったので、絶好の機会となった。

設立が平成五年で、今年で十五周

年となったということで、記念すべき見学となった。

記念すべきといえば、後の懇親会で柴崎育久(高2)・富子ご夫妻が今年の五月に金婚式を迎えるという話が飛び出した。真におめでたいことで、皆さんから祝福を受けた。

(金婚式を迎える柴崎育久・富子夫妻・下町ゾーンで記念写真)



私達夫婦は早めに「たてもの園」に入り、そぞろ歩きに順番に建物を見学していった。しかし、花より団子と自認する面々は、早速、満開の花

の下で乾杯し始めた。



「このシンボルマークで、「たてもの園」を「よなく愛してやまない」、「トトロの森」「もののけ姫」などを製作した宮崎駿氏デザイン、いも虫を模したと思われる「えどまる」が出迎えてくれた。その現れか、下町ゾーンの銭湯「子宝湯」であった。「もののけ姫」の冒頭シーンに使われたという。

この園の入り口の建物は、旧武蔵野郷土館を引き継いだものと書いてあったが、なんと、紀元二千六百年の式典の会場「光華殿」となった建物を

移築したものであった。そして、先の第二次世界大戦時に、今の天皇陛下が皇太子時代に疎開していたところでもあった。その記念碑が、かつて皇居前にあったお昼を報せる大砲（ドン）の側に置かれていた。

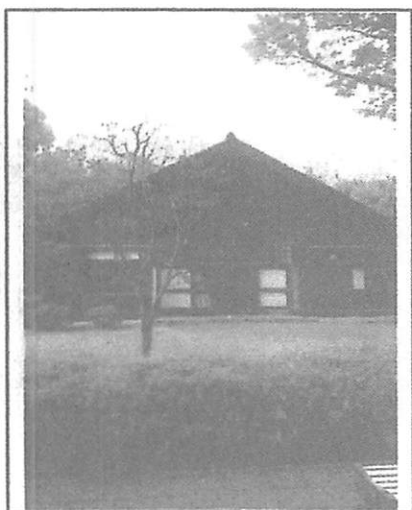


（「ドン」の前で、在京初雁会の「ドン」的存在の岡田氏と小見山ご夫妻。この左に、皇太子時代の疎開先の記念碑があり。）

この建物は、現地保存が不可能な文化的価値の高い歴史的建造物を移築し、復原・保全展示することに

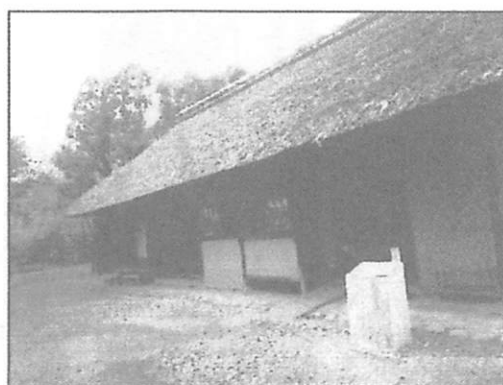
より、貴重な文化遺産として次代に継承することも役割と、もののしく謳っている。確かに、三井八郎右衛門邸や日本の近代建築の発展に貢献した建築家・前川國男氏の自邸、日本におけるモダニズム運動を主導した建築家・堀口捨己氏の小出邸などは文化的価値が高いものがある。

（前川國男邸）

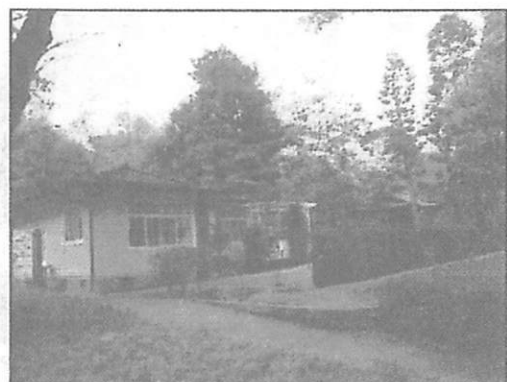


しかし、そればかりでなく、歴史的に意味を理解するに欠かせない建物も保存している。例えば、なんの変哲もない農家風の建物である「八王子千人同心組頭の家」は、八王子に

配備された徳川家の家臣団の家である。八王子同心の家には、NHK大河ドラマ「篤姫」に関連する古文書も多く見つかったという。



私はマンション住まいであるが、こんな家に住みたいと思った家があった。田園調布にあった「大川邸」である。意外にこじんまりしているが、居間を中心に食堂・寝室・書斎が配置され、設備的にも合理的に設計された家であった。



びつくりしたのは、「高橋是清邸」である。二階にあがると、あの二・二六事件の現場となった建物があったことである。柱などに事件を生々しく伝える弾丸跡があった。しかし、この建物のガラスが若干厚みがあり、外が歪んで見えるところにレトロを感じさせるものである。

（高橋是清邸を背景に、石井ご夫妻がしみじみ感慨にふけてました。）



楽しかったのは、下町ゾーンである。銭湯（子宝湯）あり、文具店（武居三省堂）、居酒屋（下谷の鍵屋）でちよつと立ち飲みしたくなる衝動に駆られた。小寺醤油店ではあの石原裕次郎のビールのポスターが貼られてあった。

荒物屋の丸二商店では当時の生活用品が多く飾られており、子供のころ使った薬缶、鍋、箆などを思わず手にとつて眺めた。

看板建築といわれている商店である上村邸では銅版の壁には、東京大

空襲の弾の跡が無数に残されていた。

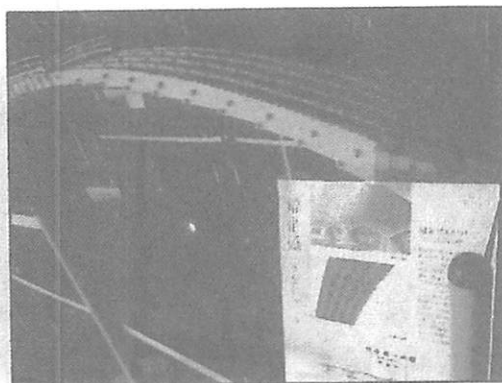
「村上精華堂」は池之端の不忍通りにあったという。化粧品を扱う小間物屋であるが、正面は人造石洗い出して、イオニア式の柱を持ち、当時としてはモダンな造りとなっていたという。

氏
(村上精華堂前で高島会長と松井



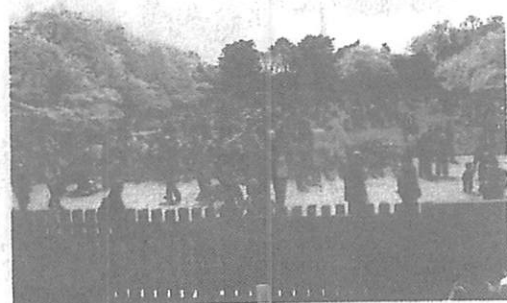
古来より森林資源が豊富であった日本では、さまざまな形で木造建築が造られてきた。今回は精巧に造られた模型や技術の粋が見られる部材などを展示してあり、思わず見入ることになってしまった。

(岩国市の錦帯橋の模型の展示)



最後に、特別展の「日本の建築」第一部・「木造建築の魅力」をみた。

複雑な継手(台持ち継ぎ)など、どうしてこんな構造を日本人が考えたのであろうか、感心するばかりである。伊勢神宮内宮正、法隆寺・薬師寺・



唐招提寺などの模型がその木組みの正体を解明してくれている。殿東照宮陽明門の透視写真の構造など複雑である。

また、近代木造建築のコーナーでは、コンドル設計の旧岩崎邸(台東区)、ライト設計の自由学園明日館(池袋)などの模型が並び、木造モダンの神髄を見せている。

さらに、七月は「夏と建物」、九月は「建築博物館」来年一月には「建物とカケラ」と続くという。

(左から三人目が筆者の本多氏)



江戸東京たてもの園前で記念撮影



約一時間程度の園内散策であったが、もつとじっくり見たいところがあった。又、あらためて機会をとらえて来てみたいと思った。この近辺には玉川上水に沿う桜並木もあるというが、一日の散策コースとして来るのもいいのではないか。



(玉川上水沿道)

とはいえ、花より団子、武蔵小金井駅前の「日本海庄や」へと懇親会となった。各会員から近況報告と今日の社会現象などの意見も出され、格

調高い懇親会となった。なかでも、自衛隊のイージス艦衝突事故について、船長の資格を持つ宮寺雅之氏(高十七)が熱弁を振るった。



一 昨年の春、母校訪問記念植樹の「シデコブシ」が咲きました。桜の花より遅く咲くのか、まだ植えて一年目なのか、しかし、白い三輪の花が咲きました。



(平成二十年四月五日撮影)

二 母校同窓会の動向

平成二十年度の母校同窓会が、五月十一日に開かれました。約百五十名が参加。在京初雁会から十五名の方が出席されました。

主なものを紹介します。

① 会員名簿刊行の経過報告

名簿予約二千五百名で、目標の四千名にまだ程遠い。広告の申し込みも更にお願したい。

② 事業計画のなかで、「SSH」支援で六十万円、進路充実の図書費用二十万円、新入生へ校歌・応援歌のCDを配布。

③ 秋季散策会・十月十二日(日)に、坂戸初雁会主催で高麗川ふるさと遊歩道散策を行う。

④ 役員の異動・矢部敬一郎氏(東上線関係)が伊豆方面に転住のため、東松山初雁会の嶋本正雄氏就任。

⑤ 学校の新たな取り組みについて、吉澤優校長より、新入生の秩父大滝村の宿泊研修、大学入試の模擬試験の実施が報告されました。

続いて、記念講演で、国立循環器センター総長の橋本信夫氏(高十八回)から、高校時代、若き日の迷いながらも自分の生き方の決意など話されました。翌日、現役生への講演も行ないました。

大江戸線界隈徘徊記(六)

赤羽橋駅

新樹光タワー仰ぎつ橋渡る

麻布十番を出て、古川に架かる一の橋を渡り、芝公園方面に向かい、中の橋を過ぎ赤羽橋に至る。赤羽橋の交差点に立つと東京タワーが目の前である。増上寺の南を流れる川は、赤羽川と呼ばれ、上流は渋谷川とも古川ともいい、下流は新堀川(金杉川)と名を変えて、芝金杉で海へ注ぐ。赤羽橋は虎ノ門から江戸へ入る昔の東海道の径路であった。

赤羽橋の向かいには芝公園である。かつては増上寺の境内であったが、明治六年に日本初の公園に指定された。

この頃、日本には公園という概念がなかったから、画期的なことであった。ケヤキやイチヨウなどの大木がみられる。梅の木が多く、近所の老夫婦が落ちた梅の実をビニール袋に一杯拾ってる姿が見られる。

大門駅

風くるま西向観音赤帽子

増上寺の三解脱門へと通じる大門が道の真中に立っている。車は勿論この門を潜って走る。大門を抜けると目の前が増上寺である。

増上寺の正式の呼称は「三縁山広度院増上寺」である。浄土宗の七本山の一つで関東大山である。徳川家の宗旨が浄土宗であったことから、菩提寺に指定されて絶大な庇護を受けた。江戸時代には常時三千名の僧が修行していたという。

本堂の裏手にある「徳川家の霊廟」門には、三つの葉葵の御紋章がある。二代秀忠公夫婦(石塔)、六代家宣公夫妻(青銅製)、七代家継公(石

塔)、九代家重公(石塔)、十二代家慶公(石塔)、静寛院和宮(青銅製)、将軍生母側室等(石塔)などが眠っている。非公開であるが私は縁あって御参りさせていただいた。

増上寺境内にある「西向観音」の前に、お地藏さんがずらりと並んでいる。みんな赤い帽子を被っていてとても愛くるしい顔立ちである。風が吹くと一斉に風車が回りだし、そこだけがおとぎの国へ行った雰囲気になる。

ご意見・投稿お待ちしております。

在京初雁会会長・高島敬忠(高一〇)

総務・西 信之(高一七)

総務・内藤 豊(高二二)

会計・大館 廣(高二二)

顧問・田中 隆(中四五)

顧問・岡田良平(高二二)

事務局、広報・岡部恒雄(高一五)

350-1308 狭山市中央4-15-15

TEL & F 042-959-8016



在京初雁会

(昭和二十八年創立)

会長・高島敬忠(高一〇)

二〇〇九年 新春号

第八十六号(一月十五日)

謹んで新春の

お祝詞を申し上げます。

旧年中は格別のご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。会員諸兄のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

年頭にあたり、愛飲家の一人として元旦の祝い膳で、最近忘れかけているお屠蘇について考察してみました。

元旦の朝、祝い膳が用意され家族揃ったところで、新年の挨拶をかわし、本年も家族全員が健康に過ごせるように祈って、お屠蘇を飲みます。

昔から飲む時しきたりがあり、若い人の生気を年長者に渡すという意味で、年少者から順次、年長者へと盃をすすめるのが決まりとなっています。

厄年の人がいる場合は、最後に厄年

の人が飲みます。お屠蘇は縁起物ですから子供も口にするしきたりです。

この言葉のルーツは唐の時代の中国に遡ります。唐の医者が数種類の薬草を調合し、お酒やみりんに浸して風邪予防のために振舞ったのが始まりだと云われています。お屠蘇の正式名は「屠蘇延命散」といい、邪気を払い、心身を自覚め甦らせる、という意味があるようです。従いまして、その年の邪気を払い延命長寿できるようにと飲まれるようになりました。わが国には平安時代に伝わり、庶民には江戸時代になつて広がってきました。

屠蘇散には、山椒、百朮、桔梗、防風、肉桂、丁子、桂皮、陳皮、等々十種類ぐらいの薬草が調合されております。そのお屠蘇用の漢方薬も今では屠

蘇としてドラッグストアなどで売られています。その作り方は屠蘇散の一包をコップ一杯程度(180ミリリットル)の本みりん(三〜五時間浸しておき、好みにより日本酒(120ミリリットル)を入れる)と飲みやすくなるということです。酒器にも大・中・小の三段重ねがありますが、今はあまり見ません。

このようにお屠蘇は薬草の効能により健康祈願、風邪予防を目的にしたものであります。健康、抗菌、利尿、発汗、解熱、去疾、鎮痛等にも有効のようです。

日本のお正月の祝い膳は、お屠蘇を飲むことから始まります。その後、祝い肴、おせち、お雑煮の順にいただきます。お屠蘇で酔い(良い)年をお迎え下さい。

平成二十一年新春

在京初雁会会長 高島敬忠



大館 廣(高二一回)

平成二十年七月六日(日)、河越太郎重頼氏、太田道灌氏ゆかりの名刹である「養寿院」の見学と併せて在京初雁会総会を行いました。今回は高一〇回卒の養寿院の住職・金剛秀房氏の特別のはからいで実現したものでした。

「養寿院」は河越太郎重頼公の菩提をとむらうために、曾孫河越遠江守経重公により、寛元元年(一二四三年)に創建された。ここには、経重公寄進の銅鐘(国指定重要文化財)があり、国の指定史跡となった川越市上戸の『河越館』の館主・同公の供養塔と伝えられる五輪塔が静かにたたずんでいるところだ。

十二世紀、古代から中世の時代の変革期にあたって、その転換の原動力となったのは、草深き東国に雌伏し、勢力を培ってきた関東の武士たち、就中、武蔵國の豪族たちであった。

河越氏は坂東八平氏秩父氏の頭領として、武蔵武士団に大きな影響力を持ち続けました。河越太郎重頼公は、その中心人物の一人で、源頼朝の挙兵に従い、木曾義仲討伐、平家追討の戦

の大功をたてた。しかし、娘が義経の正妻であったために、後に頼朝の嫌疑をうけ、嫡男の重房ともども誅殺された。まことに悲運の武将でした。



銅鐘



五輪塔

←川越市上戸の河越館跡(現・常楽寺)



←常楽寺の裏では、現在も発掘中



河越氏については、川越高校教諭であった小泉功氏の労作「河越氏とその官跡」に詳しく述べられています。

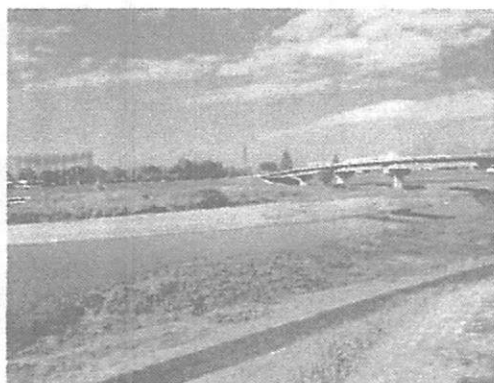
河越氏とその館跡

小泉功著

武蔵國河越氏
新日本山王宮
奉持権鐘一口長三尺五寸
大徳元年平朝臣經重
大徳進河開家國康
文應元年 十一月廿二日
鑄師井口安
大江在重

「河越太郎重頼公没後八百年記念」
武蔵武王國の中心の城であった河越氏の館址と
その館跡を、河越氏の子孫にまかされた軍士物語が

←上戸・入間川に沿う河越館周辺



なお、今回訪問したこの周辺は最近小江戸川越と称し、観光のメッカとして整備され、数十年前の佇まいと一変しています。学生の頃、高校と駅しか

は復していなかった方は一度は訪ねてみてはいかがでしょうか

続いての総会は、仲町「かぶや」で行われ、事業計画、予算など満場一致で承認されました。

続いて行われた懇親会で、次回の例会と講演会で、甲子園出場した野球部メンバーを招待して、その当時の講演をお願いすると決定されたのに触発されたのか、余興で、日出間哲郎（高2回）ご夫妻の野球拳が飛び出しました。

俱と第二回例会の報告

西 信之（高一七回）

平成二十年十一月八日（土）、池袋西口「ビアレストラ・銀座ライオン」で、甲子園出場五十年の節目に当たり、「昔、遊びは野球だった。そして、甲子園で勝った。」と題して、当時、出場した方々をお招きして講演会を催すとともに第二回の例会を行いました。その概要を報告します。

（高島会長）

昭和三十四年の甲子園出場した野球部長渋谷健氏、当時牛若丸と称されたセカンド内沼稔氏、レフト宮根七郎氏をお招きし、当時のお話をしていたくとともに、昭和六年の全国中等野球大会で初の甲子園出場をした話も交えてご講演をお願いします。

（内沼稔氏）

甲子園出場したということでお招きいただき光栄です。あの当時は紅顔の美少年でしたが、今はご覧のとおりです。残念なことに、エースの吉田（丹代）君は腰痛のため欠席しますが、宮根君は十七、八年母校の野球部の監督をしていましたので、現場と学業との関係の話をさせていただきます。

さて、私どもは前年の慶応大学に行った北野氏や石井氏などのチームに比べ、格段に段差があり弱小チームの印象をもたれていた。ただ、ピッチャーの吉田君だけが県下で随一であり、何とかいけるのではないかと思っていました。そこに渋谷先生や後援会、OB会の支援で家村監督を招聘したの、幸運の始まりでした。



内沼氏

一にも二にも高校野球は監督次第で、監督は、メンバーはそこそこでもエースの吉田君を鍛えればよいとの方針がもとで翌年の夏の大会を焦点に一步一步と上がっていかば良いとの考えであった。

吉田君はオーバースペックであったので、なるべく高い位置から投げる練習をさせられた。一日三百球でゴムを渡し、それ

に触れないと一球に数えないということだった。もう一つは、ボールのリリースのタイミングでムチのようにしなやかに投げる、柔らかに握りリリースの瞬間に音のするように力を入れて投げると、ベース板の上で伸びてくる、と教えていた。一方、我々は打てといつても打てないであろうと、「エラーなし」「バント一発決める」、この二つが出来れば良いとのことでした。守備練習、走塁、バントが中心であった。送りバントは九十パーセント成功した。そして、試合では「川高特有の頭を使った野球」をすることだった。これが言いたいのです。(笑い)

秋の大会の準決勝で深谷商業に2対1で負けた。家村監督は「これでいい、優勝したらマークされてしまう。」と言った。冬は上江橋まで北風の吹く中、苦しみながら横田主将を中心に走りこんだ。昭和三十四年の春の大会で、常勝・大宮高校に九回サヨナラの1対0で勝ち優勝した。家村監督は「これでいい、夏の大会はシールドが取れる」と鼓舞した。

関東大会で多分対戦するであろう甲府工業に5対2で勝ち、次に、この大会で優勝した明治高校に0対1で負けた。家村監督は「いい試合だった」との褒め言葉で暗示にかかり、相手が強豪チームで

あつても結構勝てるという気分となった。

いよいよ夏の大会を迎えた。良い監督、悪い監督とは、的確に指示させるかどうかである。先攻・後攻を決めるとき、勝つたら先攻、負けて相手が後攻とついたら後攻と思えと、初戦は緊張するもので、ピッチャー、守備ともあがるものだ、先攻ならばバッター一人だけがあがるだけだ、と指示を出した。

大会初戦は、春日部高校でピッチャーは国会議員となった今井氏だったが先攻を取りコールド勝ち。二回戦はライバルの大宮工業で、大宮は、打倒川越高校ではなくピッチャーの吉田であった。家村監督は山崎マネジャーに偵察に行かせ、「大宮工業はピッチャーマウンドを2メートル前にして、外角低めを打つ練習をしている」という報告があった。そこで監督は、試合で全部インコースのシフトを徹底的に投げさせた。結果、ノーヒット・ノーランで勝った。

続いて、川越商業、川越工業に勝ち、決勝は鴻巣高校に1対0で勝ち、吉田君は完封勝ちで、43イニング無失点、46個の三振の記録を作った。

監督の的確な指示があればこそ、大宮工業に勝てたことが大きな要因である。

西関東大会は、埼玉、山梨の地区割り
で、その年から始まった一県一校の一本
勝負となり相手は甲府工業であった。皆
さん当時は道路事情の悪いなか、応援に
来ていただきました。選手は余りの暑さ
にフラフラしているなか、三回に先制さ
れた。先制された経験はなかったので、
今日はまずい、と皆な思った。水を頭
にあてながら、6回・7回に点を取りやと
甲子園に行けた。その時の思い出が昨日
のように思い、時間が経てば経つほど感
激が大きくなって来る。

甲子園に行きました。グラウンドが大き
く観客も満員で、非常に緊張しました。
手と足が一緒に出ました。入場行進では
目が熱くなるほど感激したが、「何にも
めげない川高魂を矜持している」と肝に
命じた。

一回戦は、熊本の鎮西高校で、巨人に
いた末次が6番を打ち、プロに入った高城
などがいた。再試合したら今から思えば
勝てない相手だと思った。しかし、監督の
指示により、先攻を取った。私は一番バツ
ターで一S一Bのあと、目を瞑るような
状態で大根切りでヒット、レフトがもたつ
いていて、三塁打となった。二番近藤はフ
ォアボール、三番杉田はスクイズ、そのと
き監督は選手は見落とすといけないから

、大きなしぐさでバントのサイン(笑)、
しかし、はずされキャチャーが三塁にボ
ールを送った、そこで川高の頭脳野球の
真価が発揮し、三塁手が構える方向へ走
り、キャッチャーのボールが私の肩に当た
り、一点。一塁ランナーも三塁へ、次のバ
ッター横田がスクイズ成功で2点入った。
結局3対1で勝った。

甲子園初勝利一校歌を聞くナイン



の試合は、高知商業、はなつから勝て
ない気がした。同じ通路に呉越同舟で待
つていたら、相手の体格は一・七メートル
以上、我々は一・七メートルもいかない
(平均一・六二)、吉田だけが一・七三メ
ートル、それだけで引けをとった。相手の
ピッチャーは法政大学からプロの東映に
いった山崎であったが、お互い投げ合い8
回まで〇対〇、しかし、九回ワンアウト
一塁・二塁で、セカンドゴロでゲッツーを
狙ったが、相手はわざとショート近藤の
足に絡みついた。妨害、妨害と抗議して
いる間、一塁ランナーがホームイン。新聞
によると、三塁を踏まなかったとあった
が、残念ながら確認しなかった。プロにな
ったピッチャーの山崎は、真中低めの球は
当ると振つてもキャッチャーに入っている、
というすごい奴だった。

最後に、多くの方々のご支援に感謝し
て、私の話しは終わりにします。

(会員)OB会ではできない話があるな!

(宮根氏・元川越高校野球部監督)

戦後の昭和二十三年に高校野球連盟
が発足し、翌年の全国大会が開かれ熊
谷高校が出場、二十六年には夏の甲子
園で熊谷高校が準優勝した。埼玉県では
川越商業、本庄高校などが強かったが、

打倒・熊谷高校であった。川越高校も二回位南関東大会に出た。しかし、当時は、南関東大会で千葉県と争ったが、千葉県に勝てない時代が続いた。我々は暢気に川越高校には入れば勝てるよ程度で野球をやりたいということで入学した。



宮根氏

三十年代に入り、大宮高校が活躍し、我が川越高校や後半には、熊谷商業が台頭して来た。三十二年から三十八年にかけて大宮高校が優勝し、四回ほど甲子園にいった。その後、大型の大宮高校、パワーの熊谷商業、野本監督の上尾高校も強くなってきた。

四十二年には大宮高校が埼玉県で行われた国民体育大会で優勝した。四十三年には選抜大会で大宮工業が優勝し

た。大宮は大体この辺で甲子園関係は終る。その間、川越工業も甲子園に出場したが、五十年代に入り上尾高校の全盛時代となったなか、所沢商業も甲子園に出場した。

そうこうしているうち、私学のほうが強くなり、西武台高校が選抜に出たり、上尾の野本監督が移って選手をこそっともつていった浦和学院、春日部共栄高校、聖望学園などが強いなか、五十年から六十年にかけて、ポツンポツンと四、五年ごとに驚宮高校などの公立高校が出場していた。

我が母校は、二十三年から四十二年までの二十年間で、ベスト8に十五回入っている。甲子園に行くにはベスト4に何回か入っており、この実績を見て、あと一、二回甲子園に行つてなければいけない。これが大きな課題で、大半は監督の責任であります。(笑)

一般的に云つて、「文武両道」を掲げる全国な進学校としての永遠の課題であります。唯、我が高校は全国的に有名な「伝統の力」がある。それは、一生懸命練習する選手、指導者、それに戦前から戦後にかけて、川越という町が野球部をおおいに支えてくれた。島野さんなどがこの流れをつくり、選手・指導者・応援して

くれる人が「三位一体」となつて、野球部を支え甲子園への流れとなつた。

さて、昭和三十九年に新卒で、教員の任用で、渋谷健先生が面接された。母校の先生になる前に、外で勉強して来いと言われた。そうこうしているうち、家村監督が療養に専念することになり、当時の奥原野球部長などの要請により母校の監督となつた。

平田、相羽、石井などの時代に甲子園に行けるぐらいのスラッガーがそろつたときもあつた。春は西関東大会で巨人に行った甲府商業に勝つた。しかし、夏の大会はベストエイトで熊谷商業に負け、ショックで一週間休み寝込んでいた。しかし、新チームで練習に出てくるのでそうはいつてられない。

なかでも、四十二年国体の年、大宮高校など四校が強化指定された。強化費が川高がどうなつたのかしらないが、夏の大会で延長十八回2対2の引き分け、再試合の十二回で勝つた。十八年間の監督生活のなかでもよくやったという記憶に残る試合であつた。

以後は、多くの方の声援がありながら、三回戦から準々決勝までで決勝にいけない、昭和五十年の秋の大会で決勝までいったが、良い成績を残せないことが申し

訳ないと思つてます。しかし、古い教え子は、最近、「監督は大変だったな」という声を挙げてくれていた。いっている。(笑い)

埼玉県も新設高校ラッシュとなり、昭和五十七年に鶴ヶ島高校へと、その後いくつか異動しました。思い出すのは、昭和四十五年から四十六年の頃、東大の安田講堂事件などがあり、あの時代の学生運動の雰囲気我が川越高校にも影響した。

そして私が川高に教員としてお世話になったところから、勉強勉強で大変な時代となった。我々の時代は一割は就職していたが、今は一〇〇%進学する。野球部も途中でやめたり、入ってくる人も少なくなってきた。そこで、頑張つていいところといったOBを連れてきて指導をしていた。ただき安心して高校野球ができる環境づくりに苦労した。父兄には高校四年間と思つてくれという話もした。

教え子も三人ほど校長になつたりしており、後輩も育つてきたので、バトンタッチをした。

私が甲子園出場といった良い思いをしたので何とか甲子園と思つていたが、成績を残せないのは能力ない監督であつたが(そんなことはない、との声)、何とかの

「念で監督生活を送ることができました。(大拍手)
(高島会長)

ここで、中等野球時代の話があります。飯田亮部長が熱心に指導に当られ甲子園に出場しました。(「校庭に銅像が置かれている。」との声あり。)

その当時は、中等野球界の勢力は、水原、川上、三原の活躍したように西高東低で、東は東北、北海道などは野球部などなかった。関東から一校卒の出場で、川越中学は甲子園から東方面では一番遠い「遠来の客」であつた。そんなことで、野本主将が選手宣誓を堂々で行つた。

(斉藤和夫氏(高一回))

私は、昭和6年の川越中学時代、飯田部長のもとで初めて、選抜大会に出場したメンバーの弟で、兄から聞いたことをそのままお話しします。初戦の相手は中京商業中学であつたが、マンモス球場に圧倒され、皆な上がつたよう、イージーフライをボンボン落としてたりして大敗を喫した。中京にはショートの杉浦、東電に入つた景浦、官武などがいてスピードがまったく違ひほとんど当らなかった。

(会員の声) 中京商業は現在甲子園で、一一〇勝を挙げており、その第一勝が川越中学ということで、永遠に残る記録

を作つたことになる。(笑い)

(渋谷健氏・当時の野球部長)



渋谷氏

野球部の中興の祖である家村相太郎

監督は、甲子園に出た昭和6年に川越中学に入学、2年から一塁のレギュラーとなり最後はピッチャーをやり、7、8、9年と優勝をもたらした。昭和十一年セネタースに入り、都市対抗野球では、「オール京城」で昭和十四年には優勝などした経歴をもつていた。その後、天理高校、天理大学の監督、市立習志野高校のヘッドコーチをして全国優勝をした。これを記念してミニ優勝旗が家村氏に贈られたが、亡くなる二年前に、自分の家は女の子ばかりで仕方ないので、「お前のところ

に預ける」といつていまだそのミニ優勝旗は私のところに置いてあります。

昭和三十三年、胸を患っていたが「ベンチに坐っていたでよい」とお願いし、川越高校の監督として就任していただいた。

さて、甲子園の主役はこのお二方が主役でした。私共は裏方に徹しましたが、ちょうどそのとき台風があつたので、選手は西宮の小さな宿屋におり、応援団は道頓堀の大黒屋に泊まっていたが、雨で試合が延び延びとなりお金がなくなり、西宮の宿舍まで何か食べ物と遠征費を応援団に回したことがあつた。

いざ甲子園に行つてみると、その当時、全国で珍しいプラスチックのないチームであつた。その当時の母校では、渡辺校長の方針で、校内に放送装置もなく、「学園は静かにあるべきだ」と言うことで、プラスチックなどいらないことであつた。幸いにして、西宮市の教育長が埼玉県出身で、西宮市内の高校に呼びかけて応援演奏をしてくれた。しかし、高知商業の応援プラスチックは当時流行つた「南国土佐をあとにして」で、今だもつてこの歌を聴くと思ひ出す。

私の野球部長時代のなかで、島野主将が中心となり県大会で優勝したこと

がある。南関東大会に埼玉県4高、千葉県4校出場し、一回戦は勝つたが、次の相手は女性が多く、アレルギーがあつたのか内野手はポロリポロリと、二回戦で負けた残念な思い出があつた。

昭和二十九年の準決勝の晩に差し入れがあつたものに中り、全員、夜は下痢状態になり、近くの医者である小杉医院や多くの医師に非常にお世話になつた。今の規定では「健康管理上問題がある場合、棄権」であるが、そのとき、西武バスと交渉して大型の遊覧バスを借り受け、選手を横に寝せ笠間先生も一緒に行っていただき、酸素吸入器をもつていき、守備について帰つてくると手当てをして、かろうじて優勝した。戦後、初めての優勝でした。

戦後初、南関東大会に出たら、「ようかん」やらなにやら差し入れが一杯あつた。ところがこれを生徒に食べさせて中毒でも起こさせたら大変と寝ずの番をしていたが、生徒は夜中に忍び込んできて、その管理に頭を悩ました。

次に、そのころの高校野球連盟の会長は佐伯氏で、県でベストフォーになると南関東大会に出場できるので、熊谷高校などは準決勝になると二軍をだしてくる。佐伯会長は、これはいけなないと思ひ、地

区割りを昭和三十四年に変更して、一旦負けたら甲子園に行けないということにし、一県一高の西関東大会となつた。

甲府に行つたら、どういふわけか埼玉県出身の社会人野球の福永健司氏が開会式で挨拶した。これが炎天下のなかで、二十分以上の挨拶であつた。相手のチームはそれを知つていてほとんどが補欠の人が並んでいた(影武者だの声)。福永氏は知らないだろうが、選手は頑張つてくれた。

新幹線もない時代、それまでの大会では、列車、宿の手配などはあらかじめやつておいたが、高野連の方針でこれからは決定しない間はこれをやつていけない、という面倒なこととなつた。いざ、西関東大会出場が決まつてから、急遽、寄付集めやら遠征の諸々の手配におおわらわであつた。幸い、生徒会長、マネージャーをやリットップバターであつた内沼君がよくまとめてくれた。

なによりも、毎年度の高校野球記録集の一番上に「無四球」の吉田君の記録があり、それを見ると思ひ出が甦る。

私が埼玉県高校野球連盟の会長になつてから西武球場で決勝が行われた。野口監督の川越工業が優秀なピッチャーが二人いて絶対に甲子園に行けると言われて

たが、立教高校と優勝を争ったが、ピッチャーの交代に齟齬をきたし、結局、立教高校が優勝した。戦後初めて、私学が甲子園に出場したのが立教高校であった。ところが、立教高校が甲子園にいくと、大学野球と間違えたのか紙フキを撒き散らすやらで、私は早速、全国高野連の会長に呼び出され埼玉県は何をしているのか、掃除しろとお叱りを受けた。

その後、浦和学院が出場したら、センターの鈴木健(後、プロの西武)は、ベンチからセンターにノロノロ行くので、塁審が注意するとその場で早足で足踏みしていた。また、タッチアウトするためキャッチャーがブロックするが、それは駄目と言われたが、3センチほど上げているのが悪いかと抗議などした。そんなことで、埼玉県のチームが出場すると、ピッチャーが順調に投げていると投球の注意をするなど、それ以降調子が狂うということがあった。

最後の三年間、全国高野連の副会長になったが、牧野会長から他に三人いるなか、大会本部に泊るように云われた。

本部に入ると審判と一緒に行動するので、五時に起床、さらに、会長が起きるまで正座で待っていなければなら

なかつた(野球道だ!、との声)。食事も審判の人は体育会系らしく食事が早い、私は一杯食べるのが精一杯だった。食事は生ものはいけない、ビールもダメだった。終れば、夜の九時になると、その日の審判の反省会に付き合わせられた。あの試合の審判の位置は適切だったかどうか、議論につきあわせられた。また、当時、野球トバクの疑いも騒がれており、審判共々タクシーに乗せられ球場へ行き、ネット裏に閉じ込められ外部と遮断させられた。

今は私学が中心であり、予算規模も圧倒的に違う。私学は多くは他県から来る選手が多い。地域との馴染みな薄いしかしながら、多くの方にお願ひしたいのは、川越、浦和、熊谷などが三年か五年に一回は公立高校が出場して欲しい。そうしたことが地元のファンが増える。

今日は甲子園出場者の寄せ書きの皿と甲子園の土を持つてきました。あとでご覧下さい。私の高校野球の思い出は以上の通りです。

(大拍手)

(関根憲治氏・高三回) 当時、父が川高の教頭をしており、学校にいけないといけないので行けないから、お前が行けと言われた。夜行列車で行ったが台風で遅

れ着いたときは、甲子園に入ったのが、前の試合の九回も終った直後で、「南国土佐をあとにして」の応援に圧倒されたが頑張った。

(渋谷健氏) 関根五郎次教頭は、学校にいけないならなかつたは、寄付集めに奔走されており、「金をくれ」という、その時に電報を送ったのは私だった。関根教頭は厳しい先生で、出勤には厳しく、そのおかげで貴重な教訓がいまだに生きています。

(駒井正明氏・高四回) 私の仲間で野球部で皮のグローブを持っていた山田地区出身の松崎など多くの人がいました。会社は三井船舶の大阪支社に勤めたばかりで、その時期、台風で天候が悪いと待機しなければならなかつたので、応援に行けるかどうか判らなかつた。しかし、新規採用は二日間の休暇があり、伊丹に独身寮があり、近くなので応援に行ったが、内沼さんがサイレンが終らない三塁打を打ったときに着いた。上司に巨人の川上の出身の熊本工業の人で、鎮西高校は柔道界では一番で、野球はたいしたことがないといわれたが、体格が良すぎた。川越高校をみたら我々と同じで、かわい。あのころバスケットをやった斉藤氏が一・八メートルでダンツだった

が、私は一・六六メートル、六十三、四キロで大きいほうだったが、鎮西高校とは比較にならないくらい小さかった。が、勝った。

全国的に、川越高校は「文武両道」で、浦和、千葉など有名なところだが、知り合いがいろいろ関係をもっているのが多いといわれている。これに期待している。

(菅間五郎氏・高九回) 私は川高野球部

出身を誇りに思っている。一年のときすごいピッチャーいて優勝、二年準優勝、三年のとき私はキャプテンになった。その年、川越商業と戦い、シード校でもあるし負けるはずないと思っていたが、相手は女性が多く、女性アレルギーで一コロで負けた。(笑い)兄の昭(高六回)のスパイク、グ

ロープの援助があり、東大で野球やれというので浪人をしていたら、大槻さんという先輩が松山高校の監督をやってくれといってきた。私は東大しか受けなかった。浪人中でも監督を引き受けた。一番大変だったのは、ノックをして家の帰ると小便が赤くなった。胸もそのころから悪くなったかもしれない。その後は次回に話します。

(松井顯敏氏・高四回) ひとつだけ覚えてます。NHKのアナウンサーが九回裏二アウト、2&3でピンチヒッターを出し

たときベンチを暖めた人を出したら「勝負を諦めましたね」ということを言っていた。そのときの状況を教えていただきました。

(宮根氏) 渡辺という彼一人だけ試合に出られなかったが、キャプテン横田の代打で横田自からが家村監督に申し入れ出た。そして「思いつきり空をきった」、そしてゲームセットとなった。

(柴崎育久氏・高二回) 運動部、野球部三年でなく四年のつもりでケアする方策もあるのかなと思う。高校生でスポーツをやりたい、一浪覚悟で卒業後フオーすることも考えることが必要かなと思う。運動部はいい青年が入ってくる。

(岡部延夫氏・高二回) その当時、大阪に勤務していたとき、誰かから電話がかかってきた。高二回は何円寄付ということとで応援したことがある。ラジオですつと聞いていたことを思い出す。「文武両道」は大変なことであると思う。

(石井勝巳氏・高二回) 高校野球でいえば、父が校医をしていた飯能高校が強かった。私は国立病院に勤めていたので、行けないので、弟がああ暑い甲府へ行った。

(猪鼻茂氏・高九回) 私の人生で高校野球は大きな存在だった。中学一年のとき熊谷高校が平安高校に決勝で負けたの

がきっかけで忘れられない。三十四年の甲子園、内沼氏の三塁打、いまだに憶えている。そのとき入社二年目で、会社の仕事をやるふりをしながらテレビをみていた。私の社長は川島町出身の遠山氏で、社内報に号令一下、川越出身の人は職位の何号級の人は幾らという具合に載っており、なかば強制の形で寄付した。二回戦、熱中して見た。高知商業のピッチャーの山崎は打てない、しかし、健闘したことを社内中で自慢した。ここ何年か菅間五郎氏の誘いで初雁球場へ応援に行っている。何とかもういつぱい甲子園へ行っていただければ、何の憂いなくあの世に逝ける。

(加島篤人氏・高三十四回) 私は昭和五十七年卒です。宮根先生が体育の先生で、唯一の甲子園の選手であり生徒から尊敬されていました。私の息子も野球が好きで、ひよつとして川越高校へいけるかもしれないところです。(頑張れの声あり。)

今回、事務局会計より、在京初雁会創立五十五周年を記念し、会の旗を初めて作ったこと、及び、来年の母校創立百十周年記念同窓会会員名簿の広告の掲載を申し込んだことが報告されました。



長寿高齢者の戯言

田中 隆(中四五回)

私にとって古希の年は厄年であった。誕生日の数日前、内視鏡で自ら胃癌を発見、古希を祝うどころか十日後に手術を受けている。術後七年には喜寿を迎え、どうやら再発もないようである。順調に経過したとはいえ、胃切除患者として食事制限、ダンピング症状などの苦勞があり、皆さんとの食事会、宴会では一言で云えば割り勘負けである。

唯、良かったことは肥満、高脂血症、所謂メタボの心配はなく、体調はそこぶる良好である。その証拠にゴルフに御付合い程度に続けており、先日或るゴルフコンペでは、ニアピン賞とドラコン賞(勿論シルバートイからではあるが)を取ったほどである。

このまま順調に進めば何も言うことはなく、これからの老後をどこかの國のように楽しい生活が待っていると思っていた。喜寿のときも意識したのは私だけ、家内と二人で術後七年、無再発を話し合っただけであった。勿論、子供達も古希の時と同じように何の反応もなく過ぎてしまった。

実は、その頃から息子夫婦と姪が翌年(平成十九年)三月にサプライズ金婚式を計画しており、知らないのは私共夫婦とよく遊びに来る孫だけであり、五十年前の清澄庭園「涼亭」での祝宴、それだけでなく月末にはハネムーンとして泊った赤倉観光ホテルへのスキー旅行まで計画してくれ、唯々感激の日々であった。

慶事はこれまで、この月これらの間をぬって三人の親友の死去、一人は初七日法要の献杯挨拶、あとの二人には弔辞を読むことになったが、どうしたことが、百寿を祝った母が亡くなり、兄弟だけの密葬を計画したところ、最後のK君の葬儀と重なり、二日間の弔いがダブルヘッダーであった。

そんなことがあつてからは厄事が続いている。八年間理事長として勤めた病院が、私の辞任後、職員とくに医師の退院が続ぎ、病院は閉院、直接関係のなかった私までマスコミからのパパラッチ、不在を装った生活が数ヶ月、食欲不振の日が続いていた。

余り医療行政のことは言いたくないが、多くの中核病院が閉院することになったのは、医療経済のことを後回しにして欧米並みの制度、とくに臨床研修医、看護基準の改変を取り入れたことによる医師、看護師不足、過剰労働、地域偏在等々閉院を余儀なくされる事態になっている。

私自身、のんびり年金生活をとっていたが、今年四月からの老人医療改革としての後期高齢者医療保険、どんなことも判らないうちに実施され、今迄は月給から引かれていたのにこれからは年金から差し引かれること、先日、市役所からの保険料支払い通知がきて、余にも高額(毎月ゴルフビジャーフィー三回分以上)なのにびっくり、これから楽しみにしている旅行計画も懐と相談しながら決めなくてはならない。



在京初雁会

(昭和二十八年創立)

会長 高島敬忠(高一〇回)

二〇一〇年(第八九号)

初夏号・六月二十七日発行

春の散策会報告

報告・宮寺雅之(高一七回)

恒例の花見散策会は、近年隠れた桜の名所となりつつある目黒川沿の散策となりました。朝十時、JR目黒駅へ夫婦同伴も含め三十名の方々が集まりました。

江戸時代には、JR目黒駅近辺は、行人坂・権之坂の頂上にあたり、この一帯は夕日が丘と呼ばれ、紅葉と富士山の眺望で知られる名勝地だったそうだ。

行人坂が切り開かれたのは寛永年間(一六二四〜四三)の頃、対岸の目黒川

動が幕府の庇護で栄えるとともにこの坂道は参道として賑わいを見せた。

しかし、現代は高層ビルが立ち並びその面影はなかった。

ここから、目黒川へ向かって行人坂を下る途中「大円寺」へ寄りました。

この寺は寛永年間に箱根湯殿山の大海法印が、行人坂を切り開いて大日如来を祀ったのが始まりと伝えられている。

一躍有名になったのは、明和九年(一七七二年)の大火の火元となったからだ。

境内東側の斜面には、五一九体の羅漢

石像が安置されてをり、大火の際の焼死者を供養するために建立されたそうだ。

また、この寺は、「お七・吉三」の悲恋物語に縁があることをはじめて知った。

江戸時代の天和三年(一六八三年)本郷の八百屋の娘「お七」が前年に自宅の火事により仮住まいした駒込の円林寺の寺小姓「吉三」に恋して、再び合いたい一心で自宅に放火したため、江戸市中引き回しのうえに、鈴ヶ森の処刑場で火刑に処せられた。

(お七・吉三の由来碑)



この一方の主人公「吉三」は「お七」の処刑後、僧となり名を「西蓮」と改め、

のちに、大円寺の末寺「明王寺」(現・雅叙園)に入り「お七」を弔うため、二十七年かけ、一万日の願かけを行い、「お七地藏尊」を建立した。西運は多くの人から寄進を受け、目黒川に太鼓橋などを架け社会事業の数々を行った。

(大円寺の羅漢像前で)



この寺を後にして雅叙園を横目に見て、目黒川の「太鼓橋」を渡り上流の恵比寿方面へ向かって桜並木をそぞろ歩きた。

「太鼓橋」は、江戸時代の浮世絵画家・歌川広重が「目黒太鼓橋夕日の図」が描いた絵と違い何の変哲のない平板な橋であった。当時では珍しいアーチ形の石橋で江戸一番の奇観であつたそう。

目黒川の両岸は散策路を設けてあり、かつての紅葉の名所から桜木が新しい景觀を創っている。花見を待ちきれない人など多くの賑わいをみせていた。

この散策中、くすの木句会会長と会員の人が即興の俳句を懇親会で披露しました。

柴崎甲武信

淀みては風待つてをり春の川

深堀りの汐入川や花三分

岡部つねを

花冷やお七吉三の悲恋寺

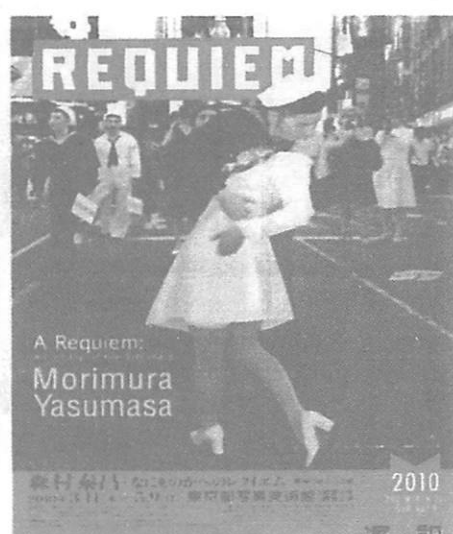
花三分ばんぼりの主読み上げし

(花三分の中里橋上で記念の一枚)



この橋から恵比寿駅方面に向かい、茶屋坂という粋な名前のついた坂を登っていった。途中、こんな所にあるのかと気づいた昔の海軍の研究所の大プールの屋根を見つ、恵比寿の東京都写真美術

館での鑑賞となった。



これまた、不思議な写真展で、作者が名画の登場人物や映画女優などに自ら扮するセルフポートレイト写真で、写真家でなく、美術家・森村泰昌の作品であった。レーニン、独裁者、ゲバラ、毛沢東、三島由紀夫といった歴史上の偉人・英雄たちを、セルフポートレイトの手法によって現代に蘇らせた、とこのうたい文句であった。戸惑っただけの作品だ。

映像作品「海の幸・戦場の頂上の旗」は、一九四五年度の硫黄島での米軍の戦場

の頂上の旗に着想を求めているそうだが、訳が分からず見入ってしまい集合時間に遅れそうになってしまった。



これで散策は終わり、かつて恵比寿ビール工場のあったところで、再開発によりアミューズメント「恵比寿ガーデンシティ」内の「銀座ライオン・北海道フードピアホール」での懇親会となった。

散策会には参加できなかったが、当会の長老で今年九十一歳を迎え、いまだに豊饒たる山崎豊弘氏（中三十五回）が、

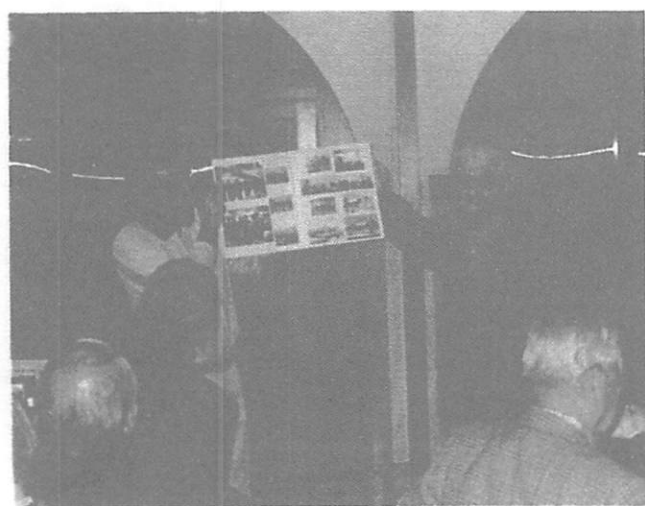
すでに到着していた。

高島会長挨拶のあと、参加者全員で山崎豊弘氏を祝福いたしました。

山崎氏は、ご自身の活躍と苦労話など聞達にユーモアを交え語られ、いっぺんに会場が和みました。

自身の思い出を

アルバムで話す山崎氏



囁目の俳句を披露する柴崎甲武信氏



在京初雁会中興の祖・岡田氏の独特のポーズです。



最後に長寿祝う記念写真



前列右より、高島会長、山崎豊弘氏、岡田氏、柴崎氏、神部氏（昨年の秋の講演会講師・目黒区在住）

母校同窓会の動向

母校・川越高校の同窓会総会及び懇親会は、五月九日（日）午前十時から氷川会館で行われました。今年の総会では、会則等に大きな改正がありました。

まず第一に、同窓会の総会が会則で、五月の第二日曜日の母の日に「母校感謝しよう」との意味を込めて決められていましたが、会報の全員配布など含め事務的に非常にタイトになるということで、来年から五月の最終日曜日（来年は二十九日）に開催されることになりました。

第二に、顧問の推薦は、前・元同窓会長から行うことになっていましたが、川越市長に高校二十一回卒業生の川合善明氏（在京初雁会会員）が就任されたことにより、同氏を顧問に推薦できるよう、会則が改められました。今総会で、同氏を顧問とすることが満場一致で承認されました。

総会のあとの記念講演会は、高校三十五回卒業で、早稲田大学卒業後、現在、文学博士で歴史家として最近大活躍の「安藤優一郎氏」が「龍馬を継いだ男・岩崎弥太郎」と題して講演していただきました。

NHK大河ドラマ「龍馬伝」では、三菱の創業者として知られる土佐藩士・岩崎弥太郎の視点から龍馬が描かれているが、岩崎弥太郎と龍馬はどんな関係だったのか、弥太郎の足跡を追いかけることで、意外な龍馬の姿、そして土佐藩から見た幕末史を語っていただきました。

ここで、講演の概要を述べるのは荷が重いので、同氏の著作を紹介しますのでお読みになることをお勧めします。

○「龍馬を継いだ男 岩崎弥太郎」

アスキー新書

その他、江戸時代から明治維新にかけての著作に次のようながあります。

○「幕臣たちの明治維新」

講談社現代新書

○「幕末維新 消された歴史」

日本経済新聞出版社

○「大名行列の秘密」

NHK出版生活人親書

○「徳川將軍家の演出力」新潮親書

○「江戸城・大奥の秘密」文春新書

○「大江戸お寺繁昌記」平凡社新書

○「江戸城・大奥の秘密」文春新書

○「大岡越前の構造改革」

NHK出版生活人親書



安藤優一郎先生

なお、お父さんは、飯能市在住で高校六回卒だそうです。

裁判員制度実施後

一年経過した状況を見て

横溝高至(高二一回)



一 はじめに

平成二十一年五月から裁判員裁判が実施され、その後一年が経過した。裁判員を経験した皆様は、裁判員として審理、判決に関与してよかったという感想を述べる人が多い。私も若手弁護士とともに裁判員裁判の弁護人を経験した。

私が扱った事案を説明したいが守秘義務があるので述べることはできない。

ただ、私が関与した事案に関して参加された裁判員の皆様は、皆、真剣に審理、

判決に臨んでいたということは言える。裁判員裁判実施1年経過した時点での私なりの感想を述べることにしたい。

二 市民の皆様は裁判員裁判の意義を理解していただく必要性

裁判員裁判が実施されて一年経過した現在でも、まだ裁判員として参加すること躊躇するという意見を持つ人も多い。早く、市民の皆様が多く積極的に裁判員の任を引き受けたという気持ちになっただけことを望む次第である。

刑罰の目的は、国民を犯罪から守ることであり、あわせて刑事事件を犯した者を更生させることである。刑罰を科する以上、それは誰もが納得する合理的な刑事裁判システムでなければならない。市民の皆様が、裁判員として刑事裁判に関与することにより、このような刑事裁判システムに対する理解と信頼が深まるのではないかと思う。

また、わが国は民主主義国家であると

はいっても、実際に統治に市民らが参加する機会は決して多くない。これまでは、国政選挙の際の投票と最高裁判事の国民審査、そして検察審査会への参加といった程度であった。

しかし、裁判員裁判が実施されたことで、「裁判員としての参加」が加わった。裁判員は罪を問われている被告人、検察官、弁護人、裁判官に直接に接し、直接に証拠を見聞きし、評議において自らの意見を述べたうえ、結果が被告人に与える影響を認識しながら判断を下す意味において、最も直接的な統治への参加形態である。

犯罪の事実を認めることができるのかどうか、どの程度の刑罰を加えるのが妥当かという判断は、法を具体化させる行為であり、統治を実現するものである。裁判員として努めることは民主主義の意義である自己統治の過程に参画し、その実感を得る絶好の機会である。これによ

り、市民の皆様は民主主義国家の一員であることを自覚してもらい、わが国において真に成熟した民主主義社会を構築するうえで、極めて重要な意義を有するものである。

また、裁判員の参加は、裁判官に対しても影響を与える。裁判官は、市民とともに審理・判決をするという経験をするにより、一般市民の新鮮な感覚と常識的な価値基準に基づいたものの見方や考え方を知り、さらに慎重に常識に基づき判断をしようとする気持ちになるはずである。

以上のように、裁判員が刑事裁判に参加する意義は大きい。市民の皆様に参加しようとする気持ちになっていただきたいと考える。

三 刑事裁判における事実の確定の困難性

裁判員裁判実施後一年経過したが、審理・判決がなされた事案は、ほとんど、

被告人が犯罪事実を認め、専ら刑罰をどうするかという点に焦点が当てられたものである。しかしながら、今後、被告人が、自らは犯人ではないとか、犯行の意志がなかったとか述べ、争う事案も出てくると思われる。このような場合、裁判員は、裁判官とともに、法廷に提出された証拠物、書証、証言、被告人の供述等を基に犯罪事実の存否について判断しなければならない。犯罪事実の存否を判断するにあたっては、刑事裁判の原則である「無罪推定の原則」、「合理的な疑いを超える程度の証明を検察官に求める原則」に従わなければならない。ただ、その場合、どの程度まで証明ができたか「合理的な疑いを超える程度の証明」がなされたといえるのであろうか。次のような点に留意する必要がある。

(一) 有罪とするには、民事事件において証明十分とされる「証拠の優越」では足りず、さらに厳しい証明が必要である。

(二) その程度は、「通常人であればだれでも疑いをさしはさまない程度に真実らしい確信」が必要である。

(三) このような極めて高度な証明を検察官に求めるには、人間が行う裁判には必然として誤判の危険を伴うところ、刑罰により失われる被告人の利益は甚大であり、誤判の危険を被告人に引き受けさせる事態は、他方で真犯人を放免するという危険は増大するかもしれないが、絶対に防止しなければならないためである。

(四) 証拠は量でなく質で判断しなければならない。一つでも無罪を疑わせる質のよい証拠があれば無罪としなければならない。

裁判員は、この「合理的な疑いを超える程度の証明を検察官に求める原則」の重要性を理解したうえで、犯罪事実の存否の判断をしなければならないのである。裁判官も、裁判員に対し、この原則をわ

かりやすく十分に説明しなければならないと思う。

四 刑事裁判における量刑の判断

裁判員裁判の場合、裁判員は、犯罪事実の存否の判断だけでなく、加えて量刑の決定にも参加しなければならない。

刑の量定とは、執行猶予を付するかどうか、懲役又は禁固何年に処するということにするのか判断することである。刑の量定にあたっては、犯行の動機、犯行の態様、被害の程度、示談の正否、被害者の赦し、被告人の成長過程、被告人の年齢、前科前歴の有無、被告人の職業の有無、被告人の家庭環境等を様々な要素を考慮することになる。ただ、裁判員としては、被告人の成長過程、被告人の年齢等を量刑の判断の材料にする必要あるのはどうしてなのか疑問に思われる方もいらっしゃると思う。検察官、弁護士双方とも法廷において、量刑の判断に関し、裁判員に分かりやすく説明をする必要があろう。

五 裁判員に対する心のケア

裁判員が審理に関与するのは、殺人等の重大な事案である。日常生活ではまず接することがないような異常な事実経過や生々しい遺体の写真や凶悪犯に接することになる。これにより裁判員が心身に異常を来してしまうのではないかということが心配なところである。

裁判員に対するメンタルヘルスに関してもフォローしていくような体制を整備していく必要もある。

六 おわりに

裁判員裁判はまだ始まったばかりである。今後、裁判員裁判に関する関係者が制度の意義を理解し、発展にむけて努力を続けていく必要がある。私自身は裁判員裁判は必ずや成功をおさめるものと信じている。

(平成十九年の秋の講演会でのフォローとしてお寄せいただきました。)

事務局より

当会の事務局長・岡部恒雄氏が母校同窓会の事務局長に就任されましたので退任し、当会の幹事の一部を改選いたしました。

(新任)

副会長 ・ 宮寺雅之 (高十七回)

事務局長・大館 廣 (高二十一回)
(前・副会長・会計担当)

立つてカメラを構えている宮寺氏



宮寺氏は、元大型タンカーを操っていた船長さんです。在京初雁会の運営に巧みな操縦を期待しています。

大船に乗った気分になります。

皆様の投稿、ご意見を

お待ちしております。

在京初雁会幹事

会長 高島敬忠 (高一〇)

副会長 西 信之 (高一七)

副会長 宮寺雅之 (高一七)

副会長 内藤 豊 (高二十一)

顧問 田中 隆 (中四五)

顧問 岡田良平 (高二)

事務局長 大館 廣 (高二十一)

所沢市泉町1860-3

(T) 0492・922・9634

母校同窓会・秋の散策会を主催する。
平成二十二年十月九日(土)
今回の散策地周辺



深川神明宮



深川の地の由来



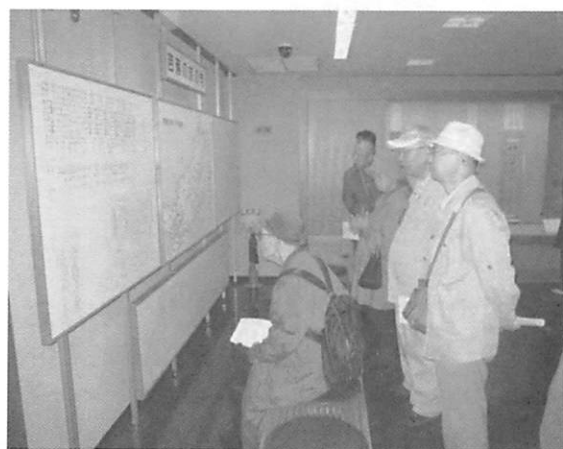
芭蕉記念館へ先導の西信之氏(高一七)



芭蕉記念館



芭蕉の足跡に見入る。
田中隆氏(中四五) 岡部延夫氏(高二)
長島恒雄ご夫妻(高三)



俳人気分になりきって。



芭蕉稲荷前で在京初雁会女子部面々



芭蕉庵史跡展望庭園



展望庭園から清洲橋を臨む
小名木川に入る観光船に手を振る



万年橋で亀を探す長島威氏(高十三)



現在の清澄庭園は岩崎弥太郎邸の
一部との案内板にため息



岩崎弥太郎気分で散策する
矢部敬一郎氏（高二）



国指定史跡の松平定信の墓のある靈巖寺



松平定信の墓の門



江戸六地藏も待っていた。
地藏によく似ている山岸忠雄氏（高十五）



江東区
深川江戸資料館

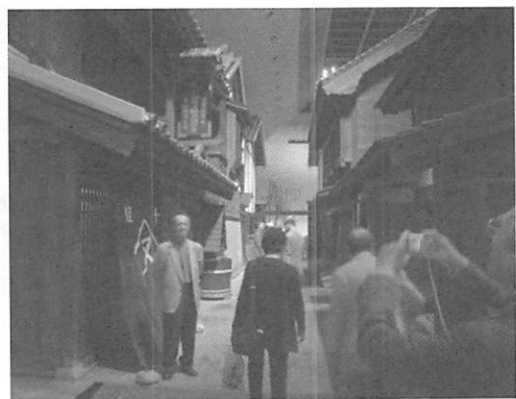


深川縁の伊能忠敬・松平定信の展示

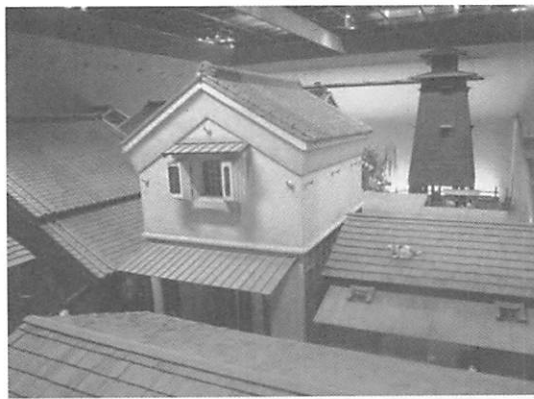


長屋を覗き込む





長屋の元・素浪人石井信行氏（高十五）



川越の鐘撞堂か？猫が鳴いて出迎える。



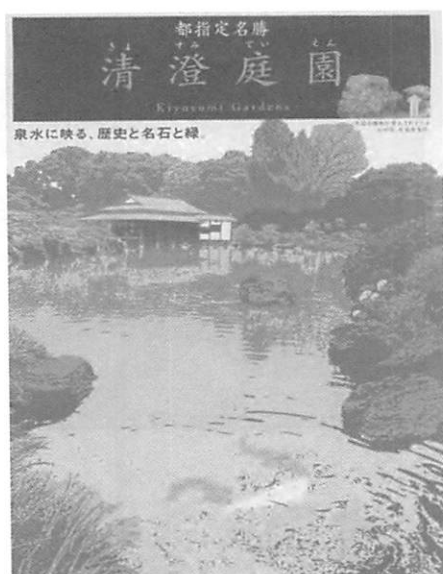
苦吟する俳人二人。柴崎ご夫妻（高二）



長屋の中の井戸端会議会場



大正記念館から涼亭を臨む

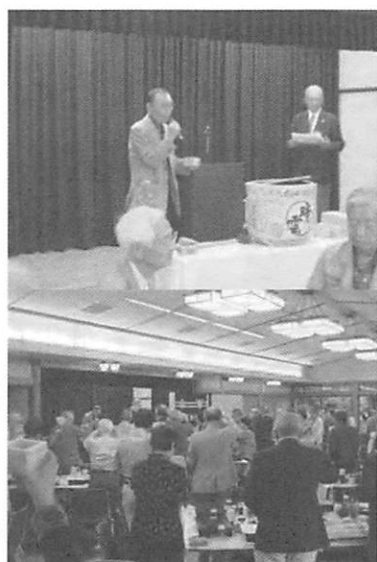


懇親会・大正記念館にて

懇親会はまず小川の酒「晴雲」の鏡割から
右から田中隆氏、高島敬忠氏（在京初雁会会長）、
田中正同窓会会長、岩堀弘明氏



乾杯の音頭は田中隆氏（在京初雁会顧問）
升酒で全員で乾杯



四斗樽はアット言う間になくなる。



結婚式・金婚式をここで挙げた田中隆ご夫妻
（左の二人）と岡田良平氏（在京初雁会顧問）



田中正氏と

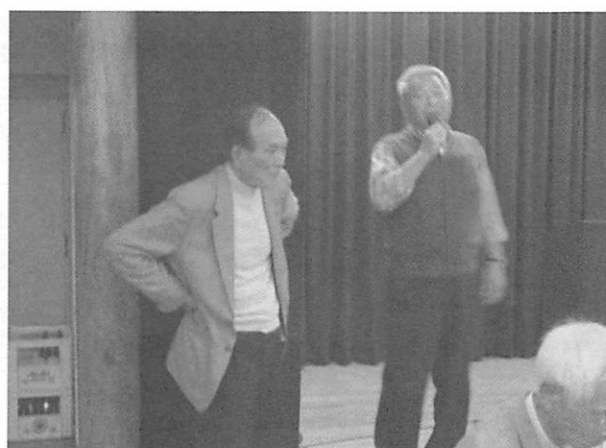
高島敬忠氏



長島恒雄ご夫妻と
小熊忠三郎氏



マスターズ甲子園出場の報告
野球部OBの近藤育三良氏（高十二）と
菅間昭氏（高六）



柴崎甲武信氏
(くすの句会会長)
俳句講話



小川町「晴雲」社長
右・中山雅義氏(高十七)
西信之氏



二十三年秋の散策会の主催を宣言する
左・岩堀弘明氏(高八)と右・長坂勲氏
(高十)
現在、川越初雁会(仮称)創立に向け、
中心となって奮闘中



小見山進氏(高十四)ご夫妻の間で
元・校長の菊地健太氏(高十七)



左から三人目、元・校長の吉沢優氏(高十九)
肩を組んで校歌絶唱



学校と同窓会を結ぶ校内幹事の

右・船橋博俊氏(高二十五)
左・山崎邦俊氏(高三十二)



横溝高至氏(高二十二)と同期の皆さん



校歌一番、ソレー



肩組み校歌・応援歌の斉唱



最後に記念写真でお開きとなりました。



清澄庭園秋季散策会について一言

田中 隆(中四五回)

が網羅できず、お詫びいたします。

在京初雁会四十周年を記念して、平成六年十月に母校同窓会の秋季散策会を主催することになった。折角、東京で開催するというところで、まず、下町散策をという意見があり、私と岡田良平君(当時総務担当副会長)との二人で、両国・回向院、吉良邸から今回の散策地を廻り、最後の清澄庭園まで実地見聞をしたことがある。残念なるかな諸般の事情(大正記念館の予約と宴会のこと)で断念、皆さんご存じの芝の増上寺・愛宕山、銀座バルハラデンというコースに変更した経緯がある。

今回の秋季散策会是在京初雁会として四回目であり、別に私と岡田君が提言したわけでもなく、岡部事務局長の特別のご配慮により大正記念館の懇親会場が決定されたようで、唯々うれしく思っている。

実は、個人にとっては清澄庭園と大正記念館は、昭和三十二年三月、私共夫婦が結婚披露宴を開催したところであり、五十年後の平成十九年には金婚式を迎えることになり、ひそかに、ハネムーンとして出かけた赤倉観光ホテルに行くことを考えていた。

ところが、子供達と姪が記念日を察知、清澄庭園の涼亭を予約、私達に全くの内緒でそれこそサブライズ金婚式を聞いてくれたという話、今更惚気るつもりではないが大正記念館は五十年ぶりの想い出深い会場である。

尚、この話は武蔵野ペン(川越ペンクラブ

(お詫び)

在京初雁会の皆さまを中心に写真を撮りました

同人誌の一八九号に掲載している。
(武蔵野ペンは割愛させていただきました。)



田中 隆前会長を偲ぶ

我々が敬愛しておりました在京初雁会・前会長の田中 隆先生（七代目）が、本年二月二十七日に卒然とご逝去されましたことに對しまして、哀悼の意をあらわすと共に、会員の皆さまの謹んでご報告いたします。享年八十一歳とのことでした。

昨年の清澄庭園での秋季散策会の折のお元氣な姿がいまだ忘れません。

さて、田中先生は川越中学第四十五回卒（昭和二十一年）であります。中学時代は戦時下であり、学徒動員令のため勤労奉仕に明け暮れの毎日のことでした。終戦後の昭和二十一年春、日本大学医学部予科に入学されました。卒業後、駿河台日大病院の看板診療科でありました第三外科に入局され、主に消化器外科をご専門として診療に、研究に、教育に従事され、教授にまで昇任されました。その後、組織改革のため板橋病院に第三外科として移られ、お人柄もよく人望もございました。

た先生は、推されて板橋病院長にまでなられた

在京初雁会

（昭和二十八年創立）

会長 高島敬忠（高一〇回）

二〇二一年（第九十一号）

秋季号・十月十五日発行

ました。

先生は、平成八年に在京初雁会会長にご就任され、平成十七年十月まで約十年間その任に当たられ、我々後輩をご教導くださり、ありがとうございました。

会長在任中は、高校二回卒の岡田良平（現顧問）、矢部敬一郎氏の補佐のもとに、川高の秋季散策会を三回も挙行され、また、本会創立五十周年の会も主催され、まさに在京初雁会の「中興の祖」という存在でもありました。さらに、本会にはご婦人達のご参加もいただき、他の初雁会とは趣を異にしております。

先生の座右の銘は、「人生は選択と決断である」と伺っております。

先生の既往症としての大病としては、胃癌の手術をされたことぐらいです。

外科医としては、筆まめでしたが、写真をご趣味とし、また毛筆も達筆でした。皆さん

もご存じのようにプロ野球観戦では玄人肌で、岡田顧問とはよく一緒に観戦されたそうです。まだまだ、思い出は尽きませんが、これ

在京初雁会幹事

会長 高島敬忠（高一〇）

副会長 西 信之（高一七）

副会長 内藤 豊（高二二）

顧問 岡田良平（高二）

事務局長 大館 廣（高二二）

所沢市泉町1860-3

（T）0492・922・9634

までのご指導に対し感謝申し上げますとともに、心からご冥福をお祈りし、哀悼の言葉といたします。

平成二十三年十月

在京初雁会会長 高島敬忠

昨年の秋季散策会（十月）での田中ご夫妻



田中 隆氏の遺稿となつた「武蔵野ベン（一四四号）」（平成二十三年三月一日発行）のエッセイを掲載いたします。

「心に残る患者さん（二）」 田中 隆

消化管憩室症

憩室とは、消化管・膀胱・尿道などの管腔臓器に見られる嚢状突出状態の医学用語であり、何となくいかかわしいホテルを連想させる名称である。これは全く私見であるが、憩室の英語はデイルティクルムであり、デベルティン（楽しい）とルームを組み合わせたもので、ジャパニーズ漢字ではないかと考えている。

以上のことは現役時代、食堂憩室の講義の出だしてアメリカと日本でのモーターの違いを付け加えたジョーク話をするにしていた。

消化管の憩室は食堂・胃・小腸・結腸などの見られるが、各々発生部位に特徴があり、いずれも無症状で経過し、X線造影・内視鏡で

発見されることが多い。

外科としては、憩室が大きくなり通過障害が出たときや、合併症として憩室炎・出血それと穿孔による緊急手術位である。

ここでは、前号で紹介した結腸による食道再建例と、有名歌手の結腸出血で正月早々心配させられた二症例を紹介する。

一例目は四十数年前の経験である。患者は三十二歳の主婦で、次第に嚥下困難と前胸部痛があり、食道癌の診断で紹介入院した。

食道X線検査で胸部食道に約十糎にわたる腫瘍像があり、まず、手術適用を考えた。

ただ歳が若いこと、経過が非常に早いことから、より悪性な食道肉腫のことも考え、胸部食道を切除することとなった。

開胸した所見では、気管・気管支に癒着した大きな腫瘍で胸部食道を全摘出、頸部食道を引き出し胃瘻を造設、第一期手術を終了、手術標本の病理診断では憩室穿孔による大きな肉芽腫であり悪性像はなく、患者さんにとつては不幸中の幸い、ただ患者と主治医にとつてはこれからが大変、また教室としても初めての経験であり、体外人工食道を特別注文、装着した。

勿論ご本人の努力とご家族の協力もあり、体力は早期に回復、二ヶ月後に第二期手術として回腸末端を含む右側結腸の有茎移植を行ったが、術後の経過も順調で二ヶ月間の闘病生活に耐え退院した。この手術は、結腸の半分を食道として使用しているの、便通のコントロールが難しく、下痢止めを常用する

ことになる。皮下に移植された腸管は、肉眼的にも下方に向かう蠕動運動が見られ、また回腸から盲腸に移行する回盲弁が逆流防止弁として機能しており、再建食道として理に適った手術である。

これらのことを学会の発表するため、急遽十六ミリカメラを持って自宅に伺っており、それ以来特別な患者さんとして診させていたのだいとお、了解を得て何回も発表している。

だいぶ前に「Wざわざ私のところに来なくても地元病院を紹介します」と言つたところ「貴女のような手術の患者さんは初めてで、手術された先生に診てもらつた方が……」と言われ、毎回予約患者として来院している。また、「東京に来るのが息抜きになる」とのこと。時々ご主人同伴で来られ、どうやら買い物を含めたデートのようである。先日検査結果で異常がなく、私の検査値より良いことを告げたとこ「先生もお体を気を付けて」とい「先生が診察出来なくなつたら東京へ来られなくなくなるから」。うれしいことにこれが本音のようである。

（左図は第一期手術 胸部食道摘出・人工食道装着）

(E・頸部食道 AF・人工食道)

S・胃)

次の症例は、或る有名歌手の結腸憩室出血である。このような話、匿名で進めても面白くない話になってしまふので、特に了解を得て実名(芸名)で紹介する。それは「雪國」「酒よ」などのヒット演歌で知られる吉幾三君のことである。

平成元年十二月大晦日、吉君の主治医K君から突然電話がかかてきた。内容は「NHK紅白歌合戦のリハーサル中に下血がひどくなり、現在点滴中だが、本人は頑強で歌い終わってから入院したい」とのこと。早速病院に行き医局でテレビを見ながら待機、吉君の終わって来院した。

全身状態は比較的良く、取り敢えず止血剤と抗生剤、食事療法で経過を診ることにした。三が日も終え早速結腸透視をしたところ、右側結腸に数個の憩室があり、その一ヶ所に小潰瘍の所見がありはつとした。

以後下血もなく無事退院したが、正月でもありマスコミにも気付かれず経過、後で「吉幾三は結腸癌で手術した」などの誤報が流れたが、元気で活躍し始めた。

毎年二月には新宿コマ劇場で長期公演があり、予定通り行われた。たまたま招待され親に行つたが、歌の合間に行う寸劇でのアドリブで「先月、日大病院の田中教授に助けてもら

つた」と言い出しびっくり、彼の心遣いの一面である。

数年後、地方公演で無理され肺炎で入院、検査所見から肺炎も疑われたが、職業柄安易に気管支鏡・肺生検も出来ず薬物療法のみで治療したところ胸水も消失、肺炎でなくはつとした。このことを告げると「僕より吉プロ社長がはつとした」とのジョーク、いかにも彼らしい喜び方である。

憩室出血に患者は約二十%の頻度で再出血すること、また憩室炎から運悪く穿孔まで起こすことがあり、暴飲暴食を慎むよう指導しており、吉君にもそのことを話したと思うが数年後憩室炎を発症、近医に入院しており、この時も手術せず治癒している。

再三にわたる病魔の襲来も彼の氣力と幸運で退散、毎回復活発展している。

考えてみると、彼との出会いとは三十年近く前、吉君の主治医K君と三人で一夜飲み明かしたことがある。当時下積み時代だったが、彼の博識と話術から必ず運が向いてくると思つていた。演歌歌手だけでなく、作詞・作曲も幅広く手掛けている音楽界の重鎮となる男であると思つている。

最後になつたが、主治医のK君、いつまでもこのままではかえつて失礼であり、私の友人として紹介する。その人は唐澤祥人君である。当時都医師会の理事であつたが副会長として会長になり、その後推されて日本医師会会長を二期務められている。

また吉幾三後援会会長・名誉会長である。

在京初雁会総会の報告

平成二十三年六月十九日(日)十二時より、本郷三丁目「機山館」で行われました。

冒頭、高島会長より、前会長田中隆氏の急逝されたことが報告され、同氏の在京初雁会の功績に感謝を含め黙祷をささげました。これに對して、田中夫人より御礼の言葉がありました。

永年、田中前会長とコンビを組んできた岡田良平氏(高2・顧問)より、生前のエピソードが披露され、献杯の辞が述べられました。(一)

(田中夫人)

(岡田氏・右端)



次に、大館事務局局長(高21)より、二十二年度事業・決算報告があり、特に、二十二年度母校同窓会「秋季散策会(深川界隈を訪ねて)」を在京初雁会が主催し好評のうちに終了したことが報告されました。ま

た、二十三年度事業・予算も満場一致で承認されました。



(大館事務局長)

会員の近況報告の冒頭は、野球部OBの谷 巖氏(高3・中央)小 熊 忠三郎氏(高3・左)菅 岡五郎氏(高9・右)から、現役野球部の活躍が紹介され、七月十三日(水)十二時半より、市営浦和球場(北浦和駅徒歩十五分)で甲子園への第一戦が始まるので、球場での応援をよろしくとの気合いある話がありました。

在京初雁会の重鎮の面々



文化談義の柴崎氏



近況報告の澁谷氏



田中ご夫妻にお世話になつた女子部の面々。 望月勝氏(高41)



まだ、中堅の会員 中央は秋の講演予定は 大病後の内藤氏の宮岡成波氏



今、深刻な福島原発事故問題に関して、石井勝己医師(高2)より、「放射能」の問題は愁うべき大きな問題であると、警鐘を鳴らしていました。

(石井氏)

(石井先生の話を聞き、原案を考える面々)



総会・懇親会終了後、有志が会場から徒歩五分の東大訪問と相成った。

東大赤門前で。この後堂々入学す。



安田講堂前で同窓会を?



癸見

東大病院通りから東京スカイツリーが真正面に見える。



母校同窓会総会報告

事務局より

母校同窓会は今年度から、五月の最終の日曜日である二十九日(来年は五月二十七日)に、川越氷川会館で開催されました。在京初雁会会員は、十三名参加しました。

冒頭、今回の東日本大地震による犠牲者に対し、黙祷を捧げました。

これに関連して、東日本災害に対する義援金を川越市「震災等支援費」に寄付することが緊急動議が出され、満場一致で決定されました。

川越高校出身者は広く東日本の各地で活

躍あるいは在位している方が多くおります。近々では、東北大学へは昨年度は十三名も入学しており、現役生は三十九名も勉学に励んでいます。非常に縁が深いところです。

義援金は、同窓会より一〇〇万円を基本に、当日の臨時募金などを含めまして、合計一、一一六、八五〇円を寄付しました。

また、同窓会会則第十条の会費部分について改正が行われました。

これは、平成二十三年卒業生から入会の際に、入会金及び終身会費二〇、〇〇〇円を納入することになっていましたが、これと既卒業生との調整する必要があるため、今まで、卒業後、二十五年過ぎたら終身会費五、〇〇〇円を納入することになっていたところ、今回、「卒業後二十五年後」を削除することにして、既卒業生は全員終身会費を納入していただくよう改正しました。

総会終了後の記念講演会では、在京初雁会の会員で、現在の川越市長の川合善明氏（高二十一回）が、母校同窓会総会後の講演会で講師として講演をいたしました。

演題は「地方自治の現場から」

—地方自治の現状と課題—

でした。



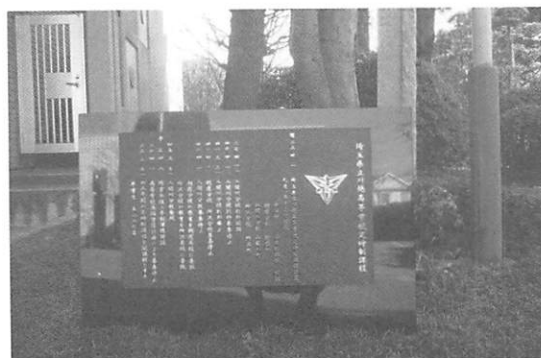
政治の素人として飛び込んだ社会にとまどいながら、人柄そのものの率直なお話で和やかなうちに感銘を受けました。

第二部の懇親会では、「定時制課程—

六十三年の終焉」の映像が映され、あらためてその存在を認識いたしました。

また、最近の現役高校生の活動の映像が流され、半世紀前の自分たちと隔世の感がありました。

（注）定時制課程修了を記念し、母校正門の右側に記念碑が建立されました。



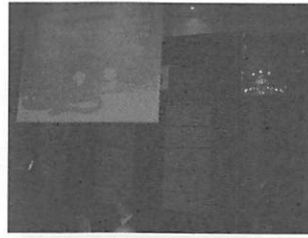
乾杯は、本会会員
松本博一同窓会顧問
川越高校
定時制の映像



マスターズ甲子園の
映像による報告



応援部OBによる校歌
斉唱でお開き



訃報

一 **金剛秀房氏**（高十回）、本年一月七日逝去されました。養寿院住職で、河越太郎縁のお話を在京初雁会にご説明をいただいたのが思い出されます。

二 **笹森 清氏**（高十一回）、本年五月二十七日逝去されました。連合の会長職を退いてから、地元川越のため活動始めた矢先でした。当会の総会（六月十九日）には、多忙につき、欠席するが皆さまによりしく、との連絡があったばかりでした。

お二方のご冥福をお祈りいたします。



在京初雁会

(昭和二十八年創立)

会長 高島敬忠(高一〇回)

二〇一二年(第九十二号)

春季号・二月十五日発行

新年のご挨拶

在京初雁会 会長 高島敬忠

謹んで新春のお祝詞を申し上げます。
旧年中は格別のご指導、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

会員諸兄のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、本年も宜しくお願い申し上げます。

昨年は田中前会長がご逝去され(2月27日)、悲しみに沈んでおりましたが、その直後3月11日には東日本大震災に襲われ、マグニチュード9という大震災や想定外の大津波で未曾有の大災害に遭遇し、東北3県で約2万名もの方々が犠牲になりました。加えて、福島原発の建屋の水素爆発による放射能汚染(半減期が30年という放射性セシウム¹³⁷)という眼にみえない大惨事が同時に発生しました。

この大災害により人と人との、地域同士の、地方と国との絆が強く叫ばれた1年でした。まだまだ、この後遺症は何年、何十年となく続くことでしょう。

在京初雁会幹事

会長 高島敬忠(高一〇)

副会長 西 信之(高一七)

副会長 内藤 豊(高二十一)

顧問 岡田良平(高二)

事務局長 大館 廣(高二十一)

所沢市泉町1860-3

(TEL) 04・2922・9634

昨秋の秋季例会では宮岡 成次氏(高校6回卒)により時宜を得たご講演を拝聴し、新しい知識を学びました。あるマスコミ関係を職とする会員は大変わかりやすいお話でしたと絶賛されていました。

さて、話題は変わりますが、小生の職域では昨年は予防接種元年というほど、乳幼児に多くの種類の予防接種がなされるようになりました。従来の三種混合ワクチンやはしか・風疹(MRワクチン)などに加え、新たにインフルエンザ菌b型(ヒブ)、小児肺炎球菌ワクチン、ロタウイルス経口ワクチンなどが増えました。これで、ようやく先進国並みになったという段階です。

しかし、公費負担はその一部分です。また、20代、30代女性の多くみられる子宮頸癌に対するワクチンも10代の女子に公費で接種されるようになりましたが、その接種率ははかばかしくありません。

高齢者(75歳以上)に対しては肺炎球菌ワクチンが今年あたりから公費で接種されるようになりそうです。今や話題は種々の癌に対するワクチン

チンの開発です。研究はされていますが、積年の夢です。

京大山中教授の ips 細胞の開発に続いて、成人の諸臓器癌に対するワクチンの作成の朗報が初夢になればと、祈っています。

今年は2年後に迫った、昭和28年に誕生した在京初雁会設立から60年という節目を記念すべき記念誌の発刊の準備を念頭に置いて、会員諸兄の一層のご協力とご指導をお願いし、新年に当たってのご挨拶といたします。

平成24年元旦

在京秋季例会開催

在京初雁会秋季例会を11月27日(日)文京区本郷のホテル「機山館」にて開催いたしました。

当日は生憎各会員のご都合等が悪く、また急用などにより19名のご参加となりましたが和気藹々とした和やかな例会となりました。

今回は電力事業に詳しい宮岡成次氏(高6回)を講師にお迎えし「脱原発依存について」と題した講演をしていただきました

大変時宜に合った演題であった為、熱心な質疑応答がなされ有意義な講演となりました。

その後、和やかな懇親会となり全員で校歌を斉唱、解散いたしました。

例会の様子と講演内容を掲載いたしました。特に原発の講演は大変詳しい資料に基づくものであり、会員の皆様には是非一読をお勧めいたします。



結び

福島第一の惨状は原発の恐ろしさを再認識させた。原因究明が不十分だが女川や福島第二の冷温停止成功を教訓にして、対策を講じた原発の再稼働を考えるか、単なる幸運と考えて地震大国日本の原発はすべて危険で停止すべきとの意見が対立する。

なくて済むなら原発ゼロが望ましいが、イタリアなど欧州で脱原発政策をとる国は、フランスの原発とロシアの天然ガスに依存できるからで、ガラパゴス日本と事情が違う。

原発を再起動せずゼロにして、かつ停電無しで済ませることは不可能ではないが、再生エネルギーによる原発の代替は将来のKwはともかくKwhは全く不可能で輸入化石燃料による効率の悪い火力発電や自家発電の余剰に頼るしかないので、贅肉のみならず筋肉も削る厳しい節電が必要で、技術と輸出で生きる日本の活力は衰え、温暖化ガスも増加する。そして、万一大地震が起これば、海岸に集中している火力発電は大きな被害を受け、停止中の原発にも福島第一の4号機のような使用済核燃料の危険もある。(3・11直後の諸外国の日本脱出反応は燃料プール内の使用済み核燃料の危険性が主因)

世界の大勢が原発を維持し、日本にもそれを期待している中で、日本が完全に脱原発を達成するためには各国との協調が不可欠だ。温暖化防止の義務履行や削減目標条約の達成、原発技術輸出契約の遂行、世界の化石燃料市場での摩擦防止がその一例だ。国内に十分な生産・市場の基盤を持たずに輸出を続けることの難しさは、

最近では太陽電池や風力設備で経験済みで原発も同様である。

福島第一の教訓を生かした対策のできた安全性の高いものから再稼働を認めるべきと考える。再稼働の可否はTPP同様にどちらにも痛みを伴うが、国際的視野も忘れず、資源エネルギー・環境政策を含む立国の大綱を確立して賢い政治的判断を下すべき問題である。

我々は可能な節電・創電・蓄電と省エネを進めるとともに、選挙において、正しい政策を実施できる政党に投票することも必要になる。

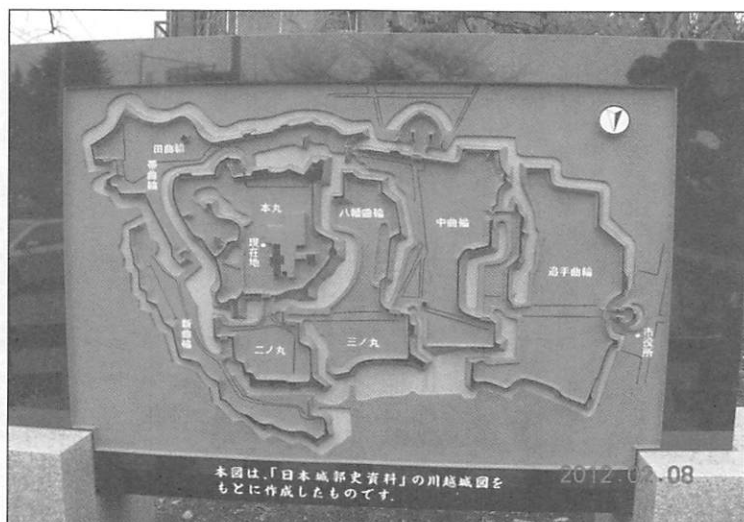
以上

川越高校創立百十周年記念碑の建立

川越初雁会発足を機に川越城本丸御殿脇に記念碑が建立されましたのでご紹介し、また記念碑の表には「日本城郭史資料」をもとに作成された川越城図が彫られております。また、裏面には山野清二郎氏(高12回)による撰文が記載されておりますので、以下に写真と文面を掲載いたします。

一度近くにお立ち寄りの際はご覧下さい。





「此処に城ありき。城は四百年余りの歳月、川越の地を治理し、明治の世、微睡にいれり。明治三十二年春この城址に県内三番目の公立中学校設置さる。是れ則ち埼玉県立川越中学校なり。城の本丸御殿曾ねて武徳殿の名もて呼ばれ、学校と共に久しき時を閲したり。昭和二十三年学制改革のもと、川越中学校は川越高等学校となり、校舎改築の折、武徳殿は教室ともなれり。平成二十一年学校は創立百十周年を迎え、時恰も当御殿は前年より修理期が訪れ、同二十三年三月竣工をみたり。而して川越市は同二十四年市制九十周年の年に当れり。この佳き時節の中、我ら川越高等学校同窓会は城址と学校と川越市の恆久なる栄を期し、茲に記念の碑を建て以って寿ぐものなり。」

埼玉県立川越高等学校同窓会

(撰文 高十二回 山野清二郎)



平成24年度定期総会が6月24日、池袋西口の「銀座ライオン池袋西口店」にて開催されました。

当日は26名の会員・家族にご参加いただき23年度事業報告・同決算報告、24年度予算案が審議され原案通り可決・承認されました。その後懇親会を開催し、参加者一同楽しいひと時を過ごすことができました。

ご挨拶 在京初雁会 会長 高島敬忠

平成24年度定期総会開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

在京初雁会は来年2月に創立60周年を迎えることになりました。この間、多くの会員・ご家族の皆様にご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

そこでこれを記念し、60周年記念誌を発行することを計画いたしております。発行の際には会員の皆様全員に原稿をお願いしたいと考えております。原稿の詳細につきましては改めて会員の皆様にご案内申し上げます。

在京初雁会

(昭和二十八年創立)

会長 高島敬忠(高一〇回)

二〇一二年(第九十三号)

秋季号・十月一日発行

また、記念行事として例年秋に各地区初雁会にて主催しております「秋季散策会」を当会で行うことを検討しております。場所は東京スカイツリーを中心に浅草周辺の散策を考えております。その際には会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

在京初雁会が益々発展するよう引き続き皆様のご支援をお願いすると共に会員のご健勝を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



在京初雁会幹事

会長 高島敬忠(高一〇)

副会長 西 信之(高一七)

副会長 内藤 豊(高二十二)

顧問 岡田良平(高二)

事務局長 大館 廣(高二十二)

所沢市泉町1860-3

懇親会の様子を一部ご紹介します。



「相変わらずダンディーな岡田顧問」

「絵のモデル柴崎夫人」



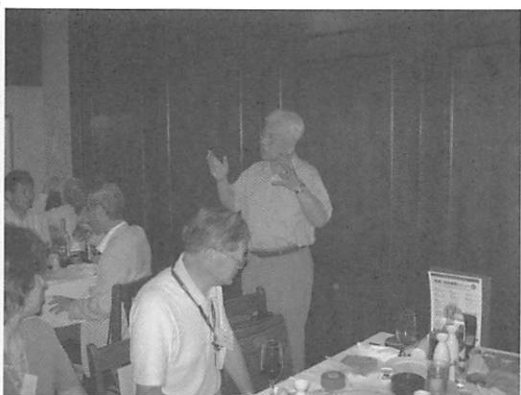
「ご夫人との出会いを語る柴崎会員」



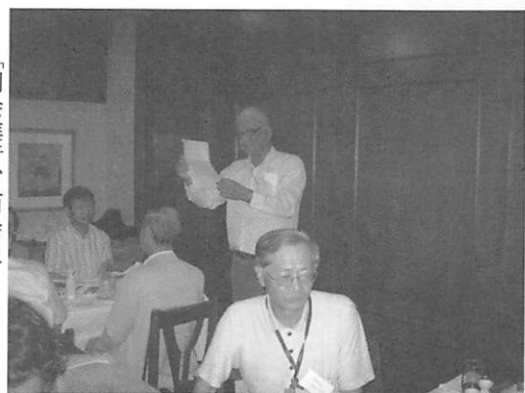
「お元氣な姿の橋本会員」



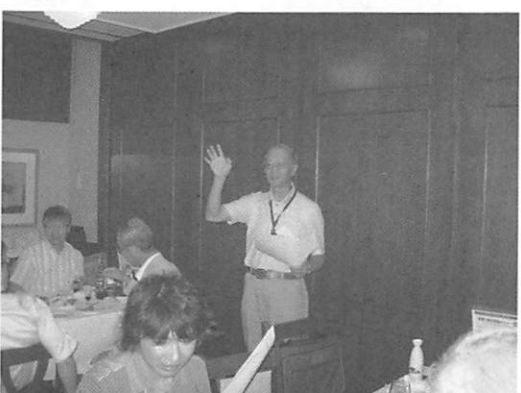
「身振り手振りで熱く語る斉藤会員」



「司会進行、西会員」



「同窓会本部からの報告、岡部会員」



「新入会員山口和範氏・高41回」



「高麗川ホテル鑑賞を語る大河原会員」



「内藤会員（右）も元気な姿を見せた」



「応援団顔負けのエール望月会員」



「旧岩崎邸庭園にて記念撮影」



平成24年春季散策会を4月7日開催いたしました。
当日はJR御徒町駅に9時30分集合、旧岩崎邸を見学後、東大校内の桜を見物、赤門をくぐって懇親会場「ホテル機山館」までの約2時間半の散策を楽しんだ。
12時より「ホテル機山館」にて懇親会を開催、午後2時に散会いたしました。

「安田講堂前にて」



「赤門前にて全員入学気分？」





平成24年11月17日、台東区雷門の香港亭にて秋季例会が開催されました。

当日は21名の会員・家族にご参加いただき「浅草のルーツを訪ねて」と題し、講師に入子助蔵氏（高校8回）をお招きし、講演会を開催いたしました。

入子氏は武蔵野郷土研究会、清峰写経会を通じてマスコミなどで活躍されており、今回は秋季例会を浅草で開くことから浅草観音のルーツを語っていただきました。

その後懇親会を開催し、参加者一同楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。

「岩井堂 縁起」 講師 入子助蔵氏

およそ1450年前、一人旅僧 木彫金泥の観音像を携え、ここ武蔵の国 山紫水明の地に靈験を得、堂宇を建立し留錫した。

一体の佛像を祀り、更なる薫修、村人にこの尊像は一心に御名を唱え、願えば必ず功德を授ける観音像であると伝授した。

往古大暴風に遭い、堂宇もろとも崖下に転落し尊像を失う。

在京初雁会

（昭和二十八年創立）

会長 高島敬忠（高一〇回）

二〇一三年（第九十四号）

春季号・二月二十八日発行

推古天皇36年戊子（628年）3月18日江戸浦にて二人の兄弟の漁師の手により一体の木像仏像が感得された。

この御像は、今日万民の渴仰して止まぬ浅草寺の御本尊である。

この尊像こそ（ありし日の岩井堂観音なり）村人度重なる要求もその甲斐なく、止む無く改めて観音像を刻し祀った。

尊像浅草観音が岩井堂から流れた聖観音菩薩像であるとして、ここ岩淵の子孫には口碑を基に、今尚語り伝えられている。

明治2年浅草寺始まって以来の一大事が起きた。勅命という名の下に、神祇官10名が乗り込み「秘仏とやらを確認したい」と言う意向で訪れ、一同本堂に罷り出、封印切り取り、暫くして観音像を大切に保持されたし、と言い残し勅命の上立ち去った。

関東大震災の影響で浅草寺本堂も火災こそ逃れたものの伽藍の破損が夥しく、昭和4年、4年計画で大改修の運びとなった。

同時にご本尊上陸の地と言われている駒形堂も昭和8年東京市の手により鉄筋コンクリートの堅牢なお堂として新築された。

在京初雁会幹事

会長 高島敬忠（高一〇）

副会長 西 信之（高一七）

副会長 内藤 豊（高二十一）

顧問 岡田良平（高二）

事務局長 大館 廣（高二十一）

（TEL）04・2922・9634
所沢市泉町1860-3



（講師）入子助蔵氏 高校8回

昭和8年6月浅草寺より清水谷恭順師の訪問を受けた。本尊をお返しするわけには参らぬが、それに代わる観音菩薩像を浅草観音のお身代わりとしてお返ししたい、との御趣旨であった。飯能、青梅に伝令が飛び、近隣町村は大騒ぎになった。昭和8年、ここ岩井堂は清水谷師のご支持、ご助言を頂き、駒形堂建築を参考にし、堂宇がその年9月10日竣工された。

特に屋根瓦には殊のほか御心を配り、新駒形堂建築時の職方をご手配下され、駒形堂と同じ様式の屋根瓦にて完成した。

このことは、尊像陸揚げの地駒形堂と尊像が流出たと言われている岩井堂を結ぶ深い縁の証として意義あることではある。

昭和8年9月15日浅草寺執事長清水谷恭順師 御自ら抱きかかえ浅草観音の御分身として寺宝聖観音像を奉還下された。

現在 秘仏になつてゐるが浅草寺御本尊のお前立観音（慈覚大師円仁のお作）は2尺2寸のお姿で、立派な観音像である。

ご奉還賜った聖観音像は、この円仁の刻したお前立ち観音に酷似しているといわれており、非常に由緒ある観音像である。

清水谷恭順大僧正導師の基での入佛式後、数多くの知名人の参列者で、近郊稀にみる盛大な奉還記念式典が挙行された。

尊像奉還後岩井堂は近隣からも多くの参拝者で埋まつた。茶店 土産物屋が出来人の絶えまがなかったと言われている。

時の浅草寺執事長「浅草寺24代貫首」清水谷恭順師は再三当地に赴き 史実に基づき調査研究を行った。

その結果岩井堂を 最も信憑性の高い、浅草寺の生地として尊ばれた。

翌昭和9年2月浅草寺として正式に3名の使者が岩井堂、岩崎家を訪れた。其の御意向は、ここ岩井堂を浅草寺の生地として尊び「金龍山浅草寺奥の院とし更なる伽藍の建立を致したく」とのお申し出であつた。

これは奉還時以上の事になった。この有難き御説得は3年以上も続いた。

しかし、この尊きお申し出は、堂守岩崎家の趣旨

等、諸事情で鄭重にご辞退された。

浅草観音生地と言われる岩井堂を郷土の誇りとして、又清水谷恭順師の御心を末永く子孫に伝え守らなければならない。

武蔵野郷土史研究会



（講演の様子）



（乾杯のご発声 栗原会員中学45回）



平成25年度定期総会が6月24日、銀座ライオン池袋西口店にて開催されました(参加会員18名)

事業、決算報告の後、役員改選が行われ以下の通り決定されましたので、ご報告いたします。

会長 西 信之(高校17回)―新任
副会長 内藤 豊(高校21回)―留任
顧問 岡田良平(高校2回)―留任
監事 岡部恒雄(高校14回)―新任
事務局 大館 廣(高校17回)―留任

議事終了後、懇親会となり菅間五郎会員(高校9回)よりスペイン旅行のお話とその後会員より俳句の披露があり、大いに盛り上がりました。

西新会長のご挨拶と懇親会の様子を以下に掲載いたします。

「就任」ご挨拶

会長 西 信之(高校17回)
本年の総会で会長を務めさせて頂くことになりました高校17回、西でございます。

在京初雁会

(昭和二十八年創立)

会長 西 信之(高一七回)

二〇一三年(第九十五号)

秋季号・八月三十一日発行

これまで副会長として高島会長を補佐し、在京初雁会の活動の一端を担わせて頂いたとはいえ大役を全うすることが出来るのか、正直に申し上げれば些か不安ではありますが、会員の皆様のご指導を賜りつつご期待に添えますよう微力ながら全力を挙げて会を盛り立てて参りたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

私と在京との出会いは、かれこれ二十数年前になります。本校での総会の帰途、佐久間旅館での懇親会で、たまたま隣に同席された菅沼さん(高校2回)から在京の集まりを神田の学士会館で夕方6時より行うので「よかったら、どうぞ」と声を掛けてくださったのが最初です。日にちを確認し仕事を途中で抜け出して神田の学士会館へ向かいました。

当日は岡田さん(高校2回)、矢部さん(高校2回)、そして菅沼さんの3名が幹事役員で会を運営されていました。参加者は10名程で私のすぐ上がお三方で、大変な所へ来てしまったと思いました。

矢部さんに促され新加入の挨拶を行いました

在京初雁会幹事

会長 西 信之(高一七回)

副会長 内藤 豊(高二十一回)

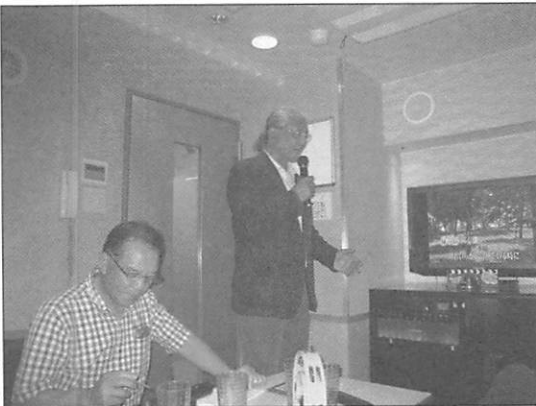
顧問 岡田良平(高二回)

事務局 大館 廣(高二十一回)

所沢市泉町1860-3

(TEL) 090・5569・0360

(西会長就任挨拶)



が、緊張の余り、先輩の皆さんの冷やかな視線を感じどうしようもありませんでした。意を決して佐久間旅館での出会いを説明し、近くにある実家の名を口にしたところ、「かぶ屋かよ!」の声が飛びビックリしました。

声の主は佐久間さん(中38回)で、その一声で落ち着きを取り戻したことは言うに及び

ません。以来、無欠席で今日に至っております。

今日、当会の行事になっている春の花見、総会、勉強会等いずれも参加者が三十名を越す盛会となっております。学生会館での十数名の集まりと比べ隔世の感があります。これも偏に婦人部の設立、会員の拡大、会場の変更などご尽力下さった岡田顧問のお力添えがあったからこそ感謝いたします。

さて、今年は在京初雁会発足六十年の記念すべき年であります。十月十二日(土)両国での秋の散策会は当会が主幹事でを行います。

当日参加される各初雁会の同窓生に水上バスによる隅田川巡り、スカイツリー見物などのご案内を通して、当会の意気軒昂なところを発揮しようではありませんか。

在京の多くの会員の皆様及びファミリーの皆様が両国での散策会にお集まりくださいますよう、心からお待ち申し上げます。

(菅間五郎会員)



「小さなけれど大きな旅」

菅間五郎(高校9回)

人に語れば何ほどのことこの旅は

されど旅なり人に会う旅

再三の友の誘いに我来たり

太陽海岸は素晴らしきかな

所変われば一味違うガスパーチョ

太陽海岸に光燦燦

常長の銅像前に我立てば

心躍れり血は滾りけり

我が思い託さんとかカルメンを

諸手に抱き悦に入りしか

東方の三賢人のお土産は

デンデン太鼓に弥生雛かな

贈りたる妻が揮毫の我が短歌

切に願ひしその判る日を

東方の三賢人の宝くじ

目敏く見つけ買い求めしか

心底に名残は尽きず果てしなし

友の訃報を旅先で聞く

世界一周の夢果たさず君逝きし

無念なるべし悲しみ深し

思ひしか大聖堂の一隅に

ローソク供え友弔らわんとは

鼻高にお国の偉業語りつつ

馬を操るガイド人かな

胸打たるこのマドリツの空の下

翻訳業に挑む女あり

翻訳に命を賭けて幾星霜

会津女の意気地を見たり

お土産の納豆あられに愛らしき

笑みを浮かべるバスクの老尼

神様と日本の言葉で話します

語る老尼はバスクの生まれ

二十前聖職の道に入りしとう

清楚の鑑米寿の尼僧

老師訪ねバスクの里に来る人に

老師は応える涙と笑顔で

忘れ得ぬ所となりしこの山河

バスクの里に緑深まる

会いし人十有五人かがなべて

夜には十日の旅となりけり

ロンドンに転勤なくば無かりしぞ

我が半生の多彩なる旅

平成二十三年五月二十二日



(柴崎育久会員 高校2回)

「カルメンは

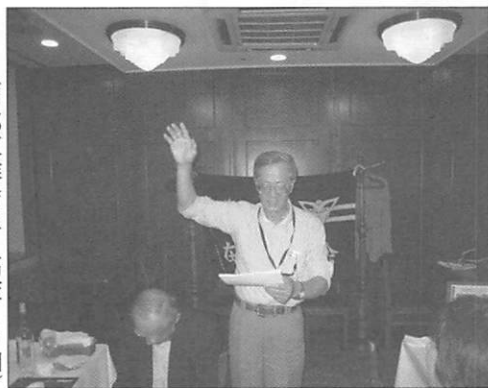
アルゼンチンか

はだかの子」

(松田康将会員高校47回 都議選必勝祈願)



「はぼんてふ やまとごころや
はなしようぶ」
(岡部恒雄会員 高校15回)



(集合写真)



(校歌斉唱)



平成25年4月7日(日)に在京春の散策会が行われました。

当日は16名が有楽町線江戸川橋駅に集合、関口芭蕉庵の見学、椿山荘の庭園散策、築地魚河岸「ビック寿司」にて懇親会を開催した。

(芭蕉句碑)



(芭蕉庵入り口)



(芭蕉庵前にて)



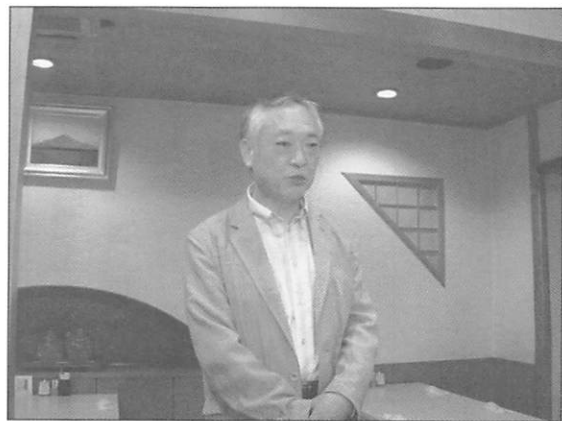
(椿山荘にて)



(懇親会の様子)



(新入会勝浦敏幸氏と挨拶 高校21回)





新年のご挨拶

在京初雁会々々長 西信之（高校十七回）
年もあらたまり、朝晩の寒さのなかにも、春の気配を感じられる候となりました。

会員の皆様にはご健勝で様々な分野にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

昨年は当会発足六十年の記念すべき年でありまして、記念事業のイベント秋季散策会（十月十二日）隅田川クルージングも好天に恵まれ多くの参加者（八十六名）のもと、皆様のご協力、特に婦人部の献身的なサポートを得て、両国での集いが大盛会に行われました事をこの紙面を借りて改めて御礼申し上げます。

さて、昭和二十八年三月十八日が当会の創立した記念すべき日であります、設立にご尽力された諸先輩方に敬意を表して、当時の世相を垣間見つつ昨年一年を振り返ってみたいと思います。

政治では吉田首相が西村栄一の質問に「バカヤロー」と答弁（二月二十八日）、首相の取り消しも間に合わず懲罰動議が可決された（三月

在京初雁会

（昭和二十八年創立）

会長 西 信之（高一七回）

二〇一四年（第九十六号）

春季号・二月二十八日発行

二日）

娯楽・スポーツではNHKがテレビ放送を開始（東京）、受像機は十七インチで十五万円、視聴者は一千人（二月一日）、アメリカ・ボストンで開かれたマラソンで山田敏蔵が優勝、タイムは二時間十八分五十一秒（四月二十日、後に距離不足が判明）、映画「君の名は」三部作の第一作が封切り（九月十五日）、空前の大ヒットとなる。ヒロイン氏家真知子（岸恵子）のシヨールの巻き方が、「真知子巻き」と呼ばれ大流行。

それでは昨年の主な重大ニュースを列挙してみたいと思います。

アベノミクス始動、三本の矢と名付け、①大

胆な金融緩和 ②機動的な財政出動 ③民間投資を喚起する成長戦略の三つの政策を内外に打ち出した。オリンピック五十六年振りに東京で開催決定（九月七日）、埼玉・千葉・栃木・三重で竜巻発生（九月）、台風二十六号（十月十六日）関東に最接近、伊豆大島で土石流に

在京初雁会

会長 西 信之（高一七回）

副会長 内藤 豊（高二一回）

顧問 岡田良平（高二回）

事務局長 大館 廣（高二一回）

（TEL）090・5569・0360

のまれ三十五人が死亡、東証大納会（十二月三十日）終値16291円で56・7%高。浦和高校ラグビー部五十四年ぶりに花園出場。五十四年前の昭和三十四年当時、母校川越高校も夏の甲子園大会に出場しております。後輩諸君の奮起を促したい。

最後になりますが、新規会員がわずかながら増えているとはいえ会員の平均年齢が毎年右肩上がりに上昇しているのが現状であります。昨年末に日本漢字検定協会により選定され、清水寺貫主森清範氏により揮毫された「輪」を当会の新年度のモットーとし、会員の皆様のご協力を賜り、在京の親睦の輪を広げたいと思います。

会員の皆様、ファミリーの皆様の益々のご活躍を祈念申し上げて新年のご挨拶とさせていただきます。

今年の花見は日本最初の公園のひとつであり、將軍吉宗縁の飛鳥山です。是非いらして下さい。

秋季散策会報告

事務局長 大館 廣（高二十一回）

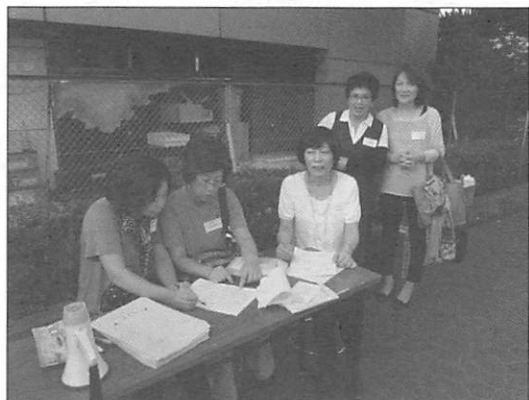
当会主催、秋季散策会を十月十二日開催いたしました。

当日は天候にも恵まれ各地区初雁会会員とご家族八十六名に参加いただきました。

十時に両国駅に集合、その後東京水辺ラインに乗船、東京湾クルーズを楽しんだ。クルーズでは東京スカイツリー、東京タワー、東京ゲートブリッジなどを観覧した。クルーズ終了後両国駅前の「花の舞」にて懇親会を開催、一同大いに盛り上がり楽しいひと時を過ごした。

今回の主催に当たり多くの会員・ご家族にご協力を賜り会員の皆様に大変喜んでいただきました。この場をお借りし厚く御礼申しあげます。

（受付、会員夫人の皆さん）



（船上よりスカイツリーを望む）



（浜離宮より東京タワーを望む）



（東京ゲートブリッジ）

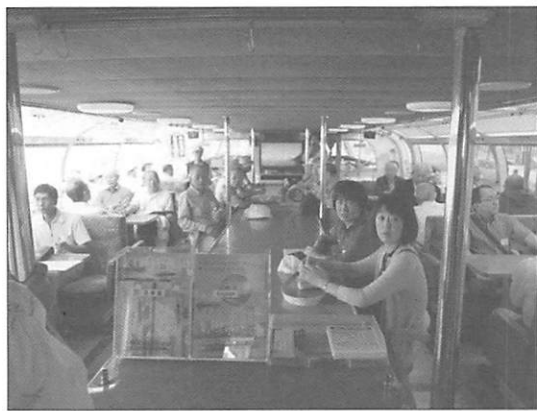


（お台場を背景に）





(岡田顧問を囲んで)



(船内の様子)



(柴崎会員夫妻)



(田中会長とゲスト席の皆さん)



(青木・内藤会員)



(栗原会員・本多夫人・関口会員)



(女子会の皆さん)



(松田会員夫妻)



(校歌斉唱)



(野球部の皆さん)



(土俵の上で集合写真)



定期総会開催報告

在京初雁会定期総会が6月8日(日)池袋サ
ンシャインシティ59階「天空の庭星のなる
木」で開催されました。

当日は会員22名が参加、原案通り採択され、
終了いたしました。

また、事務局より在京初雁会60周年記念事
業について以下の通り報告があり、了承されま
した。

1. 60周年記念事業として記念誌を発行
2. 西会長・田中同窓会会長等の挨拶
3. 設立当時の経緯
4. 現存する鐘つき堂を掲載し資料の散逸
を防ぐ
5. 用紙は当初の鐘つき堂がB5版であつ
たことからB5班に統一する
6. 発行部数は200部を予定

その後懇親会を開催、会員の近況報告等で盛会
裏に終了した。



在京初雁会

(昭和28年創立)

会長 西 信之(高17回)

2014年(第97号)

秋季号・9月1日発行



在京初雁会

会長 西 信之(高17回)

副会長 内藤 豊(高21回)

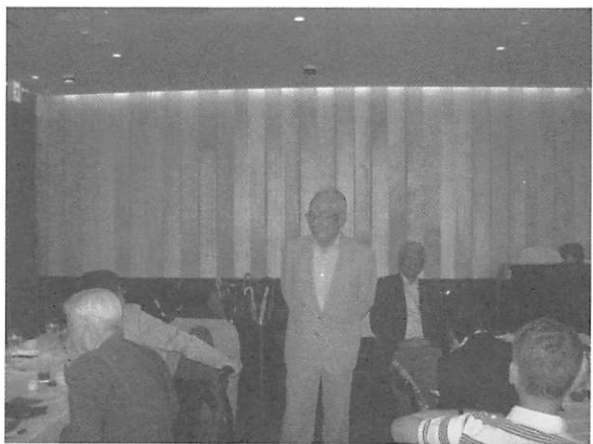
顧問 岡田良平(高2回)

事務局長 大館 廣(高21回)

(TEL) 090・5569・0360



(前田道路役員就任横溝氏)
(高校卒業証書と岡田顧問)



(吾野を熱く語る大河原氏)
(相変わらずダンディーな栗原氏)





(大河原氏に対して小見山氏語る)
(校歌斉唱、リーダー望月氏)



(全員で記念撮影)



(飛鳥山公園にて記念撮影)

春季散策会報告

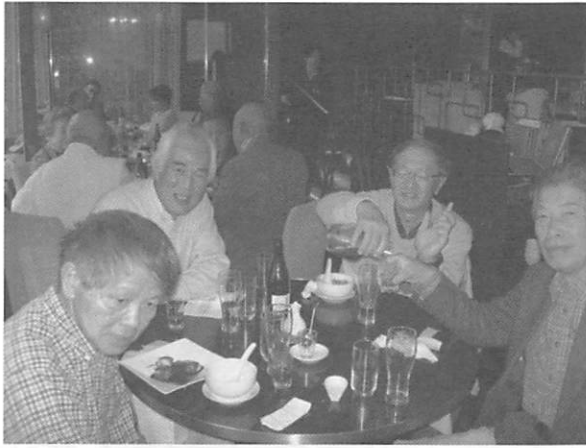
事務局長 大館 廣(高21回)

今年の秋季散策会を4月6日(日)に開催いたしました。

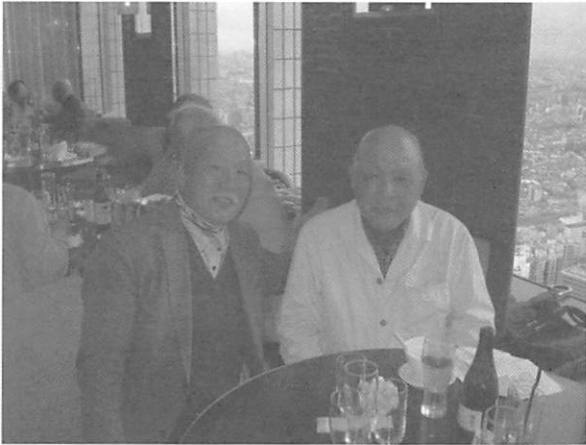
当日は好天の中会員19名、家族4名の計23名が参加されました。

朝10時、JR王子駅集合、飛鳥山公園まで散策、多くの花見客で賑わう飛鳥山公園の桜を見物、公園内にある埼玉の生んだ偉人渋沢栄一翁を記念する「渋沢資料館」「北区飛鳥山博物館」などを見学した。

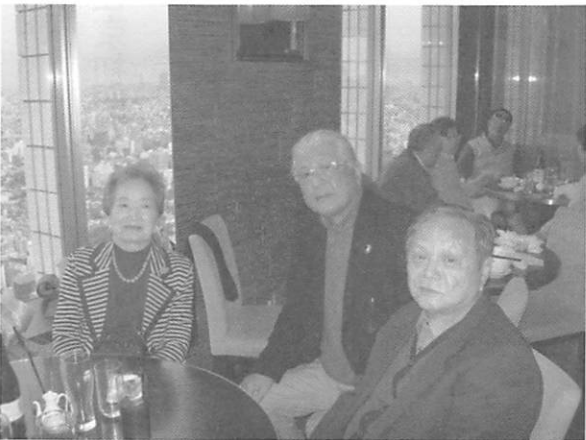
そののち昔懐かしい都電荒川線に乘車、東池袋まで移動、サンシャイン60の59階にある「ジョーズシャンハイ」にて懇親会を開催。高層ビルからの絶景を眺めながら、楽しいひと時を過ごし、午後3時散開した。



(同公園内のD51前にて
(紹興酒にて乾杯)



(青木・勝浦氏、宮寺夫人と本多夫人)
(船長さん同士の語らい内田、宮寺氏)



(高校17回 西、関口氏)
(石井ご夫妻と西会長)





在京初雁会

(昭和28年創立)

会長 西 信之(高17回)

2015年(第98号)

春季号・2月28日発行

在京初雁会

会長 西 信之(高17回)

副会長 内藤 豊(高21回)

顧問 岡田良平(高2回)

事務局長 大館 廣(高21回)

(TEL) 090・5569・0360

年頭のご挨拶

会長 西信之(高校十七回)

新年あけましてお目出とうございます。

会員の皆様にはおかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。本年もより一層のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。梅の便りもそここまで聞かれ、春近しの感がありますが、いまだ寒さ厳しくご自愛下さいませ。

今年の花見は石神井公園を予定しております。太田資長(道灌)が石神井城を攻め滅ぼした地でもあり、往時を偲ぶことが出来ると思いますが。多くの会員の皆様の来園をお待ちしております。

今年には日本に職業野球が発足して八十年になります。新聞紙上に野球映画のニュースが目についたのにお気づきの方もいらっしゃると思います。公開順に紹介しますと、

「バンクーバーの朝日」100年前のカナダに日系人の野球チームがあり、人種差別や排斥運動を乗り越えてフェアプレーを貫き通すが真珠湾攻撃により解散となる。

「アゲイン28年目の甲子園」本校のマスター

ズ野球チームがモチーフとなりチーム名は、川越学院、ユニフォームの左袖にSATAMA、胸にKAWAGAKUの文字が入っている。

二度出場したマスターズ甲子園大会で本校の選手、応援団、ブラスバンドの三位一体となったプレーが大会関係者に好評を得たのが映画化された一因かと思われます。主演は往年の二枚目スター佐田啓二の長男中井貴一、ソフトバンクの工藤監督の長男で俳優の工藤阿須加が高校時代の主将役で出演している。

「KANO、1931年海の向こうの甲子園」日本統治時代の台湾から夏の甲子園に初出場し、準優勝した嘉義農林学校が大舞台で旋風を巻き起こした台湾映画です。優勝は中京商業。同じ年の春の選抜で埼玉県下初めて甲子園の土を踏んだ本校が中京と対戦しました。敗れたものの春夏通算優勝トップの中京に初白星を与えたのは他ならぬ本校であり、永久に語り継がれることでしょう。

当時の川中から二人のプロ野球選手が誕生しています。綿貫惣司氏(中31回)家村相太郎氏(中34回)共に東京セネターズで活躍しました。

黄金時代の県大会の戦績を平成元年発行の野球部70年史より紹介したいと思います。

昭和6年	川中	9対2	豊岡実(県優勝)
7	川中	4対1	埼玉南(県優勝)
8	川中1	4対3	浦和中(県優勝)
9	川中2	3対1	豊岡実(県優勝)
10	川中	2対3	豊岡実(県準優勝)
11	川中	1対0	豊岡実(県優勝)

6年間で優勝5回と県では無敵であった。

最後になりますが、11年優勝時のエースが在京最年長山崎豊弘氏(中35回)と同級生6代会長増島隆二氏です。

また、選抜大会で綿貫氏と共に活躍された斉藤富吉氏(中31回)は斉藤和夫会員(高1回)のお兄様であることを記しておきたいと思ひます。

秋季例会開催報告

平成26年10月18日 11時30分より、池袋サンシャイン60「天空の庭 星のなる木」において21名の参加を得て、秋季例会を開催いたしました。

西会長の挨拶の後、大河原義重氏（高校14回）を講師に迎え、「高麗川流域地域の経済・文化再興への提言」と題し「講演会を開催した。同氏は「吾野宿再生と吾野を語る会」を主宰しておられます。以下に講演内容を記します。

高麗のDNAは1300年の今も健在

東京での勤務を終え、父母のいる故郷・吾野宿の再興に取り組んで3年が過ぎた。この活動を通じて、吾野宿は、朝鮮の高句麗王朝の集団渡来者が築いた高麗郡であることを再確認した。同時に、吾野宿の再興は、高麗川流域地域が一体となって初めて成果を得ることが可能になることも痛感した。このことは日高、飯能の行政をはじめ地域の関係者等が熟知されていることも知悉した。各種資料や古老の話等を基に改めて高麗郡の歴史と経済・文化、更に高麗王朝と朝鮮、韓国との位置づけ等について精査した結果、高麗郡のDNAは、1300年を経た今日でも濃淡の差はあっても健在であり、高麗神社等の有形文化と吾野宿を拠点にした無形の経済文化は、不離不即、パラレルな関係で結ばれていることの認識を新たにしたい。そして、高麗地域の経済、文化の再興は、風化が顕著な吾野宿を拠点にした経済活動を止揚させることが最も肝要で、このためには、視野を広げて高麗の故郷である朝鮮国（現在は国交のある韓国）との友好新時代の促進を発信し、

両国の連携をさらに強め、経済活動の躍動化に寄与することの期待を強くした。

高麗郡の領域は高麗川流域地域を網羅

提言を記述する前に、高麗郡の領域について資料（市町村名変遷辞典）を基に確認した。明治の町村大合併（21年）時、小学校焼戸籍の事務処理を行うため、300〜500戸を標準として全国一律に町村合併を行い、71314を15820に減少させた。

日本の郡制は7世紀後半の律令法典によって国―郡―郷の地方組織を定め、高麗郡は渡来・帰化人を中心に716年に建郡された。日高は高麗村と高麗川が合併、飯能は飯能町を中心に合併したものであるが、ともに原籍は高麗郡であった。日高地域は、原宿村・鹿山村・上鹿山村・中鹿山村・田波目村・平沢村上組・平沢村中組・高麗本郷・梅原村・新堀村・高岡村・清流村・楡木村・栗坪村・横手村・久保村・台村。一方、飯能地域は、飯能町・中山村・久須美村・小瀬戸村・大河原村・小岩井村・元加治村・加治村・精明村・南高麗村・大字仏子・野田・新光・吾野村・原市場。日高、飯能は高麗郡を形成していた。

吾野宿は経済活動の拠点地の役割

物流・市等経済活動の拠点であった吾野宿（坂石町分 1700年に分郷29軒1村）は、江戸より16里、秩父街道の左右に軒を連ね、馬継場、御料所、7月、12月に市開設。街道唯一の商店街、木材集積場に発展。最盛期の大正10年〜昭和10年の吾野宿は、「吾野宿の歴史を語り記録する会」（大河原栄子代表）に

基づくと、

上宿区

1 酒・食事 2 酒・食事 3 豆腐屋 4 畳
5 郵便局 6 煙草 7 産婆 8 運送 9 寿司 10 菓子

中宿区

1 1 木材 1 2 材木 1 3 鉤掛 1 4 自転車 1 5 用品 1 6 米 1 7 養蚕種所 1 8 医院 1 9 銀行 2 0 履物・煙草 2 1 桶 2 2 桶 2 3 酒・文具 2 4 時計 2 5 駐在 2 6 せんべい 2 7 理髪 2 8 用品 2 9 文具 3 0 問屋 3 1 医院 3 2 菓子 3 3 紺屋 3 4 米つき

下宿区

3 5 桶 3 6 桶 3 7 理髪 3 8 雑貨 3 9 塩・米 4 0 下駄 4 1 用品 4 2 おもちや 4 3 魚 4 4 豆腐 4 5 仕出し 4 6 繭集荷所 4 7 運送 4 8 自転車 4 9 呉服 となつてゐる。

生活必需品や機能はすべて揃っていた。市の日高、飯能、日高の市街地からの背負いかご姿でこつた返し、日常も近郷、街道利用者で賑わった。近年まで、高麗神社等と吾野宿を両翼とした高麗郡の経済・文化は一体的な発展を遂げていた。しかし、今日、吾野宿等経済活動の昔日の面影はない。木材市況の低迷、人口減少、車・電車社会への変貌等に起因するものの、高麗地域の経済・文化再生の視点は、吾野地域の復興が第一に挙げられる。

具体策は、地元の有形、無形の資源を顕在化させた数多くのプランを萌芽させており、これに花を咲かせる段階にまできている。その切り口は、韓国からの訪問客を迎え、交流・交歓による日韓友好の賑わいを実現することである。

提言…高麗郡建郡1300年記「日韓友好高麗文化史跡巡り&ゴルフ&グルメツアー」

・今すぐできる新たな交流機会

高麗神社、巾着田等の高麗の有形文化、史跡・名跡巡り、吾野森林地域の癒しハイキング、ゴルフ銀座でのゴルフゲーム、地元特産のグルメ料理等の国内向けの既存プランに、韓国からの新たな訪問客を迎え入れ、高麗地域を日韓賑わいの殿堂に仕上げることである。日高・飯能の集客力は、トータルでは全国的にも上位のポジションを占めるが、これをさらに促進する。

・今、なぜ、日韓友好促進なのか

その答えは

- 1 716年の高麗郡建郡以来1300年の節目を迎えたこと
- 2 日韓併合100年目に当たり、過去を乗り越えた新たな日韓友好新時代の促進に向けた努力が国民的課題になっていること
- 3 近年の日韓関係は、未解決の課題をのこしつつも、経済・文化・人の交流等は、かつてない絆を深めており、この関係は今後さらに強固なものにしていく時期に来ていること、などである。

・吾野地区を宿泊の拠点とする理由

- ① 高麗川流域を一望できる場所に国が関与して設立された既設のリゾート施設サンピアが民間運営に移行して準備されている。この施設は、宿泊、研修、会議、癒しの湯、テニス、プール、体育館、レストラン、歌舞鑑賞、交歓の空間、などが整備されていて、家族ぐるみの受け入れが可能。

②

韓国からの来客対応は、初日、羽田空港から専用バスで一時間、高麗神社等高麗文化の史跡、名跡等の体感↓吾野宿でのイノシシ・シカ等のバーベキューグルメ↓関八州見晴台↓高麗川源流↓東郷神社↓国宝高山不動尊↓宿泊施設（ニューサンピア埼玉）でお湯の癒しと日韓の歌舞鑑賞や交歓。二日目は、ゴルフ銀座でのゲームを満喫、サイボク牧場で温泉と世界トップレベルの豚肉のバーベキューを堪能、三日目は専用バスで都心。ハトバスで都内遊覧、買い物後に羽田へ。日程は多数の選択肢を用意。韓国からの来客が、継続的に見込めるようになると、吾野宿の「まちなみ道の駅」を本格的に整備し、休眠状態の民間宿泊施設の再活性化や各種の企画を構築する。地区内には、遊休状態の学校施設等公共・公共的施設や経営維持が厳しくなっている福祉施設等があり、これらを縦横に連携することによって相乗効果を上げることが可能になる。

（大河原義重氏 高14回）

（熱心な講義風景1）

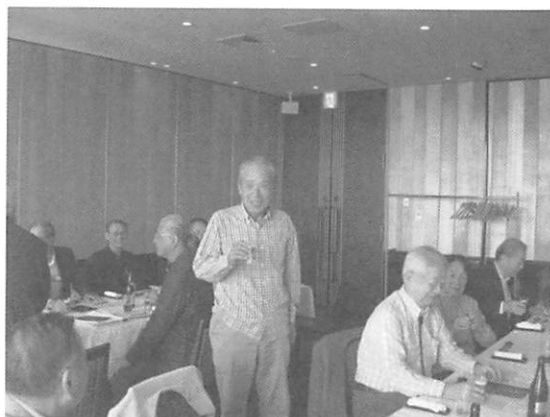


（熱心な講義風景2）





(熱心な講義風景3)



(講義後の乾杯 栗原三男氏)



(お元氣なご様子 高島前会長)



(いつも仲良く柴崎ご夫妻)



(西会長自ら校歌のエール)



(全員で記念撮影)

編集後記

在京初雁会が創立六十周年を迎えるにあたり、これを記念して平成二十五年十月に秋季散策会を主催し、「東京湾クルーズ」を実施いたしました。

一方、六十周年記念誌を発行しようということになり、諸先輩方が長年に亘り運営してきた当会の設立経緯、歴史、活動状況等を記録としてまとめることといたしました。

また、大東亜戦争当時に在籍された諸先輩方による座談会を開催し、記念誌に掲載いたしました。当時の世相や学生生活を垣間見ることができ、特に戦争を知らない世代の皆様は大いに参考となることと思います。

会報「鐘つき堂」につきましては現存する資料を全て掲載いたしました。これを読むとその時々が読み取れ、大変興味深いものがあります。

しかし、残念ながら「鐘つき堂」につきましては、一部欠落しております。もし、お手元をお持ちの方がおられましたら事務局までご一報いただければ幸いです。

資料の収集、編集等に際しましては、多くの方々のご尽力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、編集等に手間取り発行が遅れたことをお詫び申し上げます。

当会は在京と銘打っておりますが、川越中学・川越高校にご縁がある方であればどなたでも気軽に参加できます。皆様とお会いできることを会員一同お待ちしております。

平成二十七年十二月吉日

編集委員 岡田 良平（高校二回）

同 岡部 恒雄（高校十五回）

同 大館 廣（高校二十一回）

同 内藤 豊（高校二十一回）

同 望月 勝（高校四十一回）

川越中学・高校同窓会
在京初雁会 六十周年記念誌

二〇一五年二月二〇日 発行

編集——六十周年記念誌編集委員会

発行——在京初雁会

発売——株式会社 青月社

〒101-0032

東京都千代田区岩本町三二一 共同ビル8階

電話 〇三―五八三三―八六二一

印刷・製本——三松堂印刷株式会社

定価：五〇〇〇円＋税

ISBN 978-4-8109-1292-0



9784810912920



1920002050003

ISBN978-4-8109-1292-0

C0002 ¥5000E

発行：在京初雁会 発売：青月社

定価：本体 **5000**円+税

在京初雁会 母校訪問記念植樹

平成19年3月24日

【シデコブシ】



平成19年3月



平成27年5月